

AutoCAD・IJ-CAD・ZWCAD 支援ソフトウェア

---

---

# イージ CAD UCAD

Ver. 1.0

---

---

コマンドリファレンス



## 目 次

### [メニュー:イージCAD I]

○ ○ ○	 [図面設定] DEFUNIT	DEFUNIT-1~2
○ ○ ○	 [図面スケール登録] DWGSCALE	DWGSCALE-1~2
○ ○ ○	 [図枠修正] ZUWAKUMOD	ZUWAKUMOD-1~5
○ ○ ○	 [修飾図関係設定変更] EASYSYS2	EASYSYS2-1
○ ○ ○	 [表挿入] CSVIN	CSVIN-1~2
○ ○ ○	 [表出力] CSVOUT	CSVOUT-1~2
○ ○ -	 [図面比較] SCRCK	SCRCK-1~2
- ○ -	 [レイアウト図枠配置]_LAYOUTZUWAKU	LAYOUTZUWAKU1~2
- ○ -	 [レイアウト空間への自動展開]_LAYOUTPLAN	LAYOUTPLAN1~4
- ○ -	 [レイアウト空間への自動展開(解除)]_UNLAYOUTPLAN	UNLAYOUTPLAN1~2
- ○ -	 [レイアウト空間の自動印刷]_LAYAUTO PLOT	LAYAUTO PLOT1~2
○ ○ ○	 [窓指定外] (W1)	(W1)-1
○ ○ ○	 [複数窓外] (W)	(W)-1
○ ○ ○	 [窓画層] (WL)	(WL)-1
○ ○ ○	 [仮想中点] (APPMID)	(APPMID)-1
○ ○ ○	 [線上点増分] (LPNT)	(LPNT)-1~2
○ ○ ○	 [線上端点増分] (LLNE)	(LLNE)-1
○ ○ ○	 [図形長さ] (ID_LEN)	(ID_LEN)-1
○ ○ ○	 [2点間長さ] (2P_LEN)	(2P_LEN)-1
○ ○ ○	 [図形角度] (ID_ANG)	(ID_ANG)-1~2
○ ○ ○	 [図形間角度] (ID_ANG1)	(ID_ANG1)-1

### [メニュー:イージCAD II:ファイル]

○ ○ ○	 [一括形式変換保存] EXCHGFILE	EXCHGFILE-1~2
○ ○ ○	 [DXF連続読込] DIN	DIN-1
○ ○ ○	 [DXF連続書出] DOUT	DOUT-1
○ ○ ○	 [一括名前削除] CPURGE	CPURGE-1

### [メニュー:イージCAD II:挿入]

○ ○ -	 [一括複写挿入] CINSERT	CINSERT-1~2
○ ○ ○	 [複合図形連続挿入] RINSERT	RINSERT-1~2

**AC Z W I J** [メニュー:イージCAD II:形式]

○ ○ ○	 [標準画層] LAY	LAY-1
○ ○ ○	 [ユーザ画層] LAY1	LAY1-1~9
○ ○ ○	 [全画層ON] ALLON	ALLON-1
○ ○ ○	 [全画層OFF] ALLOFF	ALLOFF-1
○ ○ ○	 [オン/オフ] LAY_SW1	LAY_SW1-1
○ ○ ○	 [画層切替] LAY_CHG	LAY_CHG-1
○ ○ ○	 [図形ON] DLAYON	DLAYON-1
○ ○ ○	 [図形OFF] DLAYOFF	DLAYOFF-1
○ ○ ○	 [図形ロック] DLAYLO	DLAYLO-1
○ ○ ○	 [図形外ロック] DLAYELO	DLAYELO-1
○ ○ ○	 [図形フリーズ] DLAYFR	DLAYFR-1
○ ○ ○	 [図形外フリーズ] DLAYEFR	DLAYEFR-1
○ ○ ○	 [フリーズ/解除] LAY_SW2	LAY_SW2-1
○ ○ ○	 [全画層操作] LAYERALL	LAYERALL-1
○ ○ ○	 [画層変換] LAY2	LAY2-1~7
○ ○ ○	 [図形切替] LAY_FIG	LAY_FIG-1
○ ○ ○	 [図形OFF(連続)] LAY_SW3	LAY_SW3-1~2
○ ○ ○	 [画層変更] CLAY	CLAY-1
○ ○ ○	 [線種変更] CLT	CLT-1~2
○ ○ ○	 [色変更] CCOL	CCOL-1~2
○ ○ ○	 [図形非表示] OBJH	OBJH-1

**AC Z W I J** [メニュー:イージCAD II:ツール]

○ ○ ○	[オスナップ増分]	オスナップ増分-1
○ ○ ○	 [面積(m <sup>2</sup> )] AREA3	AREA3-1~2
○ ○ ○	 [図形情報2] LIST1	LIST1-1
○ ○ ○	 [図面情報] INF1	INF1-1
○ ○ ○	 [断面性能計算] IXIYZ	IZIYZ-1~3
○ ○ ○	 [日付記入] REVDATE1	REVDATE1-1

**AC Z W I J** [メニュー:イージCAD II:作成]

○ ○ ○	 [水平線] HLINE	HLINE-1
○ ○ ○	 [垂直線] VLINE	VLINE-1
○ ○ ○	 [角度線] FLINE	FLINE-1
○ ○ ○	 [中心線] CLINE	CLINE-1~2
○ ○ ○	 [直交線] PELINE	PELINE-1
○ ○ ○	 [勾配線] SLOPE	SLOPE-1
○ ○ ○	 [断面補助線] SLINE	SLINE-1~2

AC Z W I J

○ ○ ○	 [回転四角形] RECT1	RECT1-1
○ ○ ○	 [中心四角形] RECT3	RECT3-1
○ ○ ○	 [二辺入力三角形] EZTRI	EZTRI-1~2
○ ○ ○	 [長円作成] MKOVAL	MKOVAL-1~2
○ ○ ○	 [点接円弧作成] ARC1	ARC1-1~2
○ ○ ○	 [3接円弧作成] ARC3	ARC3-1~2
○ ○ ○	 [中点] POINT1	POINT1-1
○ ○ ○	 [線上点] POINT2	POINT2-1
○ ○ ○	 [線上文字] TXT2	TXT2-1~2

AC Z W I J [メニュー:イージCAD II:修飾図]

○ ○ ○	 [溶接記号] WELD	WELD-1~3
○ ○ ○	 [仕上記号] FMARK	FMARK-1
○ ○ ○	 [デーラム記号] PREC2	PREC2-1
○ ○ ○	 [公差記号] PREC1	PREC1-1~2
○ ○ ○	 [風船] BA1	BA1-1
○ ○ ○	 [連番風船] BA2	BA2-1
○ ○ ○	 [二段風船] BA3	BA3-1
○ ○ ○	 [部分詳細マーク] DET	DET-1~2
○ ○ ○	 [断面矢視] SECT1	SECT1-1~2
○ ○ ○	 [断面波線] LINE2	LINE2-1
○ ○ ○	 [破断線] LINE1	LINE1-1
○ ○ ○	 [カットマーク] CUTMARK	CUTMARK-1
○ ○ ○	 [断面マーク] BRMARK	BRMARK-1
○ ○ ○	 [ボルト系] BORUTO	BORUTO-1~2
○ ○ ○	 [機械系] KIKAI	KIKAI-1~2
○ ○ ○	 [形鋼系] KATA	KATA-1~2
○ ○ ○	 [矢印文字] TXT1	TXT1-1
○ ○ ○	 [両側矢印挿入] ARROW1	ARROW1-1~2
○ ○ ○	 [片側矢印挿入] ARROW2	ARROW2-1~2
○ ○ ○	 [線上矢印挿入] ARROW3	ARROW3-1~2
○ ○ ○	 [両側矢印作成] ARROW4	ARROW4-1
○ ○ ○	 [片側矢印作成] ARROW5	ARROW5-1

AC Z W I J [メニュー:イージCAD II:寸法]

○ ○ ○	 [任意半径] RAD2	RAD2-1
○ ○ ○	 [任意直径] DIAM2	DIAM2-1
○ ○ ○	 [追い寸法記入] DIMCHASE	DIMCHASE-1
○ ○ ○	 [引出し線] LEADER1	LEADER1-1~2

A G Z W I J

○ ○ ○	[円引出線] CLEADER	CLEADER-1
○ ○ ○	[傾斜寸法記入] DIMROT	DIMROT-1
○ ○ ○	[コーナーR表示] DIMR1	DIMR1-1
○ ○ ○	[仮想コーナーR表示] DIMR2	DIMR2-1
○ ○ ○	[面取寸法表示] DIMC1	DIMC1-1
○ ○ ○	[任意面取寸法表示] DIMC2	DIMC2-1~2
○ ○ ○	[仮想面取寸法表示] DIMC3	DIMC3-1
○ ○ ○	[弧長寸法] ARCLLEN	ARCLLEN-1~3
○ ○ ○	[モード切替] DIMMODE	DIMMODE-1
○ ○ ○	[寸法線移動] DIMPOSI	DIMPOSI-1
○ ○ ○	[文字高さ] DIMTHT	DIMTHT-1
○ ○ ○	[文字位置] DIMTED1	DIMTED1-1
○ ○ ○	[引出] DIMLEAD	DIMLEAD-1
○ ○ ○	[公差編集] KOUSA	KOUSA-1
○ ○ ○	[ハマアイ寸法公差] DIMFALLO	DIMFALLO-1~2
○ ○ ○	[詳細図寸法] DETDIM	DETDIM-1
○ ○ ○	[詳細図寸法解除] UNDETDIM	UNDETDIM-1

A G Z W I J [メニュー: イージCAD II : 修正]

○ ○ ○	[文字高さ一括変更] TXTHT	TXTHT-1~2
○ ○ ○	[文字一括置換] TXTED	TXTED-1~2
○ ○ ○	[文字スタイル一括変更] TXTST	TXTST-1~4
○ ○ ○	[文字幅一括変更] TXTW	TXTW-1~2
○ ○ ○	[字体]	字体-1
○ ○ ○	[特殊機能]	特殊機能-1
○ ○ ○	[文字縦位置合せ] ROWTXT	ROWTXT-1~2
○ ○ ○	[文字縦位置合せ(横間隔指定)] ROWTXT2	ROWTXT2-1~3
○ ○ ○	[文字横位置合せ] COLUMNTXT	COLUMNTXT-1~2
○ ○ ○	[文字横位置合せ(縦間隔指定)] COLUMNTXT2	COLUMNTXT2-1~3
○ ○ ○	[現在層コピー] LCOPY	LCOPY-1~2
○ ○ ○	[回転複写] RCOPY	RCOPY-1
○ ○ ○	[軸ミラー] AMIRROR	AMIRROR-1
○ ○ ○	[円オフセット] OFFSET1	OFFSET1-1
○ ○ ○	[現在層オフセット] OFFSET2	OFFSET2-1
○ ○ ○	[両側オフセット] OFFSET3	OFFSET3-1
○ ○ ○	[連続オフセット] COFFSET2	COFFSET2-1
○ ○ ○	[基準線連続オフセット] COFFSET1	COFFSET1-1
○ ○ ○	[等分割オフセット] EQUALLY	EQUALLY-1~2

A G Z W I J

○ ○ ○	[角度等分割オフセット] EQUALLY2	EQUALLY2-1~2
○ ○ ○	[二線接続] EXT3	EXT3-1
○ ○ ○	[無交差延長] EXT1	EXT1-1
○ ○ ○	[線分の伸縮] EXT2	EXT2-1
○ ○ ○	[中抜き図形] COLLIN	COLLIN-1
○ ○ ○	[閉図形] COLLOUT	COLLOUT-1
○ ○ ○	[片側面取り] CHAMFER1	CHAMFER1-1
○ ○ ○	[連続面取り] CCHAMFER	CCHAMFER-1
○ ○ ○	[フィレット] FILLETR	FILLETR-1
○ ○ ○	[片側フィレット] FILLET1	FILLET1-1
○ ○ ○	[連続フィレット] CFILLET	CFILLET-1
○ ○ ○	[属性付分解] EXPLODE1	EXPLODE1-1
○ ○ ○	[画層付分解] LEXPLODE	LEXPLODE-1
○ ○ ○	[簡易フィルター] EZFILTER	EZFILTER-1~4
○ ○ ○	[指定要素OFF] UNVISI	UNVISI-1
○ ○ ○	[指定要素ON] EXUNVISI	EXUNVISI-1
○ ○ ○	[指定色OFF] UNVISIC	UNVISIC-1~2
○ ○ ○	[指定色ON] EUVISIC	EUVISIC-1~2
○ ○ ○	[指定線種OFF] UNVISIL	UNVISIL-1~2
○ ○ ○	[指定線種外OFF] EUVISIL	EUVISIL-1~2
○ ○ ○	[非表示解除] VISI	VISI-1
○ ○ ○	[角度変更] ANGCHG	ANGCHG-1~2
○ ○ ○	[分割変更] BREAK2	BREAK2-1
○ ○ ○	[2点間等分割] DPOINT	DPOINT-1
○ ○ ○	[上書き] ONLINE	ONLINE-1~2
○ ○ ○	[部分拡大] DSCALE	DSCALE-1~2
○ ○ ○	[部分縮小] USCALE	USCALE-1~2

以下に示すコマンドは、コマンドの実行中に使用するものです。イージCADメニューに直接LISP関数を記述していますので、ご注意ください。  
通常のコマンド実行には問題ありません。

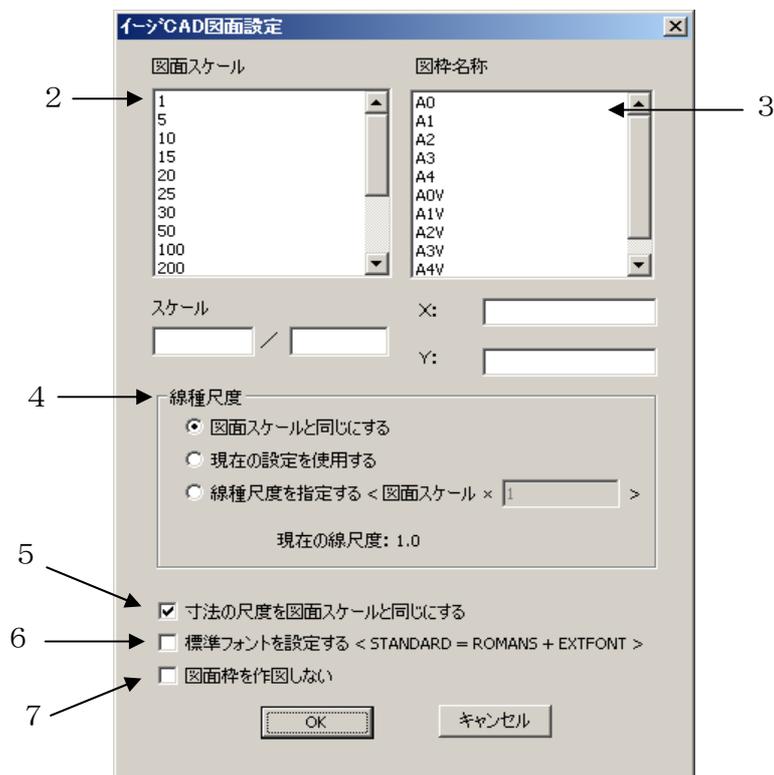
メニュー名	プルダウンメニュー	サブメニュー	コマンド
イージCAD I	オブジェクト選択	#窓指定外	(W1)
イージCAD I	オブジェクト選択	#複数窗外	(W)
イージCAD I	オブジェクト選択	#窓画層	(WL)
イージCAD I	関数	#仮想中点	(appmid)
イージCAD I	関数	#線上点増分	(LPNT)
イージCAD I	関数	#線上端点増分	(LLNE)
イージCAD I	関数	#図形長さ	(ID_LEN)
イージCAD I	関数	#2点間長さ	(2P_LEN)
イージCAD I	関数	#図形角度	(ID_ANG)
イージCAD I	関数	#図形間角度	(ID_ANG1)
イージCAD II	ツール→#0スナップ増分	#端点	(S_END)
イージCAD II	ツール→#0スナップ増分	#中点	(S_MID)
イージCAD II	ツール→#0スナップ増分	#交点	(S_INT)
イージCAD II	ツール→#0スナップ増分	#中心	(S_CEN)
イージCAD II	ツール→#0スナップ増分	#四半円点	(S_QUA)
イージCAD II	ツール→#0スナップ増分	#垂線	(S_PER)
イージCAD II	ツール→#0スナップ増分	#点	(S_NOD)
イージCAD II	ツール→#0スナップ増分	#挿入基点	(S_INS)
イージCAD II	ツール→#0スナップ増分	#近接点	(S_NEA)
イージCAD II	ツール→#0スナップ増分	#線上点	(LLNE)
イージCAD II	ツール→#0スナップ増分	#線上端点	(LPNT)

図面の単位、スケール、図面サイズなどの初期設定を行う。

コマンドプロンプト	DEFUNIT
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD I]	#図面設定

- ◆図面設定コマンドは、図面スケール、用紙サイズを設定する際に使用します。選択された用紙サイズ×スケールにより、図面範囲設定を行います。スケールが設定されていないと使用できないコマンドがある為、イメージCADを使用する際は必ず図面設定を行って下さい。新規図面ではもちろん、既存図面で図面枠を設定する場合にも便利です。

1. [#図面設定]アイコン をクリックします。  
\*図面設定ダイアログボックスが表示されます。



2. 図面スケール一覧より設定するスケールを選択して下さい。  
\*設定するスケールが一覧に無い場合、スケールの欄に手入力して下さい。  
\*0以下の数値入力はできません。
3. 図枠名称一覧より用紙サイズを選択して下さい。  
\*設定したい用紙サイズが無い場合、X :、Y : の欄にそれぞれ手入力して下さい。  
\*0以下の数値入力はできません。  
\*用紙サイズX、Yの値を手入力した場合、内枠のみ作成されます。

## DEFUNIT [図面設定(2/3)]

図面の単位、スケール、図面サイズなどの初期設定を行う。

コマンドプロンプト	DEFUNIT
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD I]	#図面設定

#### 4. 線種尺度を選択して下さい。

図面全体の線種尺度を変更します。以下の中から1つを選択します。

- 「図面スケールと同じにする」 -- 線種尺度を図面スケールと同じに設定します。
- 「現在の設定を使用する」 -- 線種尺度の変更を行わない場合に選択します。
- 「線種尺度を指定する」 ---- 線種尺度を ( 図面スケール × 入力した値 ) に設定します。

\* 0以下の数値入力はできません。

#### 5. 寸法の尺度を指定して下さい。

寸法図形の尺度を図面スケールと同じにする場合にチェックを入れます。

の状態 -- 現在の寸法スタイルで 寸法図形の尺度 = 図面スケール として設定します。

の状態 -- 現在の寸法スタイルで 寸法図形の尺度 = 1 を設定します。

イメージCAD 2000Ver. 3.0または3.1aからご使用の方はチェックを入れて下さい。

イメージCAD 2002、2004、2005をご使用の方はチェックを入れて下さい。

以外のバージョンからご使用の方はチェック不要です。

#### <<既存図面に寸法図形の尺度設定を行う場合の注意>>

メニュー[形式] → [寸法スタイル管理] で、現在の寸法スタイルの「寸法図形の尺度」を確認します。

\* 寸法図形の尺度 = 図面スケール の場合 -- にします。

\* 寸法図形の尺度 = 1 の場合 -----  (チェックなし) にします。

#### <<寸法図形の尺度を図面スケールの値及び1以外に設定する場合の注意>>

①図面設定を実行します。

②新しく寸法スタイルを作成し、寸法図形の尺度を変更します。

③作成した寸法スタイルを現在の寸法スタイルに設定します。

## DEFUNIT [図面設定(3/3)]

図面の単位、スケール、図面サイズなどの初期設定を行う。

コマンドプロンプト	DEFUNIT
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD I]	#図面設定

6. 標準フォント設定の有無を選択して下さい。
  - の状態 -- スタイル名：STANDARDにフォントファイル ROMANS、EXTFONTを設定します。
  - の状態 -- スタイルの設定は行いません。(規定値 スタイル名:STANDARD フォントファイル TXTを使用します。 ※この場合、全角文字は使用できません)
  
7. 図面枠作画の有無を選択して下さい。
  - の状態 -- 図面枠を作画しません。
  - の状態 -- 図面枠を作画します。
  
8. 図面スケール、図枠名称、線種尺度選択後は、” OK” ボタンをクリックして下さい。

\*頻繁に使用する図面スケールで、一覧に登録されていないスケールがある場合  
図面スケール登録 (DWGSCALE)コマンドで登録を行って下さい。  
図枠名を登録する場合、図枠修正 (ZUWAKUMOD) コマンドを使用して下さい。

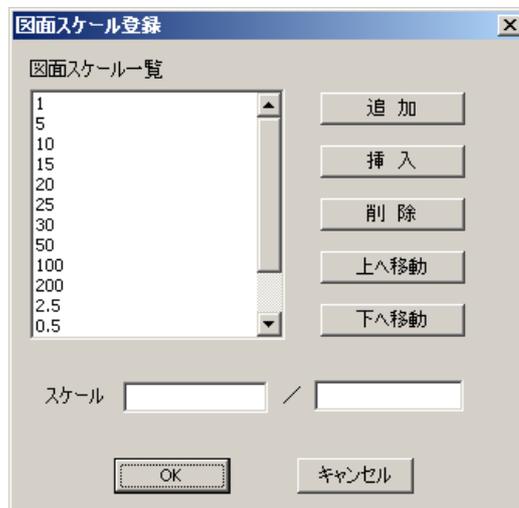
図面設定時に使用する、図面スケールを登録する。

コマンドプロンプト	DWGSCALE
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD I]	#図面スケール登録

◆図面スケール登録コマンドは、図面設定にて選択できる図面スケールの追加削除、並べ替えを行う際に使用します。

[#図面スケール登録]アイコン をクリックします。

\* 下図のダイアログボックスが表示されます。



《スケールを追加する場合》

1. スケール：の欄に追加するスケールを入力して下さい。  
\* 分母、分子、それぞれ入力して下さい。
2. ” 追加 ” ボタンをクリックして下さい。  
\* 追加されたスケールは、一覧ボックス内の最後の行に登録されます。

《スケールを挿入する場合》

1. 一覧ボックスの挿入する行のスケールを選択して下さい。  
\* 3行目に挿入する場合、3行目の項目を選択して下さい。
2. スケール：の欄に挿入するスケールを入力して下さい。
3. ” 挿入 ” ボタンをクリックして下さい。  
\* 指示した行にスケールが挿入されます。

## DWGSCALE [図面スケール登録(2/2)]

図面設定時に使用する、図面スケールを登録する。

コマンドプロンプト	DWGSCALE
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD I]	#図面スケール登録

《不要なスケールを削除する場合》

1. 一覧ボックスの中より不要なスケールを選択して下さい。
2. ”削除” ボタンをクリックして下さい。

《上へ移動／下へ移動ボタン》

1. 上・下へ移動させたいスケールを選択して下さい。
2. ボタンをクリックすると選択したスケールが上・下へ移動します。

図面設定で参照する図枠データを変更／追加する。

コマンドプロンプト	ZUWAKUMOD
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD I]	#図枠修正

- ◆図枠修正コマンドは、各図面枠の余白を変更する場合や、新しいサイズの図枠を登録する場合に使用します。
- 図枠名と同じ名称の複合図形を登録する事で、図面設定を行った際に自動で読み込む事もできます。

[#図枠修正]アイコン をクリックします。  
 下図のダイアログボックスが表示されます。

名称	用紙サイズX	用紙サイズY	B1	B2	H1	H2
A0	1189	841	30	15	10	10
A1	841	594	30	15	10	10
A2	594	420	30	15	10	10
A3	420	297	30	15	10	10
A4	297	210	30	15	10	10
A0V	841	1189	30	15	30	10
A1V	594	841	30	15	30	10
A2V	420	594	30	15	30	10
A3V	297	420	30	15	30	10
A4V	210	297	30	15	10	10

《新しい図面枠を登録する場合》

1. 追加ボタンをクリックして下さい。  
 図枠情報入力ダイアログボックスが表示されます。

## ZUWAKUMOD [図枠修正(2/5)]

図面設定で参照する図枠データを変更/追加する。

コマンドプロンプト	ZUWAKUMOD
ツールバー [イージCAD I]	
プルダウン [イージCAD I]	#図枠修正

名称・用紙サイズX・用紙サイズY・B1・B2・H1・H2を入力します。

\*名称は8文字まで入力できます。

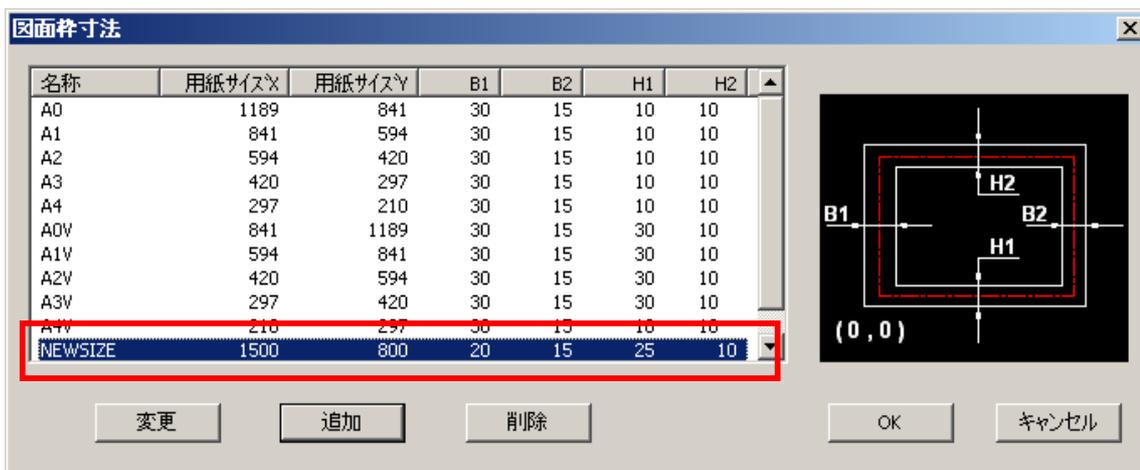
\*用紙サイズX・用紙サイズY・B1・H1は、0及びマイナス値の入力はできません。

\*B2・H2は、マイナス値の入力はできません。

※一覧ボックスの図面枠を選択していた場合は、登録内容が図枠情報入力ダイアログボックスに表示されます。

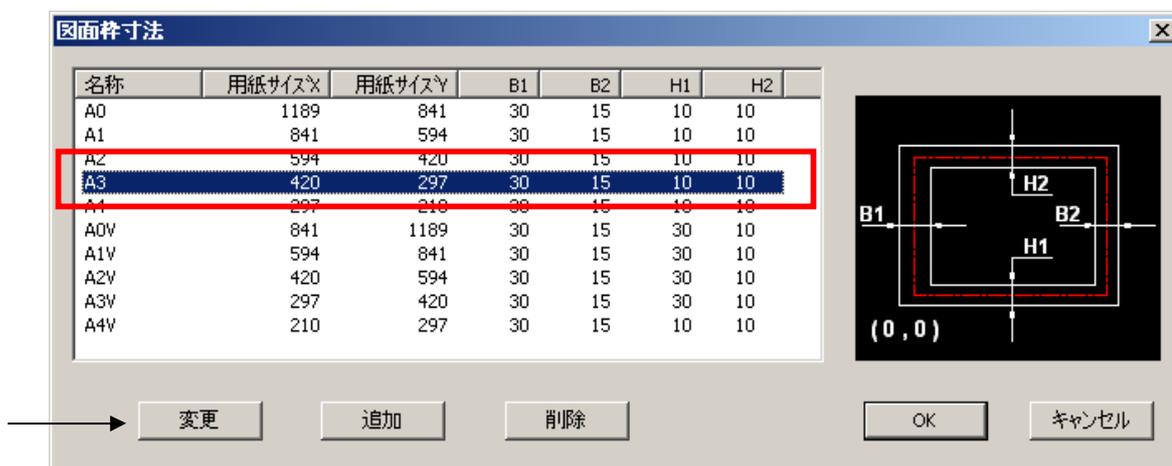
2. OKボタンをクリックして下さい。

\*入力した内容で、一覧ボックスの最後の行に図枠が追加されました。



《既に登録されている図面枠のサイズを変更する場合》

1. 一覧ボックスより変更したい図面枠を選択して下さい。



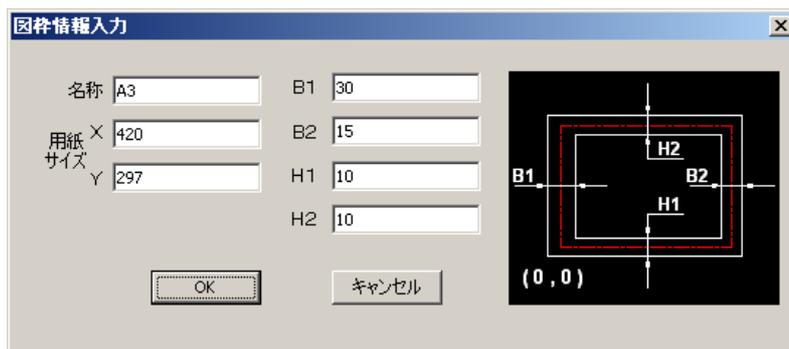
## ZUWAKUMOD[図枠修正(3/5)]

図面設定で参照する図枠データを変更/追加する。

コマンドプロンプト	ZUWAKUMOD
ツールバー [イージCAD I]	
プルダウン [イージCAD I]	#図枠修正

2. 変更ボタンをクリックして下さい。

図枠情報入力ダイアログボックスが表示されます。



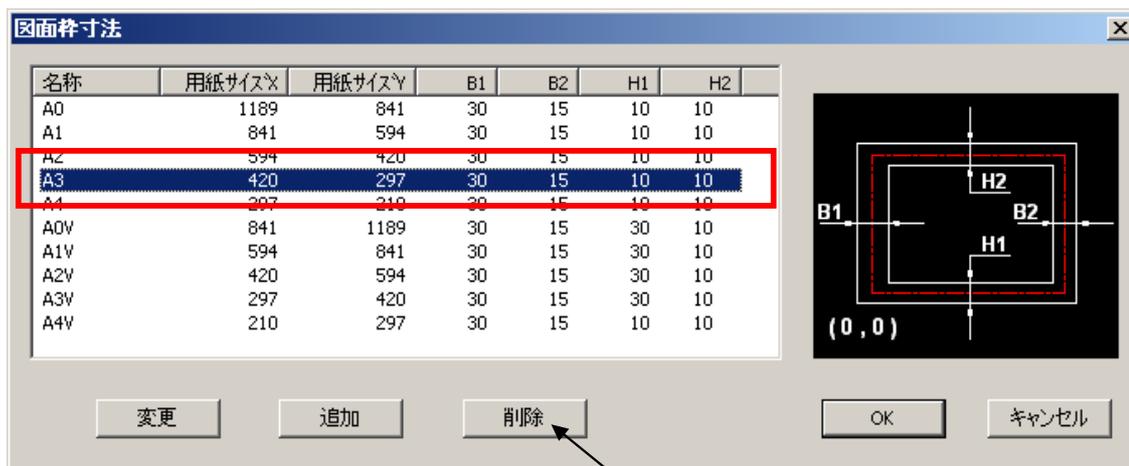
\*一覧ボックスで選択した図枠の登録されている内容が表示されます。

3. 変更が終了したら、OKボタンをクリックして下さい。

\*一覧ボックスの内容が変更された事を確認して下さい。

《不要な図面枠を削除する場合》

1. 一覧ボックスの中から不要な項目を選択します。



名称	用紙サイズX	用紙サイズY	B1	B2	H1	H2
A0	1189	841	30	15	10	10
A1	841	594	30	15	10	10
A2	594	420	30	15	10	10
A3	420	297	30	15	10	10
A4	297	210	30	15	10	10
A0V	841	1189	30	15	30	10
A1V	594	841	30	15	30	10
A2V	420	594	30	15	30	10
A3V	297	420	30	15	30	10
A4V	210	297	30	15	10	10

## ZUWAKUMOD[図枠修正(4/5)]

図面設定で参照する図枠データを変更/追加する。

コマンドプロンプト	ZUWAKUMOD
ツールバー [イージCAD I]	
プルダウン [イージCAD I]	#図枠修正

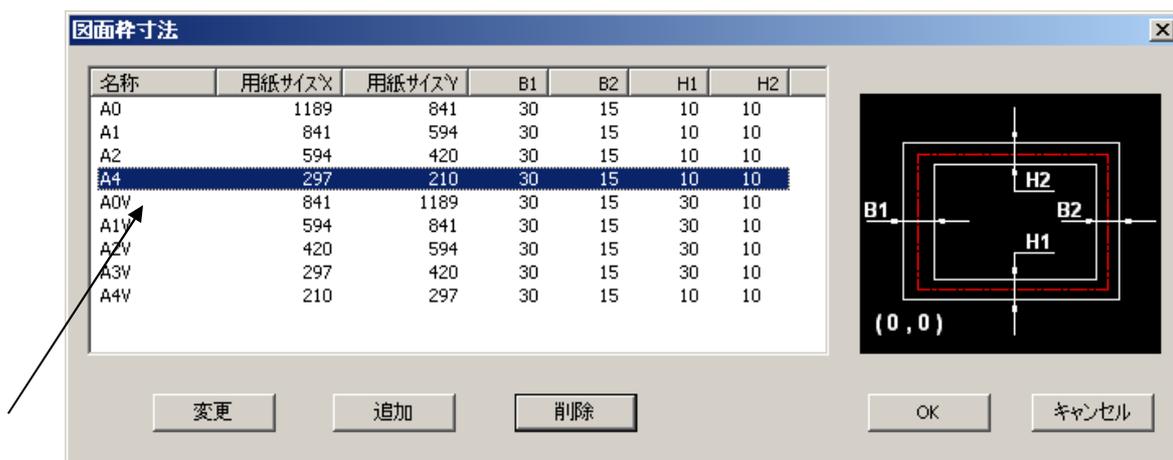
2. ”削除” ボタンをクリックして下さい。

\*以下の警告メッセージが表示されますので、削除を実行する場合はOKボタンをクリックして下さい。

削除を実行しない場合は、”キャンセル” ボタンをクリックして下さい。



\*一覧ボックスの中が更新された事を確認して下さい。



《独自の図面枠を作成し登録したい場合》

1. 登録する図面枠を作成して下さい。

\* 内枠のみを作成して下さい。

外枠は、図面設定を行った際に自動で作成されます。

2. 作成した内枠を、複合図形 (コマンド名: WBLOCK) として登録して下さい。

\* 基点は、内枠の左下点にして下さい。

\* 複合図形は、必ず”ドライブ名: ¥UMSAPP¥ECAD2KS¥PRG ”に作成して下さい。

## ZUWAKUMOD[図枠修正(5/5)]

図面設定で参照する図枠データを変更/追加する。

コマンドプロンプト	ZUWAKUMOD
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD I]	#図枠修正

3. 図枠修正コマンドを実行し、2. で登録した複合図形を新図面枠として登録して下さい。  
登録方法は、2-1-1頁《新しい図面枠を登録する場合》をご参照下さい。

\*名称は、登録した複合図形の名称と合わせて下さい。

\*用紙サイズ(X, Y)は、外枠のサイズを入力して下さい。

\*B2, H2 は、複合図形を使用する際関係ありませんので、0(ゼロ)を入力して下さい。 B1, H1は、複合図形の挿入基点の座標値となりますので必ず数値を入力して下さい。

- ! 図面枠の登録が終了しましたら、図面設定コマンドを実行し、図面枠が正しく配置されているか確認して下さい。

# EASYSYS1 [寸法線関係設定変更]



寸法線関係の矢印や文字高さなどを自動設定する。

コマンドプロンプト	EASYSYS1
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD I]	#寸法線関係設定変更

◆寸法線関係設定変更コマンドは、寸法線に関わるサイズなどの設定値の変更を行う際に使用します。

1. [#寸法線関係設定変更]アイコン をクリックします。
2. 該当する項目の値を変更し、”OK” ボタンをクリックして下さい。  
\* 2画面目を開く場合、”次のページ” ボタンをクリックして下さい。

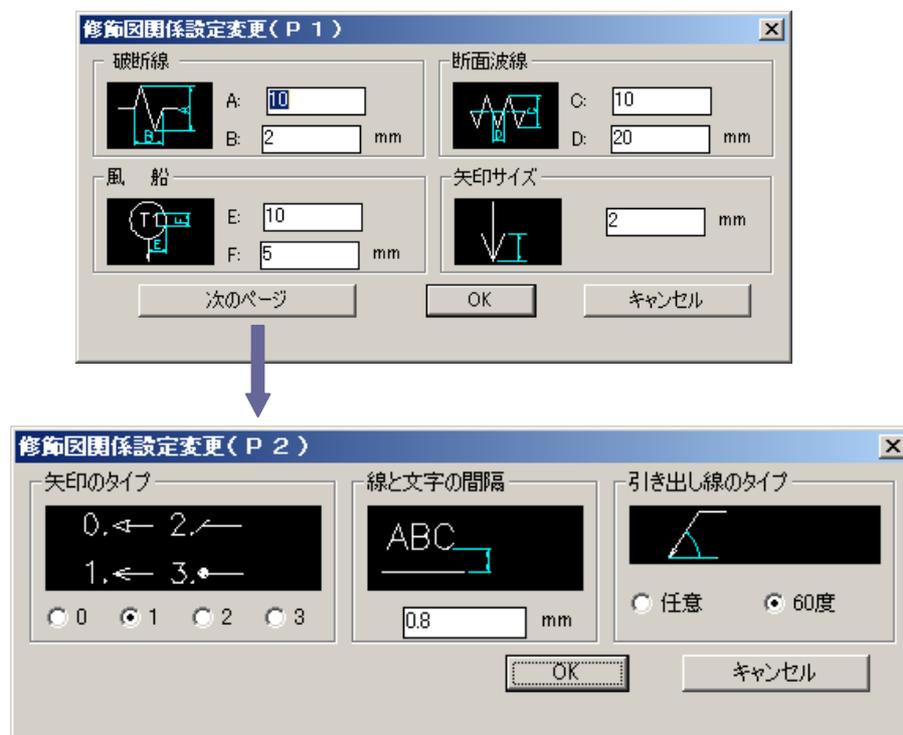


修飾図関係の矢印などを自動設定する。

コマンドプロンプト	EASYSYS2
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD I]	#修飾図関係設定変更

◆修飾図関係設定変更コマンドは、風船サイズ、破断線間隔など修飾図に関する設定値の変更を行う際に使用します。

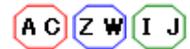
1. [#修飾図関係設定変更]アイコン をクリックします。
2. 該当する項目の値を変更し、”OK” ボタンをクリックして下さい。  
\* 2画面目を開く場合、”次のページ” ボタンをクリックして下さい。



\* 引き出し線のタイプを60°に指定した場合は、下記コマンドでピッチ角60°に固定されます  
公差記号(PRE C 1)  
溶接記号(WEL D)  
円引出線(CLEA D E R)

\* 修飾図関係コマンドの中にも、DIMSTYLEコマンド(寸法スタイル管理)にて変更を行う設定となっているコマンドもありますので、矢印タイプ、矢印サイズ等の設定については修飾図の各コマンドマニュアルをご参照下さい。

## CSVIN [表挿入(1/2)]



CSV形式 (カンマ、区切り) で保存されたファイルを読み込み図面として挿入する。

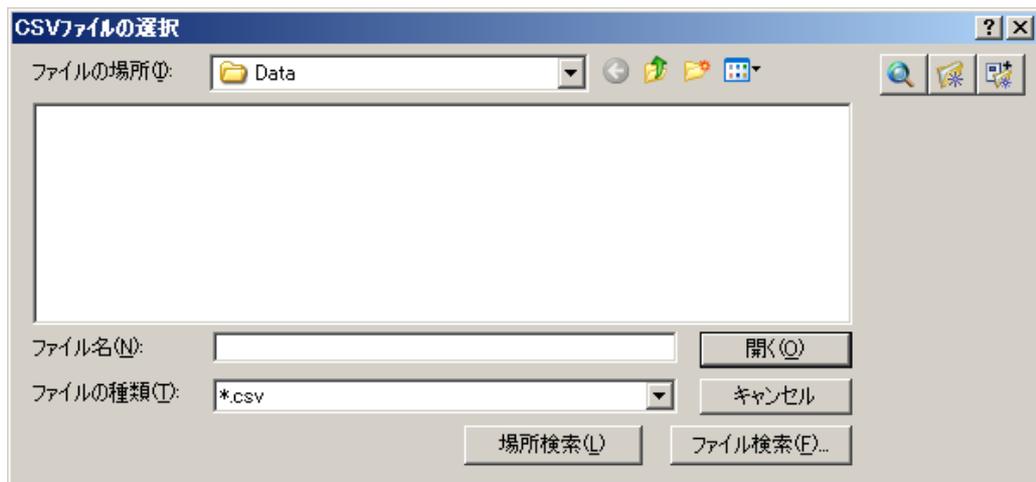
コマンドプロンプト	CSVIN
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD I]	#表挿入

◆表挿入コマンドは、CSV形式 (カンマ区切り) で保存されたファイルを AutoCAD図面として挿入する為のコマンドです。

<注意>

- ・桁区切り (3桁毎の",") を含むCSVファイルは処理できません。桁区切りしないようにして下さい。

1. [#表挿入]アイコン  をクリックします。
2. 挿入するCSV形式のファイル名を選択します。



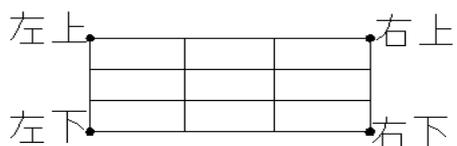
3. 文字スタイル名を入力 <Standard> : ←文字スタイルを入力
4. 文字高さを入力 <3> : ←文字高さを入力
5. 作図順の指定 (0=上から/1=下から) <0> :  
0 の場合、フィールドの一番上段を最下行として上方向に作図します。  
1 の場合フィールドの最下段を最下行として上方向に作図します。

## CSVIN [表挿入(2/2)]

CSV形式(カンマ、区切り)で保存されたファイルを読み込み図面として挿入する。

コマンドプロンプト	CSVIN
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD I]	#表挿入

6. 挿入位置の指定(0=左上/1=右上/2=左下/3=右下) <0> : 0  
基準点の位置は下記のとおりです。

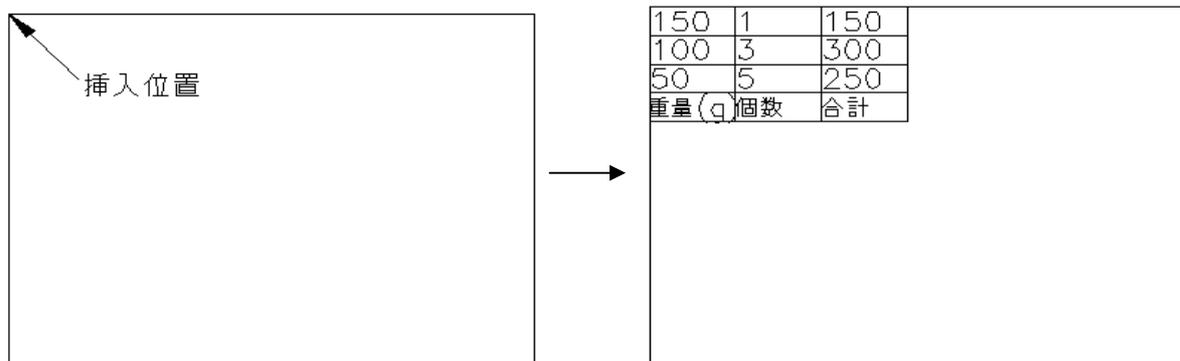


7. 挿入位置を指定 または

[尺度(S)/X/Y/Z/回転(R)/°レビ`ユ-尺度(PS)/°レビ`ユ-X(PX)/°レビ`ユ-Y(PY)/  
°レビ`ユ-Z(PZ)/°レビ`ユ-回転(PR)]:

\*挿入位置を指示して下さい。

\*表の挿入位置基準点を左上とした配置例



# CSVOUT [表出力(1/2)]



AutoCAD図面として作成された表をCSV形式(カマ、区切り)のファイルに出力する。

コマンドプロンプト	CSVOUT
ツールバー [イージCAD I]	
プルダウン [イージCAD I]	#表出力

◆表出力コマンドは、AutoCAD図面として作図された表をCSV形式(カマ区切り)でファイルに出力する為のコマンドです。

\*複合図形として作成されている表は出力できません。分解後、コマンド実行して下さい。

1. [#表出力]アイコン をクリックします。

2. 表の左下点を指示 : 1 を指示

3. 表の右上点を指示 : 2 を指示

\*表の枠と文字以外の図形を選択しないように注意して下さい。

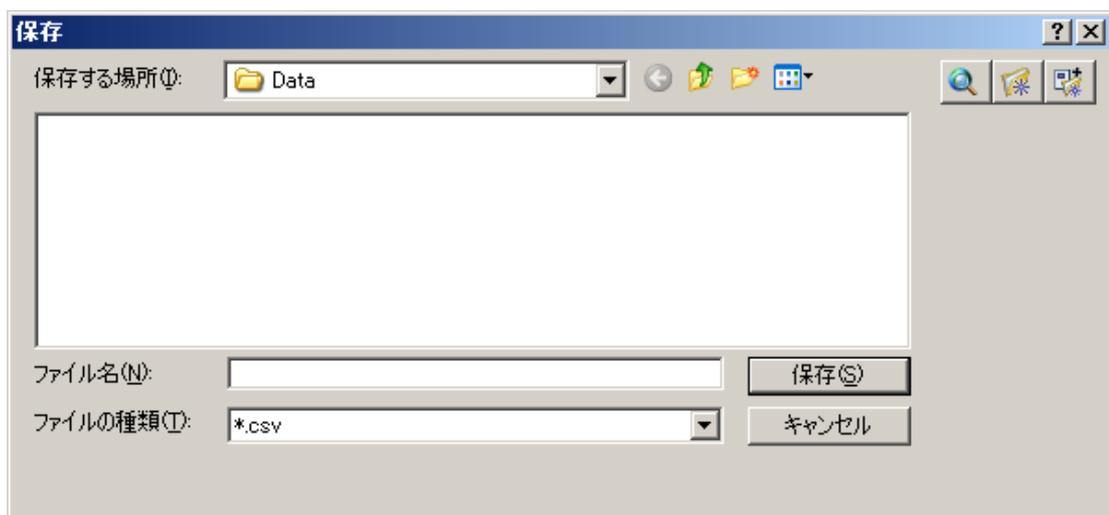
名称	数	サイズ
A-1	1	50
B-1	1	50
B-2	1	100

1 2

4. 下図のダイアログボックスが表示されます。

CSV形式で出力するファイル名を指定後、”保存(S)” ボタンをクリックして下さい。

\*作成されたファイルは¥UMSAPP¥ECAD2KS¥DATAフォルダ内に保存されます。



## CSVOUT [表出力(2/2)]

AutoCAD図面として作成された表をCSV形式(カンマ、区切り)のファイルに出力する。

コマンドプロンプト	CSVOUT
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD I]	#表出力

5. 作図順の指定(1=上から/2=下から) <1>:  
ファイルに出力する行順序を選択して下さい。

\*”上から” ボタンを選択した場合は、表の最上行をファイルの最上行として上から下方向の順序でファイルに出力します。

(出力例)

名称	数	サイズ
A-1	1	50
B-1	1	50
B-2	1	100

 → 

名称	数	サイズ
A-1	1	50
B-1	1	50
B-2	1	100

\*”下から” ボタンを選択した場合は、表の最下行をファイルの最上行として下から上方向の順序でファイルに出力します。

(出力例)

名称	数	サイズ
A-1	1	50
B-1	1	50
B-2	1	100

 → 

B-2	1	100
B-1	1	50
A-1	1	50
名称	数	サイズ

新旧図面の色を変えて重ね合わせた図面を作成し、変更点を確認する。

コマンドプロンプト	SCRCK
ツールバー [イージCAD I]	
プルダウン [イージCAD I]	#図面比較

- ◆図面比較コマンドは、新旧図面の色を変えて重ね合わせた図面を作成し、図面の変更点を色の違いで判断する場合に使用します。
- \*本コマンドを実行する場合は、イージCADの自動システムロード設定が必要です。自動システムロードが設定されていない場合は正しくコマンド動作しません。

1. [#図面比較]アイコン をクリックします。  
下図のダイアログボックスが表示されます。



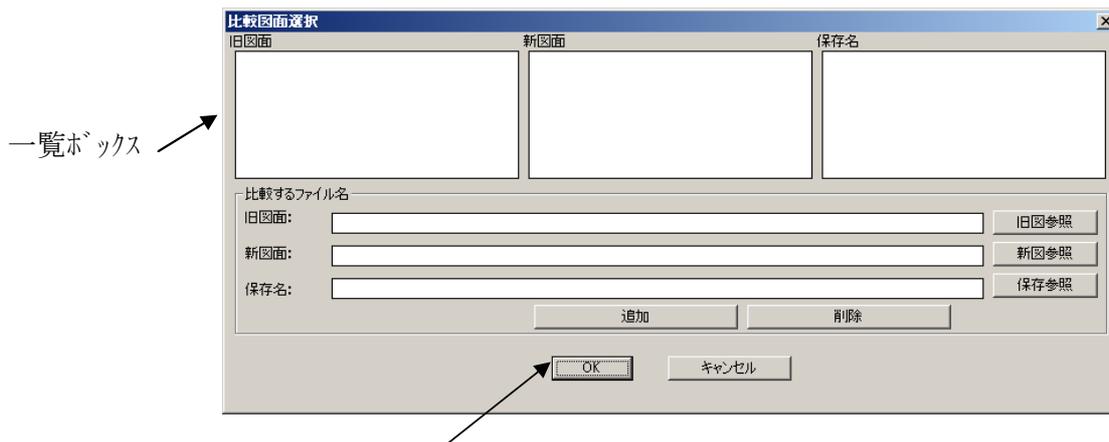
参照ボタン

2. 旧図名、新図名、保存名を入力するか、各参照ボタンからファイル名を選択して下さい。  
\*入力する場合はドライブ名からフォルダで入力して下さい。  
\*新旧図面と同じフォルダに保存する場合は上書きしない為に保存名を変えて下さい。保存名を新旧図面と同じにする場合は、別のフォルダを指定して下さい。
3. 旧図名、新図名、保存名の指定後に”追加”ボタンをクリックして下さい。  
\*一覧ボックスの中に、入力した値が表示されます。

## SCRCK [図面比較(2/2)]

新旧図面の色を変えて重ね合わせた図面を作成し、変更点を確認する。

コマンドプロンプト	SCRCK
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD I]	#図面比較



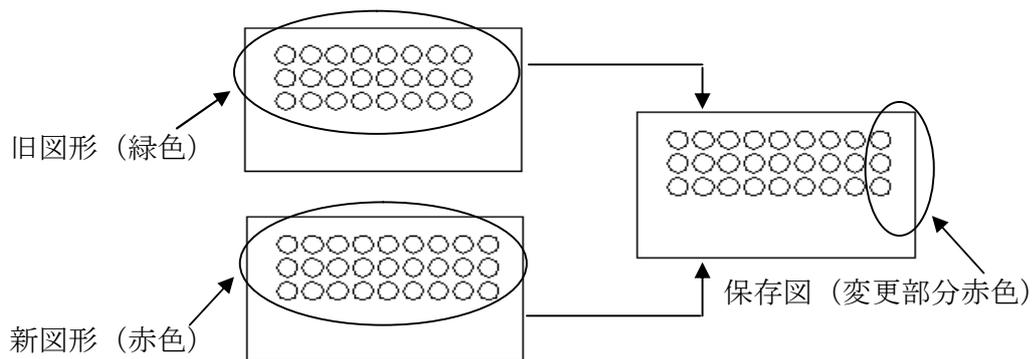
\*連続して他図面の比較を行う場合は、2～3の操作を繰り返し、一覧ボックスの表示を追加して下さい。

4. 比較する図面名の選択後、”OK”ボタンをクリックして下さい。

\*保存名として指定されたフォルダに新旧図面を重ねた図面が保管されます。

\*保存図面を開き、旧図面の色(緑)、新図面の色(赤)の重なりから変更図形を判断して下さい。(新旧図面部分はブロック図形として挿入されています)

\*図面内容によっては色が赤(または緑)に変更されない図形もあります。



\*AutoCAD2005より重複している図形の表示順序を変更できるようになりました。

旧図面と新図面の色が判り難い場合は、表示順序を変えてご確認下さい。

窓で指定した以外の図形を得る。

コマンドプロンプト	(W1)
ツールバー [Select Objects]	
プルダウン [イメージCAD I]	オブジェクト選択 → #窓指定外

◆窓指定外コマンドは、図形選択を行う際に一部分の図形を除き、それ以外の図形を全て選択したい場合に使用します。  
図形選択は、窓で1度だけ行います。  
複数の窓で除外する図形を選択したい場合、次頁の「複数窓指定外」を使用して下さい。

・ 1つの円以外の図形を全て削除する場合を例に説明します。

1. 削除 (ERASE) コマンドを実行します。

2. オブジェクトを選択： [ #窓指定外]アイコン  をクリックします。

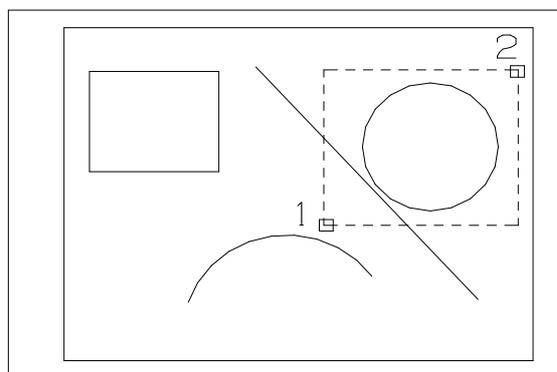
3. 一点目を指示： 1 を指示

4. 二点目を指示： 2 を指示

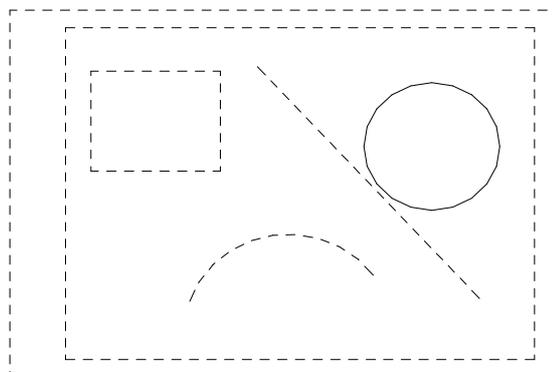
\* 1、2の窓で囲まれた図形以外の図形が、全て削除の対象となります。

\* 窓指定外で選択できるのは、窓の中に入っている図形のみで、窓と交差している図形は選択できませんので注意して下さい。

5. オブジェクトを選択： 



破線になっている図形が全て削除されます。



\* AutoCADのコマンドのあらゆる図形選択のプロンプトに対して有効です。

(編集機能などで窓指定が出来るもの)

\* イメージCADのコマンドでは使用できません。

複数の窓で指定した以外の図形を得る。

コマンドプロンプト	(W)
ツールバー [Select Objects]	
プルダウン [イメージCAD I]	オブジェクト選択 → #複数窓外

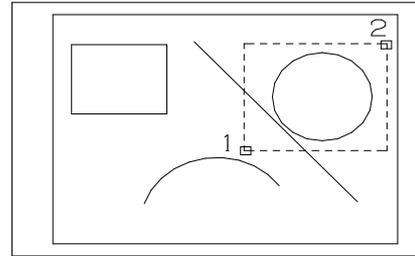
◆複数窓外コマンドは、図形選択を行う際に幾つかの図形を除き、それ以外の図形を全て選択したい場合に使用します。

・円と円弧以外の図形を全て削除する場合を例に説明します。

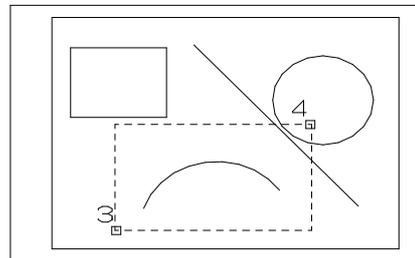
1. 削除 (ERASE) コマンドを実行します。

2. オブジェクトを選択： [ #複数窓外 ] アイコン  をクリックします。

3. オブジェクトを選択： 1、2 を指示



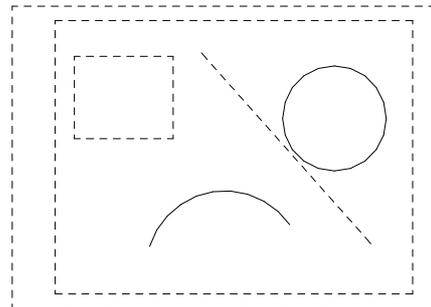
4. オブジェクトを選択： 3、4 を指示



9. オブジェクトを選択： 

\*例の場合、除外したい2つの図形を選択できたので、リターンキーを押します。  
他にも除外したい図形が有る場合、  
続けて選択を行って下さい。

破線で表示されている図形が削除される図形です。



\*一度選択した図形群から図形を除外する場合は オブジェクトを選択：メッセージに対して r を入力すると除外モードに、追加する場合は a を入力すると追加モードになりますので必要な図形を選択を行って下さい。

\*AutoCADのコマンドのあらゆる図形選択のプロンプトに対して有効です。

複数の窓で指定した図形から指定画層名で入力または指示された図形を選択する。

コマンドプロンプト	(WL)
ツールバー [Select Objects]	
プルダウン [イメージCAD I]	オブジェクト選択 → #窓画層

◆窓画層コマンドは、指定した画層の図形を取得したい場合に使用します。

★削除 (ERASE) コマンドで、選択した図形の中から画層名CLINEで描かれている図形のみ削除する場合を例に説明します。

1. 削除 (ERASE) コマンドを実行します。

2. オブジェクトを選択： [ #窓画層 ] アイコン  をクリックします。

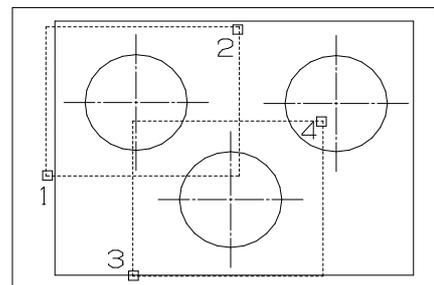
3. 指定画層名を入力 (リターン=図形) :CLINE  
\* 指定する画層名を入力またはリターンキーを押し、図形を指示して下さい。

4. オブジェクトを選択： 1、2 を指示

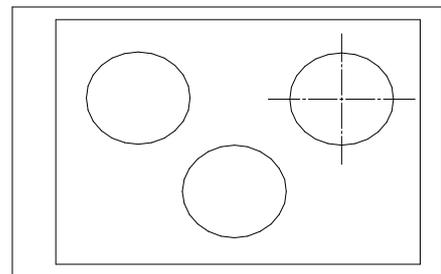
5. オブジェクトを選択： 3、4 を指示

6. オブジェクトを選択： 

\* 例の場合、選択したい図形を全て指示しましたので、リターンキーを押します。他にも除外したい図形が有る場合、続けて選択を行って下さい。



\* コマンド終了後、窓で指定された中から画層名CLINEで描かれていた中心線のみ削除され、右図の様になります。



\* 一度選択した図形群から図形を除外する場合は オブジェクトを選択：メッセージに対して r を入力すると除外モードに、追加する場合は a を入力すると追加モードになりますので必要な図形を選択を行って下さい。

\* AutoCAD のコマンドのあらゆる図形選択のプロンプトに対して有効です。

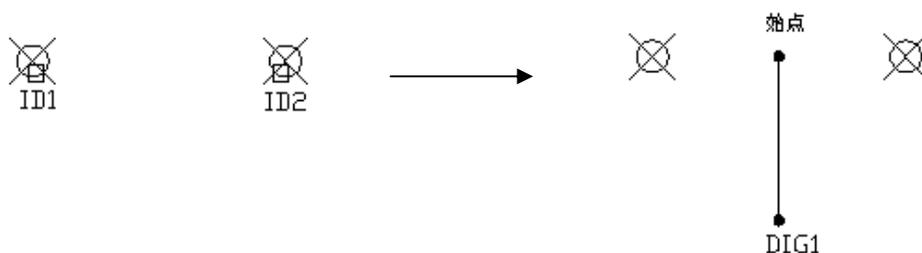
## 2点の中点の位置の点を得る。

コマンドプロンプト	(APPMID)
ツールバー [関数]	
プルダウン [イメージCAD I]	#関数→ #仮想中点

◆仮想中点関数は、コマンド実行中の点入力待ちの際に任意の2点間の中点を取得したい場合に使用します。

★2点間の中点を始点として線分を作成する場合を例に説明します。

1. 線分(LINE)コマンドを実行して下さい。
2. \_line 1 点目を指定: [#仮想中点]アイコン をクリックします。
3. 1 点目を指示: ID1 (一時0ストップを使い、点を指示します)
4. 2 点目を指示: ID2 (一時0ストップを使い、点を指示します)  
\* 3. 4. で指定した2点間の中点に、線分始点が設定されます。
5. 次の点を指定 または [元に戻す(U)]: DIG1 } ※線分コマンドの続き
6. 次の点を指定 または [元に戻す(U)]:



### <注意>

- \* この関数はAutoCADのコマンドのあらゆる点の入力に対して使用できますが、イメージCADのコマンドに対しては使用できません。
- \* 定常0ストップを設定している場合は、正確な点が取得できません。定常0ストップをオフにして、一時0ストップをご使用下さい。

## (LPNT) [線上点増分(1/2)]



線分上の任意点からの増分点を得る。

コマンドプロンプト	(LPNT)
ツールバー [関数]	
プルダウン [イメージCAD I]	#関数→ #線上点増分

◆線上点増分関数は、コマンド実行中の点入力待ちの際に線分またはポイントライン上の任意の点から増分点を取得する場合に使用します。  
0ステップ増分の様にX, Yの増分値を入力するのではなく、線分の長さを入力し、増分点を取得します。

★線分上の交点から、100移動した点を始点に線分を作成する場合を例に説明します。

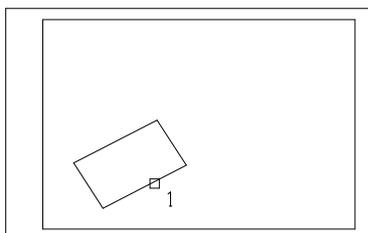
1. 線分(LINE)コマンドを実行して下さい。

2. 1 点目を指定: [#線上点増分]アイコン をクリックします。

3. 線分指示: 1 を指示

\*増分点を作成する線分またはポイントラインを指示します。

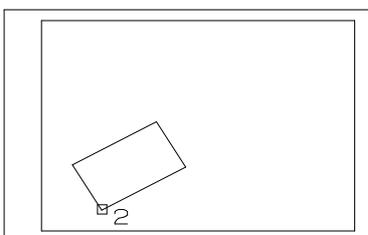
\*図形指示を行った点と線上点指示を行った点の位置関係で長さの値が変わってきますので、次頁の図1で確認して下さい。



4. 線上点指示: 2 を指示

\*増分点を取得する為の、基点となる点を指示して下さい。

\*図形指示を行った点と線上点指示を行った点の位置関係で長さの値が変わってきますので、次頁の図1で確認して下さい。



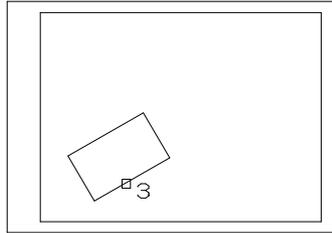
## (LPNT) [線上点増分(2/2)]

線分上の任意点からの増分点を得る。

コマンドプロンプト	(LPNT)
ツールバー [組込:関数 / 部分:関数]	
プルダウン [組込:イジ CAD / 部分:イジ CAD I]	#関数→ #線上点増分

5. 長さ : 100

- \* 指示点から増分する点までの距離を入力して下さい。
- \* 指示した点の位置関係を図1にて確認し、求めたい増分点がマウス方向になる場合、長さはマウスの値で入力して下さい。



\* 例の場合、左図の3が始点となり線分コマンドの2点目以降の入力待ちとなります。

\* 増分した点が線分の始点として取得され、通常の線分コマンドに戻りますので2点目以降の点を指示して下さい。

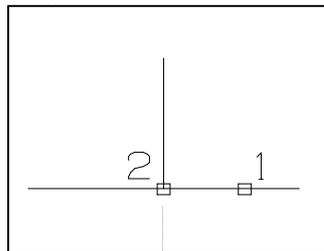
<注意>

- \* この関数はAutoCADのコマンドのあらゆる点の入力に対して使用できますがイジCADのコマンドに対しては使用できません。
- \* 定常0ストップを設定している場合、定常0ストップを優先しますので正確な点が取得できない場合がありますのでご注意ください。

《図1》

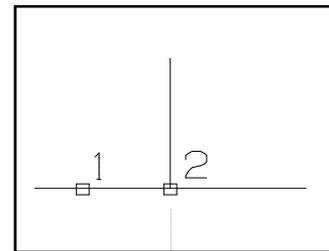
1 = 線分指示 : にて指示された点

2 = 線上点指示 : にて指示された点



マウス      プラス

\* 2を境に1で指示した側がプラス方向  
その逆が、マウス方向



プラス      マウス

\* 2を境に1で指示した側がマウス方向  
その逆が、プラス方向

## (LLNE) [線上端点増分]



線分上の端点から任意の長さの位置の点を得る。

コマンドプロンプト	(LLNE)
ツールバー [関数]	
プルダウン [イメージCAD I]	#関数→ #線上端点増分

◆線上端点増分関数は、コマンド実行中の点入力待ちの際に線分またはポリラインの端点からの増分点を取得する場合に使用します。

0スナップ増分の様にX, Yの増分値を入力するのではなく、線分の長さを入力し、増分点を取得します。

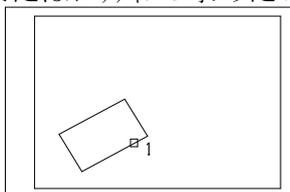
★矩形の端点から、100移動した点を始点に線分を作成する場合を例に説明します。

1. 線分(LINE)コマンドを実行して下さい。

2. 1点目を指定: [#線上端点増分]アイコン をクリックします。

3. 線分指示: 1を指示

\*線分またはポリラインの求めたい端点側を指示して下さい。

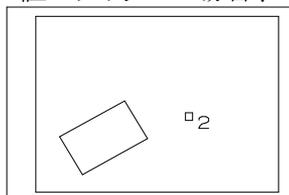


4. 長さ: -100

\*指示点から増分する点までの距離を入力して下さい。

\*プラスの値で入力した場合、線分上の増分点を取得します。

マイナスの値で入力した場合、線分上でない方向の増分点を取得します。



\*例の場合、左図の2が始点となり線分コマンドの2点目以降の入力待ちとなります。

\*増分した点が線分の始点として取得され、通常の線分コマンドに戻りますので2点目以降の点を指示して下さい。

<注意>

\*この関数はAutoCADのコマンドのあらゆる点の入力に対して使用できますがイメージCADのコマンドに対しては使用できません。

\*定常0スナップを設定している場合、定常0スナップを優先しますので正確な点が取得できない場合がありますのでご注意ください。

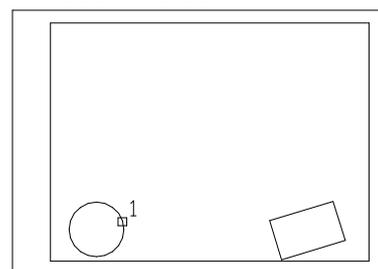
指示した図形要素の長さを得る。

コマンドプロンプト	(ID_LEN)
ツールバー [関数]	
プルダウン [イメージCAD I]	#関数→ #図形長さ

◆図形長さ関数は、コマンド実行中の距離入力待ちの際に、ある図形の長さを取得したい場合に使用します。

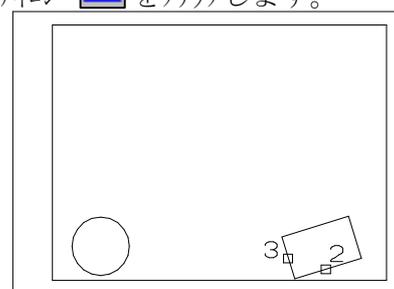
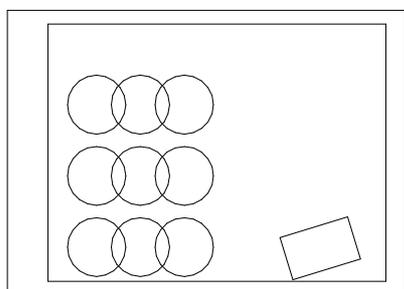
★配列複写コマンドのX、Y方向の距離を他の図形から取得する場合を例に説明します。

1. 配列複写コマンドを実行します。
2. オブジェクトを選択：1を指示



3. 配列複写のタイプを入力 [矩形状(R)/円形状(P)] <R>:R
4. Y方向の行数を入力 (---) <1>:3
5. X方向の列数を入力 (|||) <1>:3
6. Y方向の間隔 または XY方向の間隔を指定 (---): [#図形長さ]アイコン をクリックします。
7. 長さを得る図形を指示：2を指示  
\*長さを参照する図形を指示して下さい。
8. X方向の間隔を指定 (|||): [#図形長さ]アイコン をクリックします。

9. 長さを得る図形を指示：3を指示  
\*長さを参照する図形を指示して下さい。

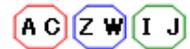


\*円の中心から中心までが  
X,Yそれぞれ矩形の縦横の  
長さと同じになります。

\*AutoCADのコマンドのあらゆる長さ入力のプロンプトに対して有効ですが  
イメージCADのコマンドでは使用できません。

\*選択可能な図形は線分、ポリライン、円、円弧です。

## (2P LEN) [2点間長さ]



2点間の長さを得る。

コマンドプロンプト	(2P_LEN)
ツールバー [関数]	
プルダウン [イメージCAD I]	#関数→ #2点間長さ

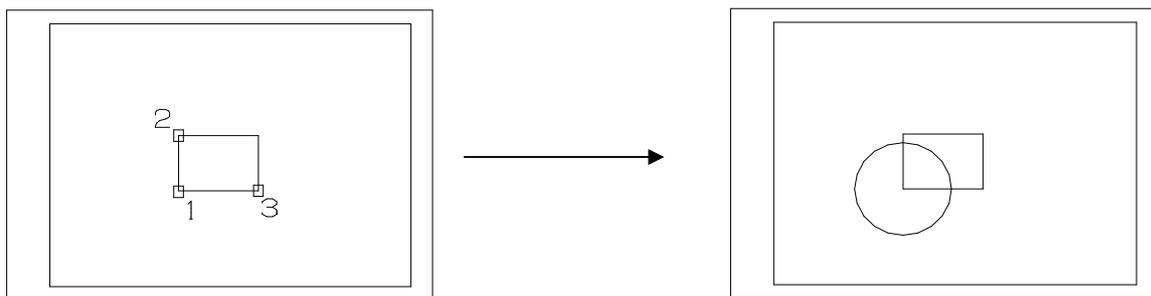
◆ 2点間長さ関数は、コマンド実行中の距離入力待ちの際に任意の2点間の長さを取得したい場合に使用します。

★ 矩形の対角線の長さを取得し、円を作成する場合を例に説明します。

1. 円 (CIRCLE) コマンドを実行して下さい。
2. CIRCLE 円の中心点を指定 または  
[2点(2P)/3点(3P)/接, 接, 半(TTR)]: 1 を指示
3. 円の半径を指定 または [直径(D)] <100.0000>:D
4. 円の直径を指定 <200.0000>: [#2点間長さ]アイコン  をクリックします。

\* 関数を実行し、計測する2点を指示します。

5. 一点目指示: 2 を指示
6. 二点目指示: 3 を指示



\* AutoCADのコマンドのあらゆる長さ入力のプロンプトに対して有効ですが、イメージCADのコマンドでは使用できません。

## (ID ANG) [図形角度(1/2)]



図形要素の角度を得る。

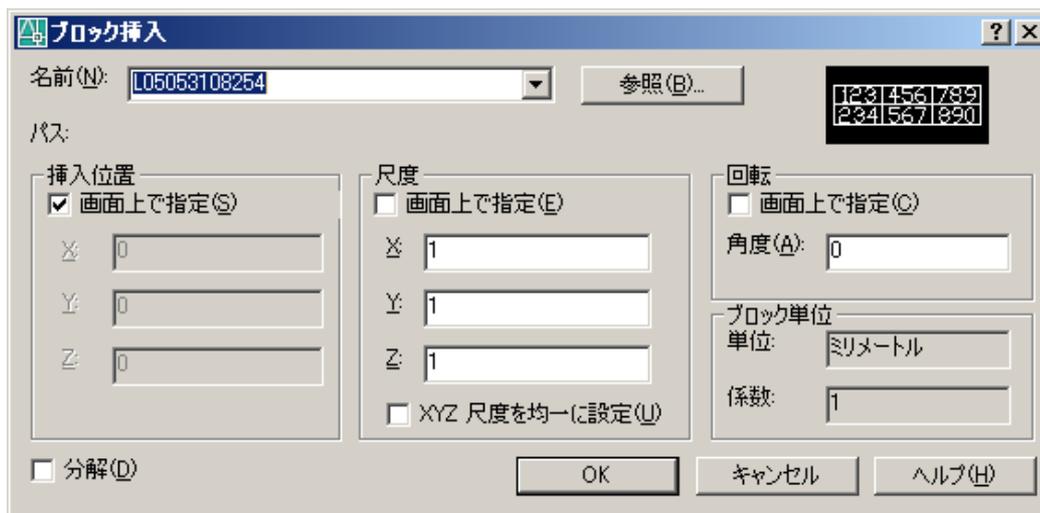
コマンドプロンプト	(ID_ANG)
ツールバー [関数]	
プルダウン [イメージCAD I]	#関数→ #図形角度

◆図形角度関数は、コマンド実行中の角度入力待ちの際に他の図形の角度を取得する場合に使用します。

★複合図形を挿入する際に、配置角度を線分から取得する場合を例に説明します。

1. 複合図形挿入 (INSERT) コマンドを実行します。

下図のダイアログボックスが表示されます。



2. ファイル名を選択し” OK” ボタンをクリックして下さい。
3. 挿入位置を指定 または [尺度(S)/X/Y/Z/回転(R)/プレビュー尺度(PS)  
/ プレビュー-X(PX)/プレビュー-Y(PY)/プレビュー-Z(PZ)/プレビュー回転(PR)]: 1 を指示
4. X 方向の尺度を入力するか対角コーナーを指定 または [コーナー(C)/XYZ] <1>:
5. Y 方向の尺度を入力 <X 方向の尺度を使用>:

## (ID ANG) [図形角度(2/2)]

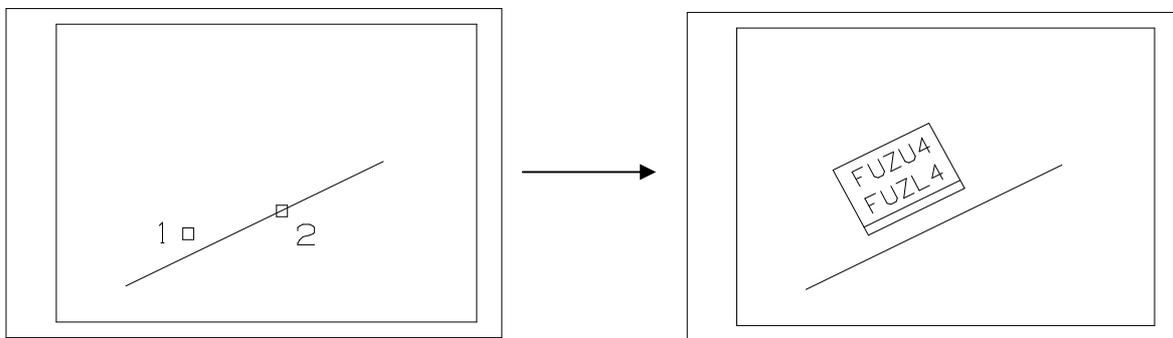
図形要素の角度を得る。

コマンドプロンプト	(ID_ANG)
ツールバー [関数]	
プルダウン [イメージCAD 1]	#関数→ #図形角度

6. 回転角度を指定 <0> : [#図形角度]アイコン  をクリックします。

\* 関数を実行し、角度を取得する図形を指示します。

7. 角度を得る図形を指示 : 2 を指示



\* AutoCADのコマンドのあらゆる長さ入力のプロンプトに対して有効ですが  
イメージCADのコマンドでは使用できません。

\* 選択可能な図形は、線分、ポリライン、文字列です。

## 図形要素間の角度を得る。

コマンドプロンプト	(ID_ANG1)
ツールバー [関数]	
プルダウン [イメージCAD I]	#関数→ #図形間角度

◆図形間角度関数は、コマンド実行中の角度入力待ちの際に2つの図形のなす角度を取得する場合に使用します。

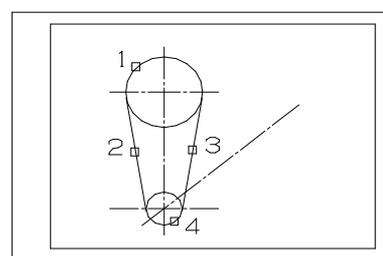
★図形を回転する際に、回転角度を2つの線分のなす角度から取得する場合を例に説明します。

1. 回転 (ROTATE) コマンドを実行します。

2. オブジェクトを選択：1、2、3、4を指示

3. 基点を指定：5を指示

4. 回転角度を指定 または [参照 (R)]： [#図形間角度]アイコン をクリックします。

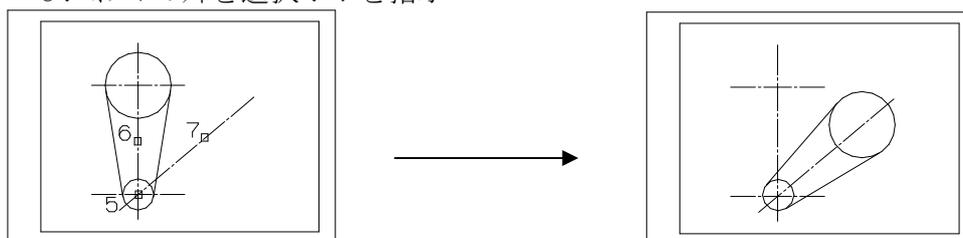


\*関数を実行し、角度を取得する2つの図形を指示します。

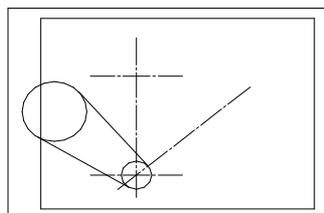
5. オブジェクトを選択：6を指示

\*基準となる側の図形を指示して下さい。

6. オブジェクトを選択：7を指示



\*6、7を逆に指示しますと下図の様になります。



\*AutoCADのコマンドのあらゆる長さ入力のプロンプトに対して有効ですが、イメージCADのコマンドでは使用できません。

\*選択可能な図形は、線分、ポリラインです。

# EXCHGFILE[一括形式変換保存(1/2)]



選択されたファイルを一括して別形式で保存します

コマンドプロンプト	EXCHGFILE
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD II →ファイル]	#一括形式変換保存

◆一括形式変換保存は、作成したファイル群を、一度に2000形式などへ変更したい場合に使用します。

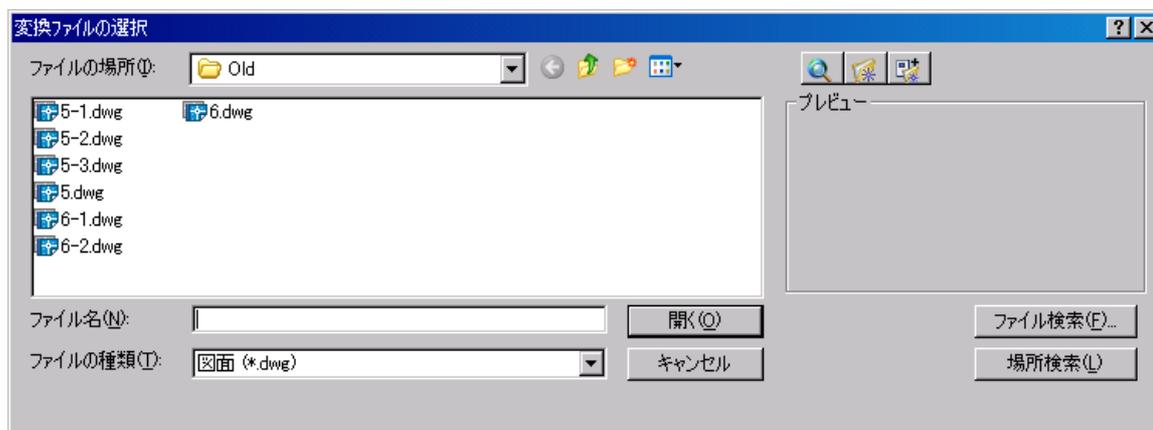
1. まず、前準備として、エクスプローラやファイルマネージャなどで、イメージCADをインストールしたフォルダーの下の"OLD"フォルダーへ変換するファイルを移動（または複写）します。

\*この作業を行わないと、このコマンドは実行できません

2. [一括形式変換保存]アイコン をクリックします。



ファイル選択ボタンを押して、変更するファイルを選択または、不要なファイルを除外します。



## EXCHGFILE[一括形式変換保存(2/2)]

選択されたファイルを一括して別形式で保存します

コマンドプロンプト	EXCHGFILE
ツールバー [イージCAD I]	
プルダウン [イージCAD II→ファイル]	#一括形式変換保存

3. ファイルの選択をします。

2 実行時に表示されるダイアログ上で、ファイル選択ボタンを押してください。

ファイルを選択して”開く(O)”を押下すると、元ファイルとしてリストに追加されます

\*ファイル選択画面では、OLDフォルダー以外の選択も可能ですが、

元ファイルとして認識されません。ご注意ください。

4. 変換後のファイル形式を選択します。

\*変換できるファイル形式は、2000, 2004, DXF (2004, 2000, R12), テンプレートです。

5. OKボタンを押します。

6. 元ファイル名にある選択されたファイルを設定したファイル形式に連続変換します。

\*テンプレートの場合は、テンプレートの説明入力を要求されます。

\*変換後のファイルは、イージCADのフォルダー下、NEWというフォルダーに保存されます。

変換後のファイルを適する場所へ移動してください。

\*OLDフォルダー、及びNEWフォルダー下の図面ファイルは、変換後、全て他のフォルダーへ

移動することをお勧めします。

\*DXFの場合は、イージCADの小数点桁数を精度として使用します。

¥DXFに格納されているDXFファイルを自動で読み込みDWG形式で保存する。

コマンドプロンプト	DIN
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD II →ファイル]	#DXF連続読込

◆DXF連続読込コマンドは、複数のDXFファイルを全てDWG形式に変換する場合に使用します。

\*コマンドを実行する前に下記の準備を行って下さい。

1. 変換するDXFファイルを全て ¥UMSAPP¥ECAD2KS¥DXF フォルダにコピーして下さい。

このコマンドは、フォルダ内のDXFファイルを全てDWG形式に変換します。フォルダ内に不要なファイルが存在する場合は、削除または移動して下さい。また、変換されたDWGファイルは¥UMSAPP¥ECAD2KS¥DWGフォルダに保存されます。同名のDWGファイルがDWGフォルダに既に存在する場合は削除又は移動して下さい。

2. このコマンドは、図面が空でないと実行できない為、画面上に図形が存在する場合、新規図面コマンドを実行し、ゼロからスタートを選択して下さい。(画面上に図形が存在しない場合でも、コマンドを実行した際に”新規図面を開いて下さい。”のメッセージが表示される場合、指示に従って下さい。)

1. [#DXF連続読込]アイコン をクリックします。

\*下図のダイアログボックスが表示されます。



¥UMSAPP¥ECAD2KS¥DXFフォルダ内に存在するDXFファイル名の一覧が表示されますので、関係のないファイルが入っていないか確認して下さい。

2. コマンドを実行する場合”OK”ボタンをクリックして下さい。  
 \*関係のないファイルが入っていた為に、コマンドを中止する場合は”キャンセル”ボタンをクリックして下さい。  
 \*”OK”ボタンをクリックしますと、DXFファイルの読み込み、DWG形式での保存を自動で実行しますので、処理が終了するまではそのままお待ち下さい。

\*変換されたファイルは、¥UMSAPP¥ECAD2KS¥DWG フォルダにDXFファイルと同じ名称で保存されます。

\*次回、DXF連続読込コマンドを実行するときの為に、保存されたファイルは別のフォルダへ移動し、このフォルダの中は空にしておいて下さい。

¥ DWGに格納されているDWGファイルを自動で読み込みDXF形式で保存する。

コマンドプロンプト	DOUT
ツールバー [イメージCAD I]	
プルダウン [イメージCAD II →ファイル]	#DXF連続書出

◆DXF連続書出コマンドは、複数のDWGファイルを全てDXF形式に変換する場合に使用します。

\*コマンドを実行する前に下記の準備を行って下さい。

1. 変換するDWGファイルを全て ¥UMSAPP¥ECAD2KS¥DWG フォルダにコピーして下さい。

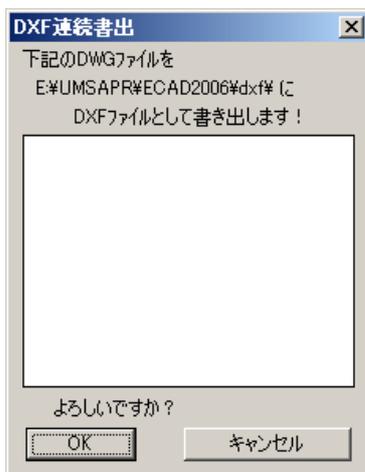
このコマンドは、フォルダ内のDXFファイルを全てDWG形式に変換します。フォルダ内に不要なファイルが存在する場合は、削除または移動して下さい。また、変換されたDWGファイルは¥UMSAPP¥ECAD2KS¥DWGフォルダに保存されます。同名のDWGファイルがDWGフォルダに既に存在する場合は削除又は移動して下さい。

2. このコマンドは、図面が新規でないと実行できない為、画面上に図形が存在する場合、新規図面コマンドを実行し、初期の状態に戻して下さい。

(画面上に図形が存在しない場合でも、コマンドを実行した際に”新規図面を開いて下さい。”のメッセージが表示される場合、指示に従って下さい。)

1. [#DXF連続書出]アイコン をクリックします。

\*下図のダイアログボックスが表示されます。



¥UMSAPP¥ECAD2KS¥DWGフォルダ内に存在するDWGファイル名の一覧が表示されますので、関係のないファイルが入っていないか確認して下さい。

2. コマンドを実行する場合”OK”ボタンをクリックして下さい。  
 \*関係のないファイルが入っていた為に、コマンドを中止する場合は”キャンセル”ボタンをクリックして下さい。  
 \*”OK”ボタンをクリックしますと、DWGファイルの読み込み、DXF形式での保存を自動で実行しますので、処理が終了するまではそのままお待ち下さい。

\*変換されたファイルは、¥UMSAPP¥ECAD2KS¥DXF フォルダにDWGファイルと同じ名称で保存されます。

\*次回、DXF連続書出コマンドを実行するときの為に、保存されたファイルは別のフォルダへ移動し、このフォルダの中は空にしておいて下さい。

# CPURGE [一括名前削除]

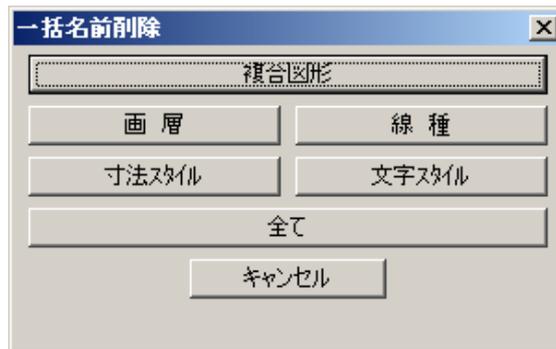


名前の付いたオブジェクトを一括でデータベースから削除する。

コマンドプロンプト	CPURGE
ツールバー [イージCAD I]	
プルダウン [イージCAD II →ファイル]	#一括名前削除

- ◆一括名前削除コマンドは、不要なオブジェクトデータを削除する際に使用します。処理結果は、名前削除(PURGE)と同じになりますが、1つ1つ”Y”を入力する事なく”OK”ボタン1つで削除できます。また、削除可能なデータの一覧が表示されますので、その中から選択し、削除する事もできます。

1. [#一括名前削除]アイコン をクリックします。  
\* 下図のダイアログボックスが表示されます。



2. 種類選択で”一括削除”をクリックして下さい。
3. 項目選択内の削除する項目のボタンをクリックして下さい。  
\* 下図のダイアログボックスが表示されます。



4. 削除実行の確認ボックスですので、削除を実行する場合、”OK”ボタン中止する場合”キャンセル”ボタンをクリックして下さい。

# CINSERT [一括複写挿入(1/2)]



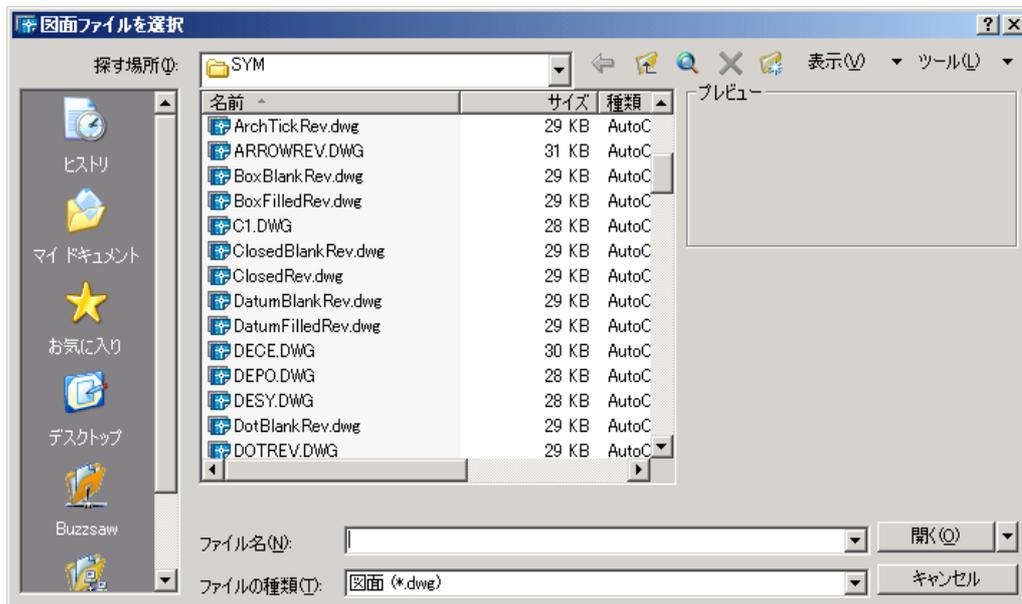
複合図形を個々の図形として一括挿入する。

コマンドプロンプト	CINSERT
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イージCAD II →挿入]	#一括複写挿入

◆一括複写挿入コマンドは、1つの複合図形を挿入し、矩形状に配列複写したい場合に使用します。

1. [#一括複写挿入]アイコン  をクリックします。

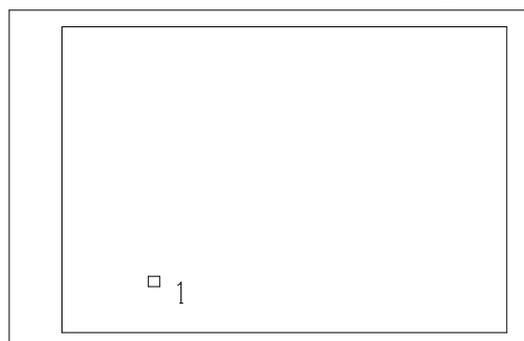
下図のダイアログボックスが表示されます。



2. ファイル名を選択し、”開く(O)”ボタンをクリックして下さい。

3. 挿入位置を指定または :

[尺度(S)/X/Y/Z/回転(R)/プレビュー尺度(PS)/プレビューX(PX)/プレビューY(PY)/プレビューZ(PZ)/プレビュー回転(PR)]: 1 を指示



\*基準となる複合図形の挿入位置を指示して下さい。

## CINSERT [一括複写挿入(2/2)]

複合図形を個々の図形として一括挿入する。

コマンドプロンプト	CINSERT
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イージCAD II →挿入]	#一括複写挿入

4. X 方向の尺度を入力するか対角コーナーを指定 または [コーナー(C)/XYZ] <1>:

5. Y 方向の尺度を入力 <X 方向の尺度を使用>:

6. 回転角度を指定 <0>:

\* X、Y 方向の尺度及び角度をそれぞれ入力して下さい。

7. Y 方向に何行 : 5

\* Y 方向に配置する行数を入力して下さい。

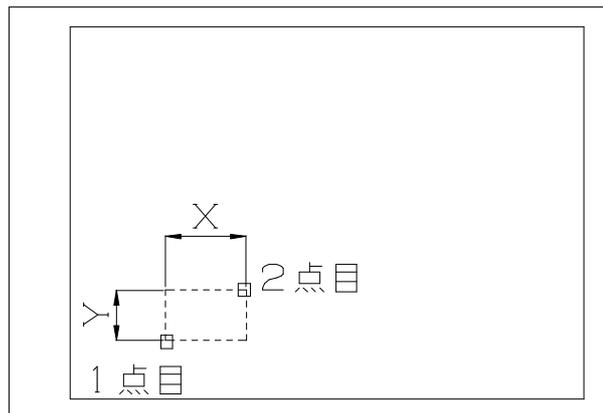
8. X 方向に何列 : 5

\* X 方向に配置する列数を入力して下さい。

9. Y 方向の間隔 または XY 方向の間隔を指定 (---): 10

\* Y 方向の間隔を指定する場合、間隔を数値で入力して下さい。

\* X、Y の間隔を一度に指定する場合 2 点を指示して下さい。(下図参照)



10. 9. で Y 方向の間隔を手入力した場合

X 方向の間隔を指定 (|||): 20

# RINSERT [複合図形連続挿入(1/2)]



複合図形を任意の位置に連続して挿入する。

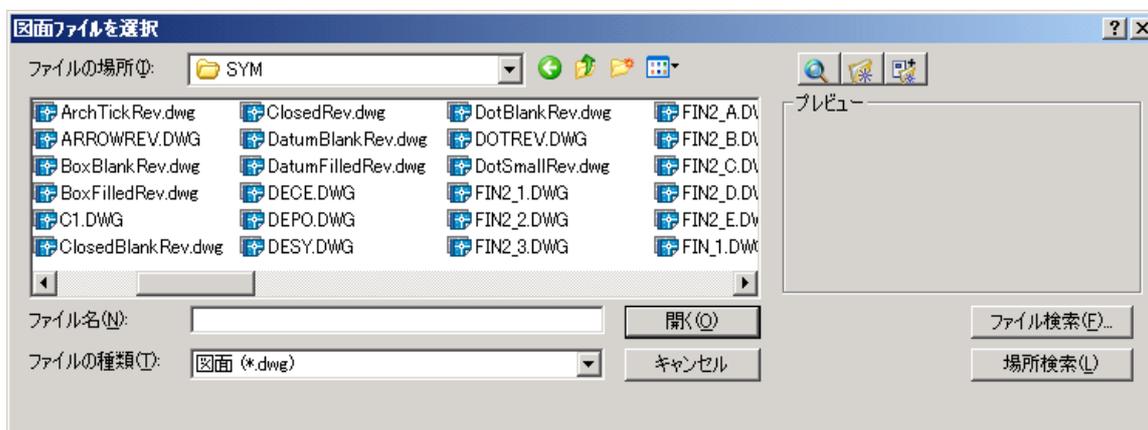
コマンドプロンプト	RINSERT
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イージCAD II →挿入]	#複合図形連続挿入

◆複合図形連続挿入コマンドは、1つの複合図形を任意の位置に複数配置したい場合に使用します。

1. [複合図形連続挿入]アイコン をクリックします。

下図のダイアログボックスが表示されます。

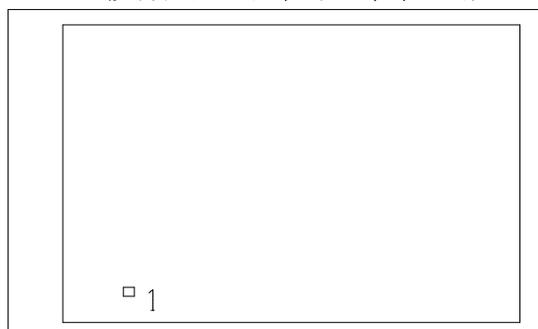
(※現在開いている図面ファイルのフォルダが表示されます)



2. 挿入するファイルを選択し、”開く(O)”ボタンをクリックして下さい。

3. 挿入位置を指定：1を指示

\* 1つ目の複合図形を配置する位置を指示して下さい。



4. X方向の尺度<リターン = 1> :

5. Y方向の尺度<リターン = X方向尺度> :

6. 回転角度を入力<リターン = 0> :

\* X、Y方向の尺度及び角度をそれぞれ入力して下さい。

## RINSERT [複合図形連続挿入(2/2)]

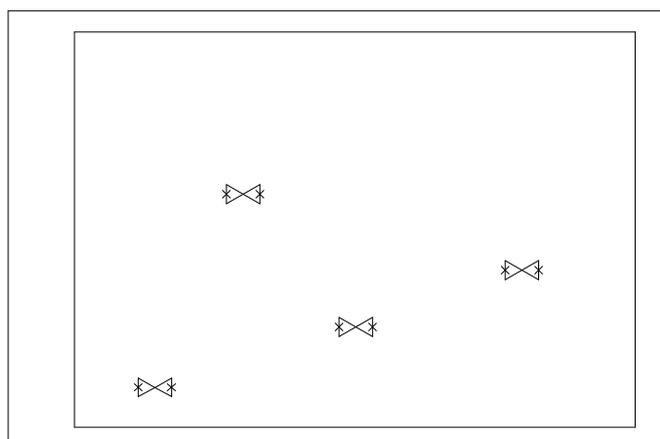
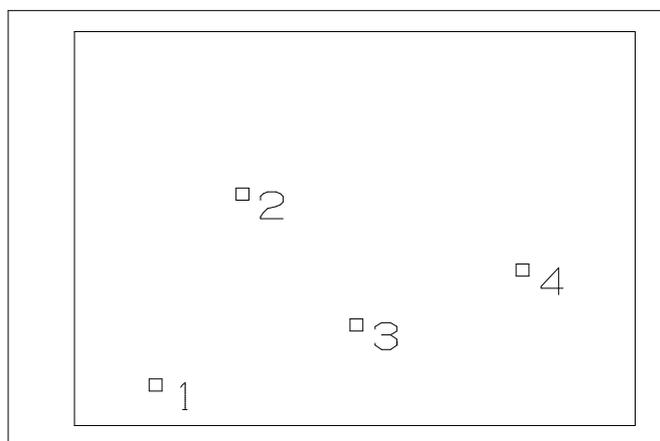
複合図形を任意の位置に連続して挿入する。

コマンドプロンプト	RINSERT
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD II →挿入]	#複合図形連続挿入

7. 挿入位置を指定：2、3、4を指示

\* 2つ目以降の複合図形の配置位置を指示して下さい。

\* コマンドを終了する場合、リターンキーを押して下さい。



## 汎用設計に使用する画層を自動的に設定する。

コマンドプロンプト	LAY
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	#標準画層

- ◆標準画層コマンドは、新規で図面を作成する際に画層を1つずつ作成する手間を省く為のコマンドです。  
コマンドを実行した際に、作成される画層は<表1>のようになっています。  
対象となる図形は、参考までに記入していますので変更しても構いません。

1. [#標準画層]アイコン をクリックすると自動的に画層が作成されます。  
画層の作成が終了しますと、下記のメッセージが表示されます。  
----- 標準画層を設定しました! -----  
\*画層設定後、現在層は”FIG1”に変更されます。

標準画層一覧表<表1>

画層名	対 象	色	線種	画層名	対 象	色	線種
0	汎用	白	実線	タイトル文字	タイトル文字	白	実線
主図形	主図形	白	実線	表文字	表文字	水色	実線
従図形	従図形	黄	実線	図面情報	図面情報	水色	実線
隠図形	隠れ図形	白	破線	修飾図	修飾図	緑	実線
想像図形	想像線	黄	二点鎖線	図枠	図枠	白	実線
中心線	中心線	黄	一点鎖線	補助線	補助線	紫	実線
主シンボル	主シンボル	白	実線	作業線	作業線	黄	実線
従シンボル	従シンボル	黄	実線	点	点	赤	実線
寸法線	寸法線	黄	実線	仕上記号	仕上記号	緑	実線
一般文字	一般文字	水色	実線	溶接記号	溶接記号	緑	実線

### 「関連項目」

- ・<表1>の画層ではなく、独自の画層を自動で設定する場合は「ユーザ画層」コマンドを参照して下さい。

外部ファイルから画層データを読み込み画層を設定する。

コマンドプロンプト	LAY1
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	#ユーザ画層

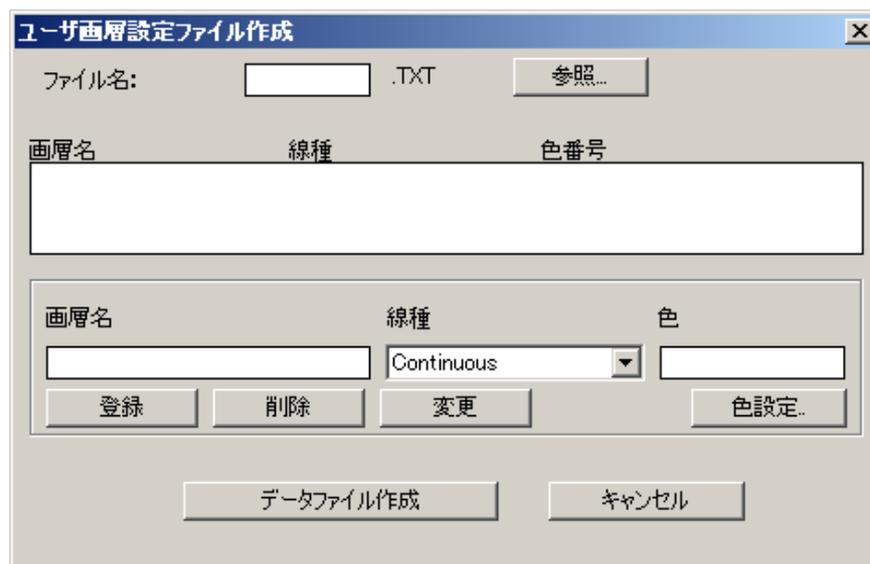
◆ユーザ画層コマンドは、複数のユーザー独自の画層を1つずつ作成する手間を省く為のコマンドです。

\*このコマンドを使用するには、まずデータファイルを作成する必要があります。  
 データファイルを作成する場合、1から順に実行して下さい。  
 既にデータファイルを作成し、画層設定のみ実行する場合  
 7-8頁の《既存のファイルを読み込み画層を設定する場合》を参照して下さい。  
 《データファイルの作成》

1. [#ユーザ画層]アイコン をクリックします。  
 下図のダイアログボックスが表示されます。



2. "新規ファイル作成" ボタンをクリックして下さい。  
 下図のダイアログボックスが表示されます。



## LAY1 [ユーザ画層(2/9)]

外部ファイルから画層データを読み込み画層を設定する。

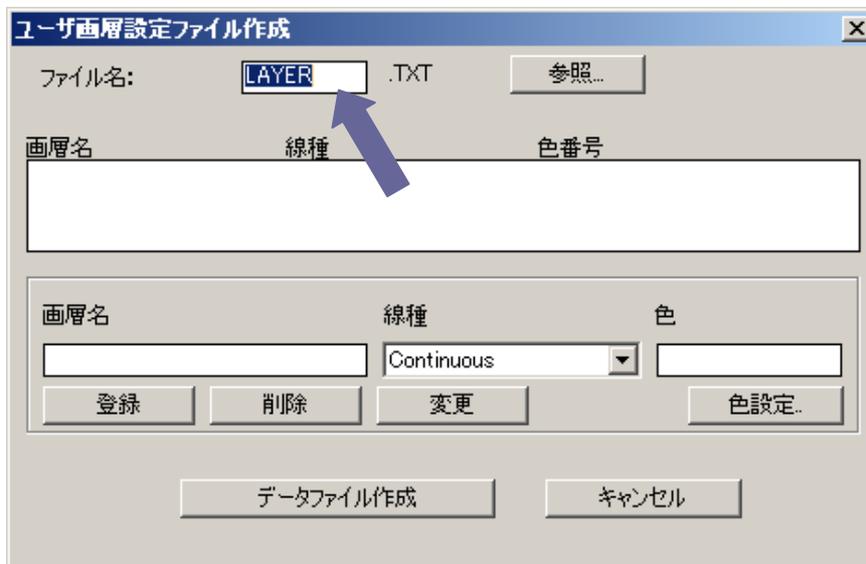
コマンドプロンプト	LAY1
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	#ユーザ画層

★ファイル名“LAYER.TXT”とし、下記の2つの画層をデータファイルに登録する方法を例として説明します。

画層名--TEST1 線種--Continuous 色--3 (緑)

画層名--TEST2 線種--CENTER 色--2 (黄)

- 登録するデータファイルの名称を”ファイル名”の欄に入力して下さい。  
\*入力できる文字は、半角英数字で8文字までです。



ユーザ画層設定ファイル作成

ファイル名:  .TXT

画層名	線種	色番号

画層名  線種  色

- 画層名の欄に設定する画層の名称を入力します。



ユーザ画層設定ファイル作成

ファイル名:  .TXT

画層名	線種	色番号
TEST1		

画層名  線種  色

## LAY1 [ユーザ画層(3/9)]

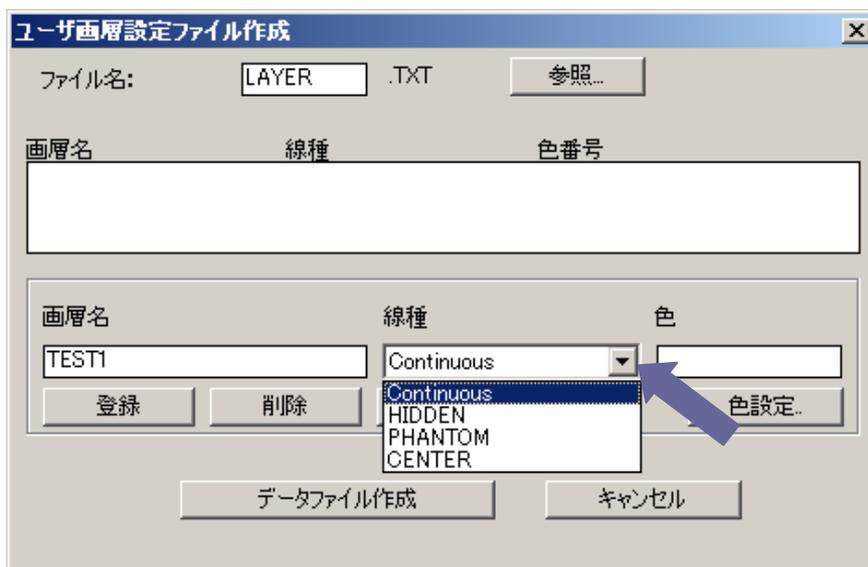
外部ファイルから画層データを読み込み画層を設定する。

コマンドプロンプト	LAY1
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	#ユーザ画層

5. 線種を一覧より選択して下さい。

\*線種設定(linetype)コマンドに設定されている線種がプルダウンに表示されます。  
線種がリストに存在しない場合は、先に線種設定コマンドを使い必要な線種設定を行って下さい。

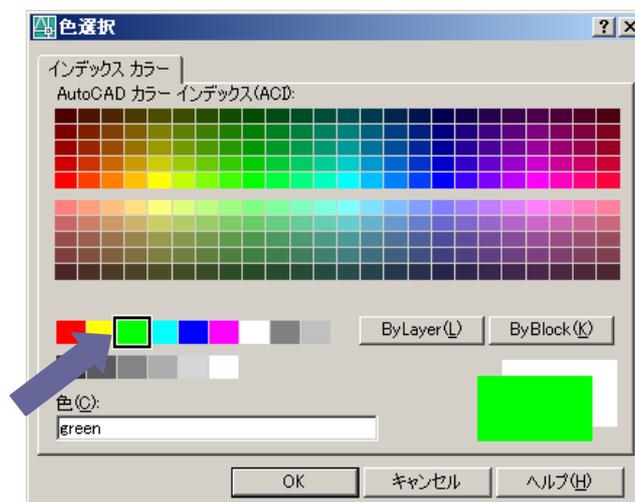
\*初期値が “Continuous” になっていますので、Continuousを使用する場合  
選択する必要はありません。



6. 色の欄に、使用する色番号を入力して下さい。（色番号が不明な場合  
”色設定...” ボタンをクリックし色一覧より使用する色を選択して下さい。）

\*例の場合、緑を使用しますので、矢印の部分をクリックします。

<色一覧>



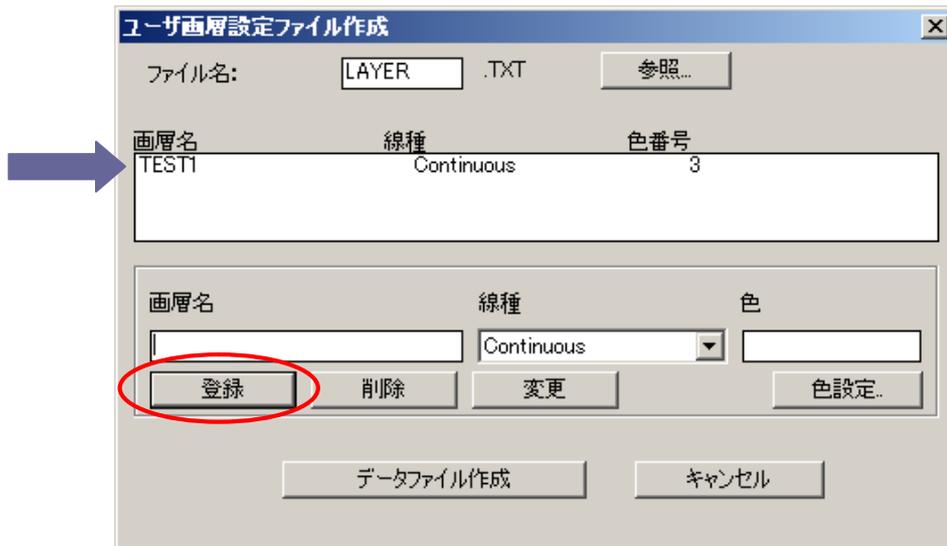
## LAY1 [ユーザ画層(4/9)]

外部ファイルから画層データを読み込み画層を設定する。

コマンドプロンプト	LAY1
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	#ユーザ画層

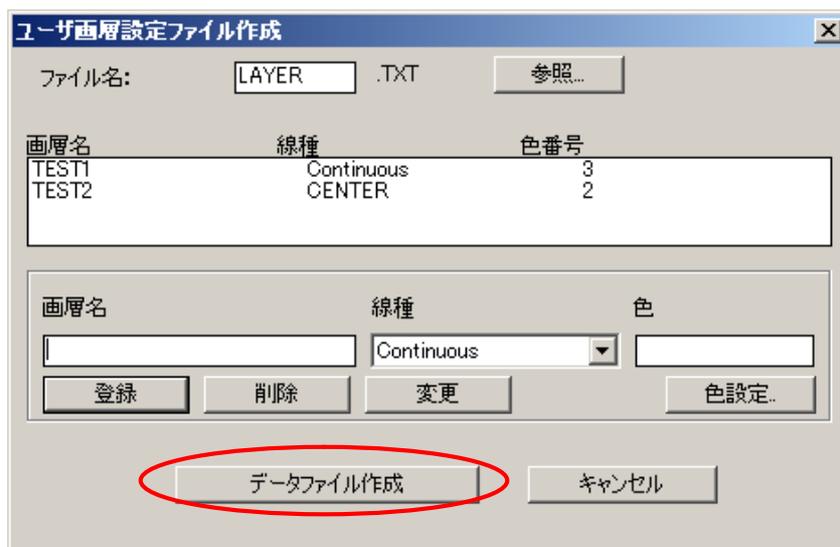
7. ”登録” ボタンをクリックして下さい。

\*一覧ボックスの中に、入力した値が表示されます。



8. 4～7の操作を繰り返し、登録する全ての画層データを入力して下さい。

\*例の場合、全ての画層データを入力すると下図の様になります。



9. 登録する画層を全て入力したら、”データファイル作成” ボタンをクリックして下さい。

\*作成されたテキストファイルは、¥UMSAPP¥ECAD2KSYDATA に保管されます。

## LAY1 [ユーザ画層(5/9)]

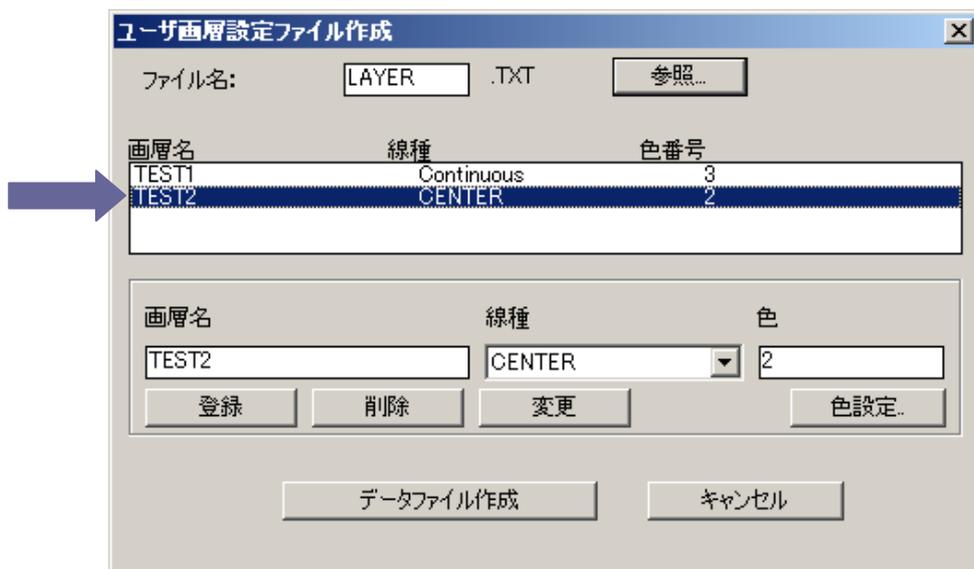
外部ファイルから画層データを読み込み画層を設定する。

コマンドプロンプト	LAY1
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イーシCAD II →形式]	#ユーザ画層

《データ入力を誤った場合の変更方法》

\*TEST2の画層の線種を” DASHED”に変更する場合を例として説明します。

1. 一覧ボックスの中より、変更するデータを選択します。



2. 選択された項目の内容が、画層名、線種、色の欄に表示されますのでその内容を変更します。



3. ” 変更” ボタンをクリックし、一覧ボックスの内容を更新します。

## LAY1 [ユーザ画層(6/9)]

外部ファイルから画層データを読み込み画層を設定する。

コマンドプロンプト	LAY1
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	#ユーザ画層

《不要なデータを削除する場合》

\* TEST2の画層を削除する場合を例として説明します。

1. 一覧ボックスの中より、削除するデータを選択します。



3. "削除" ボタンをクリックして下さい。

\* 一覧ボックスの内容から選択された項目が削除されます。



## LAY1 [ユーザ画層(7/9)]

外部ファイルから画層データを読み込み画層を設定する。

コマンドプロンプト	LAY1
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イーシCAD II →形式]	#ユーザ画層

《既存のファイルを読み込み画層を設定する場合》

1. [#ユーザ画層] アイコン  をクリックします。

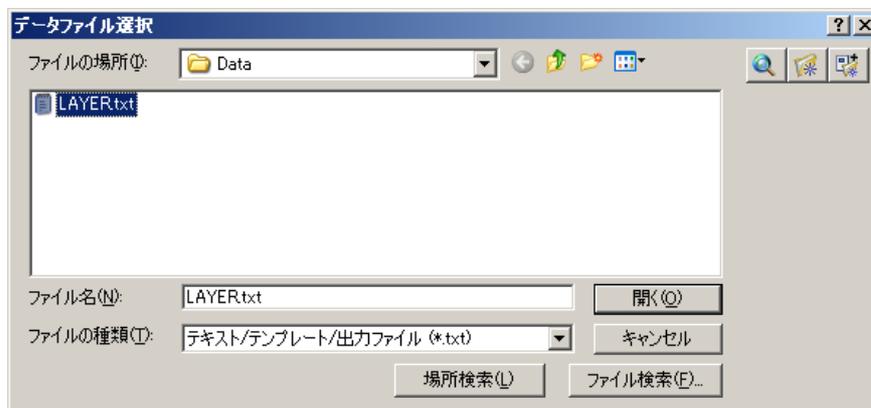
下図のダイアログボックスが表示されます。



2. ファイル名の欄にデータファイルの名称を入力して下さい。

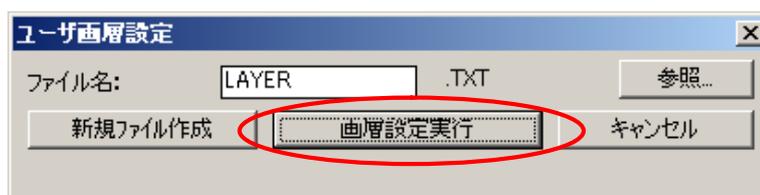
\*ファイル名が不明な場合は、”参照” ボタンをクリックするとデータファイル選択ダイアログボックスが表示されます。表示されたファイル名より選択し、”開く(O)” ボタンをクリックして下さい。

\*データファイル選択ダイアログボックスは、ファイルの場所は既定値で ¥UMSAPP¥ECAD2KS¥DATA となっています。



\*ファイル名を参照した場合、ファイル名の欄に選択したファイル名が表示されている事を確認して下さい。

3. ”画層設定実行” ボタンをクリックして下さい。



\*画層の設定が終了しますと、！！ユーザ画層設定終了！！のメッセージが表示されます。

## LAY1 [ユーザ画層(8/9)]

外部ファイルから画層データを読み込み画層を設定する。

コマンドプロンプト	LAY1
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イーザCAD II →形式]	#ユーザ画層

《既存のファイルを再度編集する場合》

1. [#ユーザ画層] アイコン  をクリックします。  
下図のダイアログボックスが表示されます。

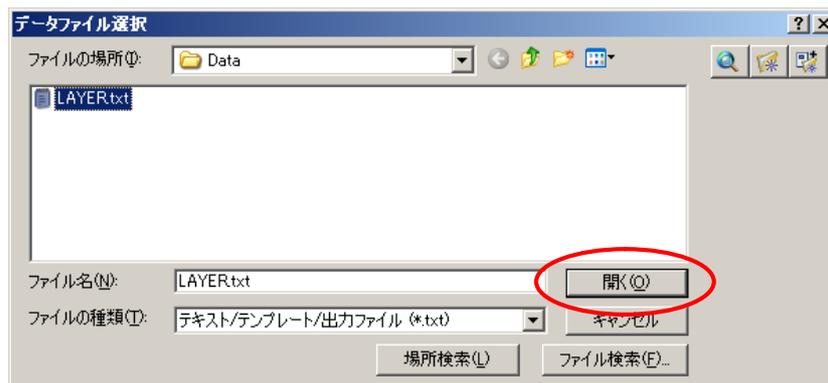


”新規ファイル作成”ボタンをクリックします。

2. 下図のダイアログボックスが表示されたら、”参照”ボタンをクリックします。



3. 再編集したいデータファイルを選択し、”開く(O)”ボタンをクリックします。

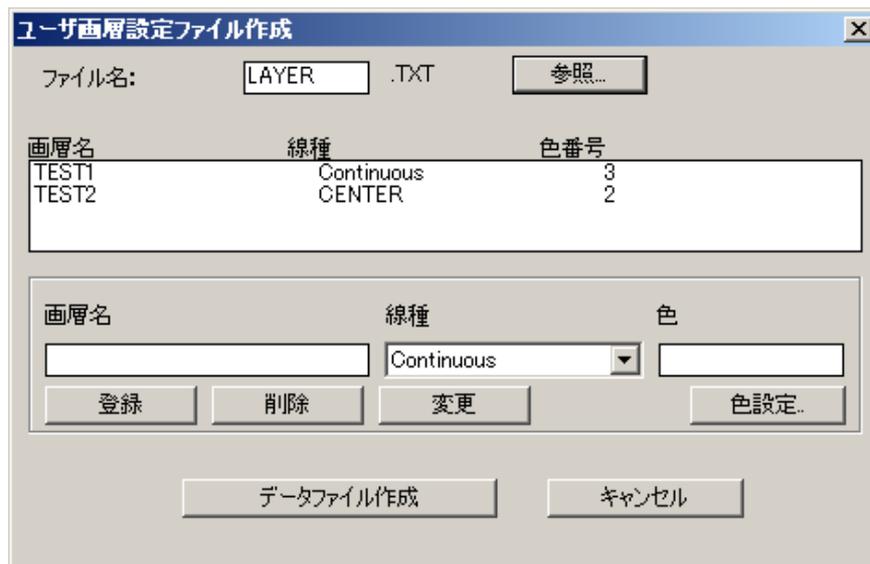


## LAY1 [ユーザ画層(9/9)]

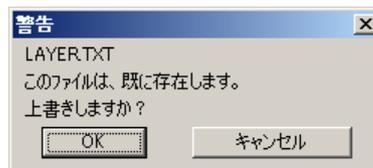
外部ファイルから画層データを読み込み画層を設定する。

コマンドプロンプト	LAY1
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イーシCAD II →形式]	#ユーザ画層

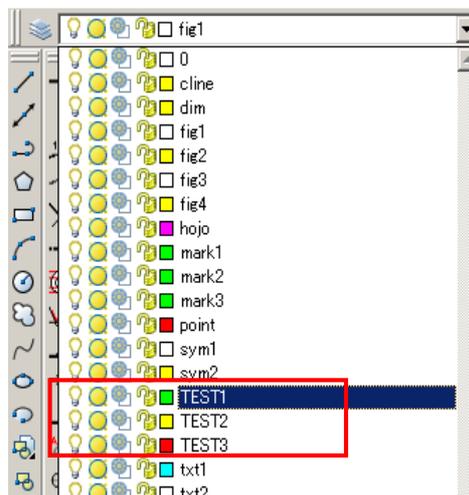
4. 選択したデータファイルに登録していた内容が表示されます。  
登録、削除、変更などの修正を行います。  
修正が終わったら”データファイル作成”ボタンをクリックします。



\* 下図のメッセージが表示されますので、”OK”ボタンをクリックして下さい。



”画層設定実行”ボタンをクリックすると、設定した内容で画層が作成されます。



全ての画層を表示にします。

コマンドプロンプト	ALLON
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イーシCAD II →形式]	画層設定 → #全画層ON

◆全画層ONコマンドは、幾つかの非表示になっている画層を全て表示モードに変更する場合に使用します。

1. [#全画層ON]アイコン  をクリックします。
2. 全ての画層が表示モードになると、下記のメッセージが表示されます。  
” 全ての画層を表示モードに切替ました！”

## ALLOFF [全画層OFF]



全ての画層を非表示にします。

コマンドプロンプト	ALLOFF
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II→形式]	画層設定 → #全画層OFF

◆全画層OFFコマンドは、幾つかの表示になっている画層を全て非表示モードに変更する場合に使用します。

1. [#全画層OFF]アイコン  をクリックします。
2. 全ての画層が非表示モードになると、下記のメッセージが表示されます。  
” 全ての画層を非表示モードに切替ました！”

## LAY SW1 [オン/オフ]



画層表示 (ON/OFF) の切替を行う。

コマンドプロンプト	LAY_SW1
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	画層設定 → #n/オ

◆現在ONになっている画層はOFFに、現在OFFになっている画層はONに設定します。

1. [#n/オ]アイコン  をクリックします。
2. 表示ON/OFFする画層名：  
画層名を入力して下さい。
  - \* 選択された画層が非表示の場合、表示モードに切り替えます。
  - また、表示になっている場合、非表示モードに切り替えます。
  - \* 入力した画層が存在しない場合、” その様な画層は存在しません！” とメッセージが表示されます。

## LAY\_CHG [画層切替]



任意の画層を現在層にする。

コマンドプロンプト	LAY_CHG
ツールバー	なし
プルダウン [イメージCAD II →形式]	画層設定 → #画層切替

◆任意の画層を現在層に変更します。

1. コマンド「LAY\_CHG」を入力、またはメニュー[イメージCAD II] → [形式] → [画層設定] → [#画層切替] を選択します。
2. 変更する画層名：  
現在層に設定する画層名を入力して下さい。  
\*入力した画層が存在しない場合、”### その様な画層は存在しません ###”とメッセージが表示されます。

指示された図形の画層のみ表示する。

コマンドプロンプト	DLAYON
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イーシCAD II →形式]	画層設定 → #図形ON

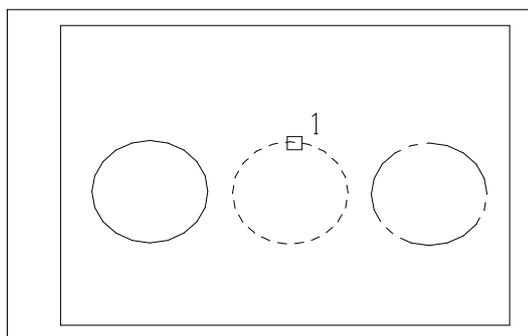
◆図形ONコマンドは、ある画層で描かれた図形のみ表示し、その他の画層を非表示にしたい場合に使用します。

1. [#図形ON]アイコン をクリックします。

★画層FIG3（破線）で描かれている図形のみ表示する場合を例に説明します。

2. オブジェクトを選択：1を指示

\*表示させる画層で描かれている図形を指示します。



3. オブジェクトを選択：

\*表示させる画層が幾つもある場合、続けて図形を指示して下さい。

\*図形選択を終了する場合、リターンキーを押して下さい。

\*例の場合、FIG3の画層だけが表示されますので、真ん中の円だけになります。（図面枠<画層名：WAKU>も非表示になります。）



# DLAYOFF [図形OFF]



指示された図形の画層を非表示にする。

コマンドプロンプト	DLAYOFF
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	画層設定 → #図形OFF

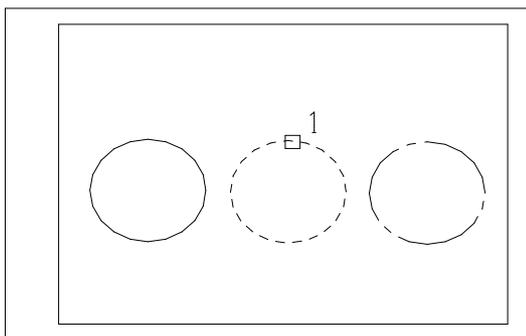
◆図形OFFコマンドは、ある画層で描かれた図形を非表示にしたい場合に使用します。

1. [#図形OFF]アイコン をクリックします。

★画層FIG3（破線）で描かれている図形を非表示にする場合を例に説明します。

2. オブジェクトを選択：1を指示

\*非表示にする画層で描かれている図形を指示します。

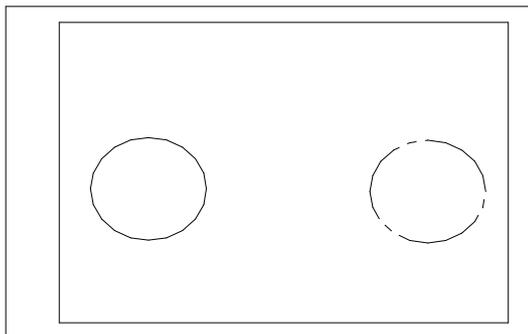


3. オブジェクトを選択：

\*非表示にする画層が幾つも有る場合、続けて図形を指示して下さい。

\*図形選択を終了する場合、リターンキーを押して下さい。

\*例の場合、FIG3の画層だけを非表示にしますので、真ん中の円だけ消えます。



指示された図形の画層をロックする。

コマンドプロンプト	DLAYLO
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	画層設定 → #図形ロック

◆図形ロックコマンドは、指示された図形の画層をロックする場合に使用します。

1. [#図形ロック]アイコン  をクリックします。
2. オブジェクトを選択：
  - \*ロックしたい図形を指示して下さい。
  - \*全て指示し、リターンキーを押しますと、画層がロックされます。

! 画層がロックされた事を確認する場合、画層管理(LAYER)コマンドを実行して下さい。

## DLAYELO [図形外ロック]



指示された図形の画層以外の画層を全てロックする。

コマンドプロンプト	DLAYELO
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	画層設定 → #図形外ロック

◆図形外ロックコマンドは、指示された図形の画層以外の画層を全てロックする  
場合に使用します。

1. [#図形外ロック]アイコン  をクリックします。
2. オブジェクトを選択：
  - \*ロックしない図形を指示して下さい。
  - \*全て指示し、リターンキーを押しますと、指示された図形の持つ画層  
以外の画層が全てロックされます。

! 画層がロックされた事を確認する場合、画層管理(LAYER)コマンドを実行して下さい。

指示された図形の画層をフリーズする。

コマンドプロンプト	DLAYFR
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	画層設定 → #図形フリーズ

◆図形フリーズコマンドは、指示された図形の画層をフリーズする場合に使用します。

1. [#図形フリーズ]アイコン  をクリックします。
2. オブジェクトを選択：
  - \*フリーズしたい図形を指示して下さい。
  - \*全て指示し、リターンキーを押しますと、画層がフリーズされます。

! 画層がフリーズされた事を確認する場合、画層管理(LAYER)コマンドを実行して下さい。

指示された図形要素以外を非表示にする。

コマンドプロンプト	DLAEFR
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	画層設定 → #図形外フリーズ

◆図形外フリーズコマンドは、指示された図形の画層以外の画層をフリーズする場合に使用します。

1. [#図形外フリーズ]アイコン  をクリックします。
2. オブジェクトを選択：
  - \*フリーズしない図形を指示して下さい。
  - \*全て指示し、リターンキーを押しますと、指示された図形のもつ画層以外の画層がフリーズされます。

! 画層がフリーズされた事を確認する場合、画層管理 (LAYER) コマンドを実行して下さい。

## LAY\_SW2 [フリーズ／解除]



画層のフリーズ／フリーズ解除の切替を行う。

コマンドプロンプト	LAY_SW2
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	画層設定 → #フリーズ／解除

◆画層のフリーズ／解除を切り替えます。

1. [#フリーズ／解除]アイコン  をクリックします。
2. フリーズ／フリーズ解除する画層名：  
フリーズ／フリーズ解除する画層名を入力して下さい。  
\*入力した画層がフリーズ状態の場合、フリーズを解除します。  
\*入力した画層が存在しない場合、” その様な画層は存在しません！”  
とメッセージが表示されます。  
\*現在画層はフリーズできません。

## LAYERALL [全画層操作]

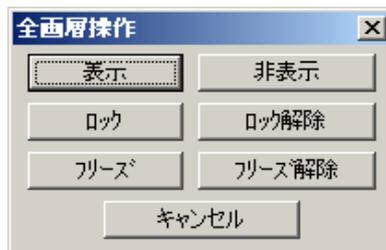


全ての画層に対する表示・非表示などの操作を行う。

コマンドプロンプト	LAYERALL
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	画層設定 → #全画層操作

◆全画層操作コマンドは、全ての画層に対する表示・非表示・ロック・ロック解除  
フリーズ・フリーズ解除などを行う際に使用します。

1. [#全画層操作]アイコン  をクリックします。
2. 下図のダイアログボックスが表示されます。  
\*実行する項目のボタンをクリックして下さい。



画層対照表（外部ファイル）をもとに現在の画層名を指定画層名に変更する。

コマンドプロンプト	LAY2
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	画層設定 → #画層変換

◆画層変換コマンドは、複数の画層の名称、線種、色を変更したい場合に使用します。  
 例えば、他のシステムで作成された図面を該当するシステムの画層に再調整する場合に有効です。

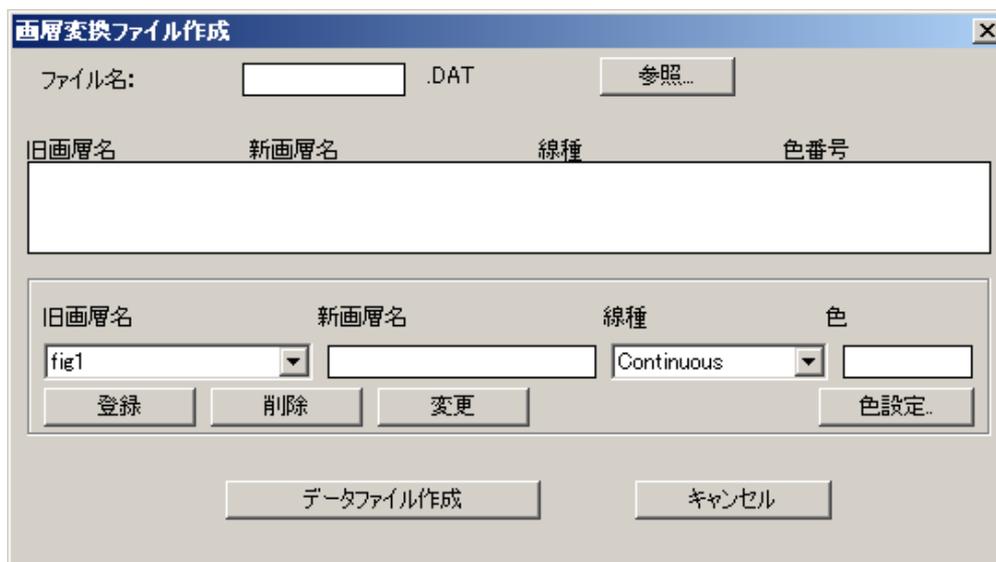
\*このコマンドを使用するには、まずデータファイルを作成する必要があります。  
 データファイルを作成する場合、1. から順に実行して下さい。  
 既にデータファイルを作成し、画層設定のみ実行する場合2-2-6頁の《既存データファイルを読み込み画層を設定する場合》を参照して下さい。

《データファイルの作成》

1. [#画層変換]アイコン をクリックします。  
 下図のダイアログボックスが表示されます。



2. "新規ファイル作成" ボタンをクリックして下さい。  
 下図のダイアログボックスが表示されます。



## LAY2 [画層変換(2/7)]

画層対照表（外部ファイル）をもとに現在の画層名を指定画層名に変更する。

コマンドプロンプト	LAY2
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	画層設定 → #画層変換

★例として、ファイル名” LAYER.DAT” とし、下記の2つの変更内容をデータファイルに登録する場合を説明します。

旧画層名--fig1 新画層名--fig-a 線種--CENTER 色--1 (赤)

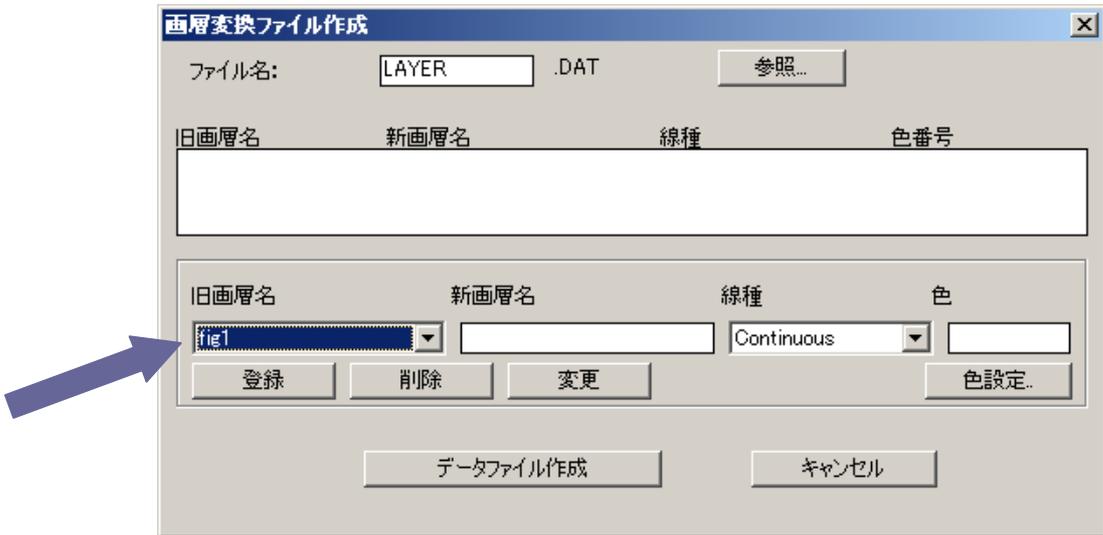
旧画層名--mark2 新画層名--fig-b 線種--Continuous 色--2 (黄)

3. 登録するデータファイルの名称を”ファイル名”の欄に入力して下さい。

\*入力できる文字は、半角英数字で8文字までです。



4. 旧画層名を一覧より選択します。



## LAY2 [画層変換(3/7)]

画層対照表（外部ファイル）をもとに現在の画層名を指定画層名に変更する。

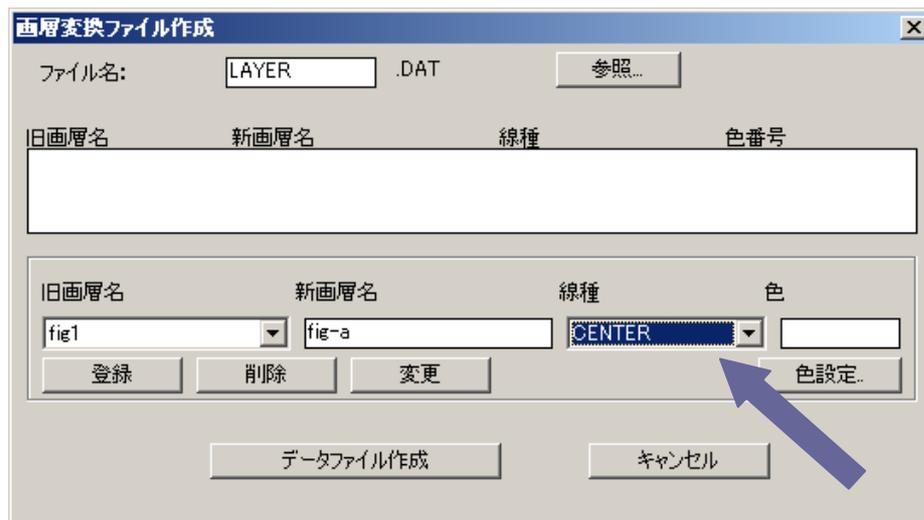
コマンドプロンプト	LAY2
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	画層設定 → #画層変換

5. 変更後の画層名を”新画層名”の欄に入力します。



6. 線種を一覧より選択します。

\*初期値が”Continuous”になっていますので、Continuousを使用する場合  
選択する必要はありません。

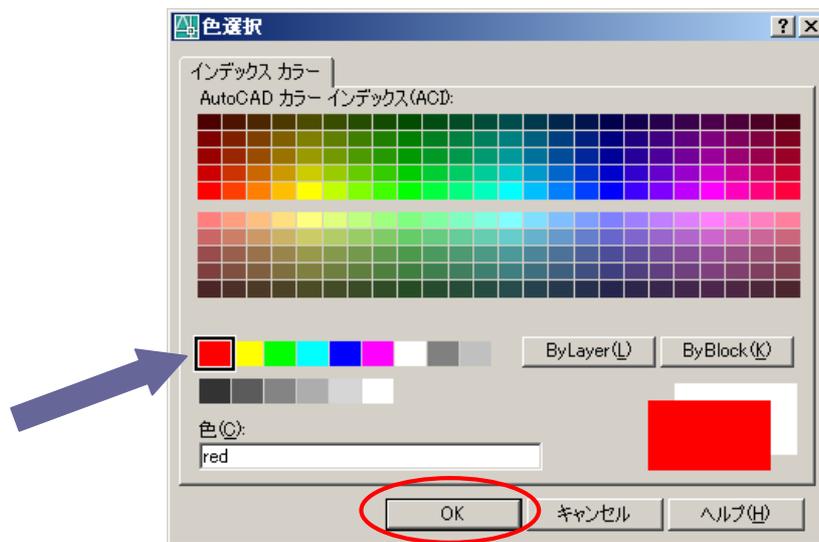


## LAY2 [画層変換(4/7)]

画層対照表（外部ファイル）をもとに現在の画層名を指定画層名に変更する。

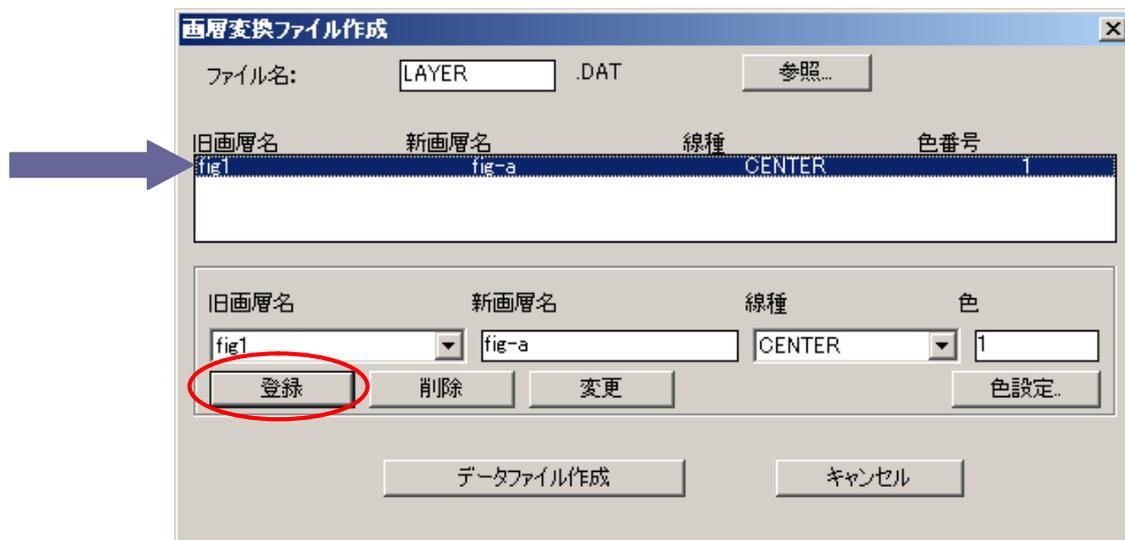
コマンドプロンプト	LAY2
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	画層設定 → #画層変換

7. 色の欄に、使用する色番号を入力して下さい。（色番号が不明な場合”色設定...”ボタンをクリックし色一覧より使用する色を選択して下さい。）  
例の場合、赤を使用しますので、矢印の部分をクリックします。



選択したら”OK”ボタンをクリックします。

8. ”登録”ボタンをクリックして下さい。  
\*一覧ボックスの中に、入力した値が表示されます。

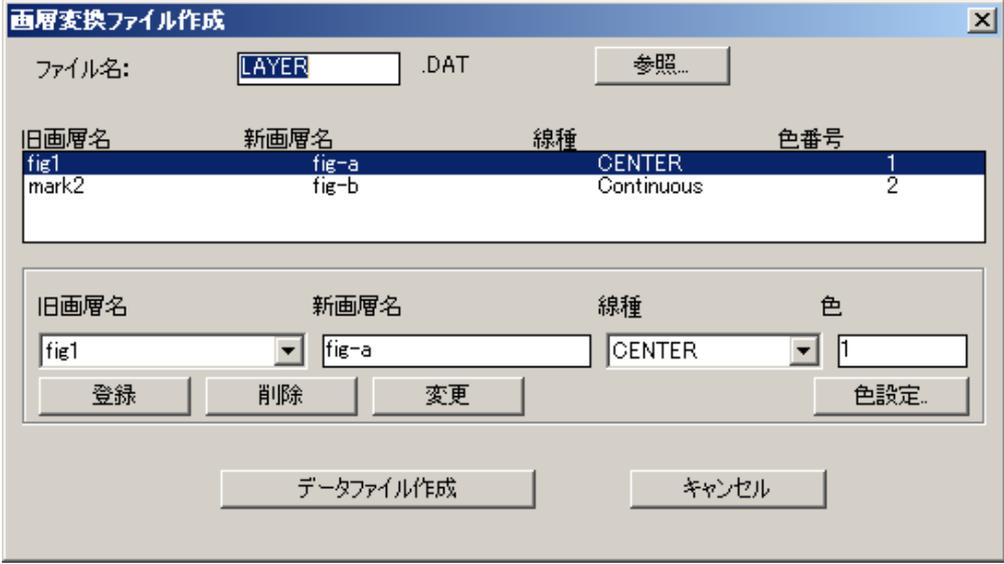


## LAY2 [画層変換(5/7)]

画層対照表（外部ファイル）をもとに現在の画層名を指定画層名に変更する。

コマンドプロンプト	LAY2
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	画層設定 → #画層変換

9. 4～8の操作を繰り返し、内容を変更する全ての画層データを入力して下さい。  
\*例の場合、全ての画層データを入力すると下図の様になります。



旧画層名	新画層名	線種	色番号
fig1	fig-a	CENTER	1
mark2	fig-b	Continuous	2

旧画層名	新画層名	線種	色
fig1	fig-a	CENTER	1

10. ”データファイル作成” ボタンをクリックして下さい。  
\* ¥UMSAPP¥ECAD2KS¥DATAに、登録した内容でデータファイルが作成されます。

## LAY2 [画層変換(6/7)]

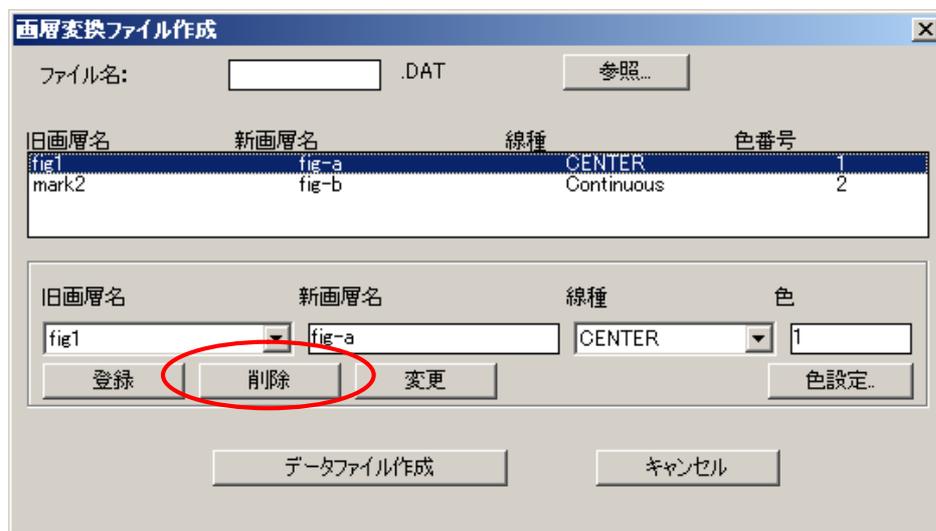
画層対照表（外部ファイル）をもとに現在の画層名を指定画層名に変更する。

コマンドプロンプト	LAY2
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	画層設定 → #画層変換

《不要なデータを削除する場合》

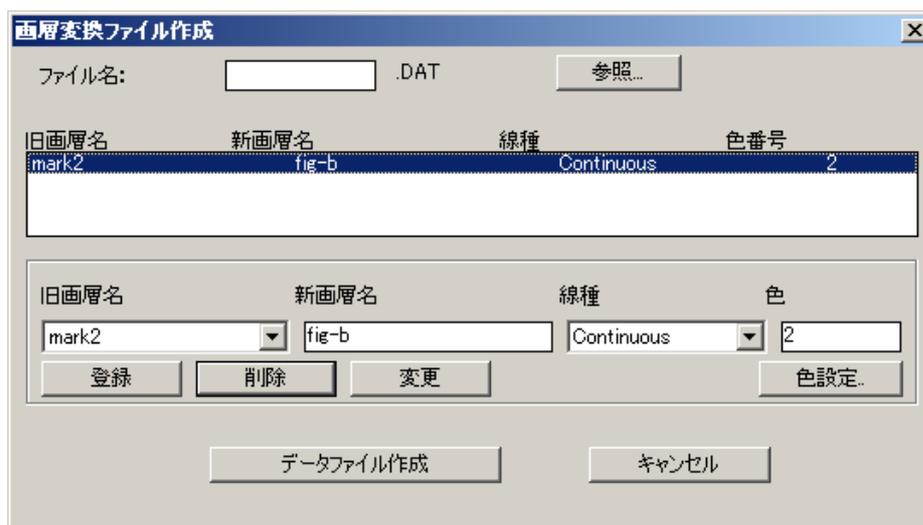
\* 旧画層fig1の画層を削除する場合を例として説明します。

1. 一覧ボックスの中より、削除するデータを選択します。



3. "削除" ボタンをクリックして下さい。

\* 一覧ボックスの内容から選択された項目が削除されます。



## LAY2 [画層変換(7/7)]

画層対照表（外部ファイル）をもとに現在の画層名を指定画層名に変更する。

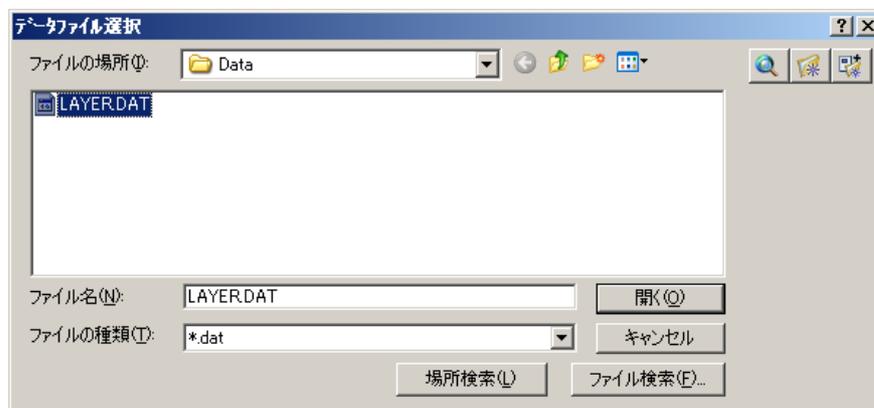
コマンドプロンプト	LAY2
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	画層設定 → #画層変換

《既存のファイルを読み込み画層を変換する場合》

1. [Layer]ツールバーの[#画層変換]アイコン  をクリックします。  
下図のダイアログボックスが表示されます。



2. ファイル名の欄にデータファイル名を入力して下さい。  
\*ファイル名が不明な場合は、”参照”ボタンをクリックするとデータファイル選択ダイアログボックスが表示されます。表示されたファイル名より選択し、”開く(O)”ボタンをクリックして下さい。  
\*データファイル選択ダイアログボックスは、ファイルの場所は既定値で ¥UMSAPP¥ECAD2KS¥DATA となっています。



- \*ファイル名を参照した場合、ファイル名の欄に選択したファイル名が表示されている事を確認して下さい。
3. ”画層設定実行”ボタンをクリックして下さい。



\*画層の設定が終了しますと、！！画層変換終了！！のメッセージが表示されます。

## LAY FIG [図形切替]

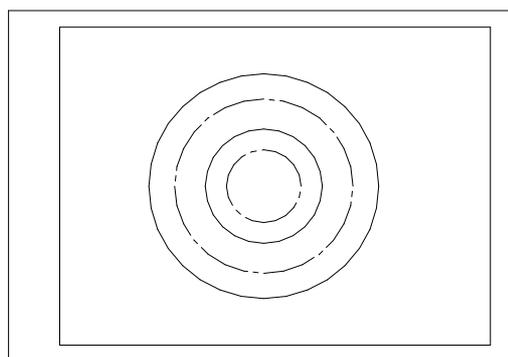


指示した図形の画層に現在層をきりかえる。

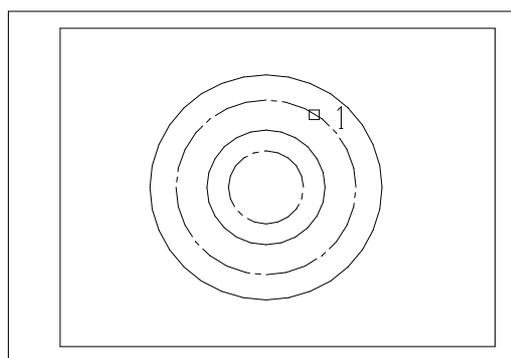
コマンドプロンプト	LAY_FIG
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	画層設定 → #図形切替

- ◆図形切替コマンドは、ある図形が持っている画層を現在層にしたいが画層名が不明であるという場合に使用します。  
現在層にしたい画層を持つ図形を指示しただけで、その図形が持っている画層を現在層にできます。

1. [#図形切替]アイコン  をクリックします。  
\* 下図の様に、中心線の画層と実線の画層で描かれた図形の中心線の画層を現在層にする場合を例に説明します。



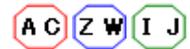
2. 図形指示：1 を指示



3. 指示された図形の画層名が、コマンドプロンプトに表示され  
現在層は、”CLINE” に変更されます。

図形の画層名：CLINE

# LAY SW3 [図形OFF(連続)(1/2)]

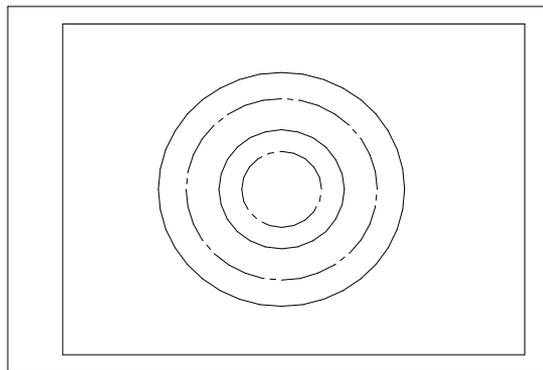


指示した図形の画層を非表示にする。

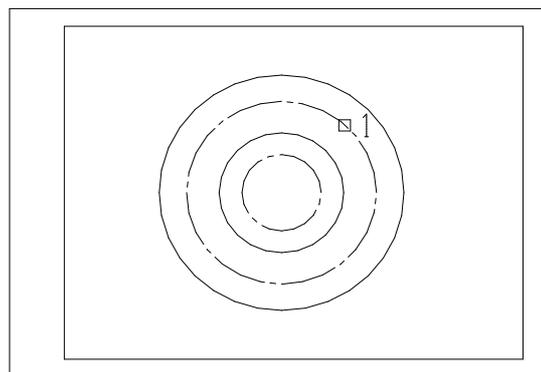
コマンドプロンプト	LAY-SW3
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	画層設定 → #図形OFF(連続)

- ◆図形OFFコマンドは、ある図形の持っている画層を一時保管したいが画層名が不明であるという場合に使用します。  
非表示にしたい図形を指示しただけで、その図形が持っている画層を非表示にできます。

1. [#図形OFF(連続)]アイコン  をクリックします。  
\* 下図の様に、中心線の画層と実線の画層で描かれた図形の中心線の画層だけを非表示にする場合を例に説明します。



2. 図形指示 (リターン=終了) : 1 を指示



## LAY SW3 [図形OFF(2/2)]

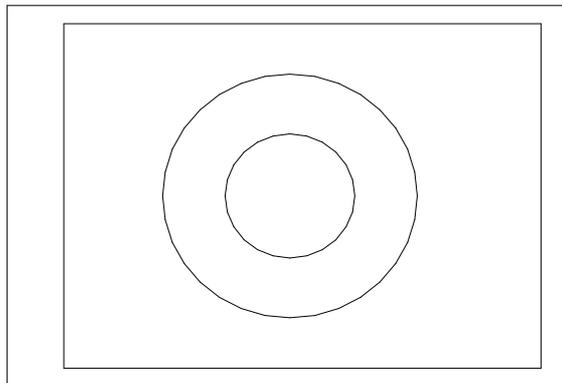
指示した図形の画層を非表示にする。

コマンドプロンプト	LAY-SW3
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イージCAD II →形式]	画層設定 → #図形OFF(連続)

3. 図形を指示 (リターン=終了) : 

\* 異なった画層を持つ複数の図形を非表示にしたい場合、続けて図形を指示し、全て指示し終わったらリターンキーを押して下さい。

\* 例の場合、リターンキーを押すと中心線の画層が非表示になり下図の様になります。

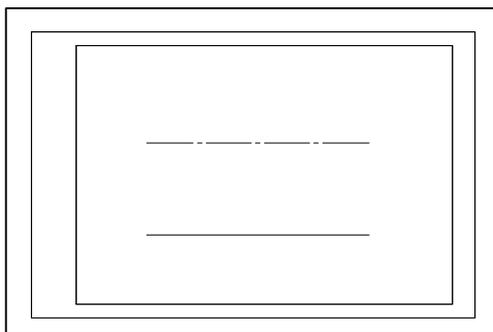


図形の画層を参照図形の画層に変更する。

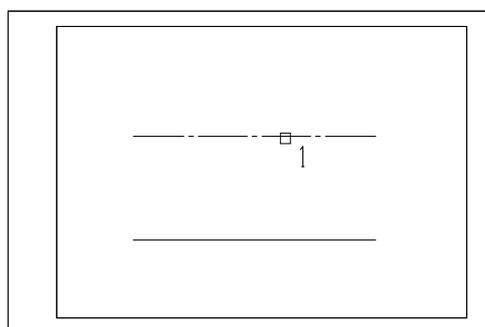
コマンドプロンプト	CLAY
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	#画層変更

◆画層変更コマンドは、他の図形を参照し、画層を変更したい場合に使用します。

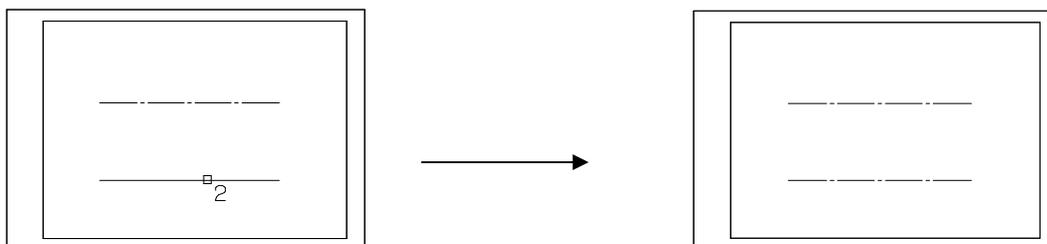
1. [#画層変更]アイコン をクリックします。



2. 参照図形指示：1 を指示  
\* 参照する側の図形を指示します。



3. オブジェクトを選択：2 を指示  
\* 画層を変更したい図形を全て指示します。  
\* 色、線種は自動的に”BYLAYER”になります。

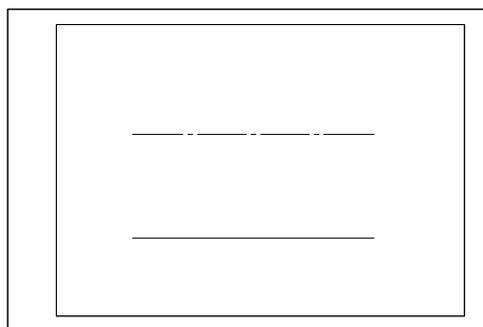


図形の線種を参照図形の線種に変更する。

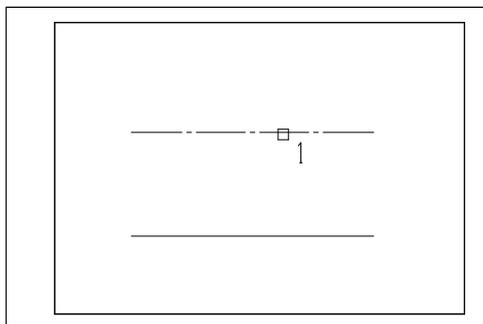
コマンドプロンプト	CLT
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	#線種変更

◆線種変更コマンドは、他の図形を参照し、線種を変更したい場合に使用します。  
また、オプションにより参照した図形に画層、色を合わせることも可能です。

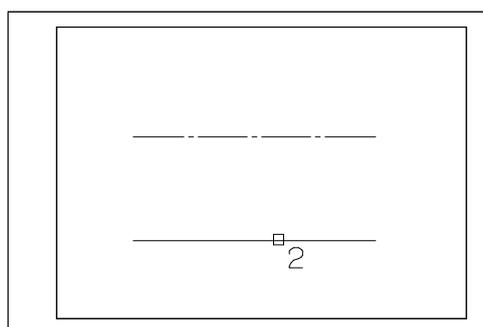
1. [#線種変更]アイコン をクリックします。



2. 参照図形指示：1を指示  
\*参照する側の図形を指示します。



3. オブジェクトを選択：2を指示  
\*線種を変更したい図形を全て指示します。



## CLT [線種変更(2/2)]

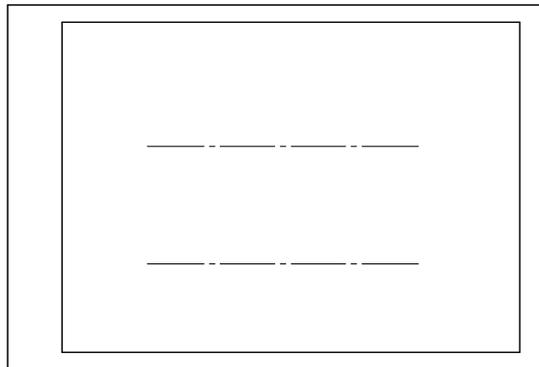
図形の線種を参照図形の線種に変更する。

コマンドプロンプト	CLT
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	#線種変更

4. 画層、色も変更しますか(Y/N)〈N〉:

\*線種のみ変更したい場合-----Nを入力して下さい。

\*画層、線種、色全て変更する場合---Yを入力して下さい。

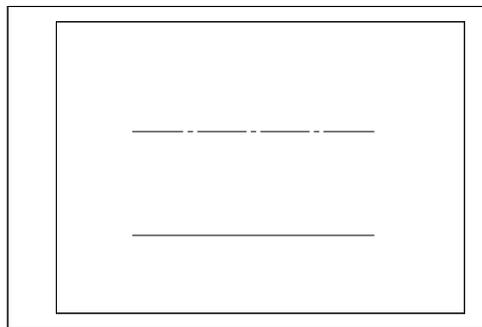


## 図形の色を参照図形の色に変更する。

コマンドプロンプト	CCOL
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イメージCAD II →形式]	#色変更

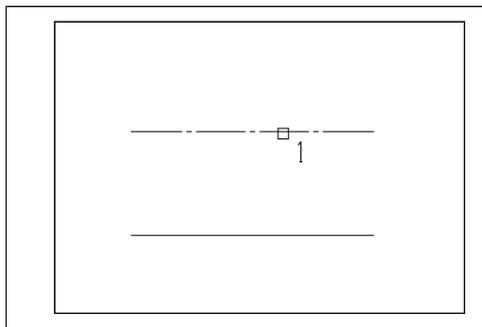
- ◆色変更コマンドは、他の図形を参照し、色を変更したい場合に使用します。  
また、オプションにより参照した図形に画層、線種を合わせることも可能です。  
※画層ロックされている図形は、色変更できません。ご注意ください。

1. [#色変更]アイコン をクリックします。

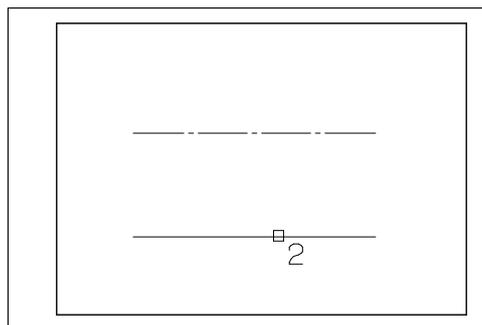


\*色の代わりに線種を変えて説明します。

2. 参照図形指示：1を指示  
\*参照する側の図形を指示します。



3. オブジェクトを選択：2を指示  
\*色を変更したい図形を全て指示します。



## CCOL [色変更(2/2)]

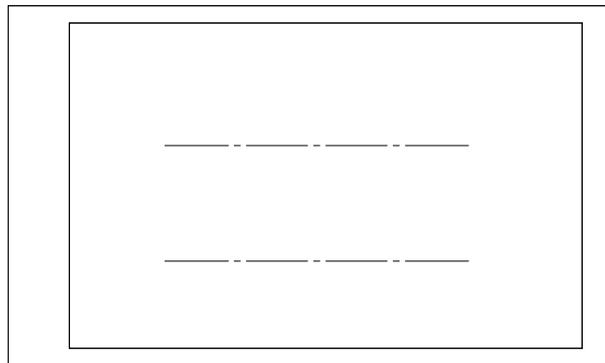
図形の色を参照図形の色に変更する。

コマンドプロンプト	CCOL
ツールバー [組込: 画層操作/ 部分:画層操作]	
プルダウン [組込: 形式/ 部分:イージCAD II→形式]	#色変更

4. 画層、線種も変更しますか(Y/N)〈N〉:

\*色のみ変更したい場合-----Nを入力して下さい。

\*画層、線種、色全て変更する場合---Yを入力して下さい。

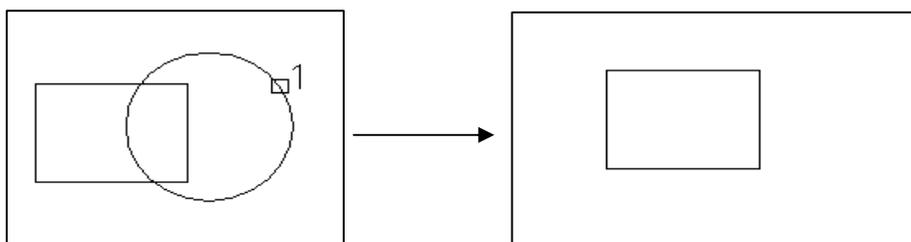


指示した図形を非表示にする。

コマンドプロンプト	OBJH
ツールバー [画層操作]	
プルダウン [イーシCAD II →形式]	#図形非表示

◆図形非表示コマンドは図形を画面上で非表示にする場合に使用します。

1. [#図形非表示]アイコン をクリックします。
2. オブジェクトを選択: 1 を指示
  - \* 非表示にする図形を指示して下さい。
  - \* 全て指示し、リターンキーを押すと図形が非表示になります。



3. 図形が非表示モードになると、コマンドラインに下記のメッセージが表示されます。

### 再度表示させる場合は、###

### (REGIN)図面再作画コマンドを実行してください ###

\* 非表示にした図形を表示させる場合はREGEN(再作図)コマンドを実行して下さい。

# [Oスナップ増分]



Oスナップに X と Y の増分点を与える。

コマンドプロンプト	
ツールバー [Oスナップ増分]	
プルダウン [イメージCAD II → ツール]	#0スナップ 増分 → #端点 ~ #線上端点

◆Oスナップ 増分コマンドは、Oスナップ 点に X 増分、Y 増分を与えた点を取得したい場合に使用します。

Oスナップ と同様、点の入力待ちの状態の時に使用できます。

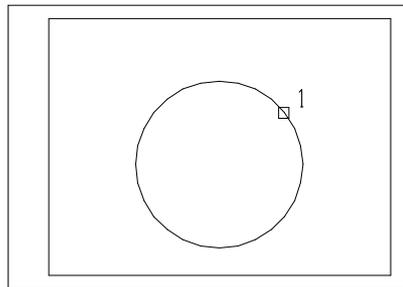
・線分を作成する際に、線分の始点を円の中心からの増分点とする場合を例に説明します。

1. 線分 (LINE) コマンドを実行します。

2. 1 点目を指定: [#中心増分] をクリックして下さい。

3. 円または円弧指示 : 1 を指示

\* 円の中心からの増分点を取得しますので、基準となる円を指示して下さい。



4. X 増分 : 20

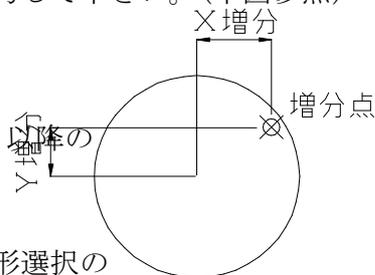
\* 中心から X 方向に増分する距離を入力して下さい。(下図参照)

5. Y 増分 : 15

\* 中心から Y 方向に増分する距離を入力して下さい。(下図参照)

6. 以上の操作で増分点を取得できます。

通常の線分コマンドに戻りますので 2 点目以降の点を指示して下さい。



\* AutoCAD のコマンドのあらゆる図形選択の

プロンプトに対して有効です。(編集機能などで窓指定が出来るもの)

\* イメージCAD のコマンドでは使用できません。

\* 定常 Oスナップ を設定している場合、定常 Oスナップ を優先しますので正確な点を取得できない場合がありますのでご注意下さい。

# AREA3 [面積(m<sup>2</sup>)(1/2)]



面積を平方メートルの単位で表示する。

コマンドプロンプト	AREA3
ツールバー [ECAD情報]	
プルダウン [イージCAD II → ツール]	#面積 (m <sup>2</sup> )

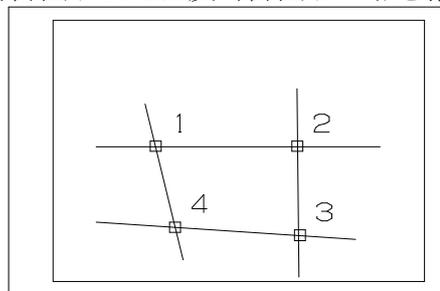
◆面積(m<sup>2</sup>)コマンドは、図形の面積をm<sup>2</sup>で表示したい場合に使用します。

\*面積表示には2つの方法があります。

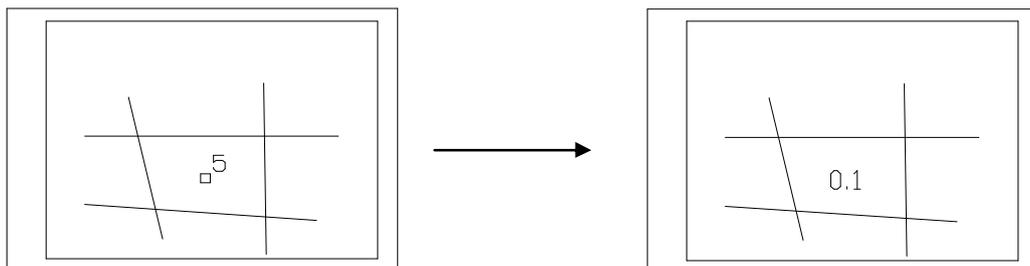
指示された点を結んでできた図形の面積を表示する方法と  
円やポリラインなどの閉じている図形を指示して面積を表示する方法です。  
使用したい方法の手順に従いコマンドを実行して下さい。

《任意の点を指示して面積を表示する場合》

1. [#面積(m<sup>2</sup>)]アイコン をクリックします。
2. 最初の点を指示 (リターン=図形) : 1 を指示
3. 次の点を指示 (リターン=終了) : 2、3、4 を指示  
\*時計回りまたは反時計回りに点を指示して下さい。



4. 次の点を指示 (リターン=終了) :   
\*点を全て指示しましたら、リターンキーを押して下さい。
5. 面積表示位置を指示 : 5 を指示  
\*面積を表示する位置を指示して下さい。(配置基点は文字の中央です。)



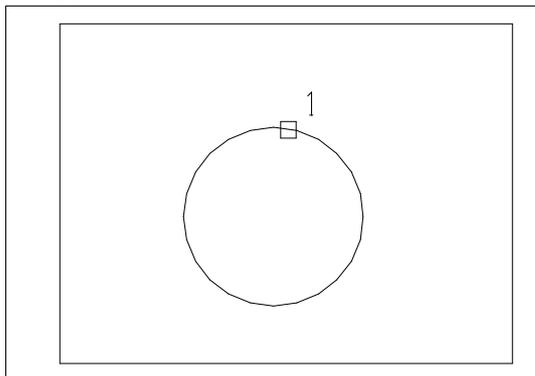
## AREA3 [面積(m<sup>2</sup>)(2/2)]

面積を平方メートルの単位で表示する。

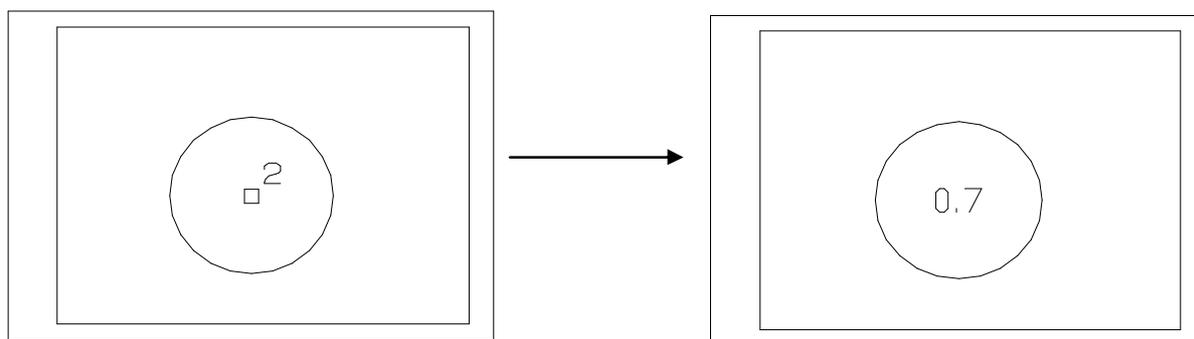
コマンドプロンプト	AREA3
ツールバー [ECAD情報]	
プルダウン [イージCAD II → ツール]	#面積 (m <sup>2</sup> )

《円やポリラインの図形を指示して面積を表示する場合》

1. [#面積(m<sup>2</sup>)]アイコン  をクリックします。
2. 最初の点を指示 (リターン=図形) :  
\* 図形を指示して面積を表示しますので、リターンキーを押して下さい。
3. 円またはポリラインを指示 : 1 を指示  
\* 面積を表示させる図形を指示して下さい。



4. 面積表示位置を指示 : 2 を指示  
\* 面積を表示する位置を指示して下さい。(配置基点は文字の中央です。)



\* 面積表示する小数点以下の桁数は、単位管理(units)コマンドの長さ精度で指定されている桁数となります。

\* 面積表示する文字高さは、文字スタイル管理の設定により下記のように判断し作図します。

①文字スタイルで文字高さ設定されている場合は、その文字高さを使用します。

②文字スタイルで文字高さ設定されていない場合は、寸法スタイル管理の文字高さを使用します。

## LIST1 [図形情報2]



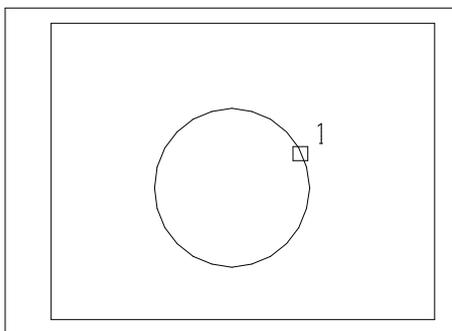
指示した図形の情報をコマンドプロンプト領域に表示する。

コマンドプロンプト	LIST1
ツールバー [ECAD情報]	
プルダウン [イメージCAD II → ツール]	#図形情報 2

◆図形情報 2 コマンドは、図形の画層名、要素名、線種を確認したい場合に使用します。

1. [#図形情報 2]アイコン をクリックします。

2. 図形を指示<リターン=終了> : 1 を指示



\*指示された図形の情報が、コマンドプロンプト領域に表示されます。

画層名 : FIG1 / 要素名 : CIRCLE / 線種 : COTINUOUS

\*複数の図形の情報を確認する場合、続けて図形指示を行って下さい。

3. 図形指示<リターン=終了> :

\*コマンドを終了する場合リターンキーを押して下さい。

## INF1[図面情報]



現在表示されている図面名と図面設定内容を表示する。

コマンドプロンプト	INF1
ツールバー [ECAD情報]	
プルダウン [イージCAD II→ツール]	#図面情報

◆図面情報コマンドは、現在作図している図面のサイズやスケールなどを確認する際に使用します。

1. [#図面情報]アイコン をクリックします。

\*コマンドプロンプト領域に下記の形式で、情報が表示されます。

図面名：\*\* / 図面サイズ：\*\* / 図面スケール：\*\*  
文字高：\*\* / 寸法文字高：\*\* / 色：\*\* / 線種：\*\*

\*上記の”\*”の部分に設定値が表示されます。

## IXIYZ[断面性能計算(1/3)]



閉じた図形の指定軸まわりの断面二次モーメント、断面係数を計算する。

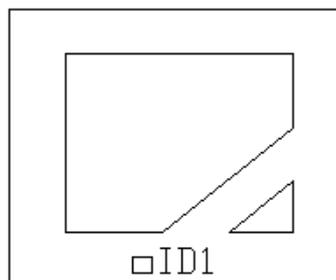
コマンドプロンプト	IXIYZ
ツールバー [EGAD情報]	
プルダウン [イメージCAD II→ツール]	#断面性能計算

◆断面性能計算コマンドは、閉じた境界として選択できる図形の指定軸まわりの断面二次モーメント値、断面係数値を計算する場合に使用します。

1. [#断面性能計算]アイコン をクリックします。

2. 領域内点を指示: ID1

\* 断面性能計算を行う閉じた図形領域内点を指示して下さい。



3. よろしいですか? (Y/N) (リターン=Y):

\* 選択された図形がハイライト表示されます。

4. 断面二次モーメント指定(1=X軸まわり 2=Y軸まわり) <1>:

\* 計算する軸まわりを入力して下さい。

5. [図形高さmm=\*\*] 分割数入力<リターン=\*\*>:

\* 図形高さ、分割数既定値が表示されます。

分割数を変更する場合は、分割数を入力して下さい。

\* 計算処理中は、下記のダイアログ画面が表示されます。

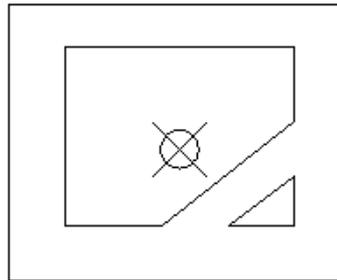
**断面二次モーメント計算中 !!! <\*\*\*/分割数>**

\* 分割数が小さくなるほど計算処理時間はかかりますが、計算値の精度は上がります。

## IXIYZ[断面性能計算(2/3)]

閉じた図形の指定軸まわりの断面二次モーメント、断面係数を計算する。

コマンドプロンプト	IXIYZ
ツールバー [EGAD情報]	
プルダウン [イメージCAD II→ツール]	#断面性能計算



\*図形の図心位置に現在層で点を作成します。

作成された点は、現在の設定値（点サイズ<PDSIZE>、点モード<PDMODE>）を使用しています。

\*コマンドプロンプト領域に下記の形式で計算結果を表示します。

[断面積(cm2)=\*\*\*\*\* 図心 x 座標=\*\*\*\*\* 図心 y 座標=\*\*\*\*\*]

[X 軸まわり断面二次モーメント(cm4)=\*\*\*\*\* 断面係数(cm3)=\*\*\*\*\* ]

\*図心座標値は、UCS(ユーザー座標系)値で表示されます。

\*断面二次モーメントの計算値は、分割法によるものです。

\*表示される小数点以下の桁数は、AutoCAD [単位管理(UNITS)] コマンドの設定値によるものです。

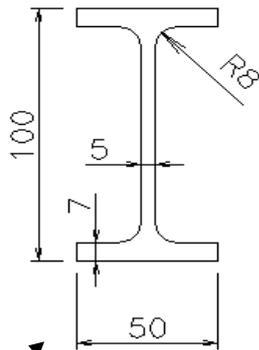
## IXIYZ[断面性能計算(3/3)]

閉じた図形の指定軸まわりの断面二次モーメント、断面係数を計算する。

コマンドプロンプト	IXIYZ
ツールバー [EGAD情報]	
プルダウン [イメージCAD II→ツール]	#断面性能計算

\* I 形鋼/H 形鋼を例とした断面性能計算結果は下記のとおりです。

\* 図形形状により誤差の大小は違ってきます。



< H 形鋼 参考値 >	
断面積 (cm <sup>2</sup> )	=11.85
X 軸まわり断面二次モーメント (cm <sup>4</sup> )	=187
X 軸まわり断面係数 (cm <sup>3</sup> )	=37.5
Y 軸まわり断面二次モーメント (cm <sup>4</sup> )	=14.8
Y 軸まわり断面係数 (cm <sup>3</sup> )	=5.91

H 形鋼 断面積 (cm<sup>2</sup>)=11.84938

< 分割数 = 1000 (0.1mm<sup>t</sup> ッチ) の場合 >

X 軸まわり断面二次モーメント (cm<sup>4</sup>)=187.26672

X 軸まわり断面係数 (cm<sup>3</sup>)=37.45334

Y 軸まわり断面二次モーメント (cm<sup>4</sup>)=14.82575

Y 軸まわり断面係数 (cm<sup>3</sup>)=5.9303

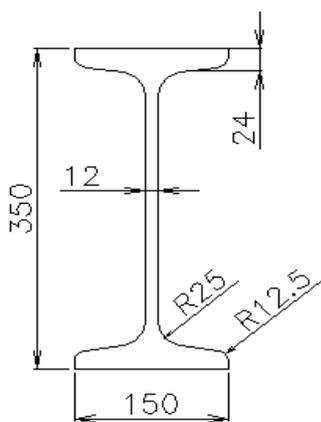
< 分割数 = 5000 (0.02mm<sup>t</sup> ッチ) の場合 >

X 軸まわり断面二次モーメント (cm<sup>4</sup>)=187.44295

X 軸まわり断面係数 (cm<sup>3</sup>)=37.48859

Y 軸まわり断面二次モーメント (cm<sup>4</sup>)=14.79461

Y 軸まわり断面係数 (cm<sup>3</sup>)=5.91785



< I 形鋼 参考値 >	
断面積 (cm <sup>2</sup> )	=111.1
X 軸まわり断面二次モーメント (cm <sup>4</sup> )	=22400
X 軸まわり断面係数 (cm <sup>3</sup> )	=1280
Y 軸まわり断面二次モーメント (cm <sup>4</sup> )	=1180
Y 軸まわり断面係数 (cm <sup>3</sup> )	=158

I 形鋼 断面積 (cm<sup>2</sup>)=111.12191

< 分割数 = 3500 (0.1mm<sup>t</sup> ッチ) の場合 >

X 軸まわり断面二次モーメント (cm<sup>4</sup>)=22422.50933

X 軸まわり断面係数 (cm<sup>3</sup>)=1281.28625

Y 軸まわり断面二次モーメント (cm<sup>4</sup>)=1183.97162

Y 軸まわり断面係数 (cm<sup>3</sup>)=157.86288

# REVDATE1[日付記入]



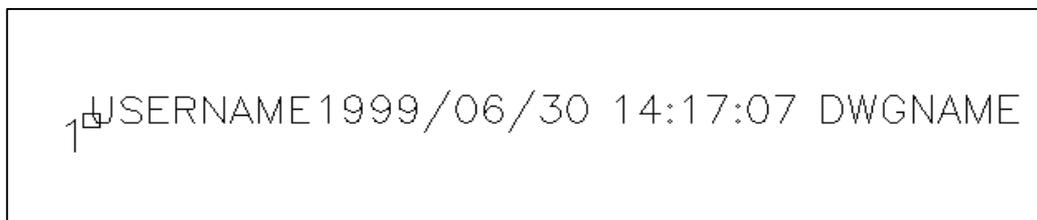
図面更新情報を含むブロックを挿入または更新する。

コマンドプロンプト	REVDATE1
ツールバー [ECAD情報]	
プルダウン [イージCAD II→ツール]	#日付記入

◆日付記入コマンドは、現在作図している図面に編集した日付等を記入または更新する場合に使用します。

<<図面に日付記入を行う場合>>

1. [#日付記入]アイコン  をクリックします。
2. 更新日付記入基点を指示 : 1 を指示  
\* 日付記入文字の左下となる点を指示して下さい。
3. 文字高さ<2.5> :   
\* 作図する文字高さを入力するか、リターンキーを押して下さい。



\* 0 画層でコマンド実行した場合は、日付更新時に画層が現在層に変化します。

<<既に日付記入が行われている図面の日付を更新する場合>>

1. [#日付記入]アイコン  をクリックします。
  - \* コマンドラインに下記のメッセージが表示され日付が自動的に更新されます。
    - ” 日付文字列を修正するためにブロック “REVDATE1” 削除中.”
    - ” 1 ブロック が名前削除されました.”

\* ” ユーザー名、日付、時間、図面名 ” の順序で日付記入が行われます。

\* 日付記入文字はブロック化されています。

(ブロック名=REVDATE1)

\* 日付記入内容を変更する場合は、属性編集(ATTEDIT)コマンドを使用して下さい。

# HLINE [水平線]

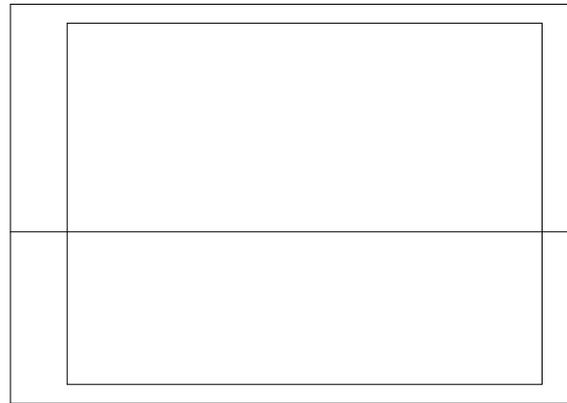
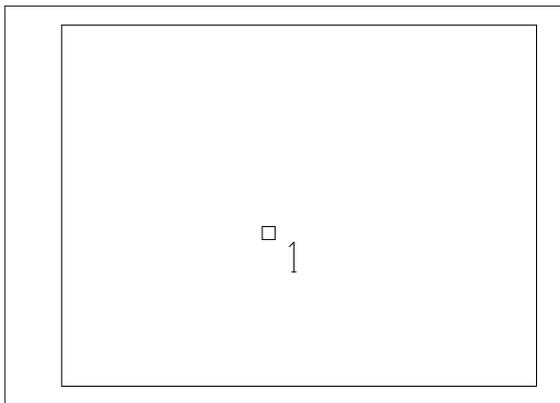


図面範囲内に指示点を通過する水平線を作成する。

コマンドプロンプト	HLINE
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD II →作成]	#水平線

◆水平線コマンドは、図面描き始めの基準線などに使用します。  
線分は、現在層で図面範囲内に作成されます。

1. [#水平線]アイコン  をクリックします。
2. 水平線を作成する位置を指示<リターン=終了> : 1 を指示  
\* 水平線の通過点となる点を指示して下さい。



3. 水平線を作成する位置を指示<リターン=終了> :  
\* 終了する場合リターンキー、続けて線分を作成する場合  
2. の操作を繰り返して下さい。

## VLINE [垂直線]

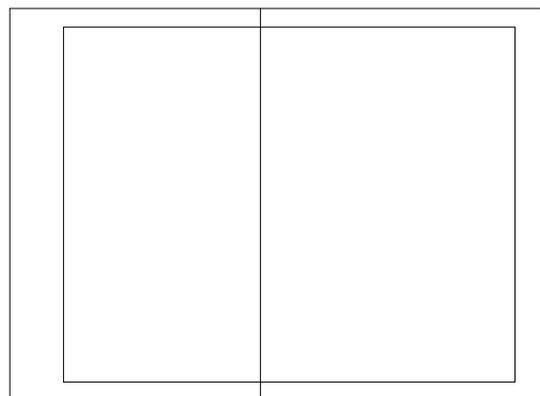
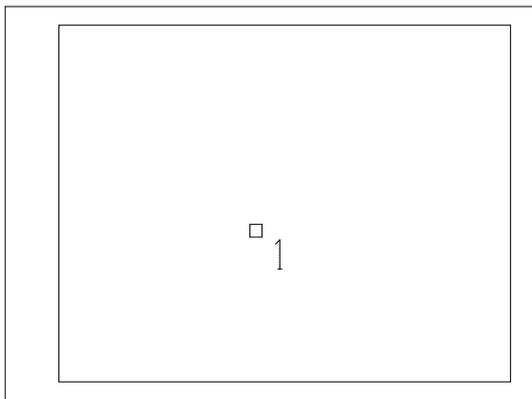


図面範囲内に指示点を通過する垂直線を作成する。

コマンドプロンプト	VLINE
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD II →作成]	#垂直線

◆垂直線コマンドは、図面描き始めの基準線などに使用します。  
線分は、現在層で図面範囲内に作成されます。

1. [#垂直線]アイコン  をクリックします。
2. 垂直線を作成する位置を指示<リターン=終了> : 1を指示  
\*垂直線の通過点となる点を指示して下さい。



3. 垂直線を作成する位置を指示<リターン=終了> :  
\*終了する場合リターンキー、続けて線分を作成する場合  
2. の操作を繰り返して下さい。

指定した点を通る任意角度の線を図形範囲に作成する。

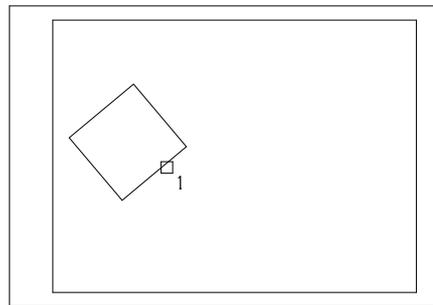
コマンドプロンプト	FLINE
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イージCAD II →作成]	#角度線

◆角度線コマンドは、図面描き始めの基準線などに使用します。  
線分は、現在層で図面範囲内に作成されます。

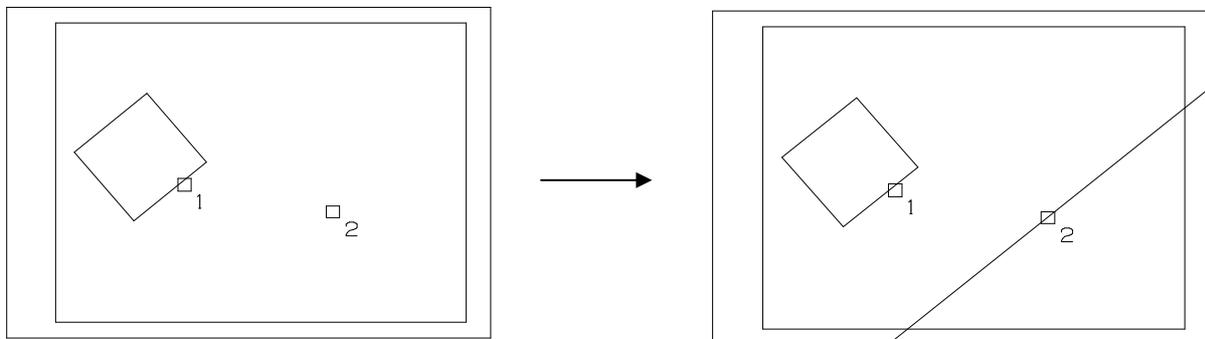
1. [#角度線]アイコン をクリックします。
2. 角度<リターン=図形角度参照> : 30  
(角度が分かっている場合、数値を入力します。  
角度が不明で、ある図形に合わせたい場合リターンキーを押します。)

\*角度を入力した場合 → 4へ、リターンキーを押した場合 → 3へ

3. 角度を得る図形を指示<リターン=終了> : 1を指示  
\*線分、ポリライン、文字列のいずれかを指示して下さい。



4. 作成する位置を指示 : 2を指示



5. 角度を得る図形を指示<リターン=終了> :  
\*終了する場合リターンキー、続けて線分を作成する場合  
4. の操作を繰り返して下さい。

## CLINE [中心線(1/2)]

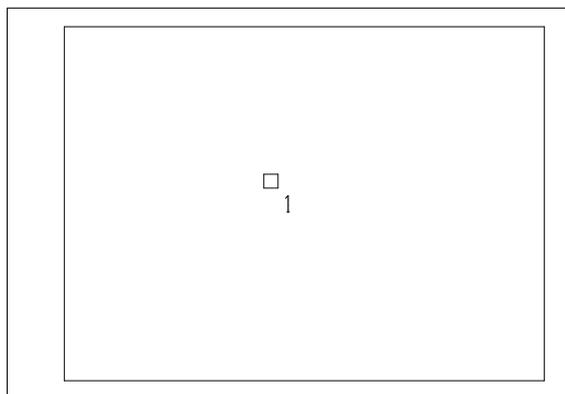


任意な中心線を作成する。

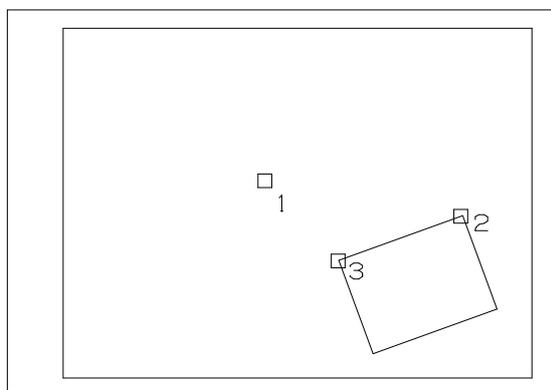
コマンドプロンプト	CLINE
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD II →作成]	#中心線

- ◆中心線コマンドは、図形を描き始めの基準線などに使用します。  
線分は、現在層に作図されますが、線種は”CENTER”になります。

1. [#中心線]アイコン  をクリックします。
2. センターラインを作成する位置を指示：1を指示（十字の交点を配置する位置を指示します。）



3. 横の長さ：700  
(数値を入力または2点を指示し、長さを取得する事も出来ます。)  
\* 矩形の長さを取得する場合— 2、3の2点を指示



## CLINE [中心線(2/2)]

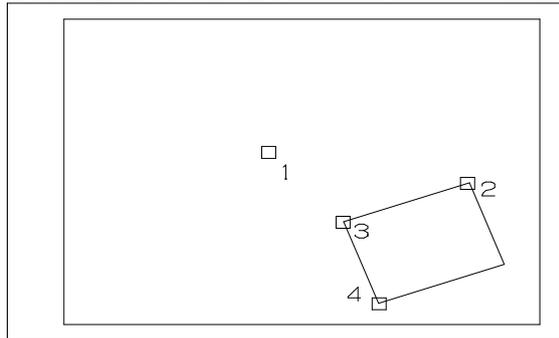
任意な中心線を作成する。

コマンドプロンプト	CLINE
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イージCAD II]	#中心線

4. 縦の長さ : 500

(数値を入力または2点を指示し、長さを取得する事も出来ます。)

\* 矩形の長さを取得する場合 -- 3、4の2点を指示

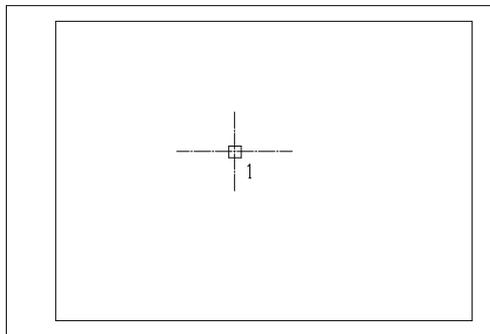


5. 角度参照する図形を指示<リターン=軸に平行> :

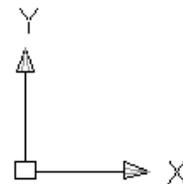
\* 図形の角度を参照する場合 -- 図形を指示

座標軸に平行にする場合 -- リターンキー

<軸に平行の場合>

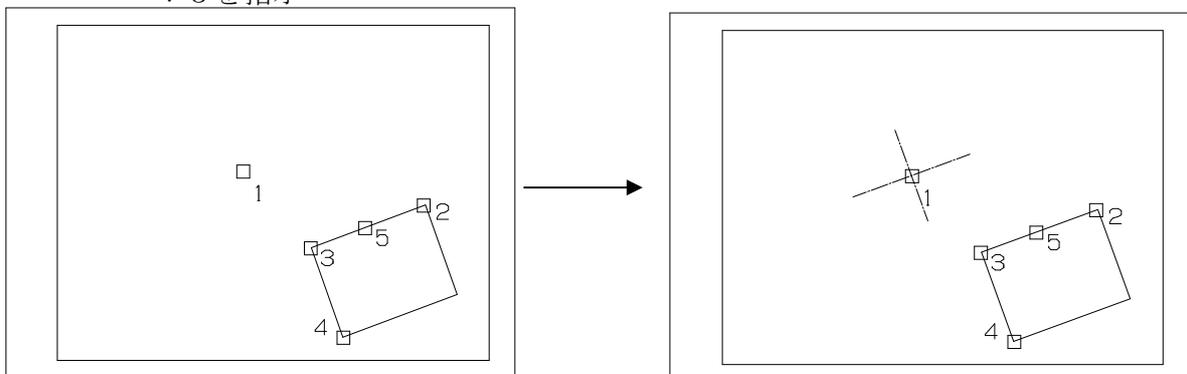


\* 軸の向きが下図の様な状態の場合



<図形の角度を参照した場合>

\* 5 を指示



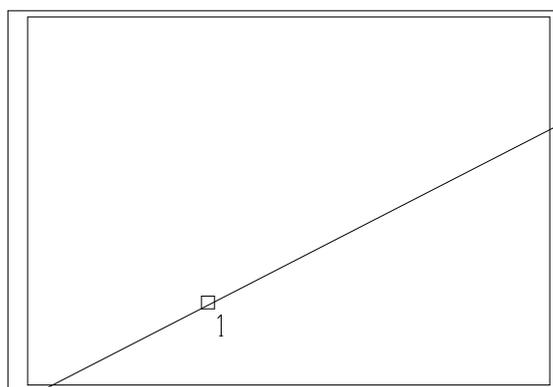
\* 参照した角度は、横中心線に適用されます。

線分に直交する直線を作成する。

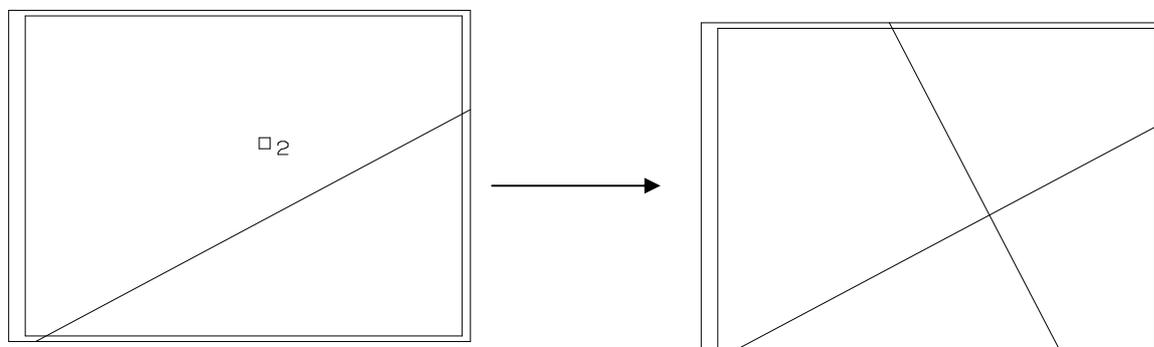
コマンドプロンプト	PELINE
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD II →作成]	#直交線

◆直交線コマンドは、線分またはポリライン(直線部分) に対して直交した線分を作成する際に使用します。  
直交線は図面範囲内に作成されます。

1. [#直交線]アイコン をクリックします。
  2. 図形を指示<リターン=終了> : 1 を指示  
(直交線を作成する線分の一部を指示します。)
- \*この時指示できる図形は、線分、ポリラインのみです。



3. 配置点を指示 : 2を指示 (直交線の通過点を指示します。)



4. 図形を指示<リターン=終了> :  
\*終了する場合リターンキー、続けて線分を作成する場合  
2 3、の操作を繰り返して下さい。

# SLOPE [勾配線]

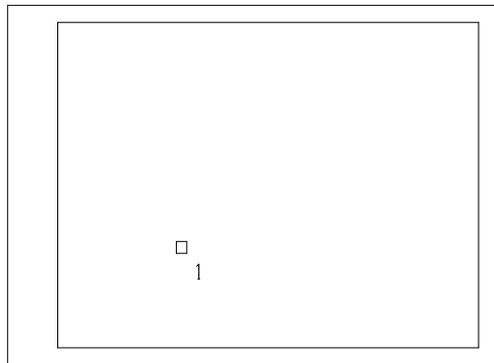


指定した点を始点とした任意勾配の線を図面範囲内で作成する。

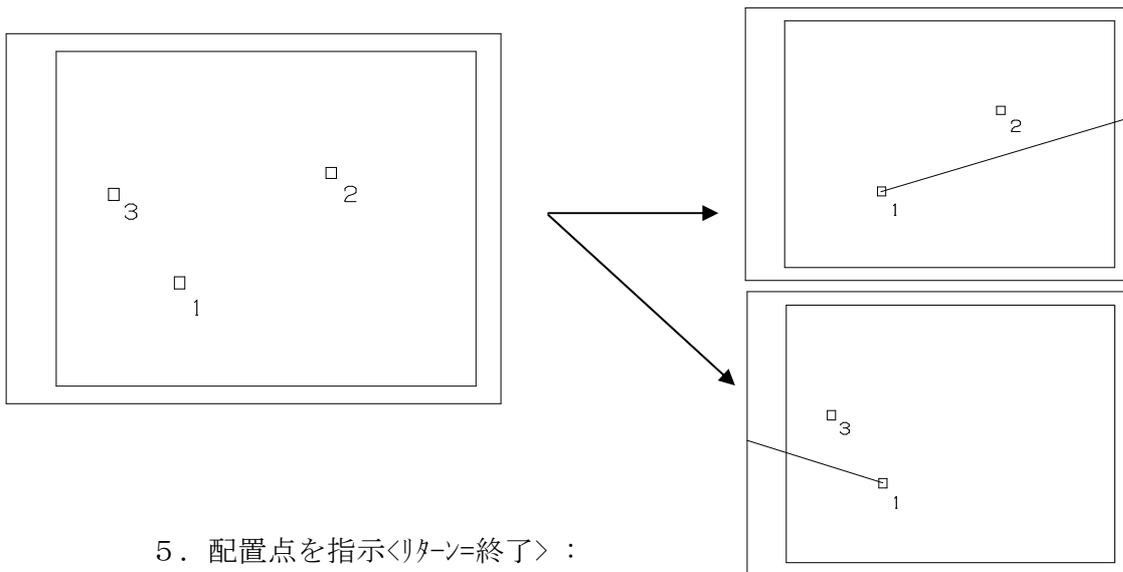
コマンドプロンプト	SLOPE
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD II →作成]	#勾配線

◆勾配線コマンドは、指示点から任意勾配の線分を作成する際に  
使用します。  
線分は、現在層で図面範囲内に作成されます。

1. [#勾配線]アイコン をクリックします。
2. 勾配を入力(%) : 30 (勾配率をパーセントで入力します。)
3. 配置点を指示<リターン=終了> : 1 を指示 (線分の端点となります。)



4. 方向を指示 : 2 を指示(1 から左右どちらの方向に配置するか指示します。)  
\* 右方向の場合 — 2 を指示、 左方向の場合 — 3 を指示



5. 配置点を指示<リターン=終了> :  
\* 終了する場合リターンキー、続けて線分を作成する場合  
3. 4. の操作を繰り返して下さい。

## SLINE [断面補助線(1/2)]



断面に直行する補助線を作成する。

コマンドプロンプト	SLINE
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD II →作成]	#断面補助線

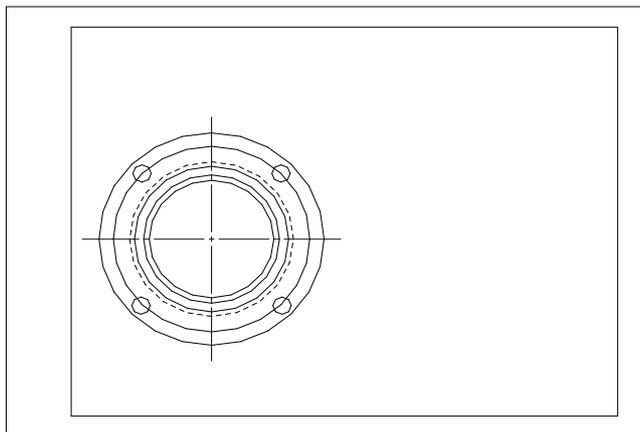
◆断面補助線コマンドは、正面図などの上下左右に断面図を作成する場合補助線として使用します。

線分は、現在層で図面範囲内に作成されます。

正面図の右側に断面図を作成する場合を例に説明します。

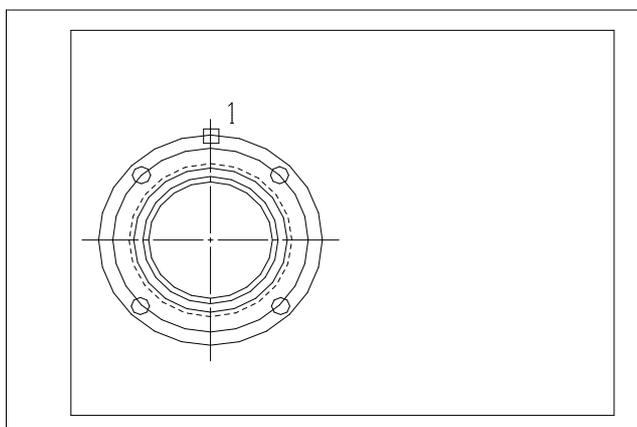
1. [#断面補助線]アイコン  をクリックします。

\* 下図のような図形の右側に断面図を描く場合を例に説明します。



2. 始点指示：1を指示（例の場合 0スナップの交点を使用し、指示します。）

\* 断面の始点を指示します。



## SLINE [断面補助線(2/2)]

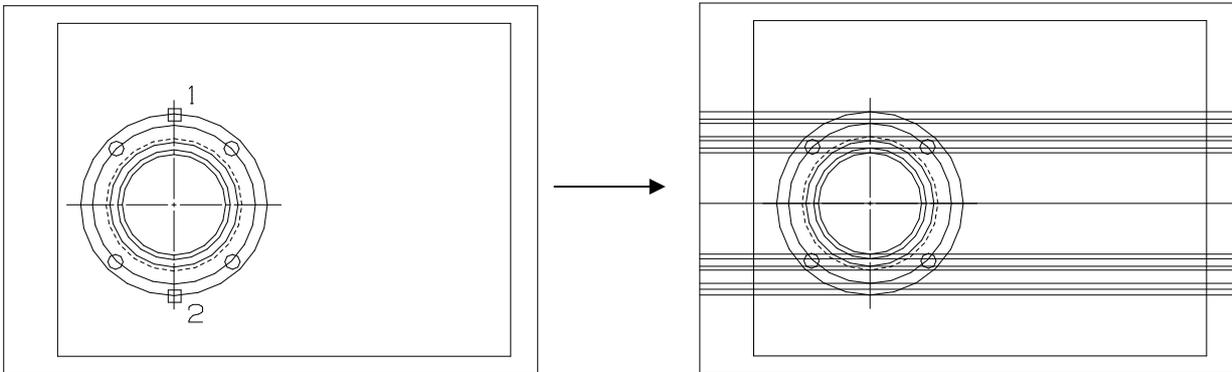
断面に直行する補助線を作成する。

コマンドプロンプト	SLINE
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD II →作成]	#断面補助線

3. 終点指示：2を指示（例の場合 0スナップの交点を使用し、指示します。）

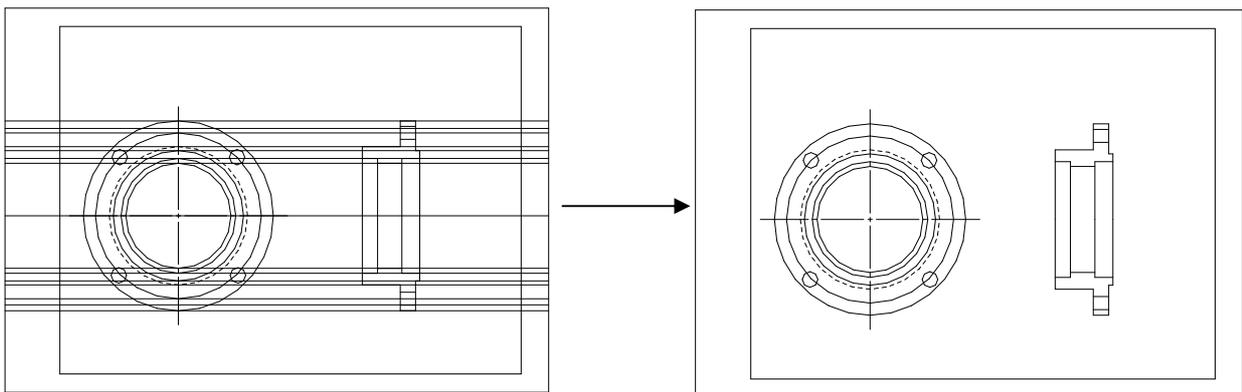
\* 断面の終点を指示します。

\* 始終点間を結んだ線（断面線）と交わる図形との交点を通過点として図範囲内に断面線と垂直な線分を作成します。



\* 作成された補助線を使用し、断面図を作成した場合、下図の様になります。

\* 断面図の縦線を作成した後、補助線を削除し、横線を作成した状態



# RECT1 [回転四角形]

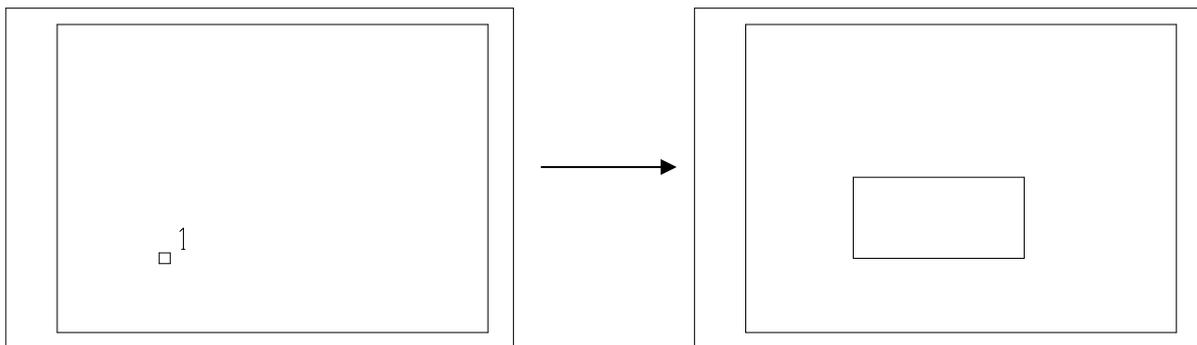


左下点を指示して、矩形を作成する。

コマンドプロンプト	RECT1
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD II →作成]	#回転四角形

◆回転四角形作成コマンドは、矩形の左下点を基点に縦、横の長さを入力し矩形を作成する場合に使用します。

1. [#回転四角形]アイコン  をクリックします。
2. 幅 : 100  
\*幅を数値で入力、または2点を指示して下さい。
3. 高さ : 50  
\*高さを数値で入力、または2点を指示して下さい。
4. 角度<リターン=角度参照> : 0  
\*配置角度を数値で入力、またはリターンキーを押し角度を参照する図形  
図形を指示して下さい。
5. 配置原点を指示 : 1 を指示  
\*矩形の左下となる位置を指示します。



## RECT3 [中心四角形]

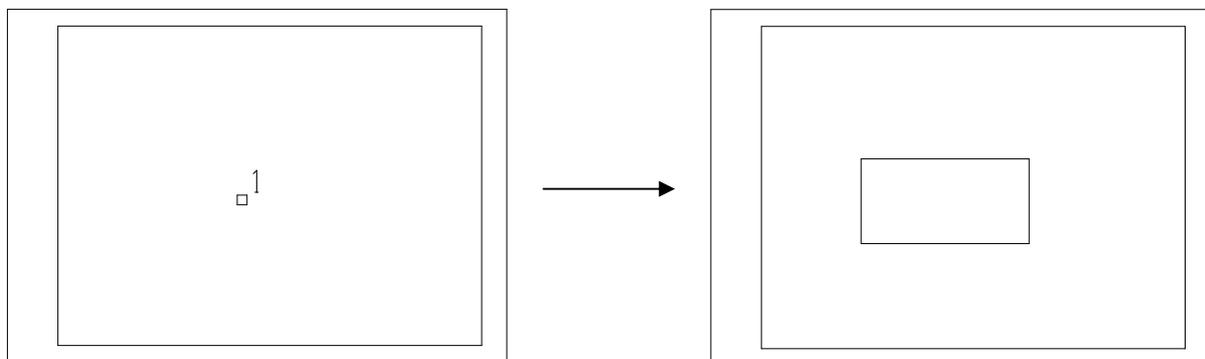


図心を指示して、矩形を作成する。

コマンドプロンプト	RECT3
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD II →作成]	#中心四角形

◆中心四角形作成コマンドは、矩形の中心点を基点に縦、横の長さを入力し矩形を作成する場合に使用します。

1. [#中心四角形]アイコン をクリックします。
2. 幅 : 100  
\*幅を数値で入力、または2点を指示して下さい。
3. 高さ : 50  
\*高さを数値で入力、または2点を指示して下さい。
4. 角度<リターン=角度参照> : 0  
\*配置角度を数値で入力、またはリターンキーを押し角度を参照する図形を指示して下さい。
5. 配置原点を指示 : 1 を指示  
\*矩形の中心を配置する位置を指示して下さい。



# EZTRI[二辺入力三角形(1/2)]

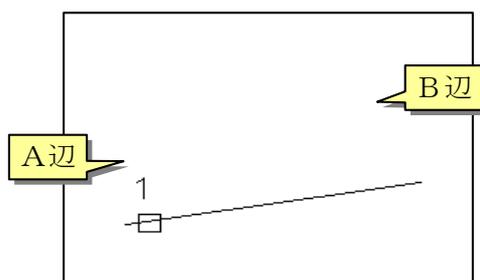


既存の1辺と2辺の長さ入力により、三角形を作図する

コマンドプロンプト	EZTRI
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD II →作成]	#二辺入力三角形

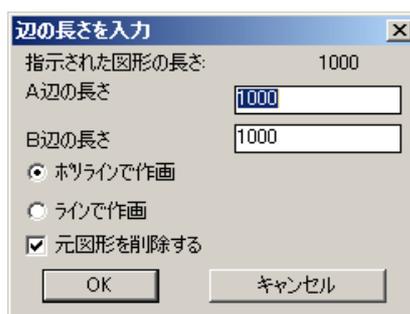
◆二辺入力三角形コマンドは、既存の1辺があり、2辺の長さが分かっている三角形を作図する場合に使用します。

1. [#二辺入力三角形]アイコン をクリックします。
2. 「オブジェクトを選択:」と表示されますので、基準となる1辺を指示します。  
(指示した場所により、次に入力する A 辺 B 辺の向きが変わりますのでご注意ください) (例: 1 をクリック)  
\* 指示できる図形は、線分またはポリラインです。



左の例では、線の左側 (A) の側が A 辺となります。  
右側に近い点を選択した場合は、右側が A 辺となります。

3. 辺の長さ入力ダイアログが表示されます。



4. A, B 辺の長さを入力して、作画をライン・ポリラインのどちらで作画するかを選びます。

4. 選択した元図形の削除設定を行います。  
 の場合、元図形を削除します。  
 の場合、元図形を残して三角形が上書きされます。

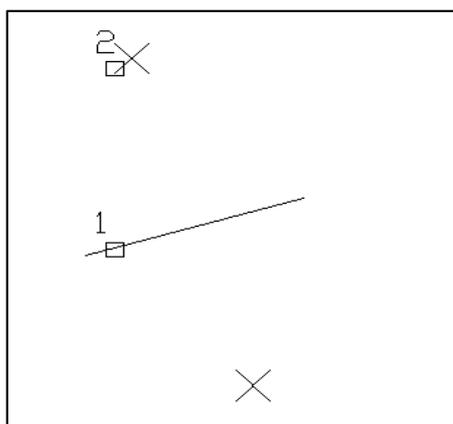
入力が終わったら、OK ボタンをクリックして下さい。

## EZTRI[二辺入力三角形(2/2)]

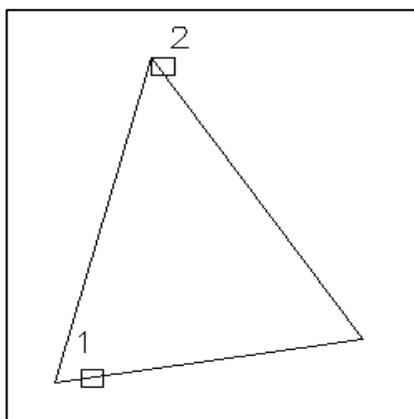
既存の1辺と2辺の長さ入力により、三角形を作図する

コマンドプロンプト	EZTRI
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イージCAD II→作成]	#二辺入力三角形

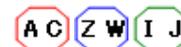
5. 「三角形の向きを指示:」と表示されますので、希望する向きの頂点付近をクリックします。  
(例: 2をクリック)



6. 三角形が作図されます。



# MKOVAl[長円作成(1/2)]

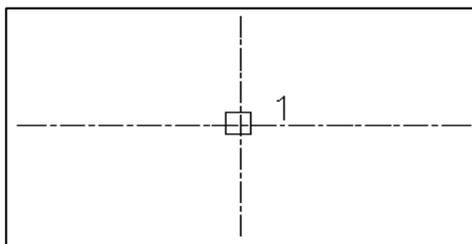


任意の位置に任意の大きさ、角度の長円を作成する。

コマンドプロンプト	MKOVAl
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イージCAD II →作成]	#長円作成

◆長円作成コマンドは、任意の場所に任意の大きさ、角度で長円を作成する場合に使用します。

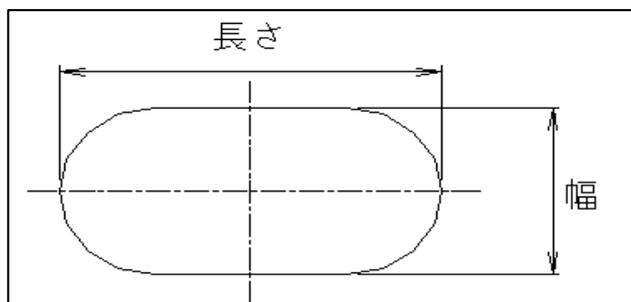
1. [#長円作成]アイコン をクリックします。
2. 「基点（長円の中心）を指示：」と表示されるので、基点となる場所を指示します。（例：1 をクリック）



3. 長さを指定するダイアログが表示されます。



長さ、幅の関係は、下図を参照してください。



4. 長さ、幅を入力して、OKボタンをクリックします。

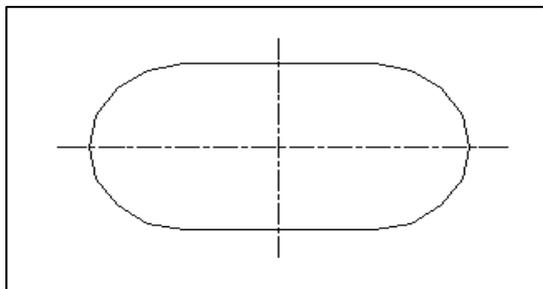
## MKOVAl[長円作成(2/2)]

任意の位置に任意の大きさ、角度の長円を作成する。

コマンドプロンプト	MKOVAl
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イージCAD II →作成]	#長円作成

5. 「配置角度を指示 (リターン=図形参照):」と表示されるので、角度を直接入力するか、もしくは、点指示で指示します。リターンキーを入力した場合は、任意のラインの角度を参照できます。

6. 作画されます。



- \*例では十字の中心線を作成していますが、中心線が無くても作図できます。
- \*手順5の角度は、右水平を0度とした反時計周り指定角度です。

# ARC1 [点接円弧作成(1/2)]



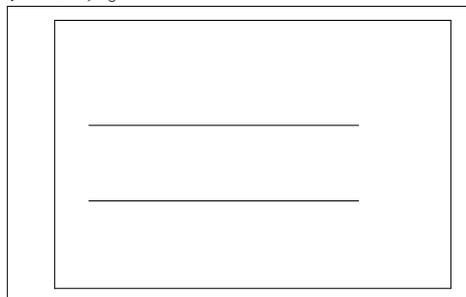
一点を通り線分に接する円弧を作成する。

コマンドプロンプト	ARC1
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イージCAD →作成]	#点接円弧

◆点接円弧作成コマンドは、任意の点から半径  $r$  で一線分に接する円弧を作成する場合に使用します。

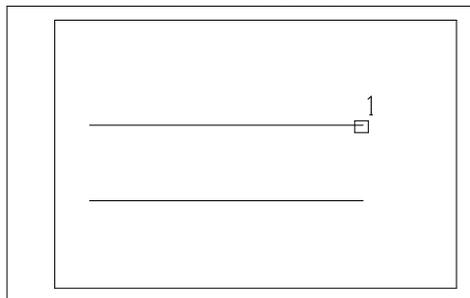
1. [#点接円弧]アイコン  をクリックします。

\*一方の線分の端点からもう一方の線分に接する円弧を描く場合を例に説明します。



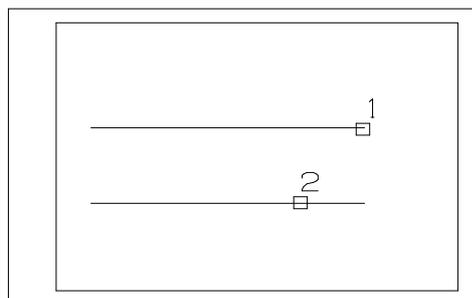
2. 点を指示：1を指示

\*円弧の端点となる任意の点を指示



3. 線分を指示：2を指示

\*円弧の接する図形を指示



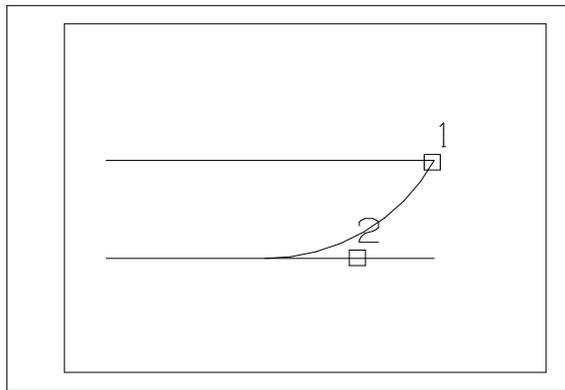
## ARC1 [点接円弧作成(2/2)]

一点を通り線分に接する円弧を作成する。

コマンドプロンプト	ARC1
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD →作成]	#点接円弧

4. 半径<0> : 100

\*円弧の半径を入力します。



\*1を始点とし、半径 100 の2に接する円弧を作成します。

# ARC3 [3接円弧作成(1/2)]



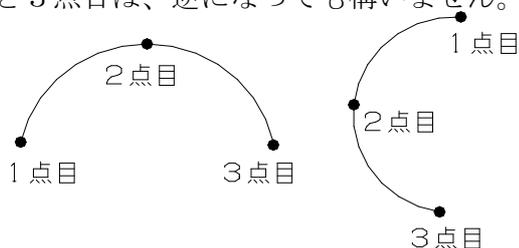
三つの線分に接する円弧を作成する。

コマンドプロンプト	ARC3
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イージCAD II →作成]	# 3 接円弧

◆ 3接円弧コマンドは、3つの線分に接する円弧を作成する場合に使用します。

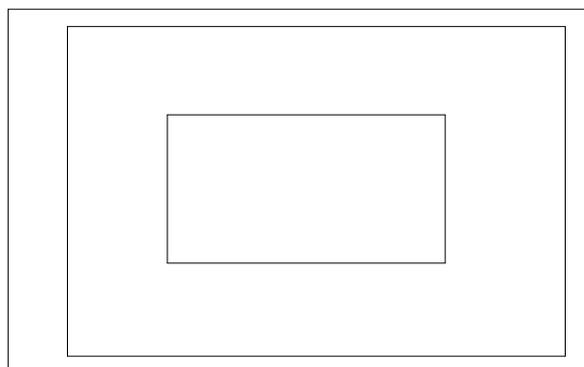
\* 操作手順中の円弧の1点目、2点目、3点目というのは、下図の点を表しています。正しい順序で指示されなかった場合は作図されません。

\* 1点目と3点目は、逆になっても構いません。



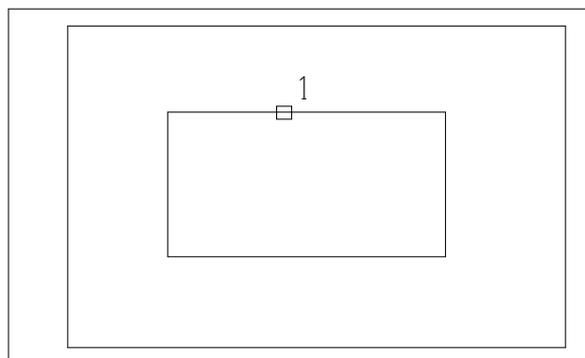
1. [# 3 接円弧]アイコン  をクリックします。

\* 下図のような矩形内の3辺に接する円弧を描く場合を例に説明します。



2. 一線目を指示：1を指示

\* 円弧の1点目が接する線分を指示します。



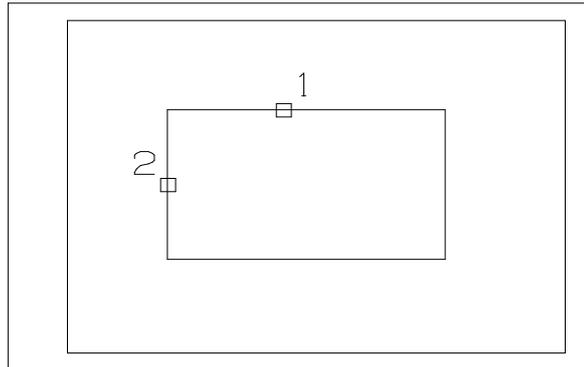
## ARC3 [3接円弧作成(2/2)]

三つの線分に接する円弧を作成する。

コマンドプロンプト	ARC3
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD II →作成]	# 3 接円弧

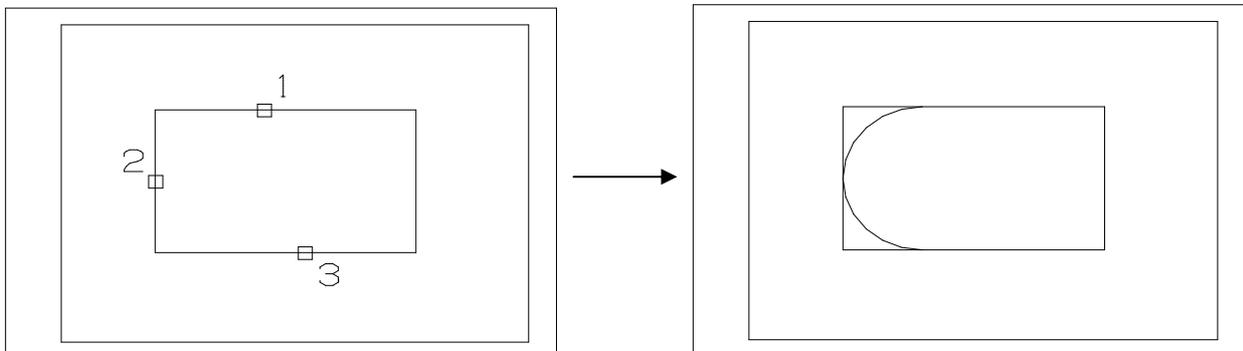
3. 二線目を指示：2を指示

\* 円弧の2点目が接する線分を指示します。



4. 三線目を指示：3を指示

\* 円弧の3点目が接する線分を指示します。



## POINT1 [中点]



指示された2点間の中点を作成する。

コマンドプロンプト	POINT1
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イージCAD II →作成]	点 → #中点

- ◆中点コマンドは、任意の2点間の中点を取得する場合に使用します。  
中点には、現在層で点が作成されます。

1. [#中点]アイコン をクリックします。

\* 矩形の対角線上に中点を作成する場合を例に説明します。

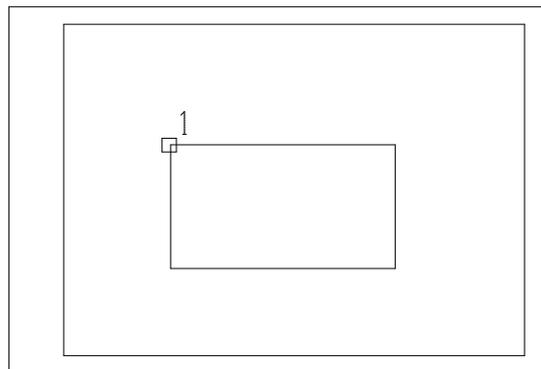
\* 点モードが設定されていないと以下のメッセージが表示されます。

### 1以下の数値では点モードが表示できません ###

### 点モード設定後実行して下さい ###

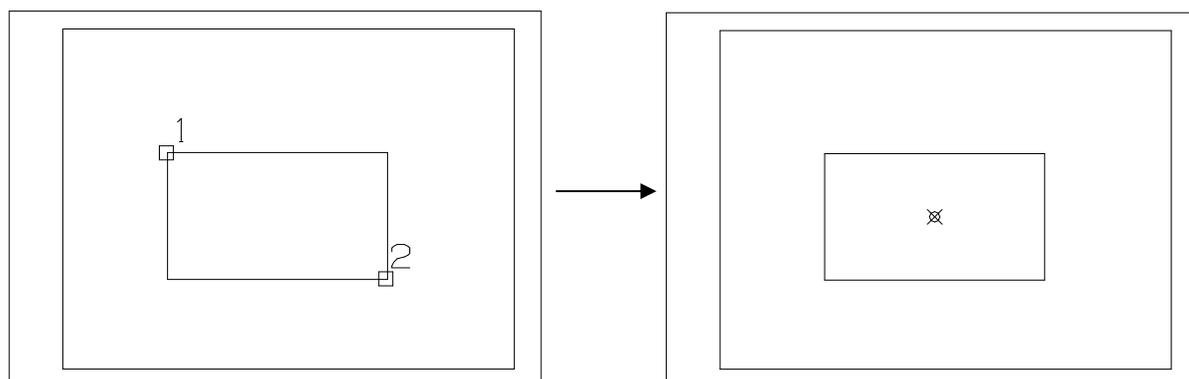
PDMODEを1より大きい値に変更後、再度実行して下さい。

2. 一点目指示：1を指示



3. 二点目指示：2を指示

\* 作成された点は、現在の設定値（点サイズ〈PDSIZE〉、点モード〈PDMODE〉）を使用しています。



任意点を通過する直交線との交点に、点を作成する。

コマンドプロンプト	POINT2
ツールバー [ECAD作成]	
プルダウン [イメージCAD II →作成]	点 → #線上点

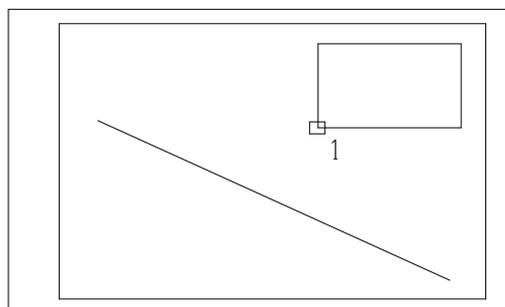
◆線上点コマンドは、一線分と任意点を通過点とする垂線との交点を取得したい場合に使用します。

- [#線上点]アイコン をクリックします。
  - \* 矩形の左下点から、線分に垂線を降ろした場合の交点に、点を作成する場合を例に説明します。
  - \* 点モードが設定されていないと以下のメッセージが表示されます。
 

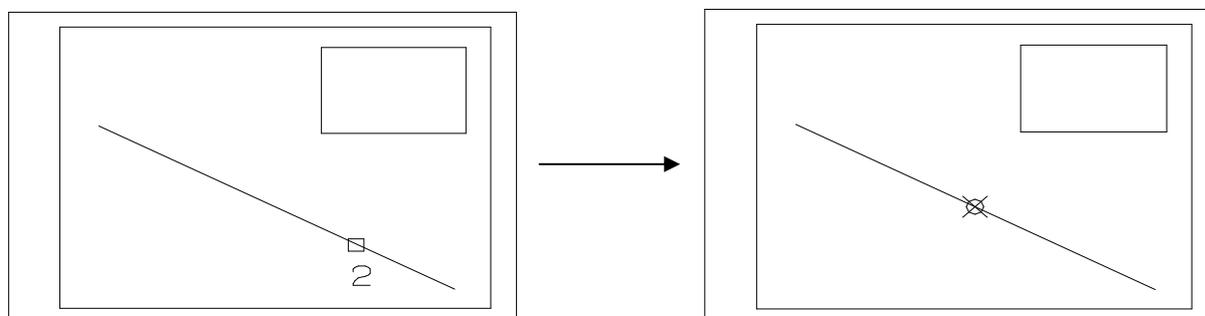
```
### 1以下の数値では点モードが表示できません ###
### 点モード設定後実行して下さい ###
```

 PDMODEを1より大きい値に変更後、再度実行して下さい。

- 参照点を指示：1を指示
  - \* 垂線の通過点となる点を指示して下さい。



- 点を作る線分などの要素を指示：2を指示
  - \* 点を作成する図形を指示して下さい。



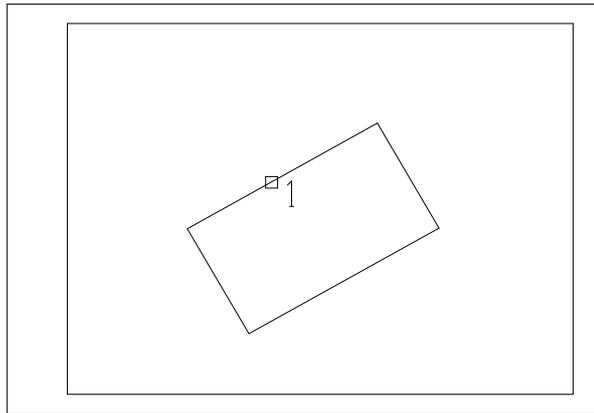
\* 作成された点は、現在の設定値（点サイズ〈PDSIZE〉、点モード〈PDMODE〉）を使用しています。

既存線上に指示した文字列を配置する。

コマンドプロンプト	TXT2
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II→作成]	#線上文字

◆線上文字作成コマンドは、ある線分上に線分の角度に合わせて文字列を配置したい場合に使用します。

1. [#線上文字]アイコン をクリックします。
2. 線分を指示：1 を指示（線分または°ラインを指示）  
\*クリックした位置が文字列の配置基点になります。



3. 文字高さ<3>：5（配置する文字列の文字高さを入力）  
\* < >の中が規定値になりますので、そのまま使用する場合はリターンキーを押して下さい。
4. 文字列配置オプション<リターン=中心/J=オプション>：  
\* 文字列の中心を基点に配置する場合、そのままリターンキーを押して下さい。  
\* 中心以外の基点を設定したい場合” J” を入力し、リターンキーを押して下さい。  
オプションの一覧が表示されますので、該当するオプションのコードを入力して下さい。

C=中心/M=中央/R=右寄せ/TL=左上/TC=上中心/TR=右上/ML=左中央/MC=中央  
MR=右中央/BL=左下/BC=下中心/BR=右下：

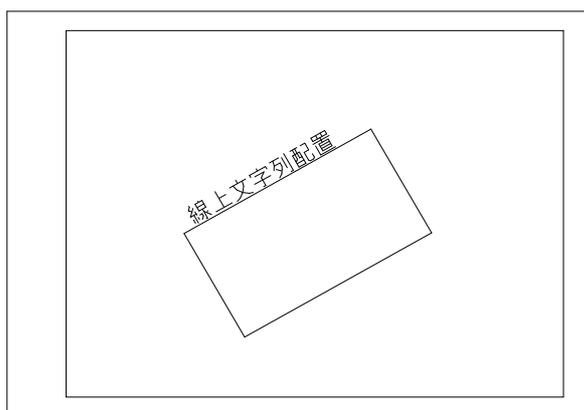
\* 左下を基点にする場合、” BL” を入力して下さい。

## TXT2 [線上文字(2/2)]

既存線上に指示した文字列を配置する。

コマンドプロンプト	TXT2
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →作成]	#線上文字

### 5. 文字列：線上文字列配置



# WELD [溶接記号(1/3)]



溶接記号を選択し、複合図形を図面内に挿入する。

コマンドプロンプト	WELD
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イメージCAD II →修飾図]	記号→ #溶接記号

◆溶接記号コマンドは、溶接記号のみまたは引出線付き溶接記号を配置する場合に使用します。

- [#溶接記号]アイコン をクリックします。
- 下図のダイアログボックスが表示されますので、配置する記号をクリックして下さい。



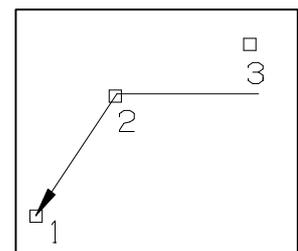
- 引き出し線を描きますか？ (Y/N) <Y> :  
 \*引出線を作成する場合” Y”、記号のみを配置する場合” N” を入力して下さい。  
 記号のみの場合、次頁の a. に進んで下さい。

<引出線を配置する場合>

\*引出線の配置点を指示して下さい。(例の場合 1、2、3 を順に指示しリターンキーを押します。)

\*最後の点は、記号を右側に配置するか、左側に配置するかの基準点となりますので、水平でなくてもかまいません。自動的に水平に修正されます。

- どこから：1 を指示
- どこへ：2 を指示
- どこへ：3 を指示
- どこへ：



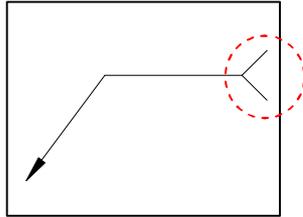
## WELD [溶接記号(2/3)]

溶接記号を選択し、複合図形を図面内に挿入する。

コマンドプロンプト	WELD
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II →修飾図]	記号→ #溶接記号

8. 尾を配置しますか？ (Y/N) <N> : Y

\* 尾を配置する場合” Y”、配置しない場合” N” を入力して下さい。



9. 現場溶接記号を配置しますか？ (Y/N) <N> : Y

\* 現場溶接記号を配置する場合” Y”、配置しない場合” N” を入力して下さい。

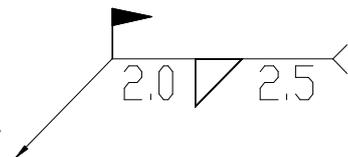
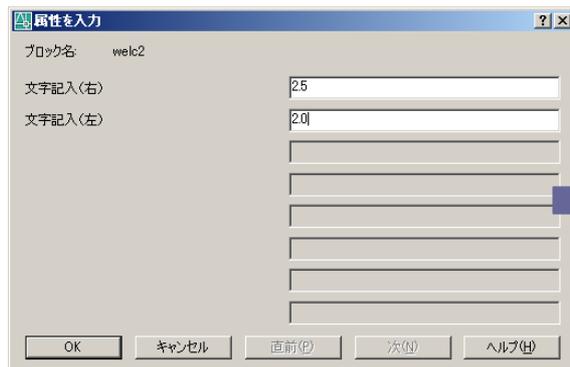
Yを入力した場合、下図のダイアログボックスが表示されますので配置する記号を選択して下さい。



10. 属性を入力ダイアログボックスが表示されます。

記号により表示される内容が異なりますので、メッセージ内容を確認しながらそれぞれの値を入力して下さい。

例としてすみ肉の場合の入力方法を説明します。



## WELD [溶接記号(3/3)]

溶接記号を選択し、複合図形を図面内に挿入する。

コマンドプロンプト	WELD
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II →修飾図]	記号→ #溶接記号

<記号のみ配置を選択した場合>

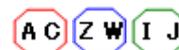
- a. 挿入位置を指示：  
\*配置基点を指示して下さい。
- b. 配置角度を入力<0>：  
\*配置角度を入力して下さい。  
0度の場合リターンキーを押して下さい。
- c. 属性を入力ダイアログボックスが表示されますので、値を入力して下さい。

\*引き出し線と属性文字は別々の複合図形となります。

\*矢印サイズ、矢印タイプは”修飾図関係設定変更(EASYSYS2)”コマンドにて変更する事ができます。引き出し線のタイプに60度が設定されている場合は、引き出し線1-2点目で角度補正を行います。

\*文字高さの設定は DIMSTYLEコマンド (プルダウン：形式(0)→寸法スタイル管理)にて変更する事ができます。

# FMARK [仕上記号]



仕上記号を選択し、複合図形を図面内に挿入する。

コマンドプロンプト	FMARK
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イメージCAD II →修飾図]	記号 → #仕上記号

◆仕上記号コマンドは、仕上げ記号を配置する場合に使用します。

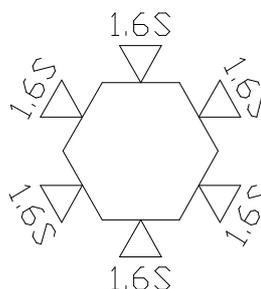
- [#仕上記号]アイコン をクリックします。
- 下図のダイアログボックスが表示されますので、配置する記号をクリックして下さい。



- 挿入位置を指示<リターン=図形指示>：1を指示

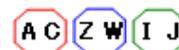


- 配置角度を入力<リターン=0>：0  
\*文字配置角度は、右図の様になります。
- 表面粗さ：1.6S



- \*記号と文字列は、別々の図形になります。
- \*文字高さは、寸法値文字高さ×0.6のサイズとなります。

## PREC2 [データム記号]



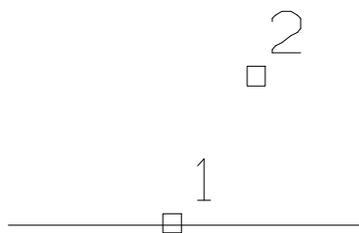
データム記号を作成する。

コマンドプロンプト	PREC2
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II →修飾図]	記号 → #データム記号

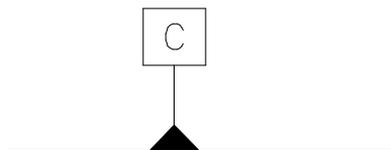
◆データム記号コマンドは、データムを文字記号によって示す場合に使用します。

1. [#データム記号]アイコン  をクリックします。
2. 対象となる線または面を指示：1を指示
3. 引出線を配置する点を順に指示して下さい。  
\*指示された点まで配置される線は、全て線または面に  
対して直行になるよう自動的に修正されます。

どこへ：2を指示しリターンキーを押します。



4. データム面入力：C  
\*データム面の記号を入力して下さい。



# PREC1 [公差記号(1/2)]



公差記号を選択し、複合図形を図面内に挿入する。

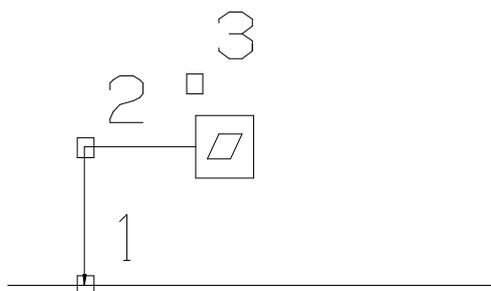
コマンドプロンプト	PREC1
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II →修飾図]	記号 → #公差記号

◆公差記号コマンドは、公差記号を配置する場合に使用します。

1. [#公差記号]アイコン をクリックします。
2. 下図のダイアログボックスが表示されますので、配置する記号をクリックして下さい。



3. 対象となる線を指示：1を指示
4. どこへ：
  - \*引出線を配置する点を順に指示し、リターンキーを押して下さい。
  - \*最後に配置された線は自動的に水平に修正されます。



## PREC1 [公差記号(2/2)]

公差記号を選択し、複合図形を図面内に挿入する。

コマンドプロンプト	PREC1
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II → 修飾図]	記号 → #公差記号

5. 公差値を入力 : 0.02

6. データム面入力 : B

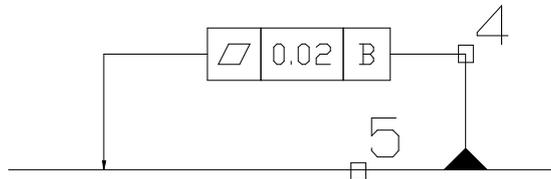
\*繰り返しデータム面入力待ち状態になりますので、表示させる分だけ値を入力しましたらリターンキーを押して下さい。

7. 引出線を配置する点を順に指示して下さい。

最後の点を指示する前にリターンキーを押し、8. へ進んで下さい。

どこへ : 4 を指示しリターンキーを押します。

8. 対象となる線または面を指示 : 5 を指示



<注意>

・垂直方向で記号を配置することはできません。

\*矢印サイズ、矢印タイプの設定は”修飾図関係設定変更(EASYSYS2)”コマンドにて変更する事ができます。引き出し線のタイプに60度が設定されている場合は、引き出し線1-2点目で角度補正を行います。

\*文字高さの設定は DIMSTYLEコマンド (プルダウン : 形式(0) → 寸法スタイル管理)にて変更する事ができます。

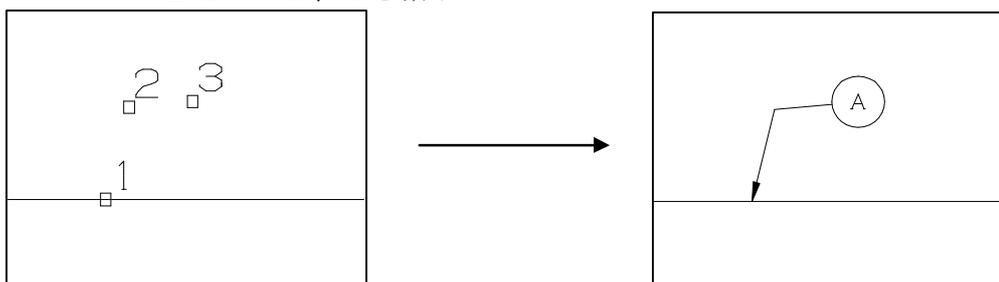
文字列と風船番号を表示する。

コマンドプロンプト	BA1
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イーシCAD II →修飾図]	風船 → #風船

◆風船コマンドは、風船記号を配置する場合に使用します。

- [#風船]アイコン  をクリックします。
- 文字列<リターン=終了>: A  
\*風船内に配置する文字列を入力して下さい。  
\*入力された文字の長さが風船の直径を越える場合、自動的にフィットで配置されます。
- 矢印先端指示<リターン=終了>: 1 を指示  
\*引出線の先端となる位置を指示して下さい。
- 引出線を配置する位置を順に指示して下さい。  
全て指示しましたらリターンキーを押して下さい。

どこへ: 2、3を指示



ここまでの操作で1つの風船記号が配置されます。

同じ記号を複数配置する場合、3. の操作に戻りますので繰り返し操作を行って下さい。

終了する場合リターンキーを押して下さい。

\* 4 の操作を行わずにリターンキーを押した場合は、引出し線のない風船となります。

\* 風船サイズ、風船文字高さの設定は”修飾図関係設定変更(EASYSYS2)”コマンドにて変更する事ができます。

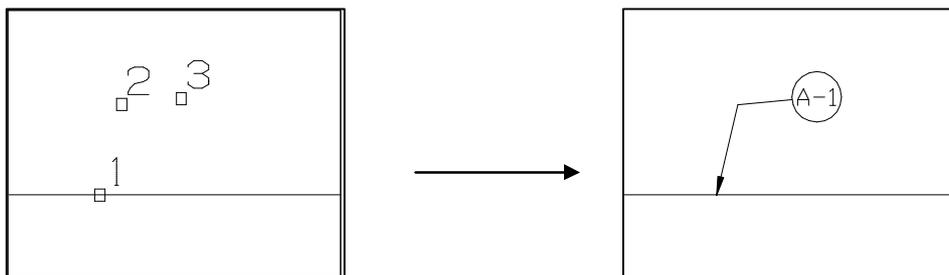
数値文字列を追番管理をしながら風船番号を連続表示する。

コマンドプロンプト	BA2
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II →修飾図]	風船 → #連番風船

◆連番風船コマンドは、連番で複数の風船記号を配置する場合に使用します。

- [#連番風船]アイコン  をクリックします。
- 開始番号<1>:A-1  
\*入力できる文字列は、半角英数字です。 下記の例を参照し  
開始番号を入力して下さい。  
開始番号に 1 を入力した場合—2, 3, 4, 5……  
" A を入力した場合—B, C, D, E……  
" a を入力した場合—b, c, d, e……  
" A-1を入力した場合—A-2, A-3, A-4, A-5……
- 矢印先端指示<リターン=終了>: 1 を指示  
\*引出線の先端となる位置を指示して下さい。
- 引出線を配置する位置を順に指示して下さい。  
全て指示しましたらリターンキーを押して下さい。

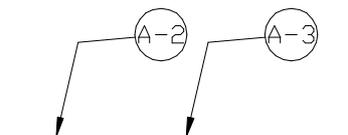
どこへ: 2、3を指示



ここまでの操作で1つの風船記号が配置されます。

同じ記号を複数配置する場合、3. の操作に戻りますので繰り返し操作を行って下さい。

終了する場合リターンキーを押して下さい。



\* 4の操作を行わずにリターンキーを押した場合は、引出し線のない風船となります。

\* 風船サイズ、風船文字高さの設定は”修飾図関係設定変更(EASYSYS2)”コマンドにて変更する事ができます。

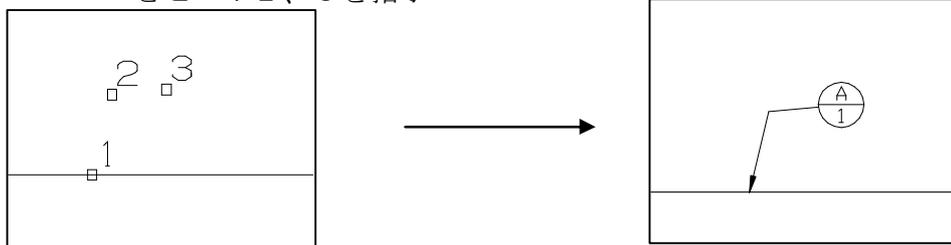
## 横棒付風船に文字列を二段に表示する。

コマンドプロンプト	BA3
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II →修飾図]	風船 → #二段風船

◆二段風船コマンドは、上下2段に分かれている風船記号を配置する場合に使用します。

- [#二段風船]アイコン  をクリックします。
- 上段文字列<リターン=終了>:A  
\*風船の上段に配置する文字列を入力して下さい。
- 下段文字列<リターン=配置点>:1  
\*風船の下段に配置する文字列を入力して下さい。  
空白の場合リターンキーを押して下さい。  
\* 2 3の操作とも入力された文字の長さが風船の直径を越える場合、自動的にフィットで配置されます。
- 矢印先端指示<リターン=終了>: 1 を指示  
\*引出線の先端となる位置を指示して下さい。
- 引出線を配置する位置を順に指示して下さい。  
全て指示しましたらリターンキーを押して下さい。

どこへ: 2、3を指示



ここまでの操作で1つの風船記号が配置されます。

同じ記号を複数配置する場合、3. の操作に戻りますので繰り返し操作を行って下さい。

終了する場合リターンキーを押して下さい。

\* 5の操作を行わずにリターンキーを押した場合は、引出し線のない風船となります。

\* 風船サイズ、風船文字高さの設定は”修飾図関係設定変更(EASYSYS2)”コマンドにて変更する事ができます。

# DET [部分詳細マーク(1/2)]



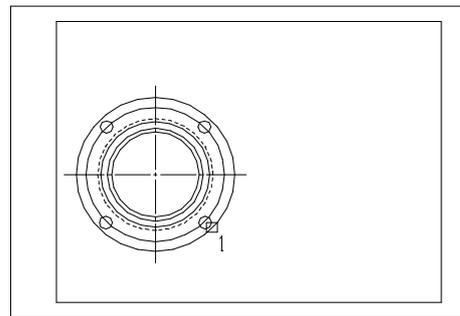
部分詳細マークと詳細図名称を表示する。

コマンドプロンプト	DET
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イメージCAD II →修飾図]	#詳細マーク

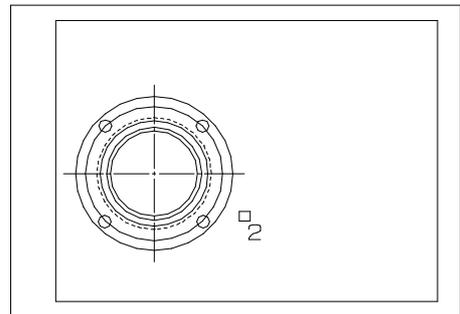
◆部分詳細コマンドは、詳細部を指示する引出線を作成する場合に使用します。

1. [#部分詳細マーク]アイコン をクリックします。

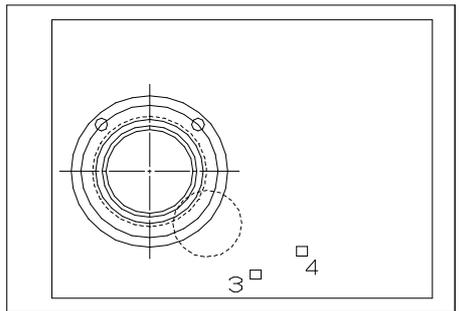
2. 円の中心を指示：1を指示  
\*詳細部の中心となる位置を指示  
して下さい。



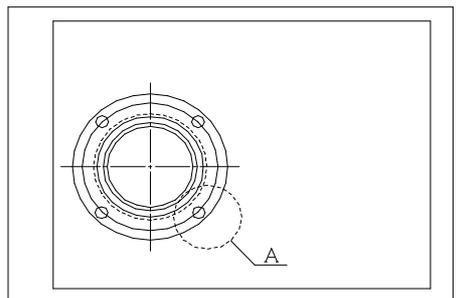
3. 円の通過点を指示：2を指示  
\*円の半径となる位置を指示  
して下さい。



4. どこへ：3、4を指示しリターンキーを  
押します。  
\*引出線の通過点を指示して下さい。



5. 文字列：A  
\*詳細部を表す符号を入力  
して下さい。



## DET [部分詳細マーク(2/2)]

部分詳細マークと詳細図名称を表示する。

コマンドプロンプト	DET
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イーシCAD II →修飾図]	#詳細マーク

\*最後の点は1つ前の点に合わせて水平の位置に修正します。

線と文字の間隔は、修飾図関係設定変更 (EASYSYS2)コマンドにて変更する事ができます。

\*文字高さの設定は **DIMSTYLE**コマンド

(プルダウン：形式(0)→寸法スタイル管理)にて変更する事ができます。

# SECT1 [断面矢視(1/2)]

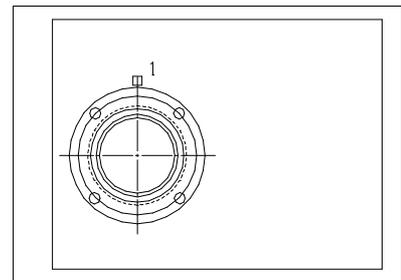


同じ線上に断面矢視を表示する。

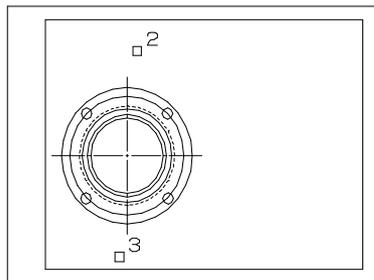
コマンドプロンプト	SECT1
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イメージCAD II →修飾図]	#断面矢視

◆断面矢視コマンドは、断面の位置を指示する為の記号を配置する場合に使用します。

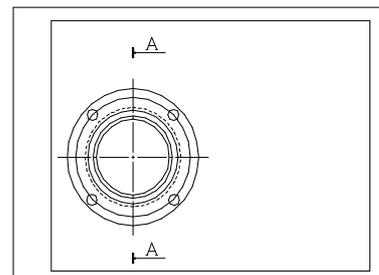
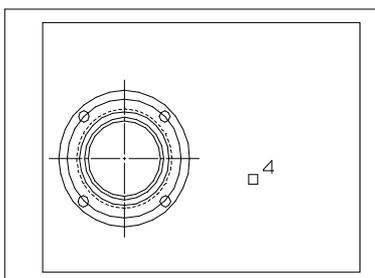
1. [#断面矢視]アイコン をクリックします。
2. 線分を指示<リターン=任意位置> : 1 を指示  
\* 切断線の延長線上に記号を配置する場合、線分を指示して下さい。  
\* 任意の位置に記号を配置する場合、リターンキーを押して下さい。



3. 断面矢視始点を指示 : 2 を指示
4. 断面矢視終点を指示<リターン=1個表示> : 3 を指示  
\* 矢視を配置する位置を2点指示して下さい。  
\* 1ヶ所のみ配置する場合、終点指示ではリターンキーを押して下さい。



5. 文字列 : A  
\* 表示する文字列を入力して下さい。
6. 文字記入方向指示 : 4 を指示



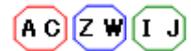
## SECT1 [断面矢視(2/2)]

同じ線上に断面矢視を表示する。

コマンドプロンプト	SECT1
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イメージCAD II →修飾図]	#断面矢視

- \* 矢印サイズ、矢印タイプ、文字高さの設定は DIMSTYLE コマンド  
(プルダウン：形式(0) → 寸法スタイル管理) にて変更する事ができます。
- \* 引出線と文字列は複合図形となります。

## LINE2 [断面波線]

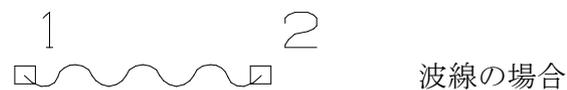
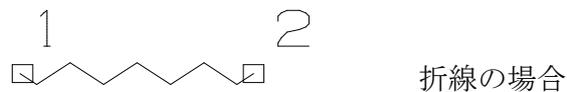


断面部を指定した波線で表示する。

コマンドプロンプト	LINE2
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II →修飾図]	#断面波線

◆断面波線コマンドは、断面部分に波線を配置する場合に使用します。

1. [#断面波線]アイコン をクリックします。
2. 1点目を指示：1を指示
3. 2点目を指示：2を指示
4. 線の種類(1=折線，2=波線)〈1〉:  
\*折線の場合1、波線の場合2を入力して下さい。

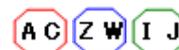


\*折線、波線のピッチの設定は、”修飾図関係設定変更(EASYSYS2)”コマンドにて変更する事ができます。

\*2点間の距離がピッチの倍数でない場合、ピッチを自動で調整します。

$$2 \text{ 点間距離} \div (2 \text{ 点間距離} \div \text{ピッチ}) = \text{調整後のピッチ}$$

## LINE1 [破断線]

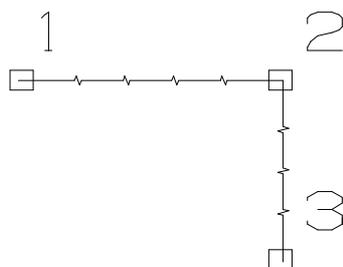


破断線を作成する。

コマンドプロンプト	LINE1
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II →修飾図]	#破断線

◆破断線コマンドは、破断線を作成する場合に使用します。

1. [#破断線]アイコン  をクリックします。
2. どこから：1を指示
3. どこまで<終了=リターンキー>：2、3を指示しリターンキーを押します。  
\*線分(LINE)を作成する場合と同じ要領で点を指示して下さい。



\*破断線のピッチ設定は、”修飾図関係設定変更(EASYSYS2)”コマンドにて変更する事ができます。

# CUTMARK [カットマーク]

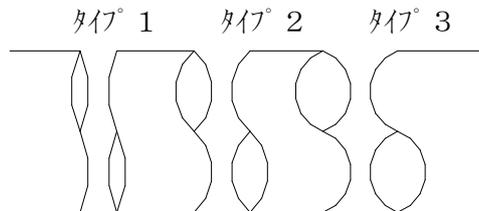


パイプやシャフトなどに円柱形状であることを示すカットマークを作成する。

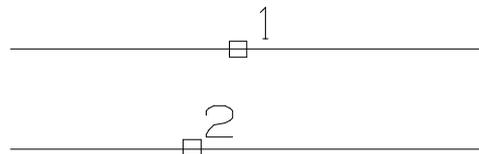
コマンドプロンプト	CUTMARK
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イメージCAD II →修飾図]	#カットマーク

◆カットマーク作成コマンドは、パイプなどにカットマークを作成する場合に使用します。

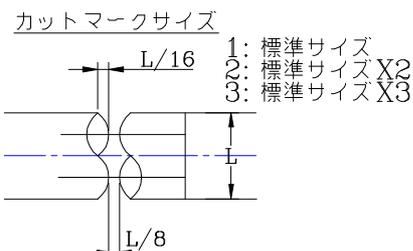
1. [#カットマーク]アイコン をクリックします。
2. カットマークのサイズを指示(1~3) <2> :  
\* 下図を参考に、カットマークのサイズを選択して下さい。



3. カットマークを入れる一本目の線分を指示 : 1 を指示
4. カットマークを入れる二本目の線分を指示 : 2 を指示



5. カットマークを入れる位置を指示 : 3 を指示



# BRMARK [断面マーク]

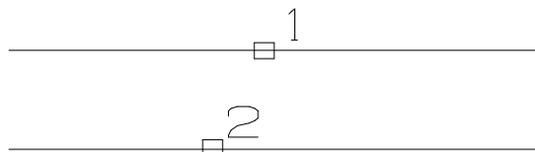


平行線に対して中間部の省略を意味する断面マークを作成する。

コマンドプロンプト	BRMARK
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II → 修飾図]	#断面マーク

◆断面マークコマンドは、省略部分に断面マークを作成する場合に使用します。  
使用します。

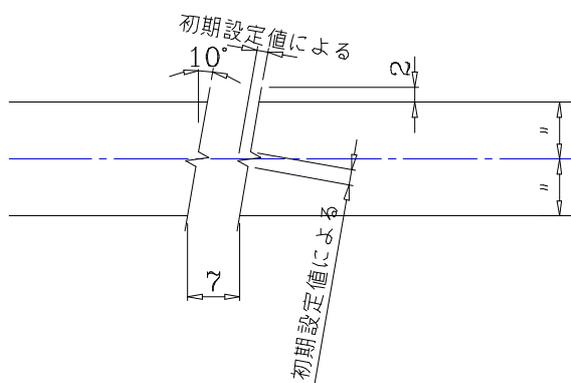
1. [#断面マーク]アイコン をクリックします。
2. 断面マークを入れる一本目の線分を指示：1を指示
3. 断面マークを入れる二本目の線分を指示：2を指示



4. 断面マークを入れる位置を指示：3を指示



## 断面マークサイズ



# BORUTO [ボルト系(1/2)]



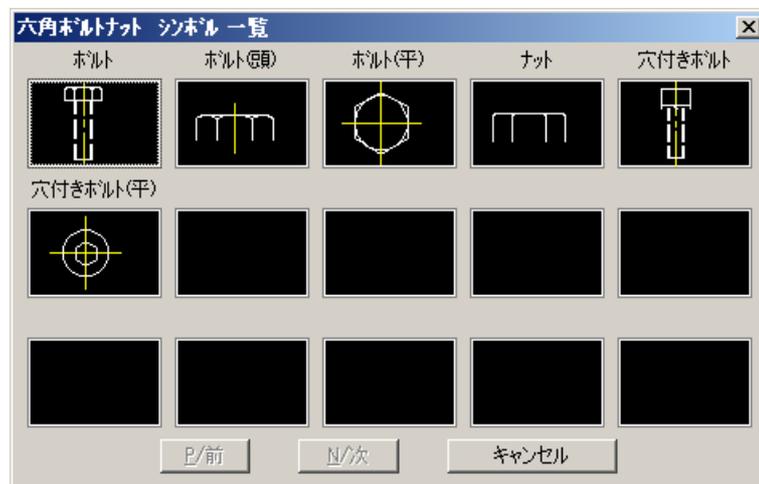
ボルト系のシンボルを画面より選択し、挿入します。

コマンドプロンプト	BORUTO
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II →修飾図]	#ボルト系

◆ボルト系コマンドは、ボルト系のシンボルを図面内に配置する場合に使用します。

1. [#ボルト系]アイコン  をクリックします。

下図のダイアログボックスが表示されますので、配置する種類のボタンをクリックして下さい。



2. ボルトまたは穴付きボルトを選択した場合は下図のダイアログボックスが表示されます。

\*ボルト、穴付きボルト以外を選択した場合は2、3の操作はありません。



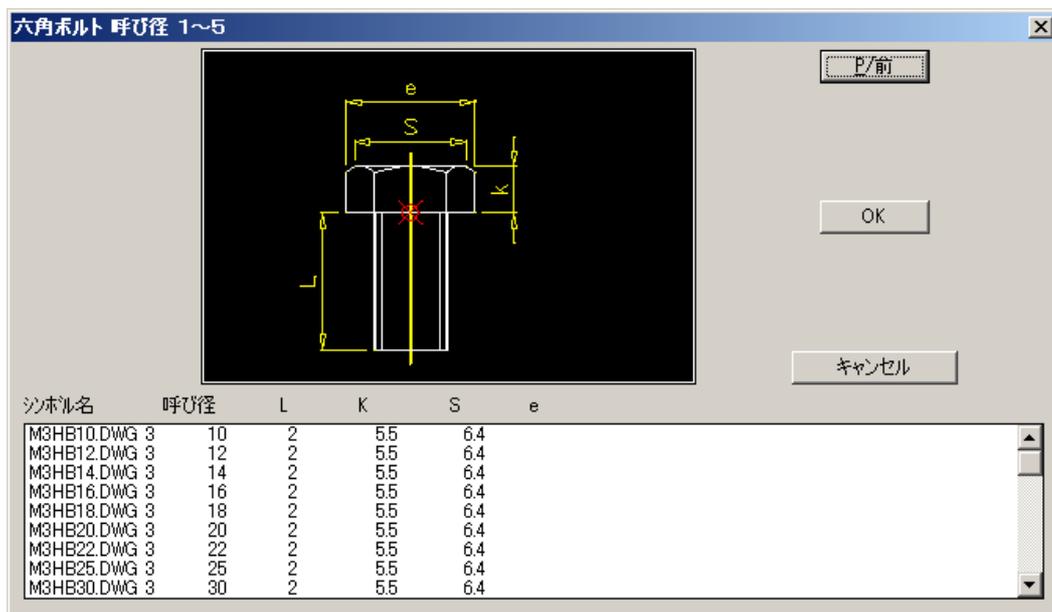
3. 呼び径を選択します。

## BORUTO [ボルト系(2/2)]

ボルト系のシンボルを画面より選択し、挿入します。

コマンドプロンプト	BORUTO
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イメージCAD II →修飾図]	#ボルト系

4. 下図のダイヤログボックスが表示されますので、配置するサイズを選択しOKボタンをクリックして下さい。



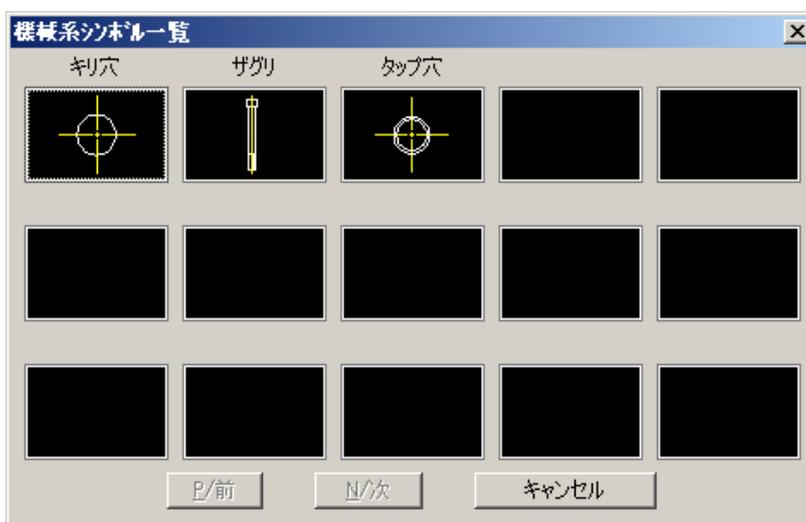
5. 挿入位置を指定 または  
[尺度(S)/X/Y/Z/回転(R)/プレビュー尺度(PS)/プレビューX(PX)/プレビューY(PY)/  
プレビューZ(PZ)/プレビュー回転(PR)]:  
\*シンボルを挿入する位置を指示して下さい。
6. X 方向の尺度を入力するか対角コーナーを指定 または [コーナー(C)/XYZ] <1>:1  
\* X方向の尺度を入力して下さい。
7. Y 方向の尺度を入力 <X 方向の尺度を使用>:   
\* Y方向の尺度を入力して下さい。(X方向の尺度に合わせる場合  
リターンキーを押して下さい。)
8. 回転角度を指定 <0>:  
\* 回転角度を入力して下さい。0度の場合はそのままリターンキーを押して  
下さい。

機械系のシンボルを画面より選択し、挿入します。

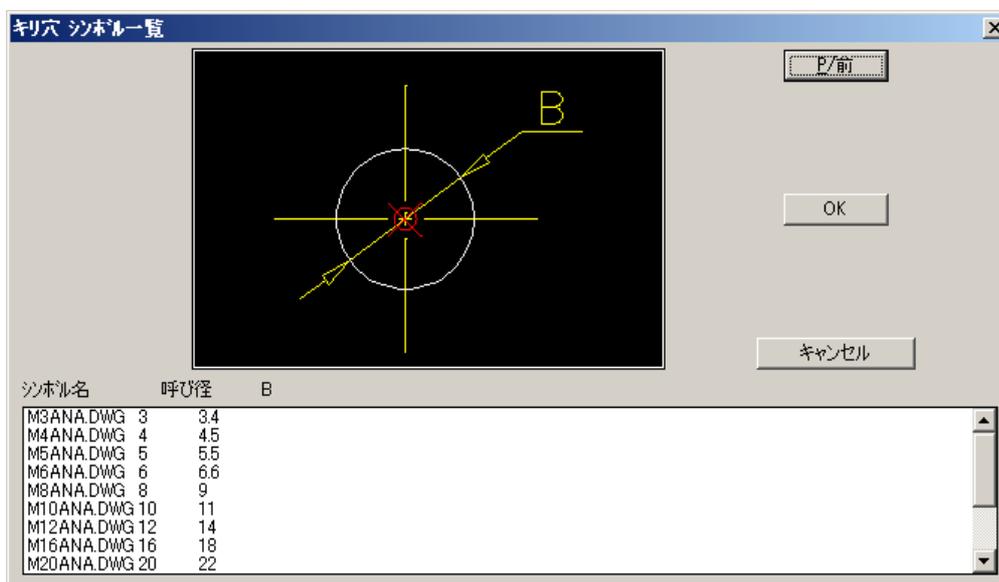
コマンドプロンプト	KIKAI
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II →修飾図]	#機械系

◆機械系コマンドは、機械系のシンボルを図面内に配置する場合に使用します。

- [#機械系]アイコン をクリックします。  
\* 下図のダイアログボックスが表示されます。



- 配置する種類のボタンをクリックして下さい。  
\* キリ穴を選択しますと、下図のダイアログボックスが表示されます。
- サイズを選択し、OKボタンをクリックして下さい。



## KIKAI [機械系(2/2)]

機械系のシンボルを画面より選択し、挿入します。

コマンドプロンプト	KIKAI
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イメージCAD II →修飾図]	#機械系

- 挿入位置を指定 または  
[尺度(S)/X/Y/Z/回転(R)/プレビュー尺度(PS)/プレビュー-X(PX)/プレビュー-Y(PY)/  
プレビュー-Z(PZ)/プレビュー回転(PR)]:  
\*シンボルを挿入する位置を指示して下さい。
- X 方向の尺度を入力するか対角コーナーを指定 または [コーナー(C)/XYZ] <1>:1  
\* X方向の尺度を入力して下さい。
- Y 方向の尺度を入力 <X 方向の尺度を使用>:   
\* Y方向の尺度を入力して下さい。(X方向の尺度に合わせる場合  
リターンキーを押して下さい。)
- 回転角度を指定 <0>:  
\* 回転角度を入力して下さい。0度の場合はそのままリターンキーを押して  
下さい。

形鋼系のシンボルを画面より選択し、挿入します。

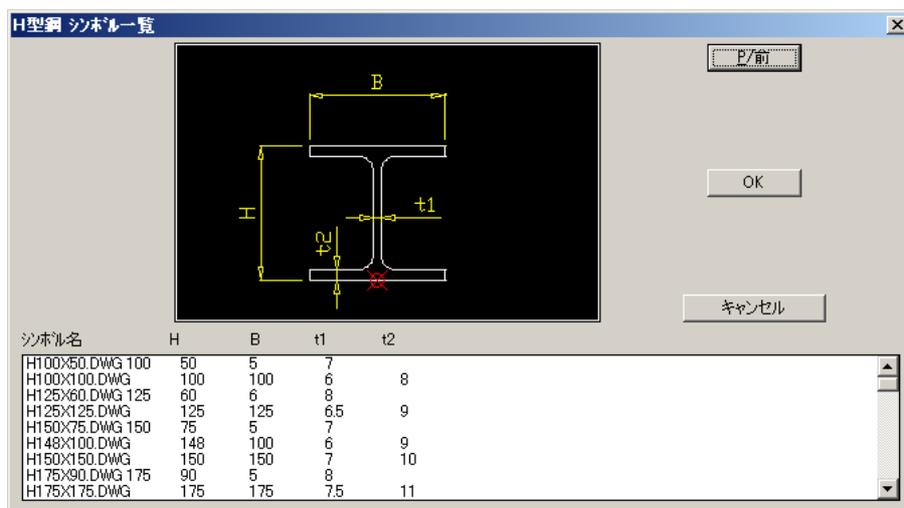
コマンドプロンプト	KATA
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イメージCAD II → 修飾図]	#形鋼系

◆形鋼系コマンドは、形鋼系のシンボルを図面内に配置する場合に使用します。

- [#形鋼系]アイコン をクリックします。  
\* 下図のダイアログボックスが表示されます。



- 配置する種類のボタンをクリックして下さい。  
\* H形鋼を選択しますと、下図のダイアログボックスが表示されます。
- サイズを選択し、OKボタンをクリックして下さい。



## KATA [形鋼系(2/2)]

形鋼系のシンボルを画面より選択し、挿入します。

コマンドプロンプト	KATA
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II → 修飾図]	#形鋼系

- 挿入位置を指定 または  
[尺度(S)/X/Y/Z/回転(R)/プレビュー尺度(PS)/プレビューX(PX)/プレビューY(PY)/  
プレビューZ(PZ)/プレビュー回転(PR)]:  
\*シンボルを挿入する位置を指示して下さい。
- X 方向の尺度を入力するか対角コーナーを指定 または [コーナー(C)/XYZ] <1>:1  
\* X方向の尺度を入力して下さい。
- Y 方向の尺度を入力 <X 方向の尺度を使用>:   
\* Y方向の尺度を入力して下さい。(X方向の尺度に合わせる場合  
リターンキーを押して下さい。)
- 回転角度を指定 <0>:  
\* 回転角度を入力して下さい。0度の場合はそのままリターンキーを押して  
下さい。

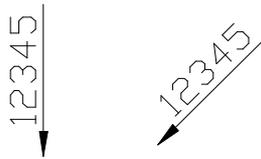
## TXT1 [矢印文字]



矢印引き出し線付き文字を表示する。

コマンドプロンプト	TXT1
ツールバー [修飾図]	
プルダウン [イージCAD II →修飾図]	#矢印文字

- ◆矢印文字コマンドは、矢印付き文字を作成する場合に使用します。  
垂直方向や、任意の角度で作成する場合に便利です。



1. [#矢印文字]アイコン をクリックします。

- \*引出線の配置点を順に指示して下さい。
- \*最後に指示する点は文字列の配置方向になります。  
文字列の長さによって引出線の長さが自動調整されます。

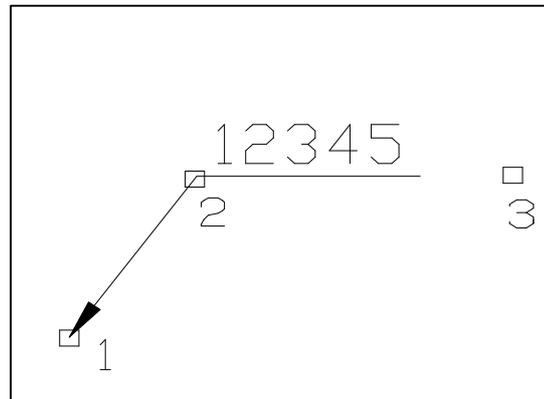
2. どこから：1を指示

3. どこへ：2を指示

4. どこへ：3を指示

5. どこへ：

6. 文字列：12345



- \*引出線と文字列は別々の図形になります。
- \*矢印サイズ、矢印タイプの設定は”修飾図関係設定変更 (EASYSYS2)”コマンドにて変更する事ができます。
- \*文字高さの設定は DIMSTYLEコマンド  
(プルダウン：形式(0)→寸法スタイル管理)にて変更する事ができます。

# ARROW1 [両側矢印挿入(1/2)]

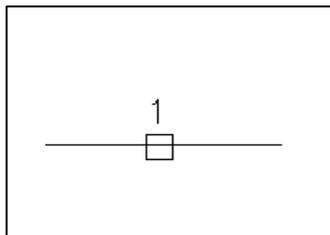


線分または、ポリラインに両側矢印を挿入する。

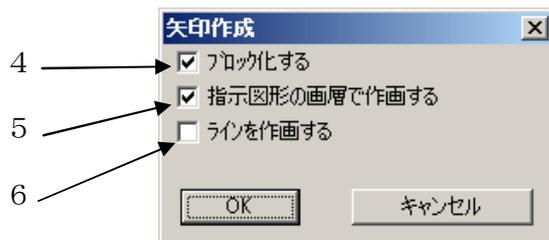
コマンドプロンプト	ARROW1
ツールバー [修飾図]	矢印線 → 
プルダウン [イメージCAD II →修飾図]	#矢印線 → #両側矢印挿入

- ◆両側矢印挿入コマンドは、既に作成済みの線分（またはポリライン）の始終点両側に矢印を配置する場合に使用します。  
連続したポリラインの場合は、指示点に近い両側の頂点に矢印を配置します。

1. [#両側矢印挿入]アイコン  をクリックします。
2. 矢印を両側に配置する図形を指示： 1 を指示  
\*指示できる図形は、線分またはポリライン、円弧です。



3. 矢印作成ダイアログが表示されます。
- 4、5、6の内容設定後、OKボタンをクリックして下さい。



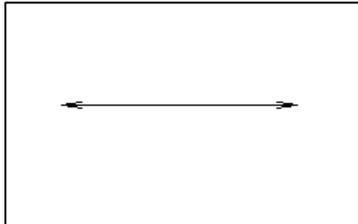
4. ブロック化の有無設定を行います。  
 の場合、指示図形と矢印図形をブロック化します。  
 の場合、指示図形と矢印図形は別々の図形となります。
5. 矢印の画層設定を行います。  
 の場合、指示図形と同じ画層で矢印を作成します。  
 の場合、現在層で矢印を作成します。
6. ライン作画の設定を行います。（指示図形がポリラインの場合のみ表示）  
 の場合、指示図形上の矢印間にラインを上書きします。  
 の場合、ライン作成を行いません。

## ARROW1 [両側矢印挿入(2/2)]

線分または、ポリラインに両側矢印を挿入する。

コマンドプロンプト	ARROW1
ツールバー [修飾図]	矢印線 → 
プルダウン [イージCAD II → 修飾図]	#矢印線 → #両側矢印挿入

7. 設定した内容で両側矢印が作図されます。



8. 2～7を繰り返します。

終わらせる場合は、リターンキーを押して下さい。

\* 矢印サイズ、矢印タイプの変更は ” 修飾図関係設定変更 (EASYSYS2) ” コマンドにて行います。

\* 既にブロック化された矢印図形には作図できません。

# ARROW2 [片側矢印挿入(1/2)]

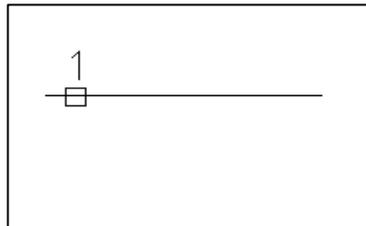


線分または、ポリラインの指示点に近い側端点に矢印を挿入する。

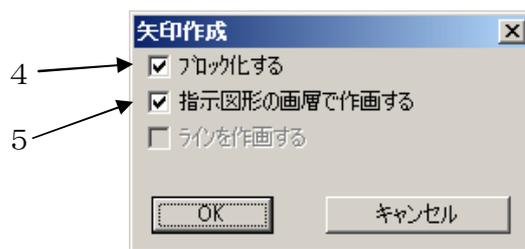
コマンドプロンプト	ARROW2
ツールバー [修飾図]	矢印線 → 
プルダウン [イージCAD II →修飾図]	#矢印線 → #片側矢印挿入

- ◆片側矢印挿入コマンドは、既に作成済みの線分（またはポリライン）の指示点に近い側の端点に矢印を配置する場合に使用します。  
連続したポリラインの場合は、指示点に近い頂点に矢印を配置します。

1. [#片側矢印挿入]アイコン  をクリックします。
2. 矢印を片側に配置する図形を指示： 1 を指示  
\* 矢印を作成する側を指示して下さい。  
\* 指示できる図形は、線分またはポリライン、円弧です。



3. 矢印作成ダイアログが表示されます。  
4、5の内容設定後、OKボタンをクリックして下さい。



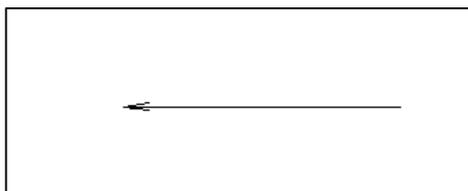
4. ブロック化の有無設定を行います。  
 の場合、指示図形と矢印図形をブロック化します。  
 の場合、指示図形と矢印図形は別々の図形となります。
5. 矢印の画層設定を行います。  
 の場合、指示図形と同じ画層で矢印を作成します。  
 の場合、現在層で矢印を作成します。

## ARROW2 [片側矢印挿入(2/2)]

線分または、ポリラインの指示点に近い側端点に矢印を挿入する。

コマンドプロンプト	ARROW2
ツールバー [修飾図]	矢印線 → 
プルダウン [イメージCAD II →修飾図]	#矢印線 → #片側矢印挿入

6. 設定した内容で片側矢印が作図されます。



7. 2～6を繰り返します。

終わらせる場合は、リターンキーを押して下さい。

\* 矢印サイズ、矢印タイプの変更は ” 修飾図関係設定変更 (EASYSYS2) ” コマンドにて行います。

\* 既にブロック化された矢印図形には作図できません。

# ARROW3 [線上矢印挿入(1/2)]

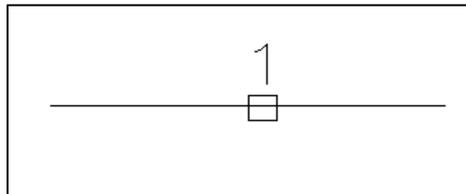


線分または、ポリライン上の任意点に矢印を挿入する。

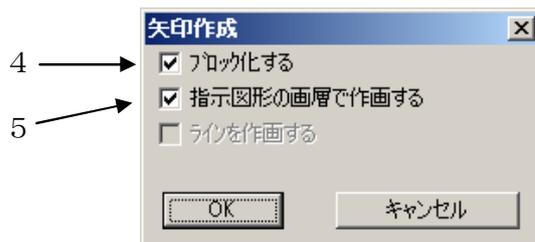
コマンドプロンプト	ARROW3
ツールバー [修飾図]	矢印線 → 
プルダウン [イメージCAD II →修飾図]	#矢印線 → #線上矢印挿入

◆線上矢印挿入コマンドは、既に作成済みの線分（またはポリライン）上の任意点に矢印を配置する場合に使用します。

1. [線上矢印挿入]アイコン  をクリックします。
2. 矢印を配置する図形を指示： 1 を指示  
\* 矢印の先端位置となる図形上の点を指示して下さい。  
\* 指示できる図形は、線分またはポリライン、円弧です。



3. 矢印作成ダイアログが表示されます。  
4、5の内容設定後、OKボタンをクリックして下さい。



4. ブロック化の有無設定を行います。  
 の場合、指示図形と矢印図形をブロック化します。  
 の場合、指示図形と矢印図形は別々の図形となります。
5. 矢印の画層設定を行います。  
 の場合、指示図形と同じ画層で矢印を作成します。  
 の場合、現在層で矢印を作成します。

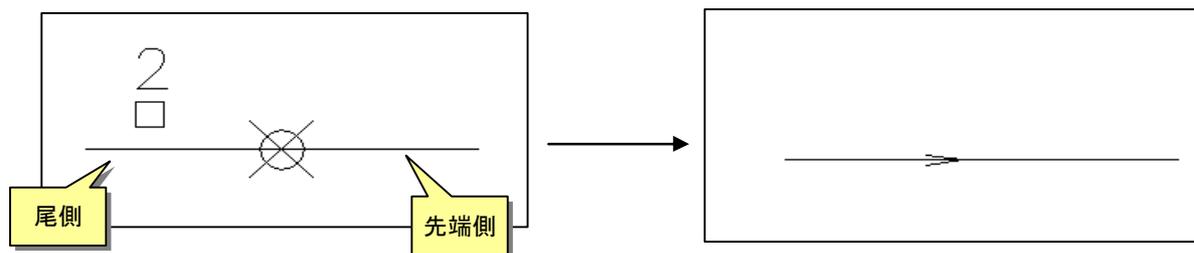
## ARROW3 [線上矢印挿入(2/2)]

線分または、ポリライン上の任意点に矢印を挿入する。

コマンドプロンプト	ARROW3
ツールバー [修飾図]	矢印線 → 
プルダウン [イージCAD II → 修飾図]	#矢印線 → #線上矢印挿入

6. 矢印の尾の側を指示 : 2 を指示

\* 矢印図形  $\longrightarrow$  に対して、尾の側  $\longrightarrow$  先端側となります。



7. 2～6を繰り返します。

終わらせる場合は、リターンキーを押して下さい。

\* 画面表示の縮尺を小さくしている場合に、配置矢印の傾きがおかしくなる場合があります。

このような時は、該当部分を拡大してコマンド実行して下さい。

\* 矢印サイズ、矢印タイプの変更は ” 修飾図関係設定変更 (EASYSYS2) ” コマンドにて行います。

\* 既にブロック化された矢印図形には作図できません。

## ARROW4 [両側矢印作成]

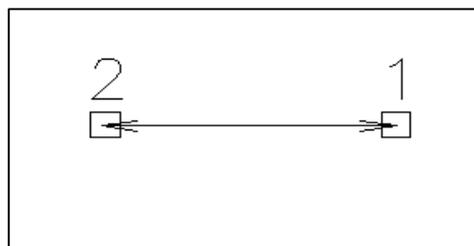


2点を指示して両側矢印を作成する。

コマンドプロンプト	ARROW4
ツールバー [修飾図]	矢印線 → 
プルダウン [イメージCAD II →修飾図]	#矢印線 → #両側矢印作成

◆両側矢印作成コマンドは、指示点間に両側矢印を作成する場合に使用します。

1. [#両側矢印作成]アイコン  をクリックします。
2. 始点を指示 : 1を指示
3. 終点を指示 : 2を指示

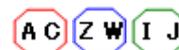


4. 2～3を繰り返します。  
終わらせる場合は、リターンキーを押して下さい。

\*作成した図形はブロック化されます。

\*矢印サイズ、矢印タイプの変更は”修飾図関係設定変更(EASYSYS2)”コマンドにて行います。

## ARROW5[片側矢印作成]

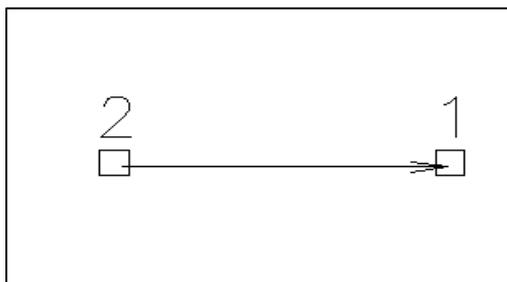


始点側に矢印を作成する。

コマンドプロンプト	ARROW5
ツールバー [修飾図]	矢印線 → 
プルダウン [イージCAD II →修飾図]	#矢印線 → #片側矢印作成

◆片側矢印作成コマンドは、始点側に矢印を作成する場合に使用します。

1. [#片側矢印作成]アイコン  をクリックします。
2. 矢印の配置点を指示：1を指示  
\*矢印の先端となる点を指示して下さい。
3. 尾の終点を指示：2を指示

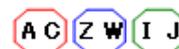


4. 2～3を繰り返します。  
終わらせる場合は、リターンキーを押して下さい。

\*作成した図形はブロック化されます。

\*矢印サイズ、矢印タイプの変更は”修飾図関係設定変更(EASYSYS2)”コマンドにて行います。

## RAD2 [任意半径]

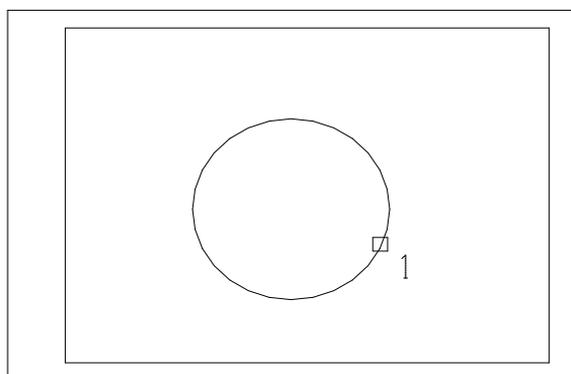


円または円弧の半径を引き出し線を付けて記入する。

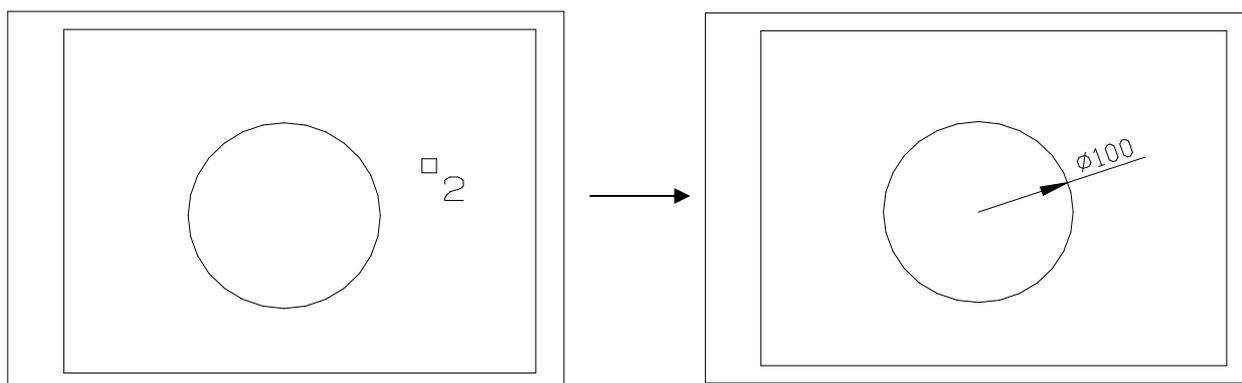
コマンドプロンプト	RAD2
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イメージCAD II → 寸法]	#任意半径

◆任意半径コマンドは、円または円弧に半径寸法を記入する場合、寸法値を引出線を付けて円または円弧の外に記入したい場合に使用します。

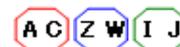
1. [#任意半径]アイコン をクリックします。
2. 円または円弧を選択：1を指示



3. 寸法値の位置を指定：2を指示



## DIAM2 [任意直径]



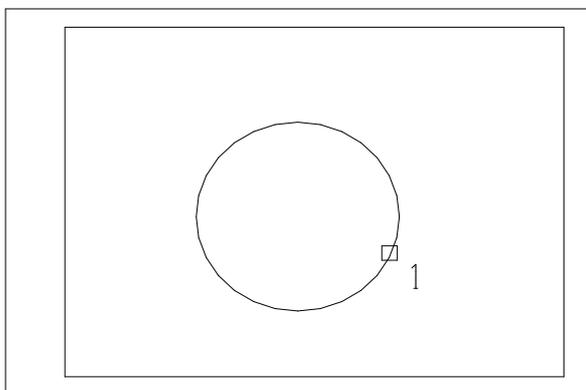
円または円弧の直径を引き出し線を付けて記入する。

コマンドプロンプト	DIAM2
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イメージCAD II →寸法]	#任意直径

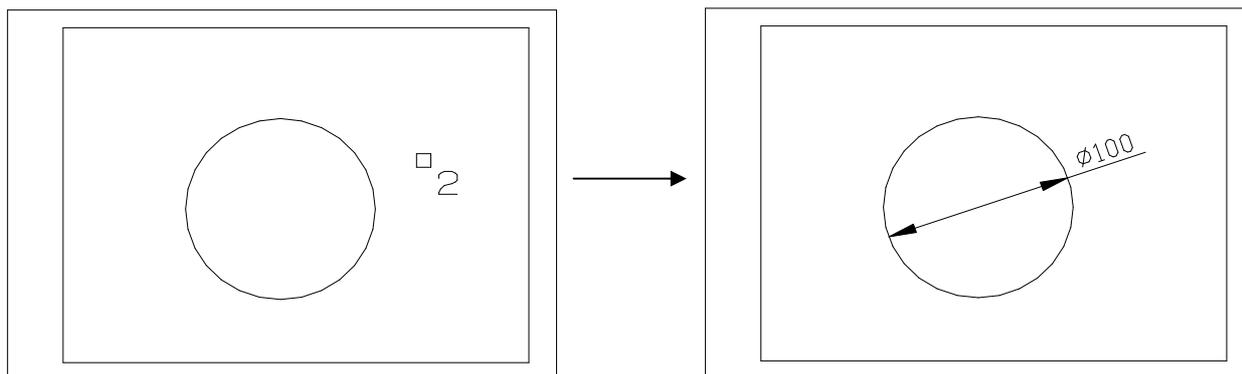
◆任意直径コマンドは、円または円弧に直径寸法を記入する場合、寸法値を引出線を付けて円または円弧の外に記入したい場合に使用します。

1. [#任意直径]アイコン  をクリックします。

2. 円または円弧を選択：1を指示



3. 寸法値の位置を指定：2を指示



# DIMCHASE[追い寸法記入]



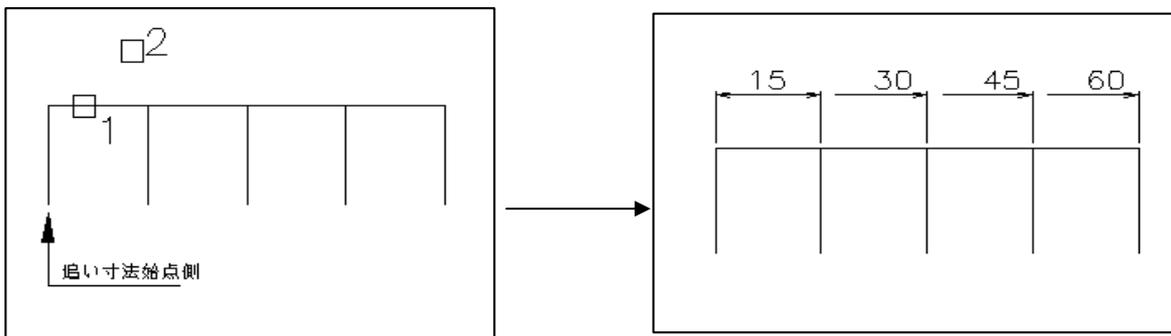
基準線と交差する図形とのそれぞれの交点に寸法を追加する。

コマンドプロンプト	DIMCHASE
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イージCAD II →寸法]	#追い寸法記入

◆ 追い寸法記入コマンドは、基準線と交差する図形とのそれぞれの交点に寸法を記入する場合に使用します。

\* 追い寸法を記入する図形は線分、またはポイントラインで作成して下さい。

1. [#追い寸法記入]アイコン をクリックします。
2. 基準線を指示(リターン=終了) : 1 を指示  
\* 寸法記入するライン、またはポイントライン図形の寸法の始点側を指示して下さい。
3. 寸法線の位置を指示 : 2 を指示  
\* 寸法線を配置する位置を指示して下さい。



\* 始点側の始めの交点からの距離が寸法値として表示されます。

\* 矢印サイズ、寸法値文字高さ、小数点以下の表示桁数は DIMSTYLE コマンド (プルダウン : 形式(&0) → 寸法スタイル管理) にて変更することができます。

# LEADER1 [引出し線(1/2)]



指定した点から引出し線を作成し寸法値を表示する。

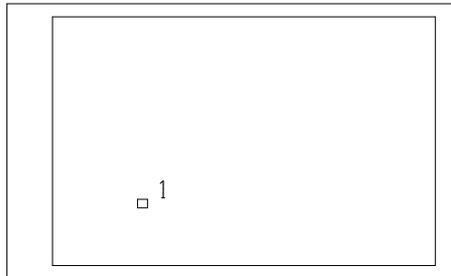
コマンドプロンプト	LEADER1
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イメージCAD II →寸法]	引出線 → #引出し線

◆引出線コマンドは、引出線を作成する場合に使用します。  
矢印線は複合図形、寸法値は文字列(TEXT)で作成されます。

1. [#引出し線]アイコン をクリックします。

2. どこから：1を指示

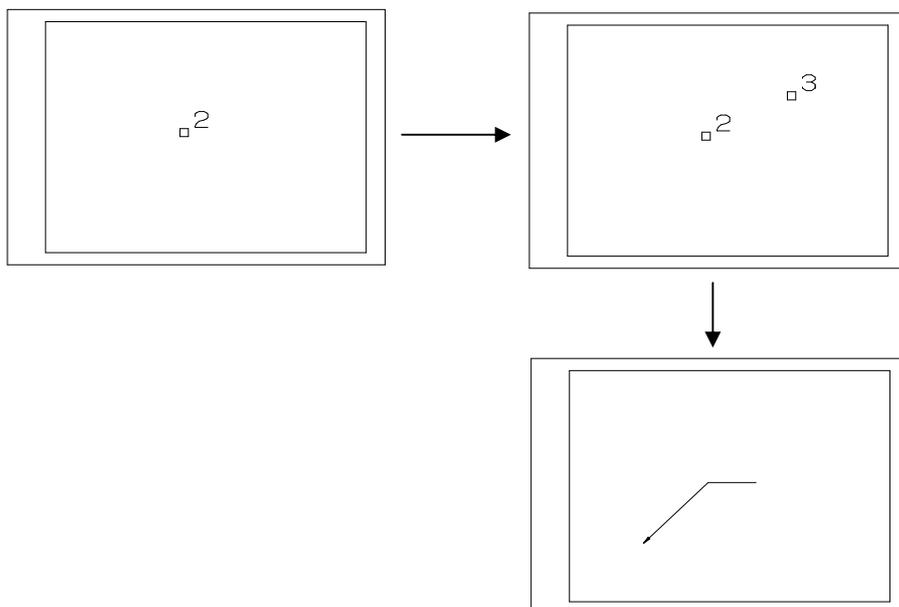
\* 矢印の先端を配置する位置を指示して下さい。



3. どこへ：2を指示

\* 引出線の頂点となる点を全て指示して下さい。

\* 2点目以降の最後に指示する点は、文字列を左右どちらに配置するかの方向指示になります。点を指示しますと自動で水平な線に修正されますので、直交モードを使用する必要はありません。

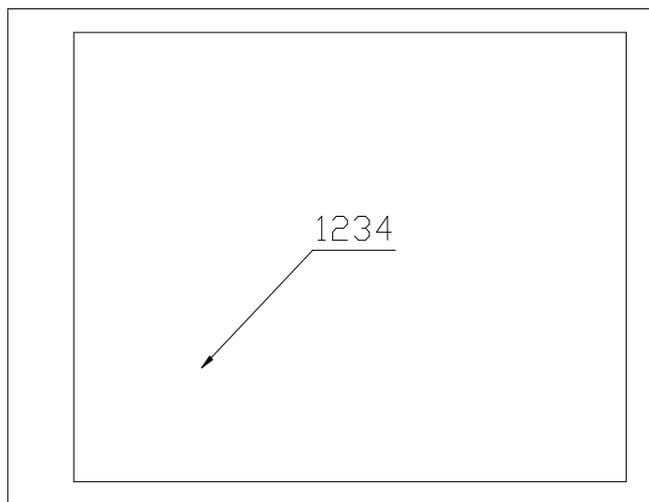


## LEADER1 [引出し線(2/2)]

指定した点から引出し線を作成し寸法値を表示する。

コマンドプロンプト	LEADER1
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イージCAD II → 寸法]	引出線 → #引出し線

4. 寸法値：1234



\* 矢印サイズ、矢印タイプ、文字高さの設定は **DIMSTYLE** コマンド  
(プルダウン：形式(&0) → 寸法スタイル管理) にて変更する事ができます。

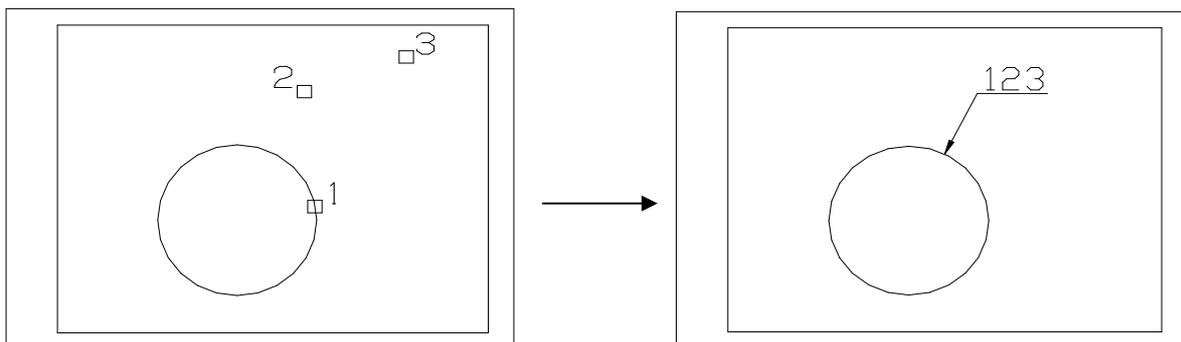
円中心点からの延長線上に引出線を配置する。

コマンドプロンプト	CLEADER
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イージCAD II → 寸法]	引出線 → #円引出線

◆円引出線コマンドは、円の中心点からの延長線上に引出線を配置したい場合に使用します。

矢印線は複合図形、寸法値は文字列(TEXT)で作成されます。

1. [#円引出線]アイコン をクリックします。
2. 円または円弧を指示：1を指示  
\*円の中心からカーソルが表示されます。
3. どこへ：2、3を指示  
\*引出線を配置する2点目以降の点を順に指示し、リターンキーを押して下さい。  
\*2点目以降の最後に指示する点は、文字列を左右どちらに配置するかの方向指示になります。点を指示しますと自動で水平な線に修正されますので、直交モードを使用する必要はありません。
4. 文字列：123



\*矢印サイズ、矢印タイプ、文字高さの設定は DIMSTYLE コマンド  
(プルダウン：形式(0)→寸法スタイル管理)にて変更する事ができます。

# DIMROT [傾斜寸法記入]



指示した角度で寸法線を配置する。

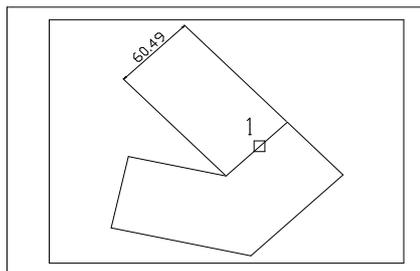
コマンドプロンプト	DIMROT
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イージCAD II → 寸法]	#傾斜寸法記入

◆傾斜寸法記入コマンドは、始終点角度に関係なく指示した角度で寸法線を配置する場合に使用します。

1. [#傾斜寸法記入]アイコン をクリックします。
2. 角度<リターン=参照>: リターンキーを押します。  
\*配置する角度が明確な場合、角度を入力して下さい。  
図形の角度を参照する場合、リターンキーを押して下さい。

<角度を参照する場合>

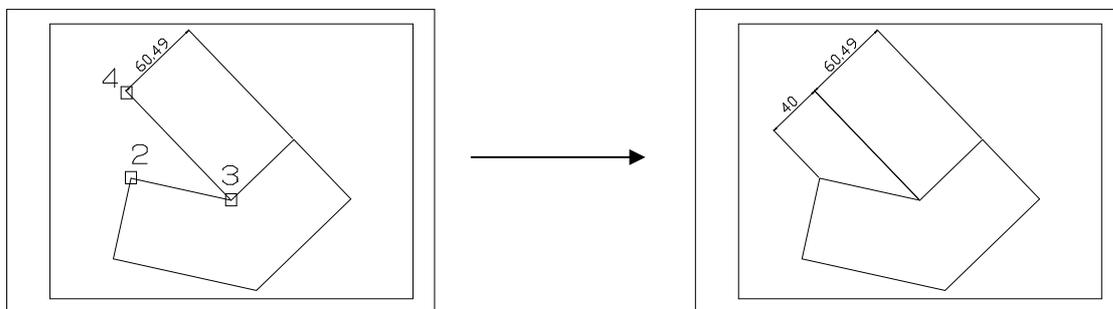
- ・角度参照する図形を指示: 1 を指示



3. 1本目の寸法補助線の始点を指示: 2 を指示
4. 2本目の寸法補助線の始点を指示: 3 を指示
5. 寸法線の位置を指定

または [マルチテキスト(M)/寸法値(T)/寸法値角度(A)]: 4 を指示

6. 寸法値<39.438>:40



\*矢印サイズ、矢印タイプ、文字高さの設定は DIMSTYLE コマンド  
(プルダウン: 形式(0) → 寸法スタイル管理) にて変更する事ができます。

# DIMR1 [コーナーR表示]

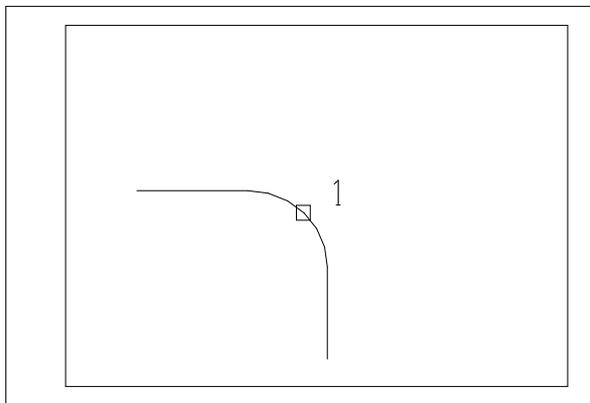


コーナー部にR値を表示する。

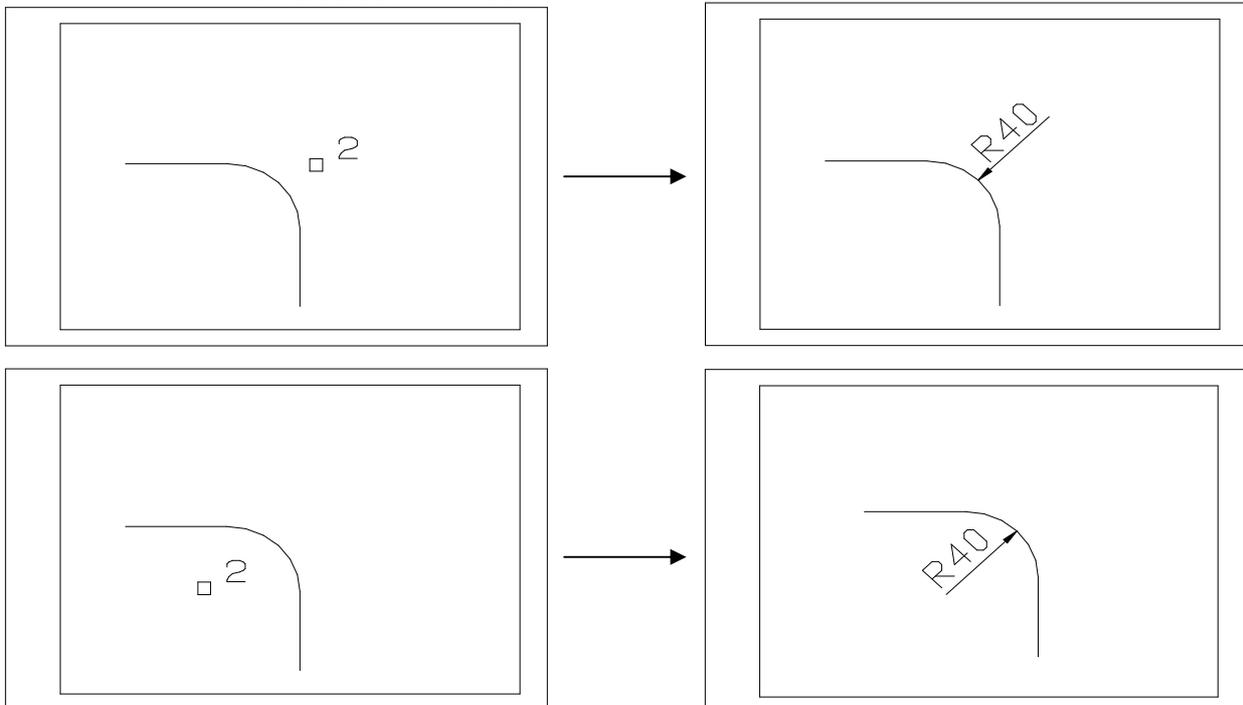
コマンドプロンプト	DIMR1
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イメージCAD II →寸法]	コーナー寸法→#コーナーR表示

◆コーナーR表示コマンドは、コーナー部にR寸法を表示したい場合に使用します。  
矢印線、寸法値は複合図形となります。

1. [#コーナーR表示]アイコン をクリックします。
2. コーナー部を指示：1を指示 円弧図形を指示して下さい。



3. 表示側を指示：2を指示



\* 矢印サイズ、矢印タイプ、文字高さの設定は DIMSTYLE コマンド  
(プルダウン：形式(0)→寸法スタイル管理)にて変更することができます。  
\* コーナー部として指示できる図形は円弧、ポリライン円弧です。

## DIMR2 [仮想コーナーR表示]

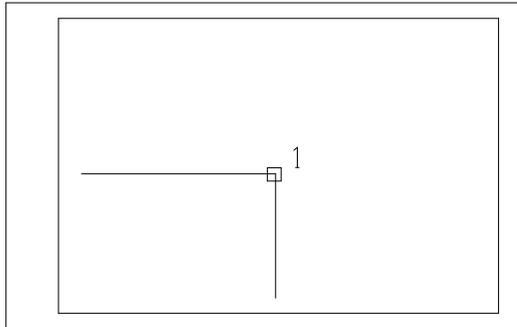


R部のない所にコーナーR寸法のみを表示する。

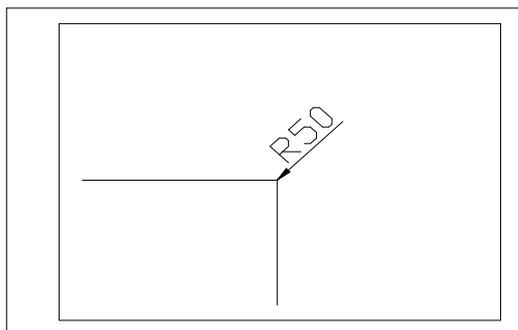
コマンドプロンプト	DIMR2
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イメージCAD II →寸法]	コーナー寸法 → #仮想コーナーR表示

◆仮想コーナーR表示コマンドは、R部分のない所にR寸法を表示したい場合に使用します。  
矢印線、寸法値は複合図形となります。

1. [#仮想コーナーR表示]アイコン をクリックします。
2. コーナー部を指示：1 を指示  
\* 下図の様に交点を指示する場合、0スナップ を使用して下さい。



3. コーナーR値を入力：50  
\* 頭の”R” は自動で付きますので、数値のみ入力して下さい。
4. 表示角度入力：45



- \* 矢印サイズ、矢印タイプ、文字高さの設定は DIMSTYLE コマンド  
(プルダウン：形式(0)→寸法スタイル管理)にて変更する事ができます。
- \* コーナー部として指示できる図形は、線分、ポリラインです。

## DIMC1 [面取寸法表示]



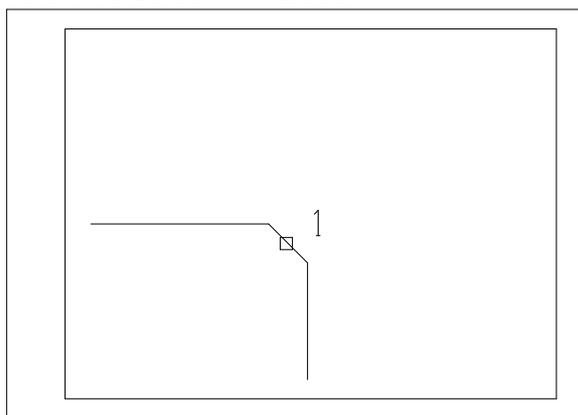
面取対象線が軸に平行な場合の面取り寸法を表示する。

コマンドプロンプト	DIMC1
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イージCAD II →寸法]	面取→#面取寸法表示

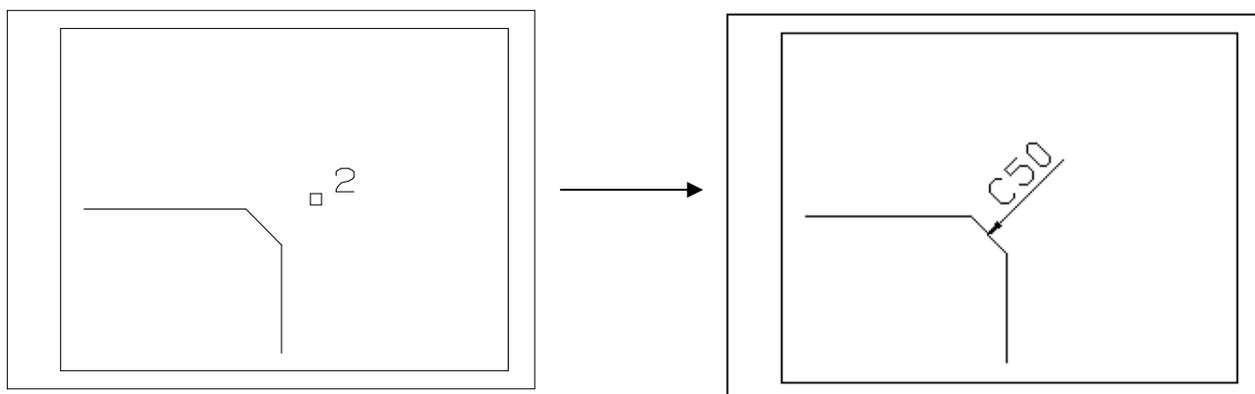
- ◆面取寸法表示コマンドは、面取り面に対して寸法線を配置する場合に使用します。  
矢印線、寸法値は複合図形となります。

1. [#面取寸法表示]アイコン をクリックします。

2. 面取り面を指示：1を指示



3. 表示側を指示：2を指示



\* 矢印サイズ、矢印タイプ、文字高さの設定は DIMSTYLE コマンド  
(プルダウン：形式(0)→寸法スタイル管理)にて変更する事ができます。

## DIMC2 [任意面取寸法表示(1/2)]



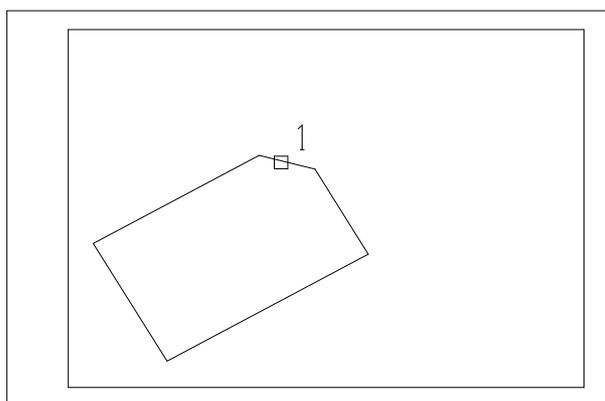
面取対象線が軸に平行でない場合の面取り寸法を表示する。

コマンドプロンプト	DIMC2
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イージCAD II →寸法]	面取→#任意面取寸法表示

- ◆任意面取寸法表示コマンドは、面取り対象軸がX軸、Y軸にそれぞれ平行でない面取りに対して面取り寸法を配置する場合に使用します。  
矢印線、寸法値は複合図形となります。

1. [#任意面取寸法表示]アイコン  をクリックします。

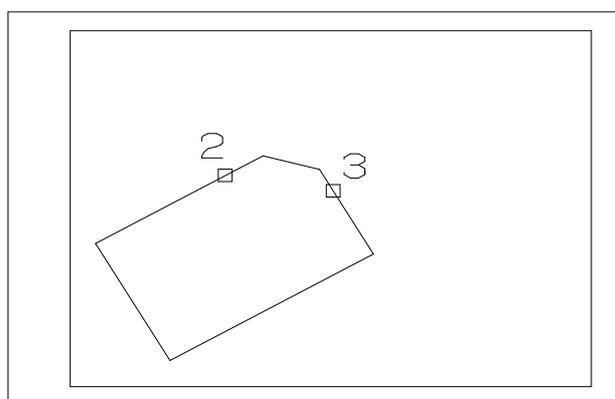
2. 面取り面を指示：1を指示



3. 一本目の線を指示：2を指示

4. 二本目の線を指示：3を指示

\* 2、3は逆に指示しても構いません。



## DIMC2 [任意面取寸法表示(2/2)]

面取対象線が軸に平行でない場合の面取り寸法を表示する。

コマンドプロンプト	DIMC2
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イージCAD II →寸法]	面取→#任意面取寸法表示

面取りの距離 1、2 が違う場合、以下のメッセージが表示されます。

### 面取り寸法が同じではありません ###

面取りの距離 1、2 が同じ場合 7.へ進んで下さい。

5. 面取り値を指示しますか? (Y/N) <N> :

\* 面取り寸法を表示せず、コマンドを終了する場合 N を入力して下さい。

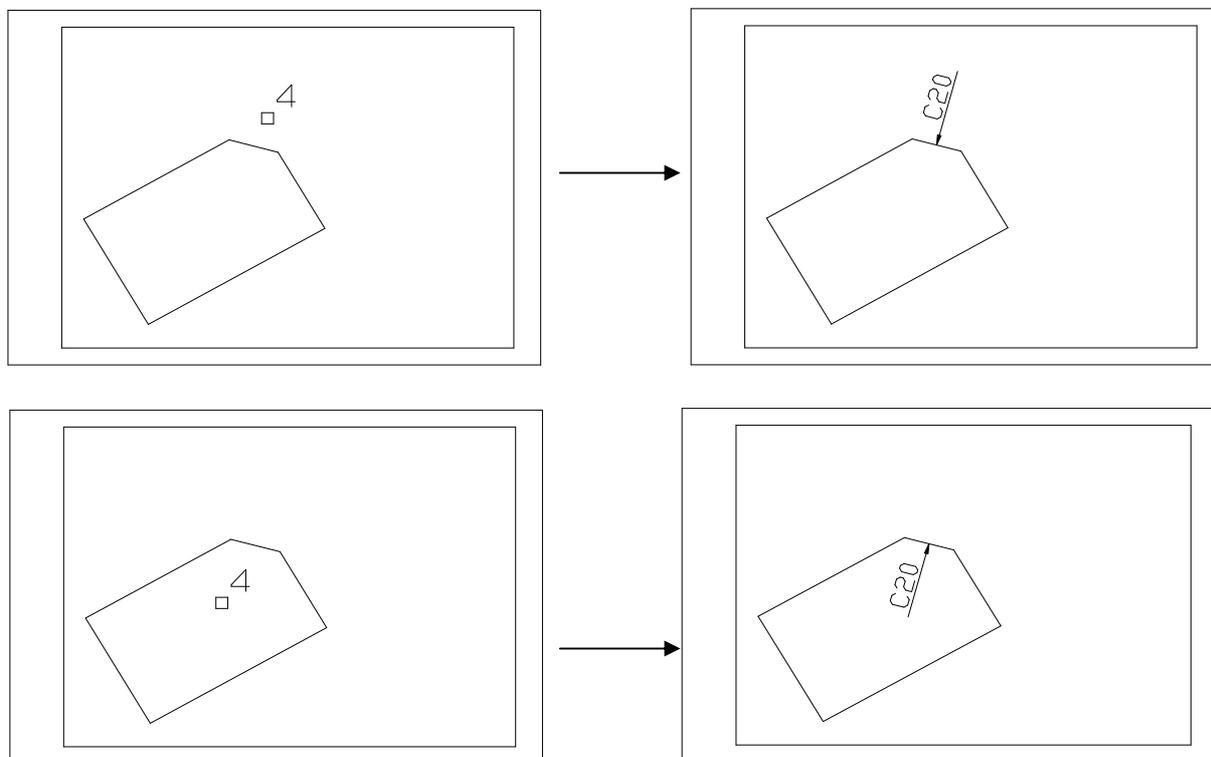
\* 面取り寸法を表示する場合 Y を入力して下さい。

6. 面取り寸法は L1=20 L2=10 です

面取り値を入力 : 20

\* 自動的に、数値の頭に” C” が付けられます

7. 表示側を指示 : 4 を指示



\* 矢印サイズ、矢印タイプ、文字高さの設定は DIMSTYLE コマンド

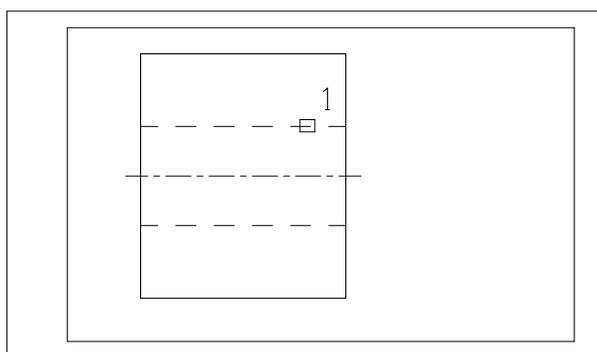
(プルダウン : 形式(0) → 寸法スタイル管理)にて変更する事ができます。

面取部のない所に面取値を表示する。

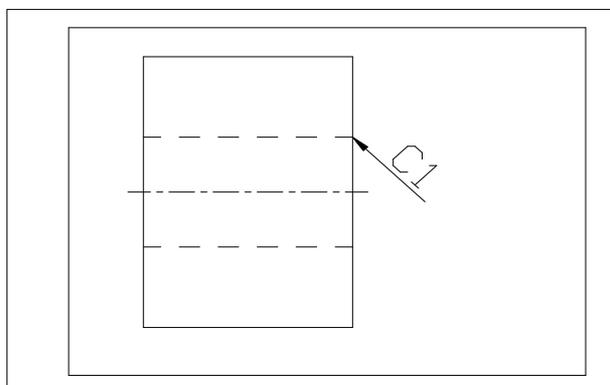
コマンドプロンプト	DIMC3
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イージCAD II →寸法]	面取→#仮想面取寸法表示

- ◆仮想面取寸法表示コマンドは、面取り距離が小さく面取りが行えない箇所に面取り寸法のみ配置したい場合に使用します。  
矢印線、寸法値は複合図形となります。

1. [#仮想面取寸法表示]アイコン をクリックします。
2. 面取りコーナー部を指示：1を指示  
\*ポリラインまたは線分を指示して下さい。  
\*指示された方に近い側の端点を基点に寸法線を作成します。



3. 面取り値入力：1  
\*自動的に頭に”C”が付きますので、数値のみ入力して下さい。
4. 表示角度入力<リターン=0>：315



- \*矢印サイズ、矢印タイプ、文字高さの設定は DIMSTYLE コマンド  
(プルダウン：形式(0)→寸法スタイル管理)にて変更する事ができます。

# ARCLLEN [弧長(1/3)]



円および円弧の弧長寸法の記入を行う。

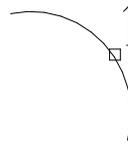
コマンドプロンプト	ARCLLEN
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イージCAD II →寸法]	#弧長

◆弧長コマンドは、円または円弧に対して弧の長さに対する寸法線を配置する場合に使用します。

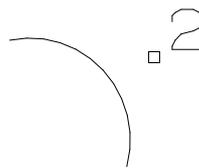
\*弧長寸法を配置するには2つの方法がありますので、用途に合った配置方法の手順を参照して下さい。

《円弧に対して始終点間の長さ記入する場合》

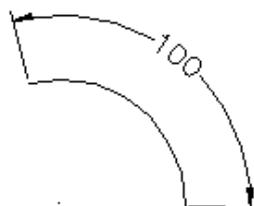
1. [#弧長]アイコン をクリックします。
2. 円および円弧を指示：1を指示



3. 始点を指示 (リターンキー=始終点間長) :
4. 寸法線の位置を指示：2を指示



5. 寸法値<100> :  
\* 寸法値を変更する場合、手入力して下さい。  
規定値を使用する場合、リターンキーを押して下さい。



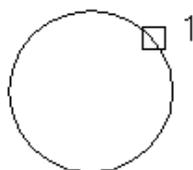
## ARCLEN [弧長(2/3)]

円および円弧の弧長寸法の記入を行う。

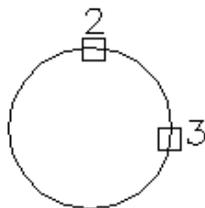
コマンドプロンプト	ARCLEN
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イージCAD II →寸法]	#弧長

《指示した2点間の弧長を記入する》

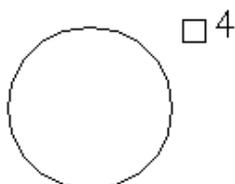
1. [#弧長]アイコン  をクリックします。
2. 円および円弧を指示：1を指示  
\*必ず、寸法線を配置する側を指示して下さい。  
手順2. 3. で指示する2と3の間を指示して下さい。



3. 始点を指示 (リターンキー=始終点間長) : 2を指示
4. 終点を指示 : 3を指示  
\*弧長を表示する部分の始終点を指示して下さい。



5. 寸法線の位置を指示 : 4を指示  
\*寸法線を配置する位置を指示して下さい。



## ARCLEN [弧長(3/3)]

円および円弧の弧長寸法の記入を行う。

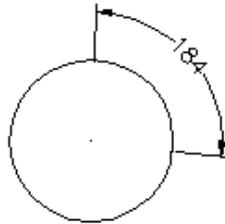
コマンドプロンプト	ARCLEN
ツールバー [ECAD寸法記入]	
プルダウン [イージCAD II →寸法]	#弧長

6. 寸法値<184> : 

\* 寸法値を入力して下さい。

\* <>の中に実寸値が表示されますので、実寸値を使用する場合  
そのままリターンキーを押して下さい。

値を変更する場合、値を入力しリターンキーを押して下さい。



\* 小数点以下の表示桁数は、 DIMSTYLEコマンド

(プルダウン：形式(0)→寸法スタイル管理) より [基本単位]タグ→長さ寸法精度  
にて変更する事ができます。

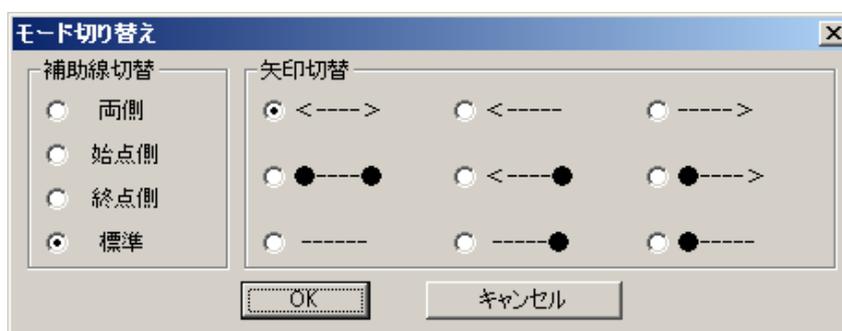
## 寸法補助線、寸法矢印のモードを切替える。

コマンドプロンプト	DIMMODE
ツールバー [寸法編集]	
プルダウン [イメージCAD II →寸法]	#寸法編集→#モード切替

◆モード切替コマンドは、矢印をドットや矢印無しに設定する場合や補助線の省略を設定する場合に使用します。

1. [#モード切替]アイコン をクリックします。

\*下図のダイアログボックスが表示されますので、該当する項目を選択して下さい。



### \* 補助線切替

- ・両側 --- 両側の補助線を省略します。
- ・始点側 --- 始点側の補助線を省略します。
- ・終点側 --- 終点側の補助線を省略します。
- ・標準 --- 両方の補助線を表示します。

### \* 矢印切替

矢印タイプが絵で表示されていますので、該当する矢印を選択して下さい。

\*モード切替終了後に作成される寸法線に対して設定値が有効になります。

### <注意>

- ・寸法スタイル管理で矢印のタイプがドットに設定されていると矢印の表示ができません。  
ドットから矢印に切替える場合は、寸法関係設定変更コマンドで矢印のタイプを矢印に変更後、切替えて下さい。

## DIMPOSI [移動]



寸法線の表示位置を任意な位置に移動させる。

コマンドプロンプト	DIMPOSI
ツールバー [寸法編集]	
プルダウン [イメージCAD II →寸法]	#寸法編集 → #移動

◆移動コマンドは、寸法線及び寸法値の位置を変更する場合に使用します。

1. [#移動]アイコン  をクリックします。
2. 寸法オブジェクトを選択：  
\* 移動する寸法線を指示して下さい。
3. カーソルに合わせて寸法線が移動しますので、目的点を指示して下さい。

表示されている寸法線文字高さを任意な高さに変更する。

コマンドプロンプト	DIMTHT
ツールバー [寸法編集]	
プルダウン [イメージCAD II →寸法]	#寸法編集 → #文字高さ

◆文字高さコマンドは、寸法値文字高さを変更する場合に使用します。

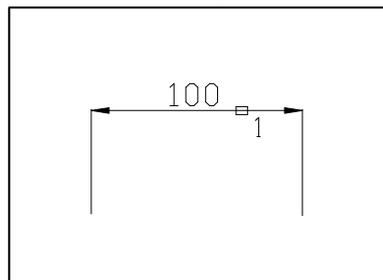
1. [#文字高さ]アイコン をクリックします。

2. 文字高さを変更する寸法線を指示

オブジェクトを選択：1を指示

\*変更する寸法線が複数有る場合、窓で囲んで選択する事もできます。

窓で他の図形と一緒に囲んでしまった場合でも、寸法線のみ認識するようになっています。



3. 新しい文字高さ<リターン=5.0>：

\*文字高さは、実寸値で入力して下さい。

\*<>の中には、”寸法スタイル管理”の文字高さで設定されている

値が表示されます。設定値を使用する場合、リターンキーを押して下さい。

\*文字スタイルで文字高さを”0”以外の値に設定している場合、文字高さを変更する事はできません。

## DIMTED1 [文字位置]



寸法値の位置を任意の位置へ変更する。

コマンドプロンプト	DIMTED1
ツールバー [寸法編集]	
プルダウン [イメージCAD II →寸法]	#寸法編集→#文字位置

◆文字位置コマンドは、寸法線の寸法値のみを任意の位置へ移動する場合に使用します。

1. [#文字位置]アイコン  をクリックします。

2. オブジェクトを選択：寸法線を指示

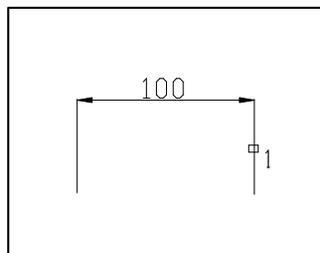
\* 指示された寸法線の、寸法値の中央を基点にカーソルに合わせて移動しますので、目的点を指示して下さい。  
指示された位置に寸法値が配置されます。

寸法線を任意な位置に引出し線を付けて表示する。

コマンドプロンプト	DIMLEAD
ツールバー [寸法編集]	
プルダウン [イメージCAD II →寸法]	#寸法編集 → #引出

◆引出コマンドは、寸法値を引出し寸法に変更する場合に使用します。  
矢印線は複合図形、寸法値は文字列(TEXT)で作成されます。

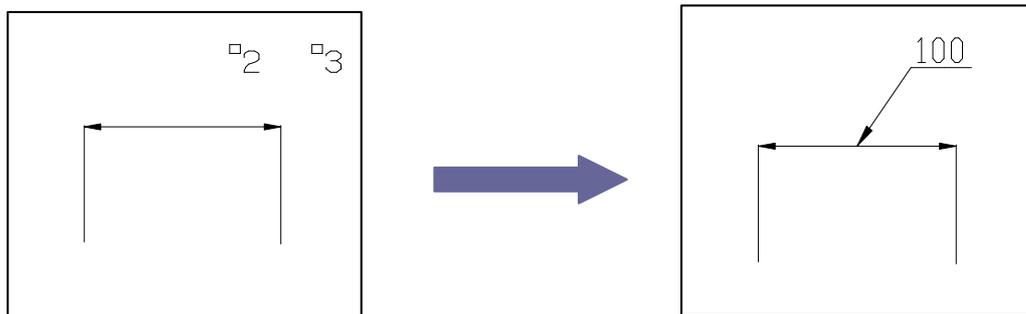
1. [#引出]アイコン をクリックします。
2. 引き出す寸法線を指示：1を指示



\*引出線の1点目を自動的に補助線の真ん中に決定し、2点目以降の点入力モードになりますので、配置点を指示して下さい。

3. どこへ：2を指示
4. どこへ：3を指示

\*例では3点目までを指示し、位置を決定します。  
点を全て指示したら、リターンキーを押して下さい。



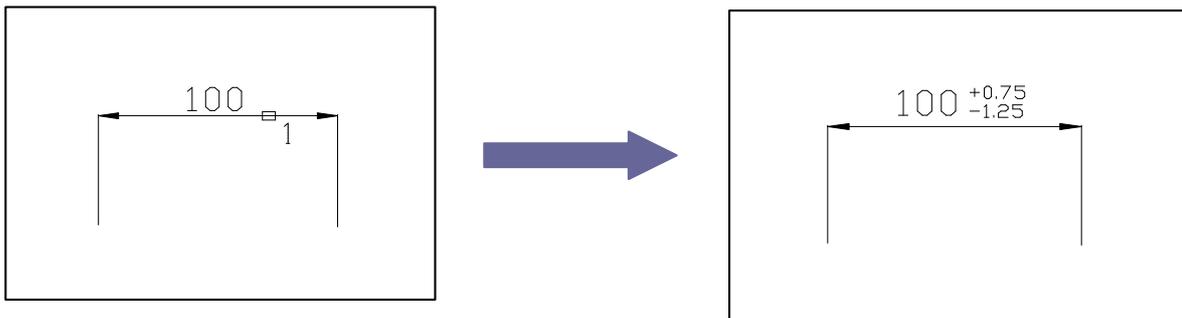
\*矢印サイズ、矢印タイプ、文字高さの設定は DIMSTYLE コマンド  
(プルダウン：形式(&0)→寸法スタイル管理)にて変更することができます。

寸法図形を寸法公差付きの図形に編集する。

コマンドプロンプト	KOUSA
ツールバー [寸法編集]	
プルダウン [イメージCAD II →寸法]	#寸法編集 → #公差編集

◆公差編集コマンドは、寸法値を公差付き寸法に変更する場合に使用します。

1. [#公差編集]アイコン をクリックします。
2. 寸法公差（上段）：0.75  
\*上段に表示する公差値を入力して下さい。  
(頭に自動的に”+”が付きます。マウスの数値を入力しますとマウスの値で表示されます。)
3. 寸法公差（下段）：1.25  
\*下段に表示する公差値を入力して下さい。  
(頭に自動的に”-”が付きます。マウスの数値を入力しますとプラスの値で表示されます。)
4. オブジェクトを選択：1を指示  
\*公差値に変更する寸法線を指示して下さい。



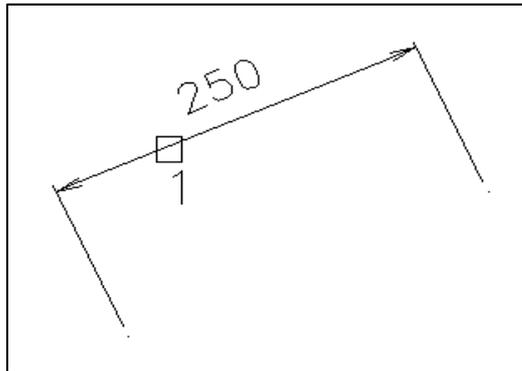
\*公差の文字尺度は DIMSTYLEコマンド (プルダウン：形式(&0)→寸法スタイル管理)にて変更する事ができます。

ハメアイ寸法公差を既存の寸法線に記入します。

コマンドプロンプト	DIMFALLO
ツールバー [寸法編集]	
プルダウン [イージCAD II →寸法]	#寸法編集 → #ハメアイ寸法公差

◆ハメアイ寸法公差コマンドは、既存の寸法線に、ハメアイ寸法公差を記入するとき 사용합니다。

1. [#ハメアイ寸法公差]アイコン をクリックします。
2. 「オブジェクトを指示:」と表示されますので、ハメアイ寸法公差を記入する寸法線を指示します。(例: 1 をクリック)



### 3. ハメアイ寸法公差

ハメアイ寸法公差値を入力するダイアログが表示されます。

ここで、「軸/穴」、「φあり/なし」「寸法許容値のみ/符号・等級のみ/符号・等級・寸法許容値」の選択をし、決定します。

また、手入力による入力もできます。(データベースに入っているサイズ以上の寸法線の場合は、上限・下限値が自動で挿入されない場合がありますので、ご注意ください。)

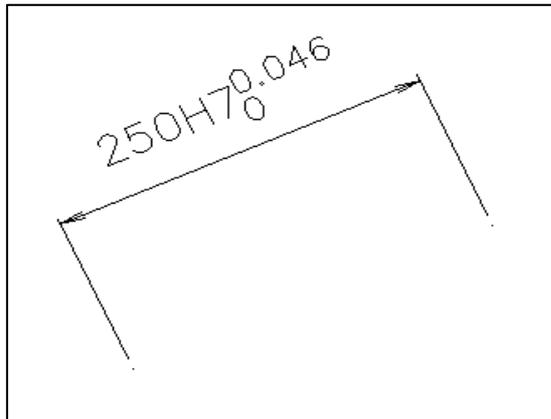
## DIMFALLO[ハメアイ寸法公差(2/2)]

ハメアイ寸法公差を既存の寸法線に記入します。

コマンドプロンプト	DIMFALLO
ツールバー [寸法編集]	
プルダウン [イメージCAD II →寸法]	#寸法編集 → #ハメアイ寸法公差

4. 選択・入力がおわりましたら、[OK]ボタンを押します。

5. ハメアイ寸法値に寸法が書き換わります。



\*例は、長さ250 mm、許容符号「H7」、許容値・符号・等級をすべて表示した場合です。

\*ハメアイ寸法公差値は、JIS規格値を使用しています。

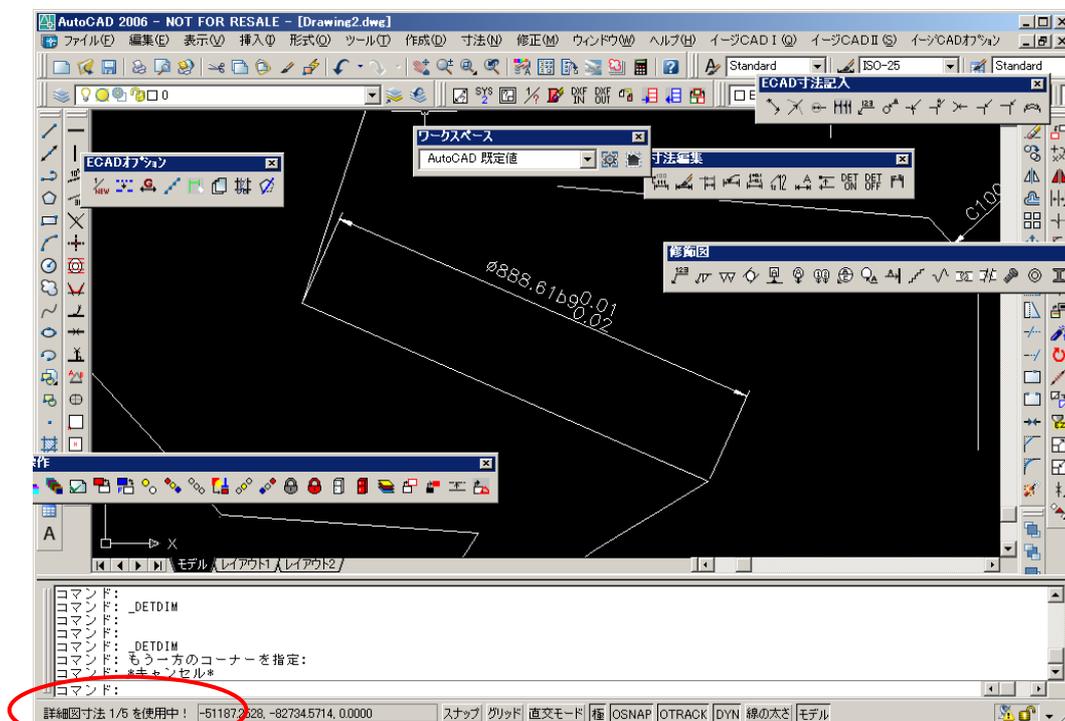
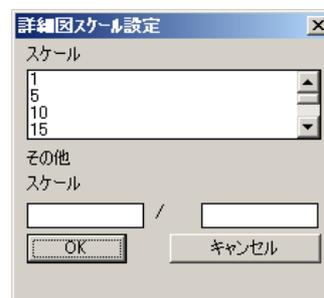
\*公差値が表示されない場合は、イメージCADの持つハメアイ寸法公差値のデータベース値よりも小さい（または大きい）場合です。

詳細図用寸法線を作成する。

コマンドプロンプト	DETDIM
ツールバー [寸法編集]	
プルダウン [イメージCAD II →寸法]	#寸法編集 → #詳細図寸法

- ◆詳細図寸法コマンドは、詳細図に対して寸法線を作成する場合に使用します。  
 詳細図スケールを選択する事で、拡大している図形に対しても実寸値で寸法値を表示します。

- [#詳細図寸法]アイコン をクリックします。
- 右図のダイアログボックスが表示されます。  
 詳細図で使用するスケールを一覧より選択して下さい。
4. 画面左下に、詳細図寸法メッセージが表示されます。  
 このメッセージが表示されている間は、寸法値が寸法値 X (詳細図 ÷ 図面スケール) の値となりますので注意して下さい。



\* 詳細図寸法モードを解除する場合、詳細図寸法解除(UNDETDIM)を実行して下さい。(次頁参照)

## UNDETDIM [詳細図寸法解除]



詳細図用寸法作成モードを解除する。

コマンドプロンプト	UNDETDIM
ツールバー [寸法編集]	
プルダウン [イメージCAD II →寸法]	#寸法編集→#詳細図寸法解除

◆詳細図寸法解除コマンドは、詳細図寸法コマンドにて詳細図寸法作成モードに入っている状態を解除する場合に使用します。

1. [#詳細図寸法解除]アイコン をクリックします。  
\* 下記のメッセージが表示され、モードが解除されます。

!! 寸法値尺度を 1 に戻しました。

# TXTHT [文字高さ一括変更(1/2)]



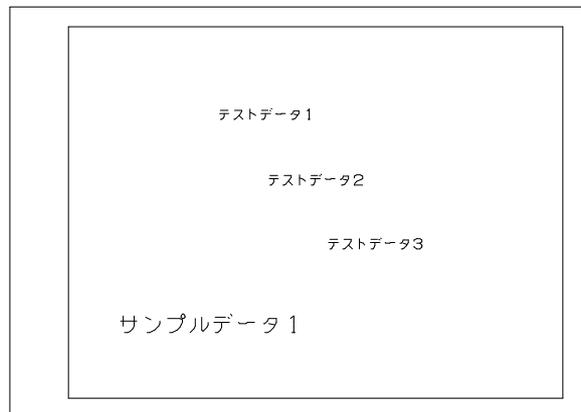
表示されている文字列の文字高さを任意な高さに変更する。

コマンドプロンプト	TXTHT
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イメージCAD II →修正]	文字→ #文字高さ一括変更

◆文字高さ一括変更コマンドは、既に作図されている文字列に対して文字高さを変更したい場合に使用します。

1. [#文字高さ一括変更]アイコン をクリックします。

\*下図の図面内に有る文字列を全て同じ文字高さにする場合を例に説明します。



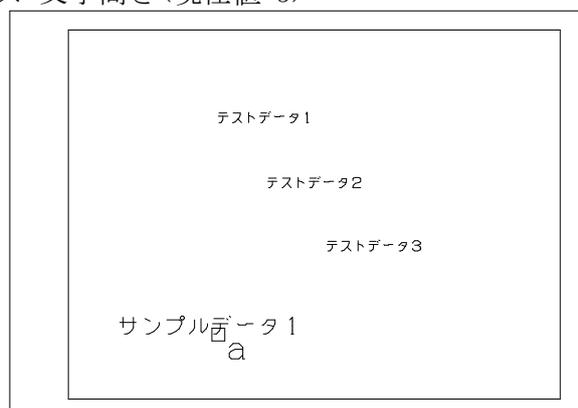
2. 文字高さ<リターン=参照図形指示> : 5

\*新しい文字高さが分かっている場合、数値を手入力して下さい。

\*他の文字列から文字高さを参照する場合

参照図形指示 : a を指示 (指示された文字列の文字高さが  
コマンドプロンプト上に表示されます。)

新しい文字高さ<現在値=3>



## TXTHT [文字高さ一括変更(2/2)]

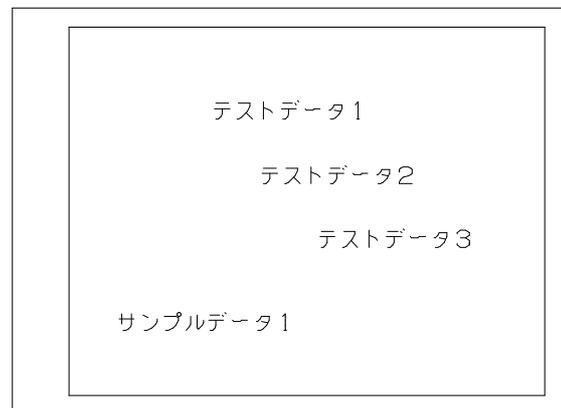
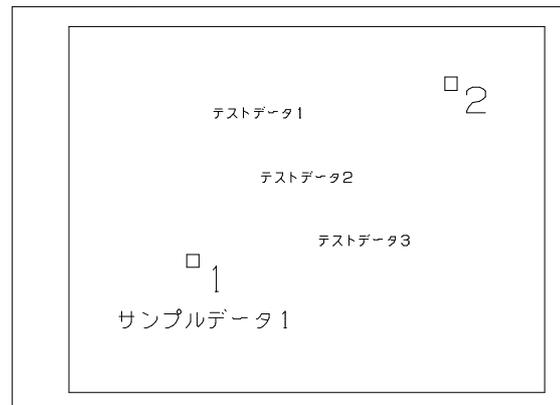
表示されている文字列の文字高さを任意の高さに変更する。

コマンドプロンプト	TXTHT
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→ #文字高さ一括変更

3. オブジェクトを選択：1と2を指示

\* 変更する文字列を指示して下さい。

(例の場合、変更する文字列を窓で囲みます。)



## TXTED [文字一括置換(1/2)]



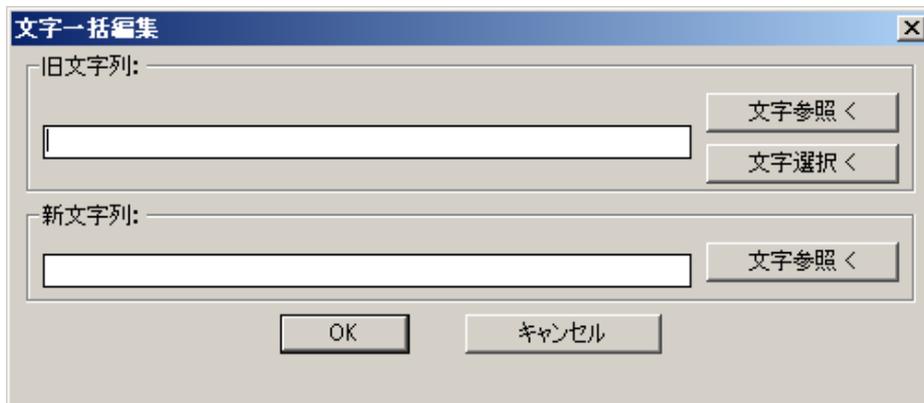
文字列を一括で置換する。

コマンドプロンプト	TXTED
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→#文字一括置換

◆文字一括置換コマンドは、既に作図されている文字列を変更したい場合に使用します。

1. [#文字一括置換]アイコン をクリックします。

\* 下図のダイアログボックスが表示されます。



2. 旧文字列を入力します。

下記の a ~ c いずれかの方法で、旧文字列を選択して下さい。

a. 旧文字列を旧文字列欄に手入力し、入力された文字列と同じ文字列を全て置換する。

a-1. 旧文字列を旧文字列欄に入力して下さい。

b. 旧文字列を参照し、指示した文字列と同じ文字列を全て置換する。

b-1. 旧文字列枠内の、”文字参照<”ボタンをクリックして下さい。

b-2. 旧文字列を指示：のメッセージで、参照する文字列を指示して下さい。

\* 旧文字列の欄に参照した文字列が表示されます。

c. 指示した文字列のみ置換する。

c-1. ”文字選択<”ボタンをクリックして下さい。

c-2. オブジェクト外選択：のメッセージで置換する文字列を全て指示して下さい。

\* 旧文字列欄に”選択文字”と表示されます。

## TXTED [文字一括置換(2/2)]

文字列を一括で置換する。

コマンドプロンプト	TXTED
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→#文字一括置換

3. 新文字列を入力して下さい。

下記の a～c いずれかの方法で、新文字列を選択して下さい。

a. 新文字列を新文字列欄に手入力し、旧文字列で選択された文字列を全て置換する。

a-1. 新文字列を新文字列欄に入力して下さい。

b. 新文字列を参照し、旧文字列で選択された文字列を参照した文字列に全て置換する。

b-1. 新文字列枠内の、”文字参照” ボタンをクリックして下さい。

b-2. 新文字列を指示：のメッセージで、参照する文字列を指示して下さい。

\* 新文字列の欄に参照した文字列が表示されます。

4. ”OK” ボタンをクリックして下さい。

\* 入力された内容で、文字列が置換されます。

# TXTST [文字スタイル一括変更(1/4)]



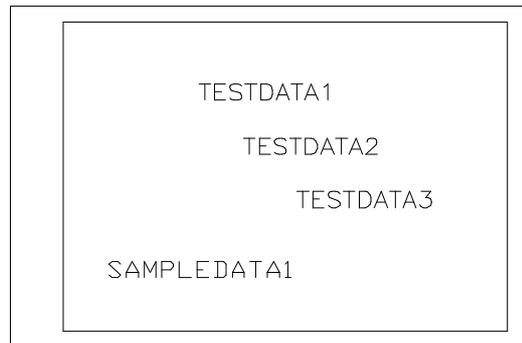
表示されている文字列の文字スタイルを変更する。

コマンドプロンプト	TXTST
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→#文字スタイル一括変更

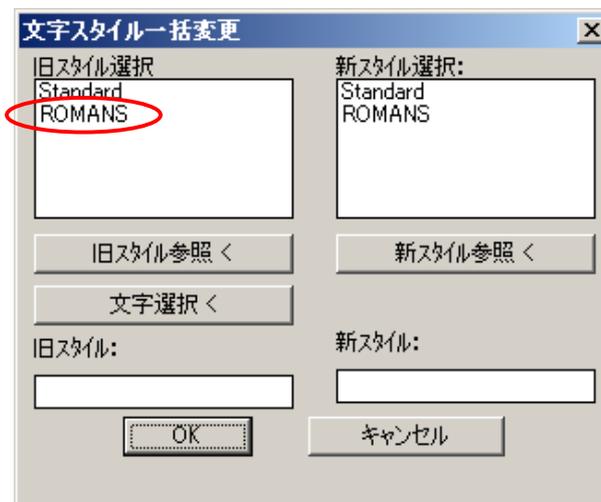
◆文字スタイル一括変更コマンドは、既に作図されている文字列に対して文字スタイルを変更したい場合に使用します。

1. [#文字スタイル一括変更]アイコン をクリックします。

\* 下図のTESTDATA1～3 (スタイル=ROMANS) をSAMPLEDATA1 (スタイル=STANDARD) と同じ文字スタイルにする場合を例に説明します。



2. 下記の a～c いずれかの方法で、旧スタイルを選択して下さい。  
a. あるスタイルで描かれた文字列を全て新しいスタイルに変更する場合  
旧スタイル一覧ボックスより、旧スタイル名を選択して下さい。  
(例の場合、ROMANSを選択します。)



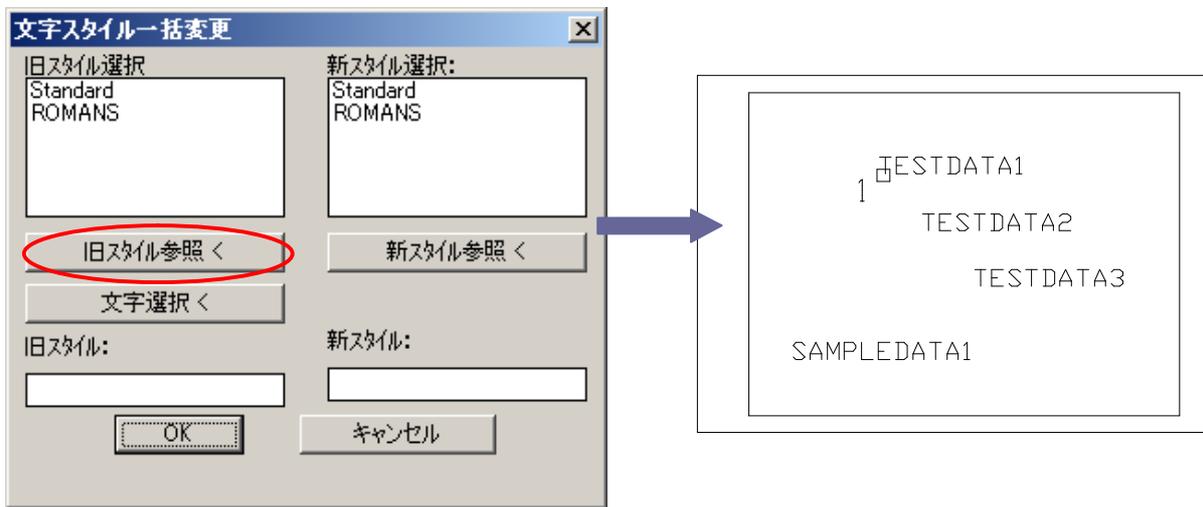
## TXTST [文字スタイル一括変更(2/4)]

表示されている文字列の文字スタイルを変更する。

コマンドプロンプト	TXTST
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イメージCAD II →修正]	文字→#文字スタイル一括変更

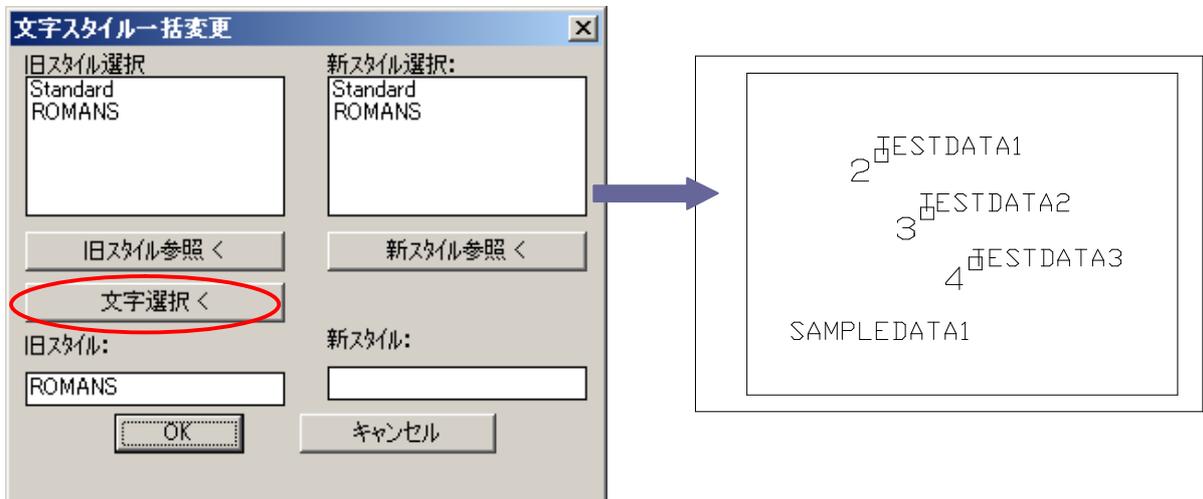
- b. ある文字と同じスタイルで描かれた文字列を全て新しい文字列に変更する場合  
旧スタイル参照ボタンをクリックし、旧スタイルを参照する文字列を選択：で参照する  
文字列を1つ指示して下さい。

(例の場合、TESTDATA1～3のいずれかを指示します。〈1を指示〉)



- c. スタイルに関係なく、指示した文字列を全て新しいスタイルに変更する場合  
文字選択ボタンをクリックし、オブジェクトを選択：でスタイルを変更する文字列  
指示して下さい。

(例の場合、TESTDATA1～3を指示します。〈2、3、4を指示〉)



## TXTST [文字スタイル一括変更(3/4)]

表示されている文字列の文字スタイルを変更する。

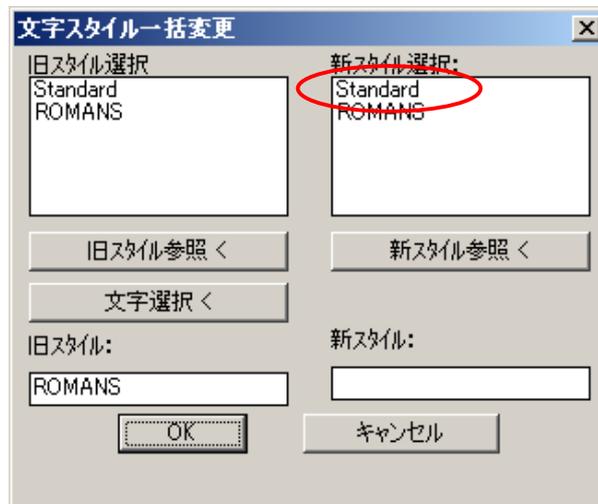
コマンドプロンプト	TXTST
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→#文字スタイル一括変更

3. 下記の a～c いずれかの方法で、新スタイルを選択して下さい。

a. 新スタイル名が分かっている場合

新スタイル一覧ボックスより、新スタイル名を選択して下さい。

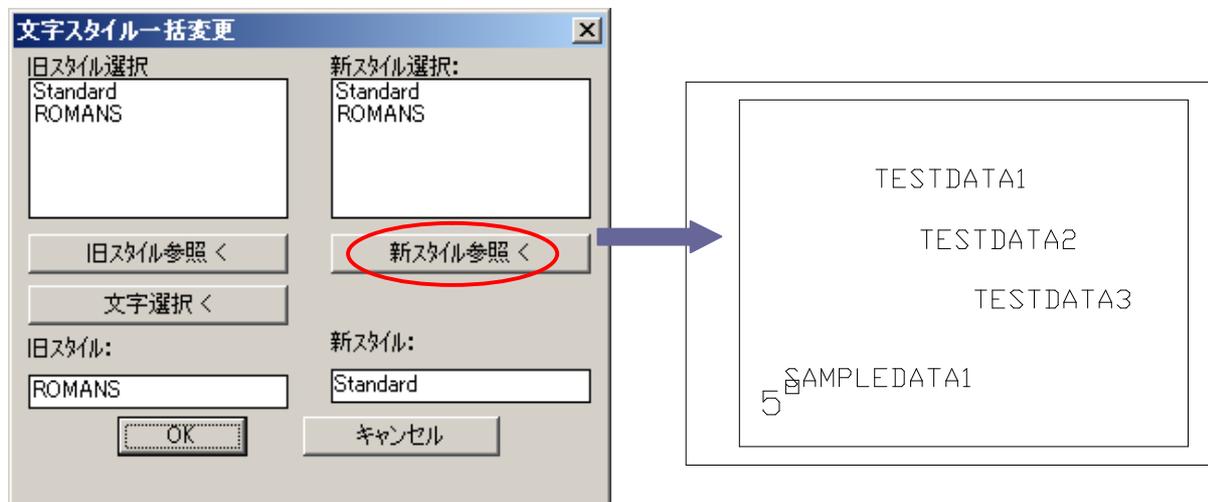
(例の場合、STANDARDを選択します。)



b. ある文字列のスタイルに合わせたい場合

”新スタイル参照” ボタンをクリックし、新スタイルを参照する文字列を指示：で文字列を指示して下さい。

(例の場合、SAMPLEDATA1を指示して下さい。〈5を指示〉)



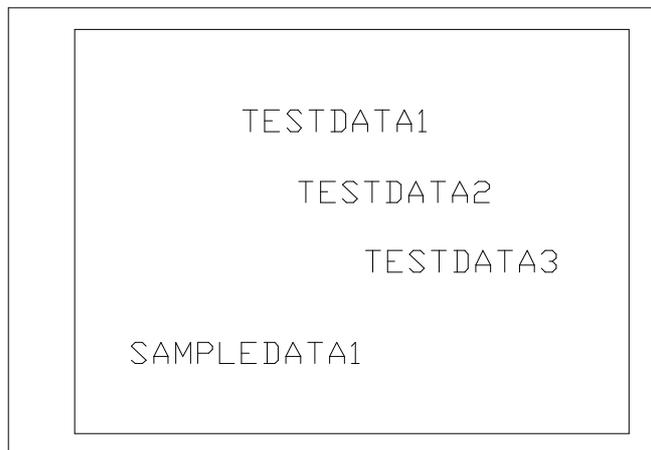
## TXTST [文字スタイル一括変更(4/4)]

表示されている文字列の文字スタイルを変更する。

コマンドプロンプト	TXTST
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→#文字スタイル一括変更

4. 新スタイル、旧スタイルのボックス内に選択された内容が表示されますので確認した上で”OK” ボタンをクリックして下さい。

\*変更後は、下図の様になります。



## TXTW [文字幅一括変更(1/2)]



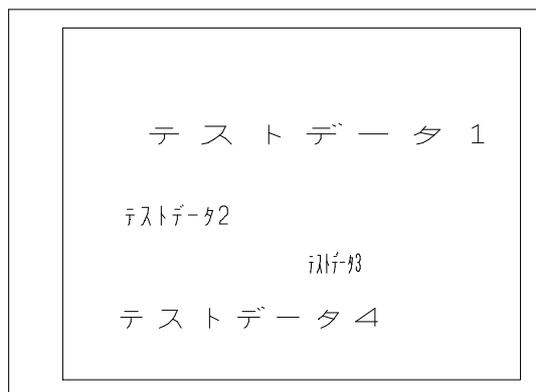
表示されている文字列の縦横比を変更する。

コマンドプロンプト	TXTW
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イメージCAD II →修正]	文字→#文字幅一括変更

◆文字幅一括変更コマンドは、既に作図されている文字列に対して縦横比を変更したい場合に使用します。

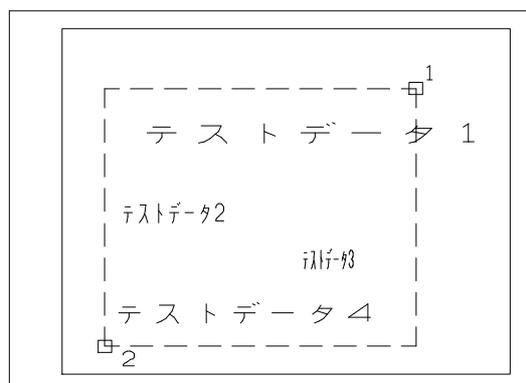
1. [#文字幅一括変更]アイコン をクリックします。

\*下図の図面内に有る文字列を全て同じ縦横比にする場合を例に説明します。



2. オブジェクトを選択：1、2を指示

\*縦横比を変更する文字列を全て選択して下さい。



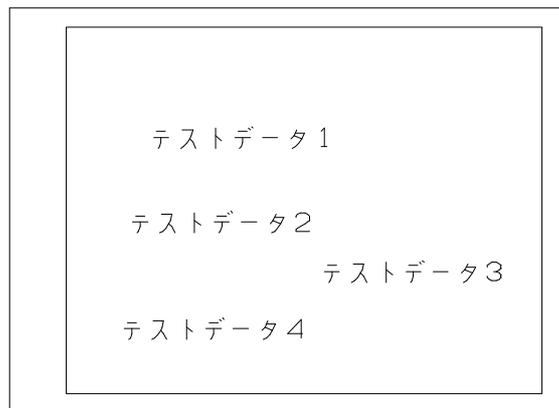
## TXTW [文字幅一括変更(2/2)]

表示されている文字列の縦横比を変更する。

コマンドプロンプト	TXTW
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→#文字幅一括変更

3. 縦横比<リターン=1> : リターンキーを押す

\* 1以外の値に変更する場合、数値を入力して下さい。



## [字体]



### イメージCADの字体

コマンドプロンプト	
ツールバー	
プルダウン	

#### 説明

・イメージCADには2種類の字体をオプションにて用意しています。

ROMANS1 SIMPLEX<sup>ローマン</sup>・フォント。

多数の短い線分からなり、txtフォントより滑らかに見えます。

MROMANS<sup>モノスペース</sup>・フォント。

文字はtxtフォントと同じですが、文字間のスペースが全て同一です。

この字体は、文字の縦列の位置が一定ですからリストや表を作成する時に最適です。

以上の2種類の字体は、アルファベットの小文字を上付1/4文字に表示出来ます。

#### 注意

これらのフォントを使用して作成した図面をイメージCADが動作しないマシンで開くと”フォントが見つかりません”とメッセージが出ます。

フォントマッピングを設定されるか、フォントファイルをパスの通っているディレクトリにコピーされるとエラーメッセージは排除出来ます。

## [特殊機能]



### 上付1/4角文字表示、上付1/4角数字、記号数字

コマンドプロンプト	
ツールバー	
プルダウン	

#### 説明

- ・カスタイズフォント ROMANS1、MROMANS1の機能として、入力方法により数字を上付1/4文字に表示したり、○□△の中に数字を入れて表示することが出来ます。内容はイージ CADのマニュアルの[字体]を参照

フォント名	内容
ROMANS1.SHP	アルファベットの小文字を上付1/4文字に表示する。

例) <入力>      <出力>

1 0 0 0 W    1 0 0 0 W

1バイトフォントとして ROMANS1 の設定にこの機能は働きます。

# ROWTXT[文字縦位置合せ(1/2)]

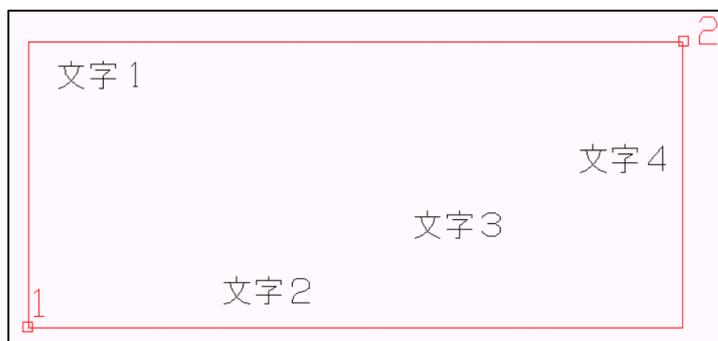


指定の範囲内の文字の縦位置をそろえます。

コマンドプロンプト	ROWTXT
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イメージCAD II →修正]	文字→#文字縦位置合せ

◆文字縦位置合わせコマンドは、指定の範囲内の文字列の縦位置を、任意の高さにそろえる場合に使用します。

1. [#文字縦位置合せ]アイコン をクリックします。
2. 「整列する文字列を選択してください  
オブジェクトを選択:」と表示されますので、文字を選択します。



\*上記の例では、範囲（1～2をクリック）で指定していますが、一つ一つ個別に指示も可能です。

3. 「位置あわせの場所を入力  
(TL=左上/TC=上中心/TR=右上/ML=左中央/MC=中央  
/MR=右中央/BL=左下/BC=下中心/BR=右下<リターン:左下>):」  
と表示されますので、文字の配置基準点を指定します。  
なお、配置基準点は、次のようになっています。



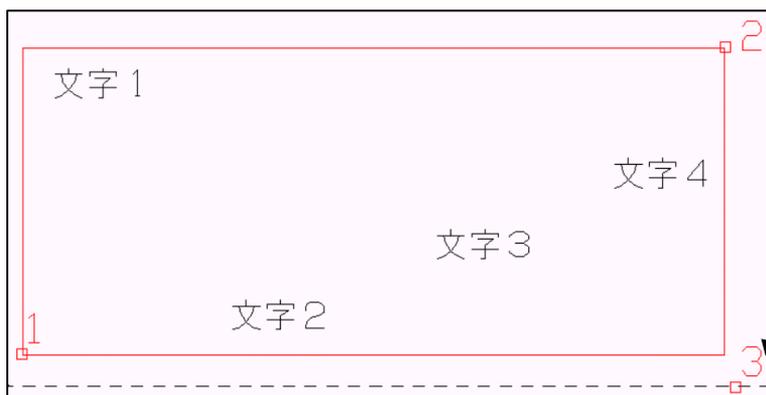
文字列を上記の箱に見立てて、箱のどの部分に配置基準点があるか指示します。

## ROWTXT[文字縦位置合せ(2/2)]

指定の範囲内の文字の縦位置をそろえます。

コマンドプロンプト	ROWTXT
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→#文字縦位置合せ

4. 「位置合わせの基準となる場所を指示：」  
と表示されますので、整列させる縦位置を指示します。（例：3をクリック）



\*上記例では、縦位置の基準線を作成しておりますが、無くても作業できます。

5. 配置基準点を基点として、文字が配置されます。



(上記の例では、基点を左下として配置しています。)

# ROWTXT2[文字縦位置合せ(横間隔指定)(1/3)]



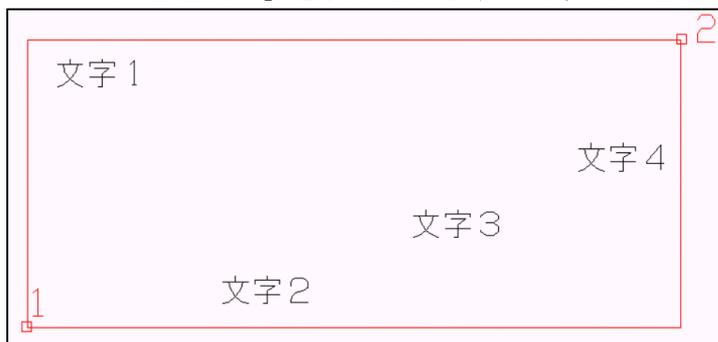
指定の範囲内の文字の横位置間隔、縦位置をそろえます。

コマンドプロンプト	ROWTXT2
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→#文字縦位置合せ(横間隔指定)

◆文字位置高合せ（横間隔指定）コマンドは、指定の範囲内の文字列の縦位置を、任意の高さにそろえ、同時に等間隔に横位置を変更する場合に使用します。（表などの作成時に有効です）

1. [#文字縦位置合せ(横間隔指定)]アイコン をクリックします。

2. 「整列する文字列を選択してください  
オブジェクトを選択：」と表示されますので、文字を選択します。



\*上記の例では、範囲(例：1～2をクリック)で指定していますが、一つ一つ個別に指示も可能です。

3. 「位置あわせの場所を入力  
(TL=左上/TC=上中心/TR=右上/ML=左中央/MC=中央  
/MR=右中央/BL=左下/BC=下中心/BR=右下<リターン:左下>)」  
と表示されますので、文字の配置基準点を指定します。  
なお、配置基準点は、次のようになっています。



文字列を上記の箱に見立てて、箱のどの部分に配置基準点があるか指示します。

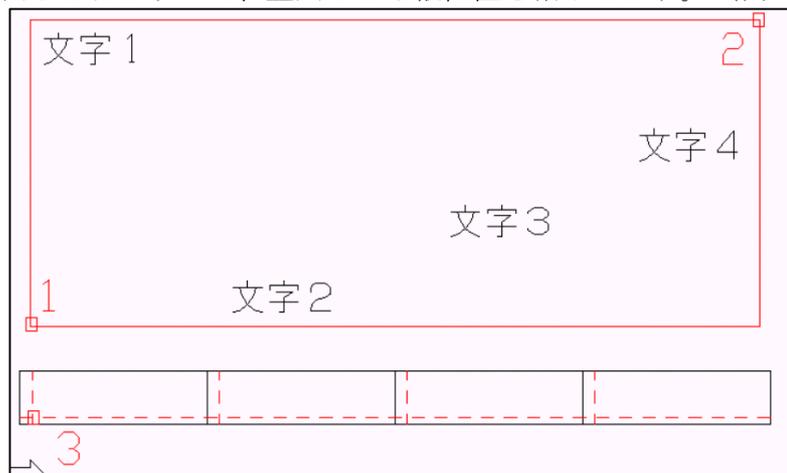
## ROWTXT2[文字縦位置合せ(横間隔指定)(2/3)]

指定の範囲内の文字の横位置間隔、縦位置をそろえます。

コマンドプロンプト	ROWTXT2
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→#文字縦位置合せ(横間隔指定)

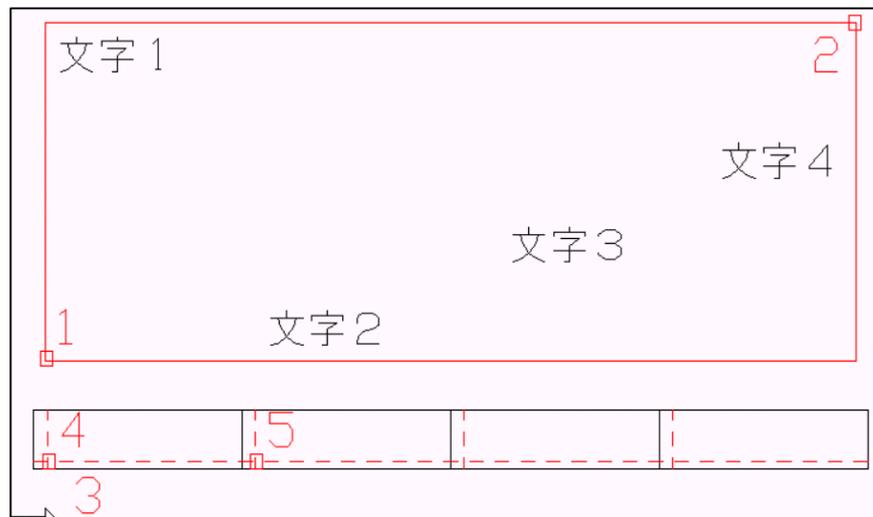
4. 「位置合わせの基準となる場所を指示：」

と表示されますので、整列させる縦位置を指示します。(例：3をクリック)



5. 「文字の間隔(横幅)を指示：」と表示されますので、

間隔を指示します。(例：4～5をクリック {4～5の間隔で移動します})



\*上記の例では、点を指示して間隔を指定していますが、  
数値入力でも間隔を指示することができます。

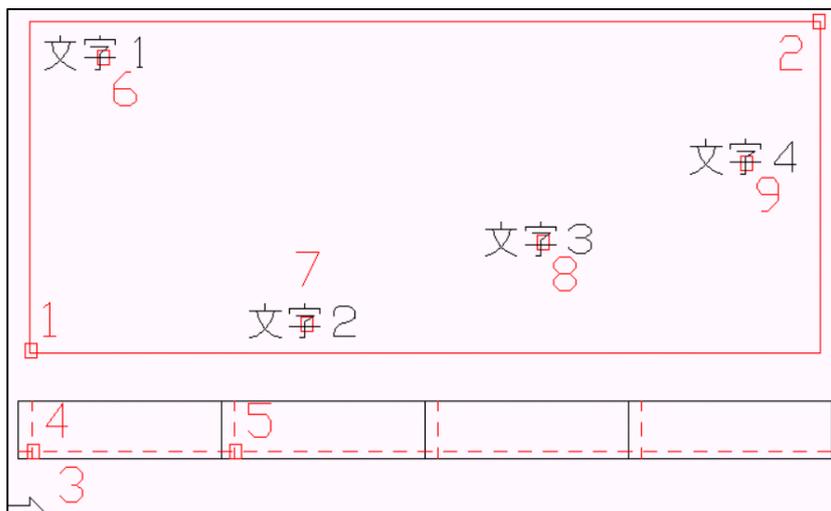
\*上記の例の3, 4は同位置を指示してその距離を指定しています

## ROWTXT2[文字縦位置合せ(横間隔指定)(3/3)]

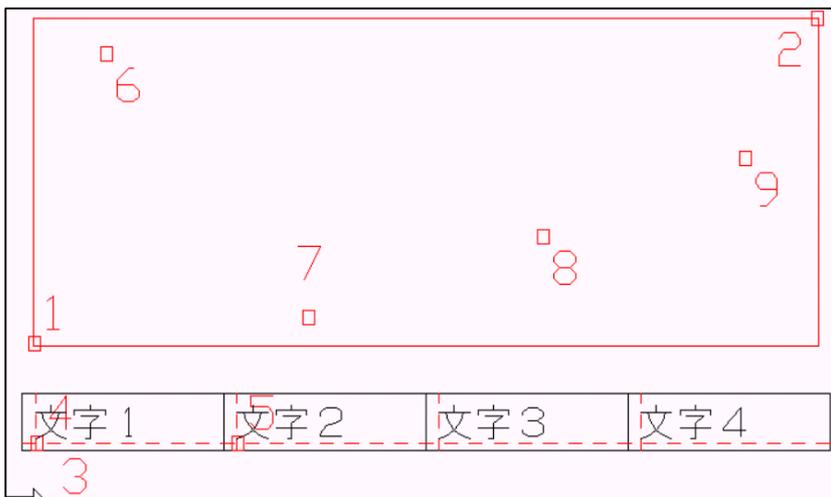
指定の範囲内の文字の横位置間隔、縦位置をそろえます。

コマンドプロンプト	ROWTXT2
ツールバー [ECAD文字]	 
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→#文字縦位置合せ(横間隔指定)

6. 「n 番目の文字を選択 (左から指示) :」  
 と、表示されますので、配置する文字を左から順に指示してください。  
 (例: 6 ~ 9 をクリック)



7. 配置されます。



# COLUMNTEXT[文字横位置合せ(1/2)]

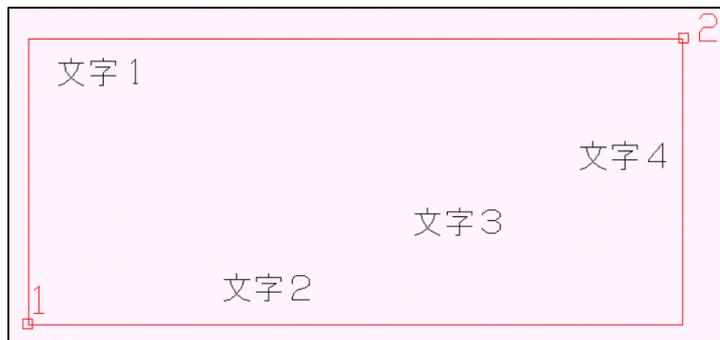


指定の範囲内の文字の横位置をそろえます。

コマンドプロンプト	COLUMNTEXT
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→ #文字横位置合せ

◆文字横位置合わせコマンドは、指定の範囲内の文字列の横位置を、任意の場所にそろえる場合に使用します。

1. [#文字横位置合せ]アイコン  をクリックします。
2. 「整列する文字列を選択してください  
オブジェクトを選択:」と表示されますので、文字を選択します。



\*上記の例では、範囲(1~2をクリック)で指定していますが、一つ一つ個別に指示も可能です。

3. 「位置あわせの場所を入力  
(TL=左上/TC=上中心/TR=右上/ML=左中央/MC=中央  
/MR=右中央/BL=左下/BC=下中心/BR=右下<リターン:左下>):」  
と表示されますので、文字の配置基準点を指定します。  
なお、配置基準点は、次のようになっています。



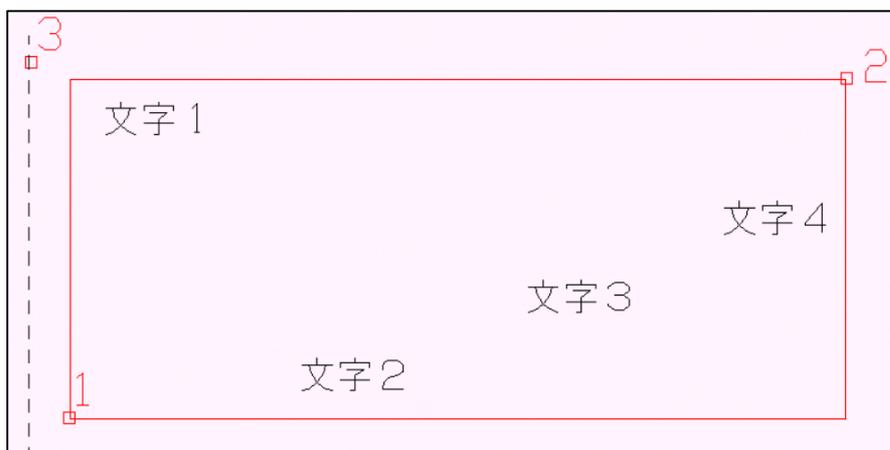
文字列を上記の箱に見立てて、箱のどの部分に配置基準点があるか指示します。

## COLUMNTEXT[文字横位置合せ(2/2)]

指定の範囲内の文字の横位置をそろえます。

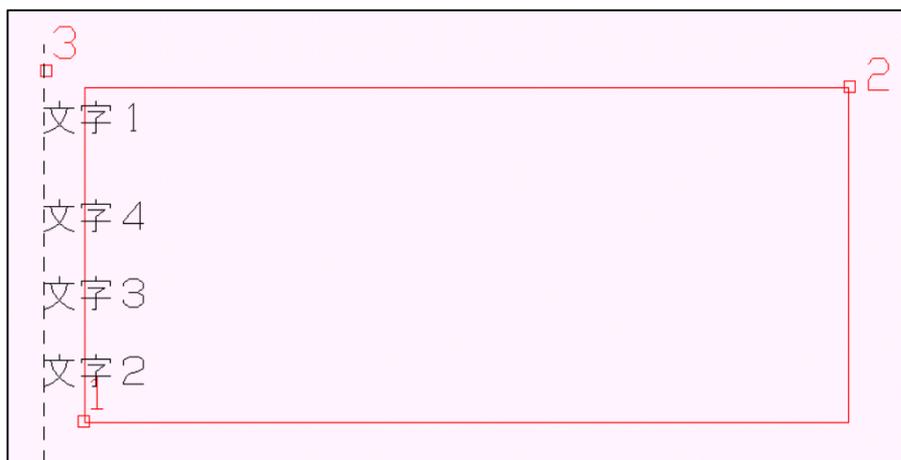
コマンドプロンプト	COLUMNTEXT
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→ #文字横位置合せ

4. 「位置合わせの基準となる場所を指示：」  
と表示されますので、整列させる横位置を指示します。（例：3をクリック）



\*上記例では、指示する横位置に基準線を作成しておりますが、  
無くても作業できます。

5. 配置基準点を基点として、文字が配置されます。



## COLUMNTEXT2[文字横位置合せ(縦間隔指定)(1/3)]



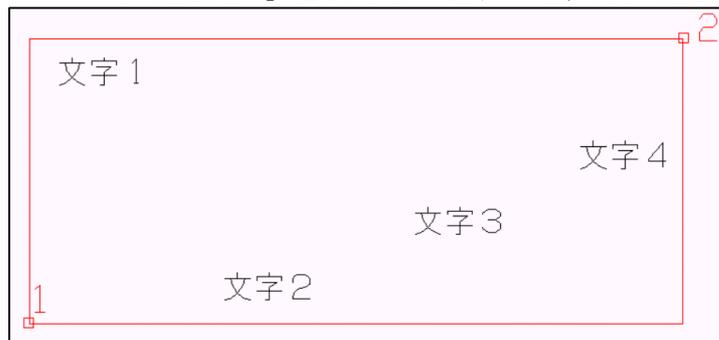
指定の範囲内の文字の縦位置間隔、横位置をそろえます。

コマンドプロンプト	COLUMNTEXT2
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→ #文字横位置合せ(縦間隔指定)

◆文字横位置合せ（縦間隔指定）コマンドは、指定の範囲内の文字列の横位置を、任意の場所にそろえ、同時に等間隔に縦位置を変更する場合に使用します。（表などの作成時に有効です）

1. [#文字横位置合せ（縦間隔指定）]アイコン をクリックします。

2. 「整列する文字列を選択してください  
オブジェクトを選択：」と表示されますので、文字を選択します。



\*上記の例では、範囲(例：1～2をクリック)で指定していますが、一つ一つ個別に指示も可能です。

3. 「位置あわせの場所を入力  
(TL=左上/TC=上中心/TR=右上/ML=左中央/MC=中央  
/MR=右中央/BL=左下/BC=下中心/BR=右下<リターン:左下>)」  
と表示されますので、文字の配置基準点を指定します。  
なお、配置基準点は、次のようになっています。



文字列を上記の箱に見立てて、箱のどの部分に配置基準点があるか指示します。

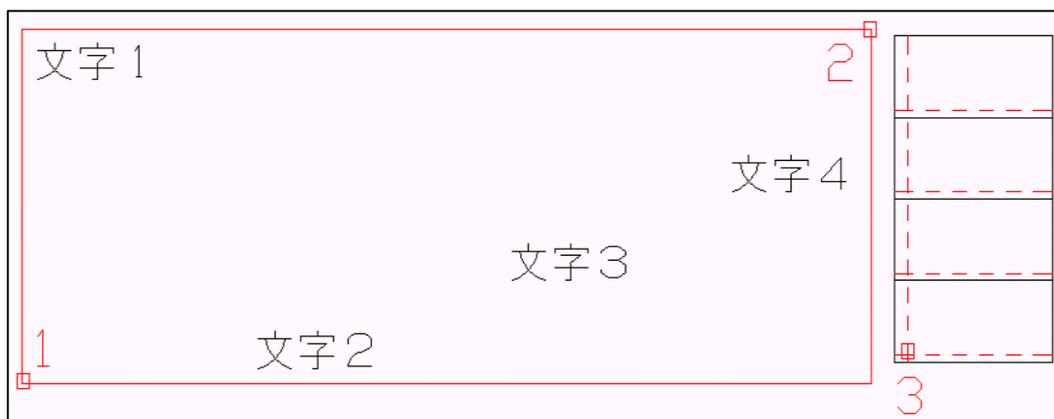
## COLUMNTEXT2[文字横位置合せ(縦間隔指定)(2/3)]

指定の範囲内の文字の縦位置間隔、横位置をそろえます。

コマンドプロンプト	COLUMNTEXT2
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→ #文字横位置合せ(縦間隔指定)

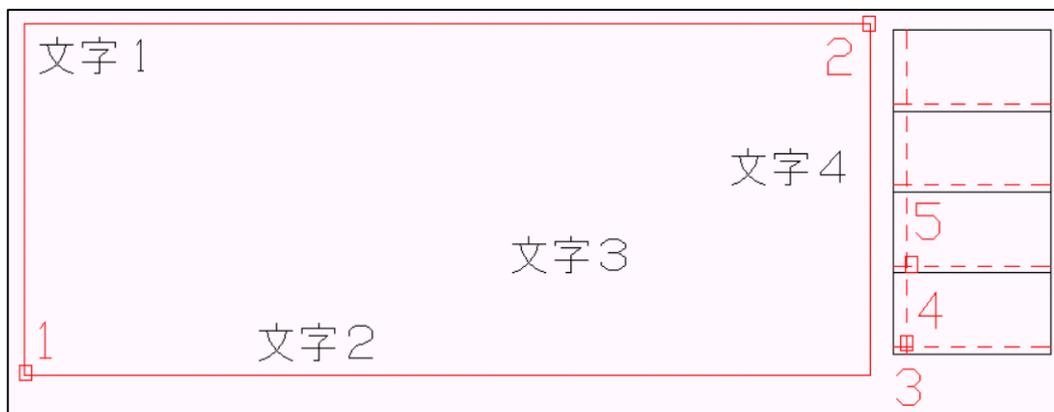
4. 「位置合わせの基準となる場所を指示：」

と表示されますので、整列させる横位置を指示します。(例：3をクリック)



5. 「文字の間隔（縦幅）を指示：」と表示されますので、間隔を指示します。

(例：4～5をクリック {4～5の距離が配置間隔となります})



\*上記の例では、点を指示して間隔を指定していますが、

数値入力でも間隔を指示することができます。

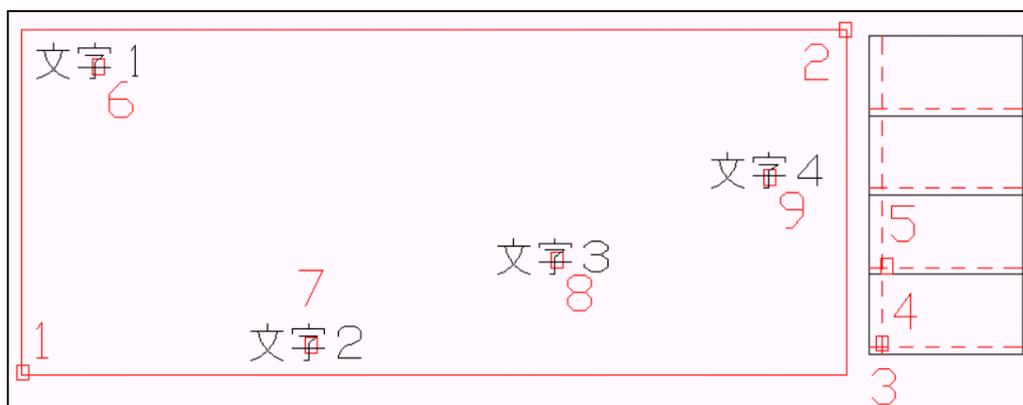
\*上記の例の3、4は同位置を指示しています

## COLUMNTEXT2[文字横位置合せ(縦間隔指定)(3/3)]

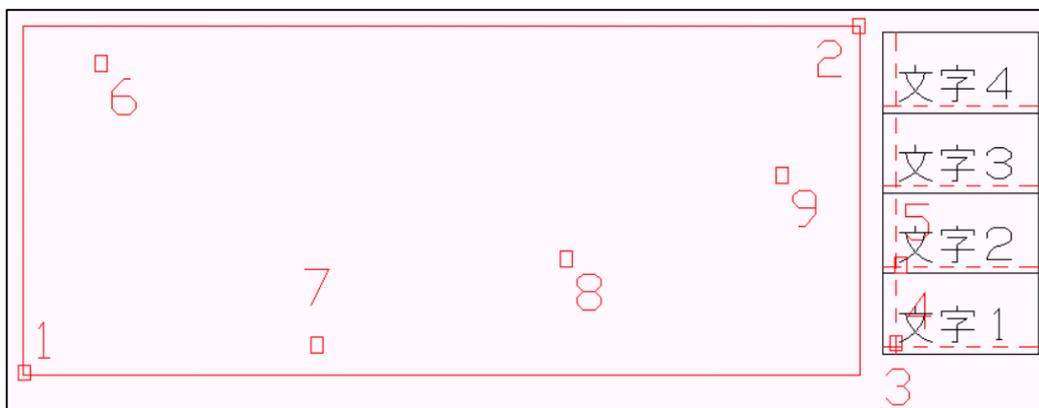
指定の範囲内の文字の縦位置間隔、横位置をそろえます。

コマンドプロンプト	COLUMNTEXT2
ツールバー [ECAD文字]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	文字→ #文字横位置合せ(縦間隔指定)

6. 「n 番目の文字を選択 (左から指示) :」  
 と、表示されますので、配置する文字を左から順に指示してください。  
 (例：6～9をクリック)



7. 配置されます。



## LCOPY [現在層コピー(1/2)]

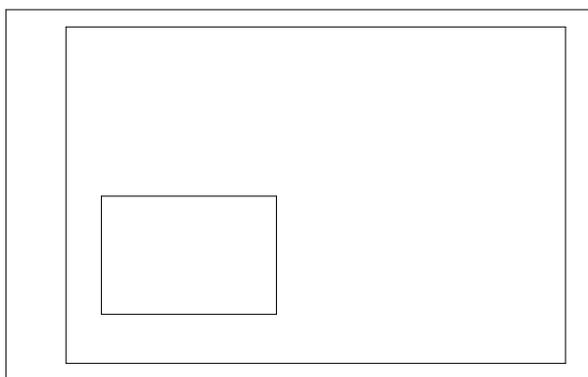


図形を複写するとき、画層を現在層に変えて複写する。

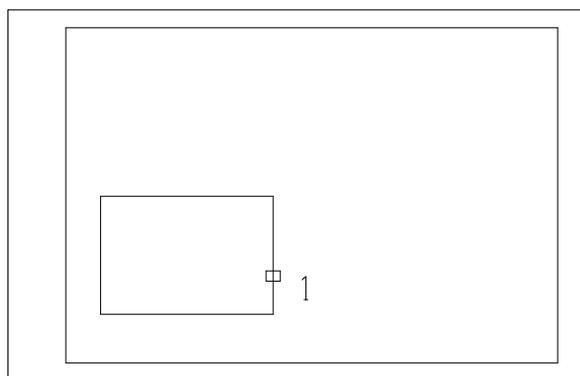
コマンドプロンプト	LCOPY
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	複写→#現在層コピー

◆現在層コピーコマンドは、複写した図形を現在層に変更したい場合に使用します。

1. [#現在層コピー]アイコン  をクリックします。  
\*画層FIG1 (実線) 上に描かれた矩形を、現在層CLINE (中心線) にコピーする場合を例として説明します。



2. オブジェクトを選択：1を指示



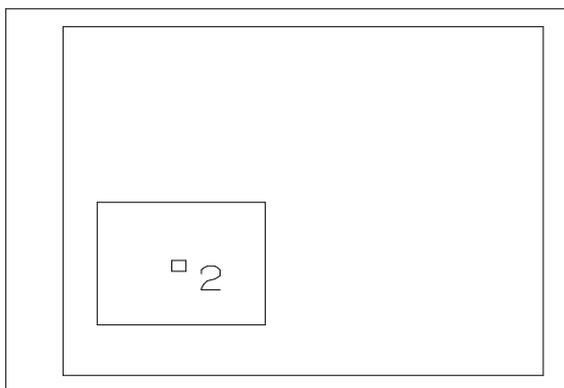
## LCOPY [現在層コピー(2/2)]

図形を複写するとき、画層を現在層に変えて複写する。

コマンドプロンプト	LCOPY
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	複写→#現在層コピー

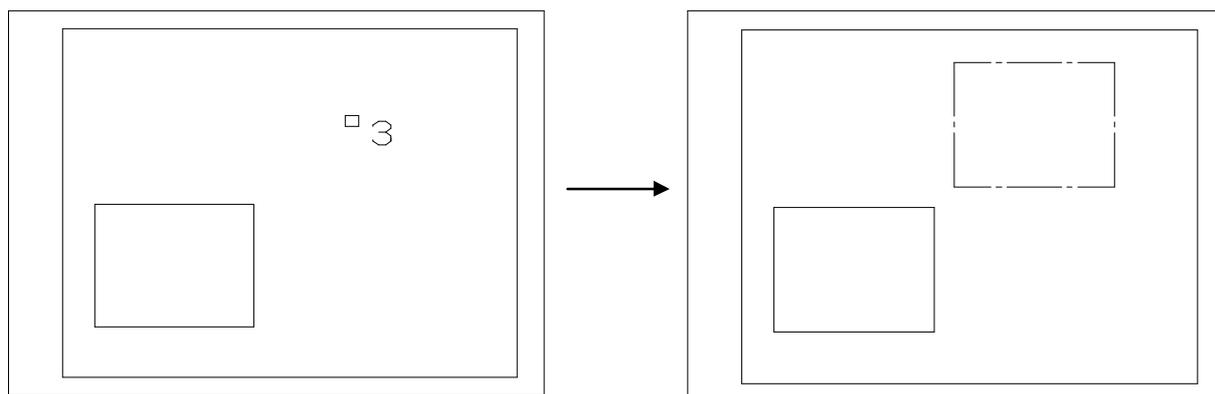
3. 基点<リターン=連続>：2を指示

\*同じ図形を複数コピーする場合リターンキーを押し、次に基点となる2を指示して下さい。



4. 目的点：3を指示

\*連続モードになっている場合、リターンキーが押されるまで目的点指示の状態になりますので、複写先を全て指示しリターンキーを押して下さい。



## RCOPY [回転複写]

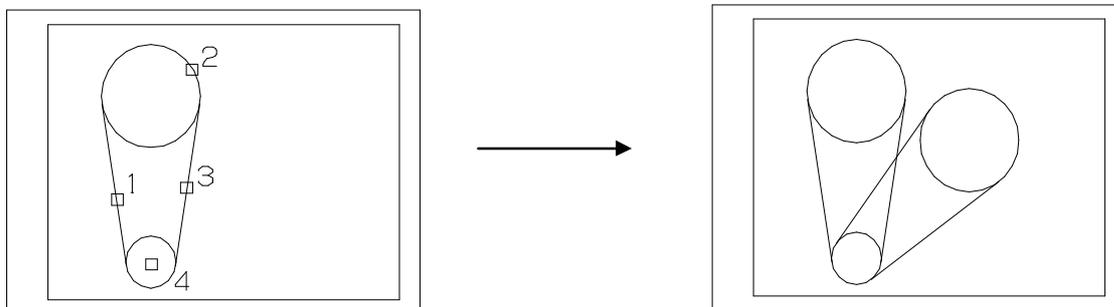


図形の複写、回転を1度に行う。

コマンドプロンプト	RCOPY
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	複写→#回転複写

- ◆回転複写コマンドは、図形を複写した後に回転させたい場合に使用します。  
同じ位置で、元図を残したまま90度回転させたい場合などに便利です。

1. [#回転複写]アイコン をクリックします。
2. 回転角度<リターン=角度参照>:-45  
\*回転させる角度を入力して下さい。  
他の図形の角度に合わせたい場合、リターンキーを押し参照する図形を指示して下さい。
3. オブジェクトを選択: 1、2、3を指示  
\*複写及び回転させる図形を指示して下さい。
4. 基点<リターン=連続>: 4を指示  
\*複数複写する場合リターンキーを押し、その後基点を指示して下さい。
5. 目的点<リターン=基点>: リターンキーを押します。  
\*連続モードにしている場合<リターン=基点>は表示されません。  
複写先を全て指示して下さい。

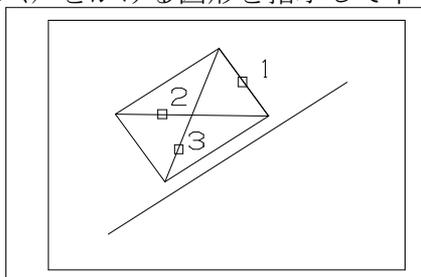


線分を対称軸としてミラーをかける。

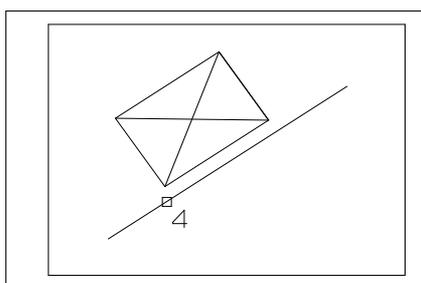
コマンドプロンプト	AMIRROR
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	鏡像 → #軸ミラー

◆軸ミラーコマンドは、線分を対称軸とし図形にミラーをかけた場合に使用します。

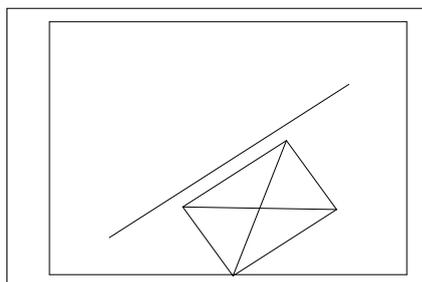
- [#軸ミラー]アイコン をクリックします。
- オブジェクトを選択：1、2、3を指示  
\*ミラーをかける図形を指示して下さい。



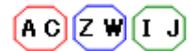
- 対称軸となる線分を指示：4を指示  
\*線分またはポリラインを指示して下さい。



- 元のオブジェクトを削除しますか？<N>:Y  
\*元の図形を残したままミラーをかける場合、“N”  
元の図形を削除し、ミラーをかける場合、“Y”を入力して下さい。



# OFFSET1 [円オフセット]

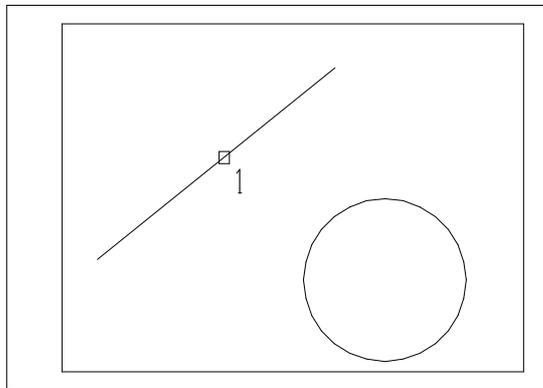


円の接線にオフセットする。

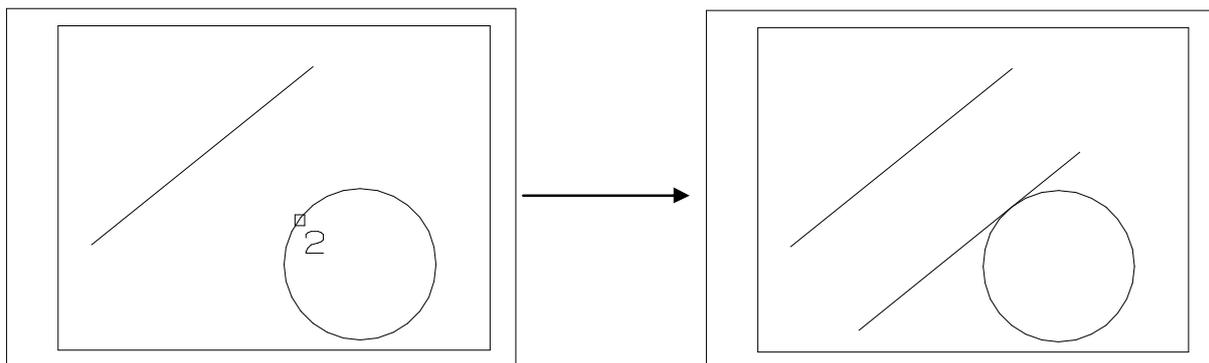
コマンドプロンプト	OFFSET1
ツールバー [ECAD修正]	オフセット→
プルダウン [イージCAD II →修正]	オフセット→#円オフセット

◆円オフセットコマンドは、線分またはポリラインを円の接線にオフセットする場合に使用します。

1. [#円オフセット]アイコン をクリックします。
2. オフセットする線分を指示：1を指示



3. 接する円を指示：2を指示  
\*接する円の接する側を指示して下さい。



## OFFSET2 [現在層オフセット]

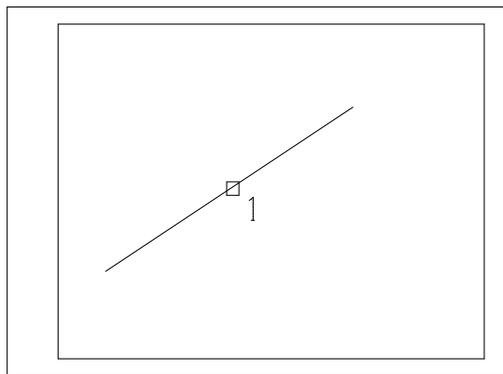


オフセットされた図形を現在層に変更する。

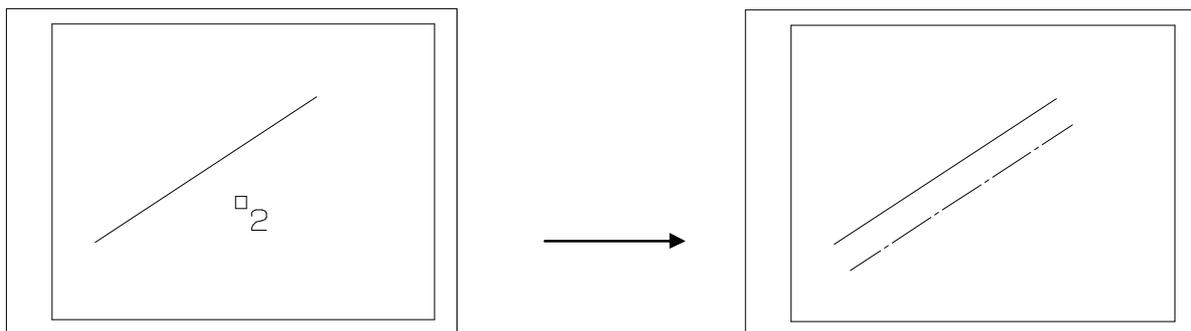
コマンドプロンプト	OFFSET2
ツールバー [ECAD修正]	オフセット→ 
プルダウン [イージCAD II →修正]	オフセット→#現在層オフセット

◆現在層オフセットコマンドは、図形をオフセットする場合に、オフセットする図形を現在層上にオフセットしたい場合に使用します。

1. [#現在層オフセット]アイコン  をクリックします。
2. オフセット間隔 または [通過点(T)] <通過点(T)>:20  
\*オフセットの間隔を入力して下さい。
3. オフセットするオブジェクトを選択 または <終了>: 1 を指示



4. オフセットする側の点を指定: 2 を指示



\*現在設定されている画層 (線種=center) にオフセットされます。

\*複数の図形をオフセットする場合、続けて図形指示を行って下さい。

(3、4の操作を繰り返して下さい。)

コマンドを終了する場合、”オフセットするオブジェクトを選択 または <終了>:” でリターンキーを押して下さい。

## OFFSET3 [両側オフセット]

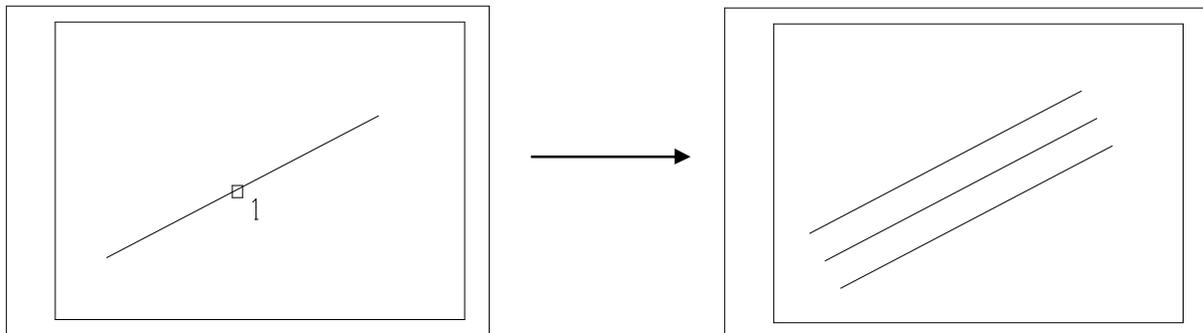


図形を任意な画層や線種、色で両側にオフセットする。（片側オフセットも可能）

コマンドプロンプト	OFFSET3
ツールバー [ECAD修正]	オフセット→ 
プルダウン [イージCAD II →修正]	オフセット→#両側オフセット

◆両側オフセットコマンドは、同じ間隔で1つの図形を左右（上下、内側外側）にオフセットする場合に使用します。

1. [#両側オフセット]アイコン  をクリックします。
2. オフセット間隔<リターン=10> : 20  
\*オフセットの間隔を入力して下さい。  
\*<>内に前回入力した間隔が表示されますので、そのまま使用する場合リターンキーを押して下さい。
3. オフセットする図形を指示 : 1 を指示



\*オフセットされた図形は、指示された図形と同じ画層、色、線種になります。

## COFFSET2 [連続オフセット]



オフセットした図形を続けてオフセットする。

コマンドプロンプト	COFFSET2
ツールバー [ECAD修正]	オフセット →
プルダウン [イージCAD II →修正]	オフセット → #連続オフセット

◆連続オフセットコマンドは、オフセットして作成された図形を異なる間隔で続けてオフセットする場合に使用します。

1. [#連続オフセット]アイコン をクリックします。
2. オフセット間隔<0.0>:20
3. オフセットするオブジェクトを選択：1を指示
4. オフセットする側を指示：2を指示  
\*オフセットする方向を指示して下さい。

\*ここまでの1回目のオフセットです。

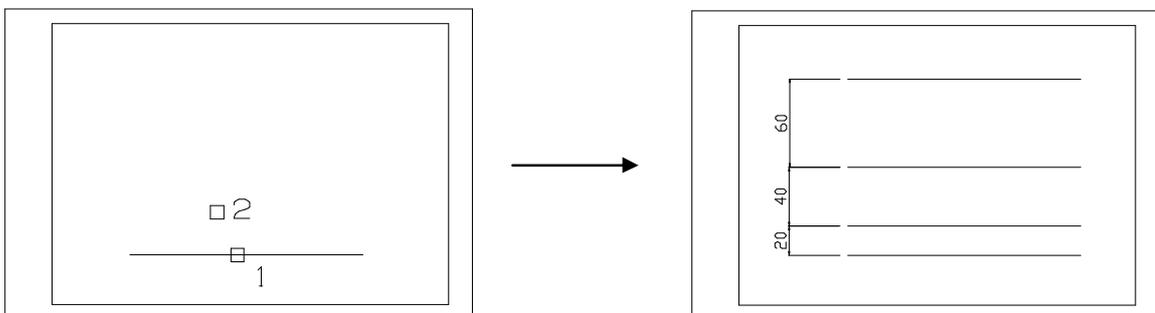
以降は、オフセット間隔の入力のみとなります。

オフセットの間隔を全て入力し、リターンキーを押して下さい。

オフセット間隔:40

オフセット間隔:60

:



# COFFSET1 [基準線連続オフセット]



1つの図形を異なる間隔で連続してオフセットを行う。

コマンドプロンプト	COFFSET1
ツールバー [ECAD修正]	オフセット→
プルダウン [イージCAD II →修正]	オフセット → #基準線連続オフセット

◆基準線連続オフセットコマンドは、1つの図形を異なる間隔で続けてオフセットする場合に使用します。

1. [#基準線連続オフセット]アイコン をクリックします。
2. オフセット間隔<0.0>:20
3. オフセットするオブジェクトを選択：1を指示  
\*基準となる図形を指示して下さい。
4. オフセットする側を指示：2を指示  
\*オフセットする方向を指示して下さい。

\*ここままで1回目のオフセットです。

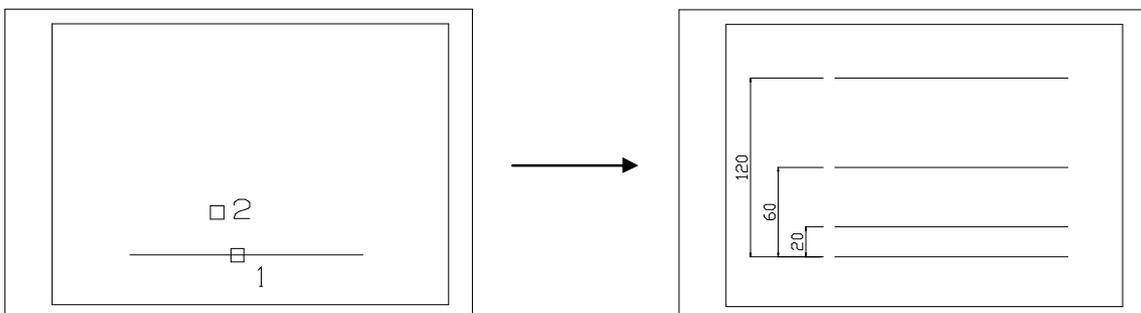
以降は、オフセット間隔の入力のみとなります。

オフセットの間隔を全て入力し、リターンキーを押して下さい。

オフセット間隔:60

オフセット間隔:120

:



# EQUALLY[等分割オフセット(1/2)]



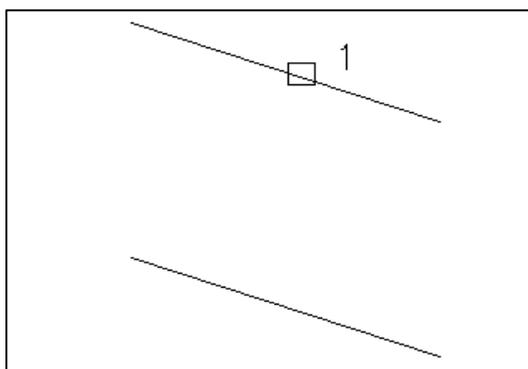
## 平行線間等分割オフセット線分作成

コマンドプロンプト	EQUALLY
ツールバー [ECAD修正]	オフセット → 
プルダウン [イージCAD II →修正]	オフセット → #等分割オフセット

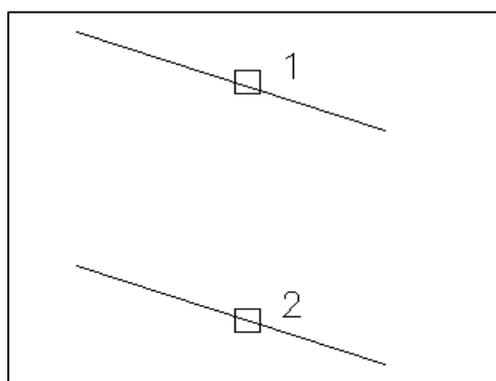
◆等分割オフセットは、平行線間を指定の数で等分した線分を作成する場合に使用します。

\*オフセット線分は、現在画層で作成されます。

1. [#等分割オフセット]アイコン  をクリックします。
2. 「等分する始まりの直線を指示：」と表示されますので、開始する線分を指示します。(例：1をクリック)



3. 「等分する終わりの直線を指示：」と表示されますので、終わりの線分を指示します。(例：2をクリック)



## EQUALLY[等分割オフセット(2/2)]

### 平行線間等分割オフセット線分作成

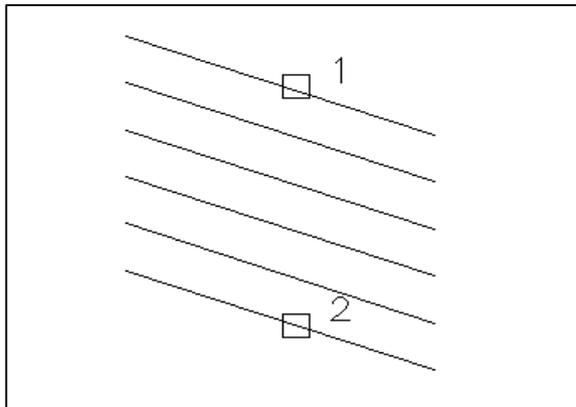
コマンドプロンプト	EQUALLY
ツールバー [ECAD修正]	オフセット→ 
プルダウン [イージCAD II →修正]	オフセット → #等分割オフセット

4. 2及び3で指示された線分が平行線だった場合は、  
「分割数:」と表示されますので、分割する数を入力します。(例: 5と入力)  
(平行線でない場合は、「###平行線以外は処理できません###」と  
表示されて、処理が中断します)

コマンド: EQUALLY 等分する始まりの直線を指示: 等分する終わりの直線を指示: 分割数: 5
---

(例: 5分割するために5と入力)

5. 線分間が等分割されます。  
(例では、5分割しています)



# EQUALLY2[角度等分割オフセット(1/2)]

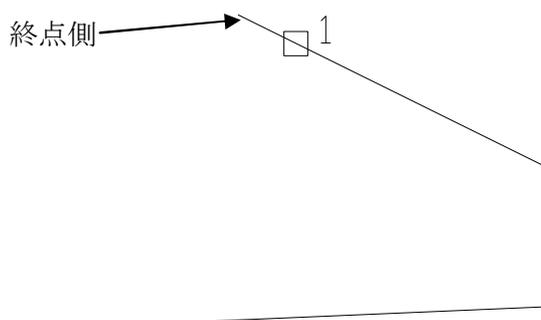


## 角度等分割オフセット線分作成

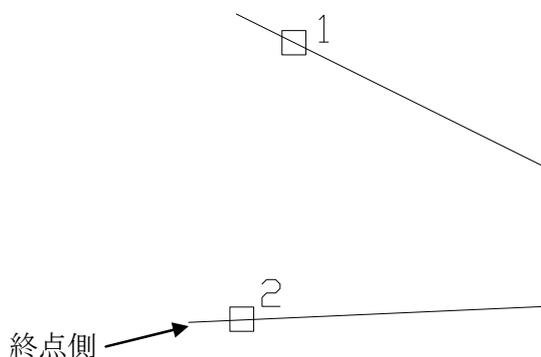
コマンドプロンプト	EQUALLY2
ツールバー [ECAD修正]	オフセット→ 
プルダウン [イージCAD II →修正]	オフセット→#角度等分割オフセット

◆角度等分割オフセットは、角度を指定の数で等分した線分を作成する場合に使用します。

1. [#角度等分割オフセット]アイコン  をクリックします。
2. 「等分する始まりの直線の端点側を指示 :」と表示されますので、開始する線分の終点側を指示します。(例：1 をクリック)



3. 「等分する終わりの直線直線の端点側を指示 :」と表示されますので、終わりの線分の終点側を指示します。(例：2 をクリック)



## EQUALLY2[角度等分割オフセット(2/2)]

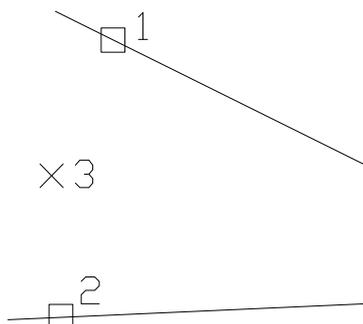
### 角度等分割オフセット線分作成

コマンドプロンプト	EQUALLY2
ツールバー [ECAD修正]	オフセット→ 
プルダウン [イージCAD II →修正]	オフセット→#角度等分割オフセット

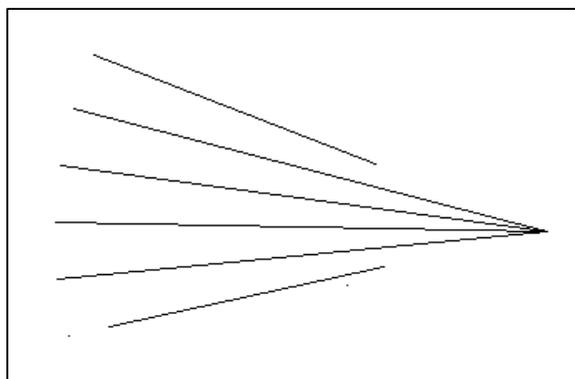
4. 2及び3で指示された線分が平行線でない場合は、  
「分割数：」と表示されますので、分割する数を入力します。(例：5と入力)  
(平行線の場合は、「###平行線は処理できません###」と  
表示されて、処理が中断します)

コマンド: EQUALLY2 等分の始まりの直線を指示 : 等分する終わりの直線を指示 : (例: 5分割するために5と入力) 分割数 : 5
--

5. 「分割する方向を指示：」と表示されますので、分割する  
角度を含む方向を指示します。(例：3をクリック)

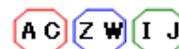


6. 角度が分割されます。  
(例では、5分割しています)



- \* 分割する線分は、中心から、初めに指示した図形の  
端までの長さで作図されます。
- \* 指示した点に近い側の線分の端点間の角度を使い等分割します。

## EXT3 [二線接続]

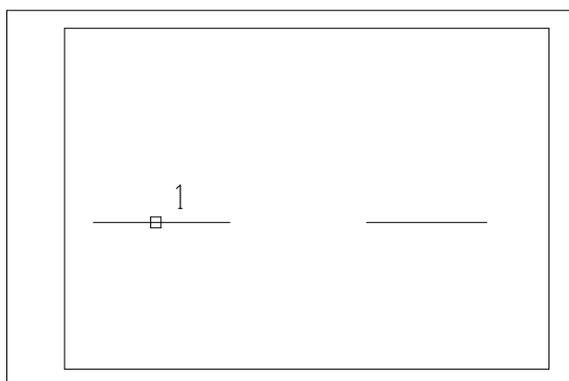


同一線上にある2本の線分を1本の線分に置換する。

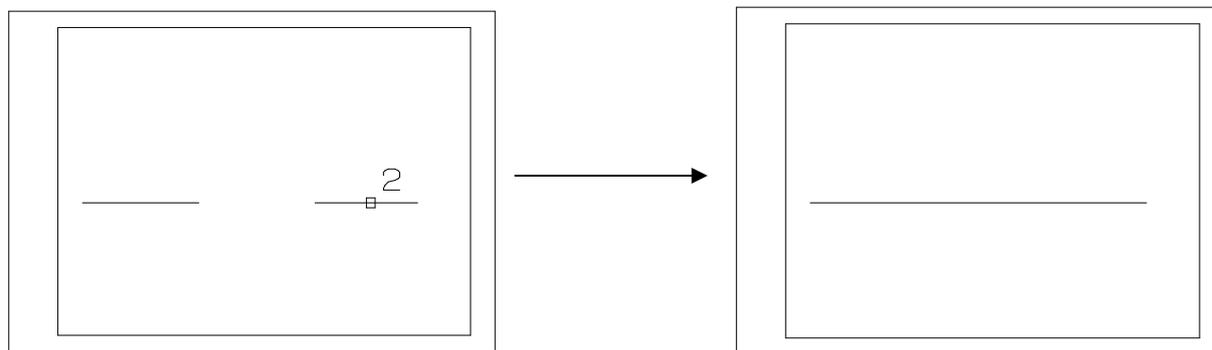
コマンドプロンプト	EXT3
ツールバー [ECAD修正]	線分編集 →
プルダウン [イージCAD II →修正]	線分編集→#二線接続

◆二線接続コマンドは、一直線上にある二つの線分を接続する際に使用します。

1. [#二線接続]アイコン をクリックします。
2. ラインを指示<リターン=終了>：1を指示  
\*接続する1本目の線分またはポイントラインを指示します。



3. もう一方のラインを指示：2を指示  
\*接続する2本目の線分またはポイントラインを指示



4. 続けて他の線分も接続する場合、2. 3. の操作を繰り返して下さい。

- \* 2線が同一線上に配置されていないと、接続できません。
- \* 2線は同じ図形要素でなければ接続できません。

## EXT1 [無交差延長]



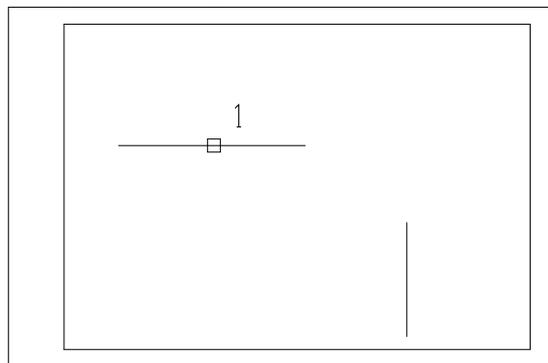
交差しない図形へ延長する。

コマンドプロンプト	EXT1
ツールバー [ECAD修正]	線分編集 →
プルダウン [イージCAD II →修正]	線分編集→#無交差延長

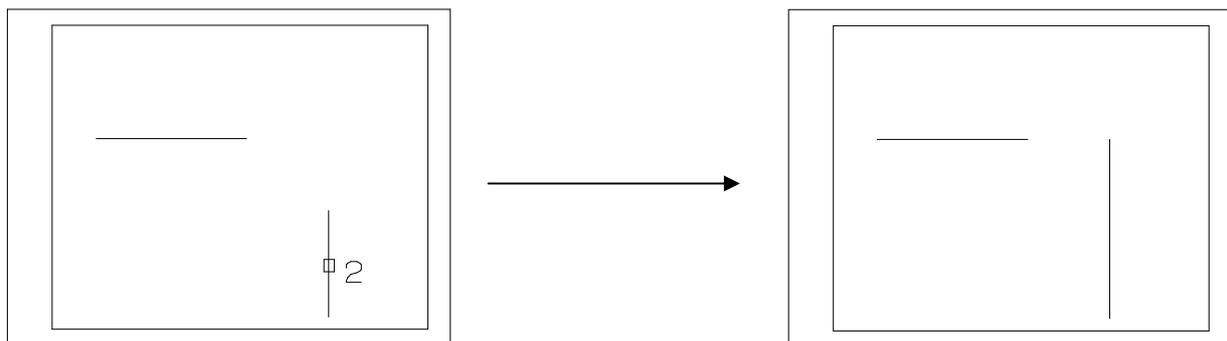
◆無交差延長コマンドは、オブジェクトを別のオブジェクトの仮想境界まで延長する場合に使用します。

1. [#無交差延長]アイコン をクリックします。

2. 境界線図形指示：1を指示



3. 延長する図形を指示<リターン=終了>：2を指示



4. 延長する図形を指示<リターン=終了>：

\*延長する図形が複数ある場合、続けて指示を行って下さい。

\*コマンドを終了する場合、リターンキーを押して下さい。

## EXT2 [線分の伸縮]

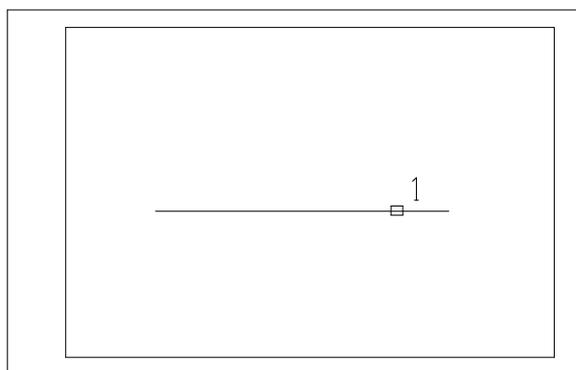


線分を伸縮する。

コマンドプロンプト	EXT2
ツールバー [ECAD修正]	線分編集 → 
プルダウン [イメージCAD II →修正]	線分編集→#線分の伸縮

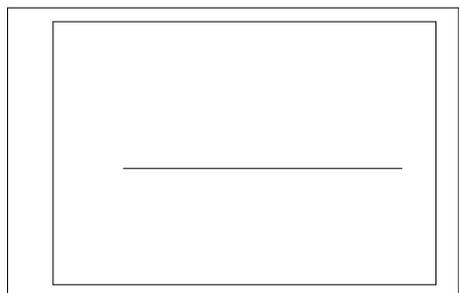
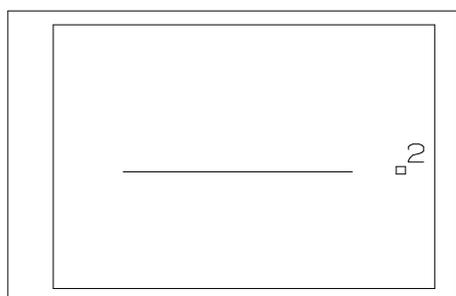
◆線分の伸縮コマンドは、一線分を任意点まで伸縮させたい場合に使用します。

1. [#線分の伸縮]アイコン  をクリックします。
2. 伸縮する図形を指示<リターン=終了>：1を指示  
\*線分上で、伸縮させたい端点に近い側を指示して下さい。

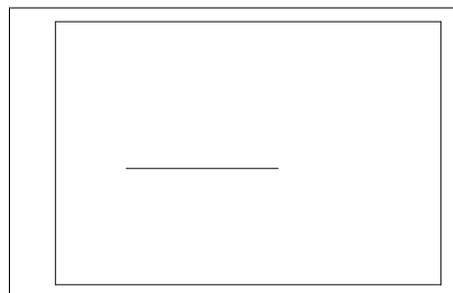
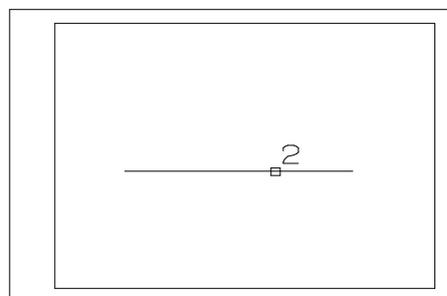


3. 伸縮する位置を指示：2を指示

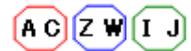
線分を延ばす場合



線分を縮める場合



## COLLIN[中抜き図形]



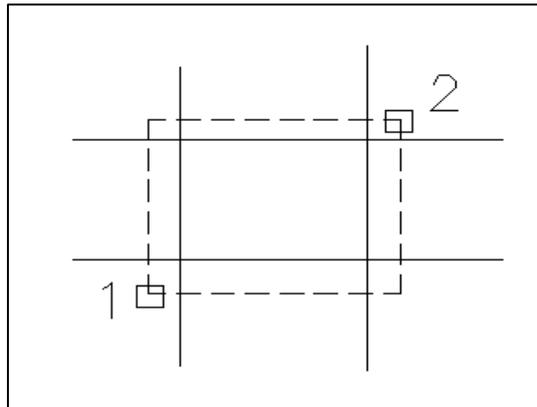
指定範囲内の線分またはポリラインの交差している部分を削除する。

コマンドプロンプト	COLLIN
ツールバー [ECAD修正]	線分編集 → 
プルダウン [イージCAD II →修正]	線分編集→#中抜き図形

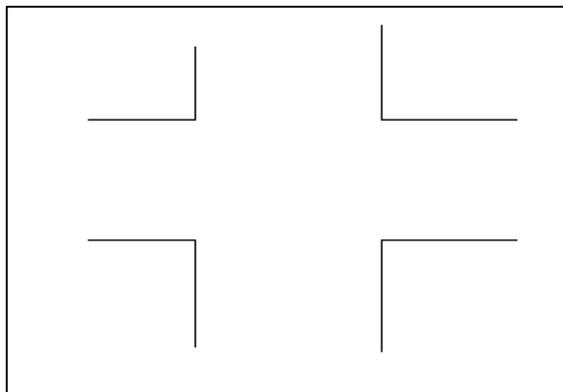
◆中抜き図形コマンドは、線分または、ポリラインの交差している部分を削除する場合に使用します。

\*連続したポリラインの場合は分解後、コマンド実行して下さい。

1. [#中抜き図形]アイコン  をクリックします。
2. 最初のコーナーを指定: 1 を指示  
\*中抜きを行う範囲の1点目を指定します。
3. もう一方のコーナーを指定: 2 を指示



4. 指定範囲内の交差している部分が削除されます。



## COLLOUT[閉図形]



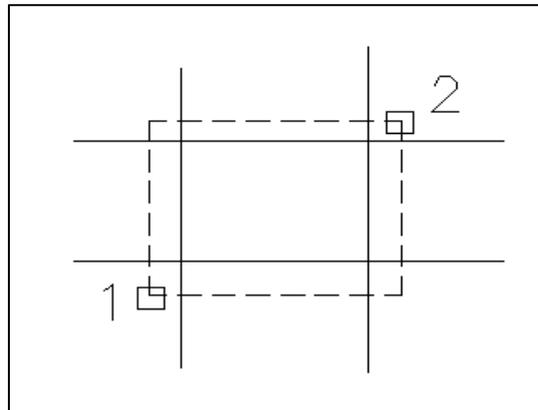
指定範囲内の線分またはポリラインの交差している外側部分を削除する。

コマンドプロンプト	COLLOUT
ツールバー [ECAD修正]	線分編集 → 
プルダウン [イージCAD II →修正]	線分編集 → #閉図形

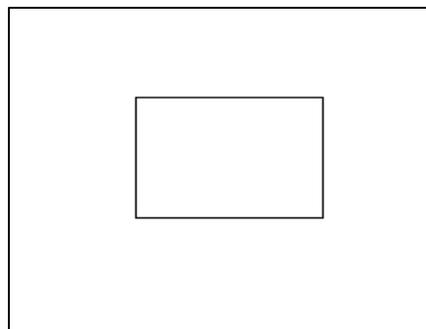
◆閉図形コマンドは、線分または、ポリラインの交差している外側部分を削除する場合に使用します。

\*連続したポリラインの場合は分解後、コマンド実行して下さい。

1. [#閉図形]アイコン  をクリックします。
2. 最初のコーナーを指定: 1 を指示  
\*閉図形とする範囲の1点目を指定します。
3. もう一方のコーナーを指定: 2 を指示



4. 指定範囲内の交差した外側部分が削除されます。



# CHAMFER1 [片側面取り]

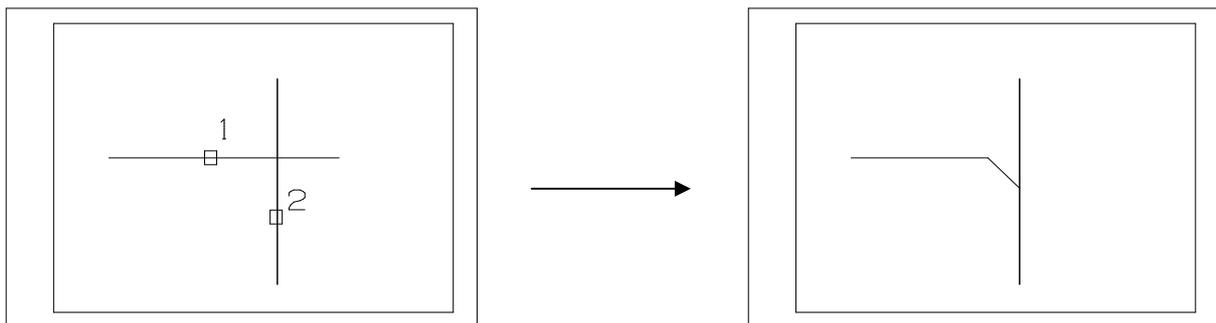


片側の線分を残して面取りを行う。

コマンドプロンプト	CHAMFER1
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イメージCAD II →修正]	面取り→#片側面取り

◆片側面取りコマンドは、対象線を残し面取りを行う場合に使用します。

1. [#片側面取り]アイコン  をクリックします。
2. 面取りする側の線を指示：1を指示  
\*切り取る側の線を指示して下さい。
3. 面取りする方向に対象線を指示：2を指示  
\*残す側の線を指示して下さい。
4. 面取りする側の距離を入力<0.0>:20  
\*<>内に前回入力した値が表示されます。  
使用する場合、そのままリターンキーを押して下さい。
5. 相手側の距離を入力<0.0>:20  
\*<>内に前回入力した値が表示されます。  
使用する場合、そのままリターンキーを押して下さい。



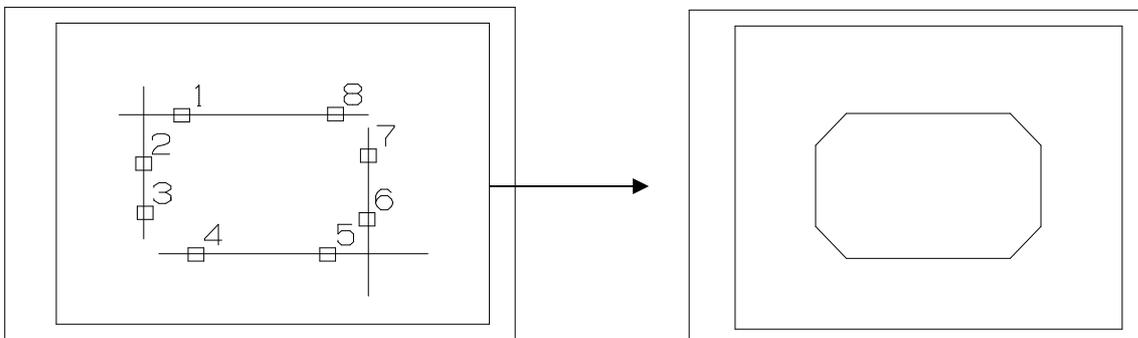
面取りを連続して行う。

コマンドプロンプト	CCHAMFER
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	面取り → #連続面取り

◆連続面取りコマンドは、同じ距離で幾つも面取りする図形がある場合に使用します。

★矩形の4つの角を全て面取りする場合を例に説明します。

1. [#連続面取り]アイコン をクリックします。
2. 1本目の面取りの距離を入力<0>:20  
 \*面取りの距離を入力して下さい。  
 \*<>内に前回入力した距離が表示されますので、そのまま使用する場合リターンキーを押して下さい。
3. 2本目の面取りの距離を入力<0>:20  
 \*面取りの距離を入力して下さい。  
 \*<>内に前回入力した距離が表示されますので、そのまま使用する場合リターンキーを押して下さい。
4. 1本目を指示<リターン=終了>:1を指示
5. 2本目を指示:2を指示  
 \*1本目、2本目の指示が繰り返されますので、面取りする線分を続けて指示して下さい。  
 例の場合、1~8まで順に指示します。



# FILLETR [フィレット]

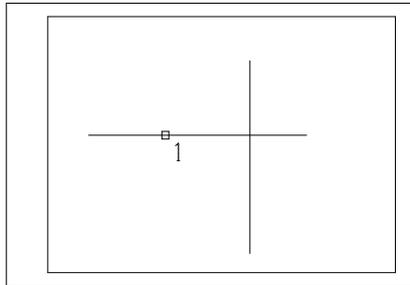


任意方向にフィレットを行う。

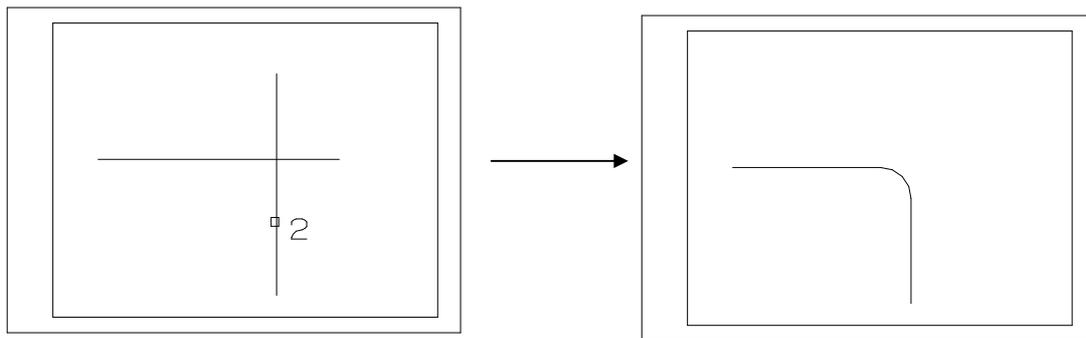
コマンドプロンプト	FILLETR
ツールバー	
プルダウン	

◆フィレットコマンドは、半径を指示しフィレットを行いたい場合に使用します。

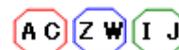
1. コマンドラインよりコマンド名を入力します。
2. フィレットの半径を入力<0.0>:20  
\*フィレットの半径を入力して下さい。
3. オブジェクトを選択: 1を指示  
\*フィレットする1本目の線分またはポイントラインを指示して下さい。



4. 2つ目のオブジェクトを選択: 2を指示  
\*フィレットする2本目の線分またはポイントラインを指示して下さい。



# FILLET1[片側フィレット]



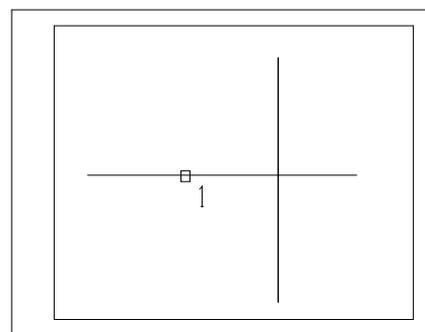
片側の任意方向にフィレットを行う。

コマンドプロンプト	FILLET1
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	フィレット→#片側フィレット

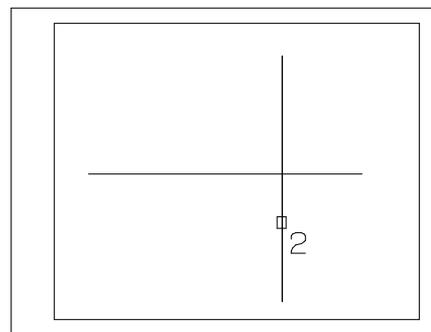
◆片側フィレットコマンドは、片側の線分を残しフィレットを行う場合に使用します。

1. [#片側フィレット]アイコン をクリックします。

2. フィレットする側の線を指示：1を指示  
\*フィレットする線分またはポイントラインのフィレットする側を指示して下さい。

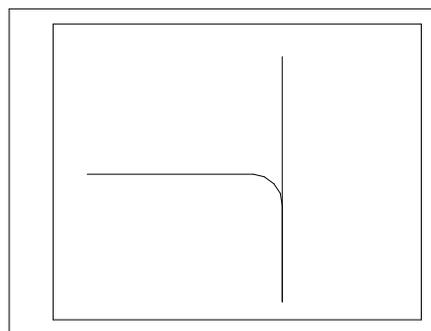


3. フィレットする方向に対象線を指示：  
\*対象線となる線分またはポイントラインを指示して下さい。



4. フィレットの半径を入力<リターン=R0.0>：20  
\*フィレットする場合の半径を入力して下さい。

\*対象線はそのままで、フィレットする側の図形がカットされます。



## CFILLET [連続フィレット]



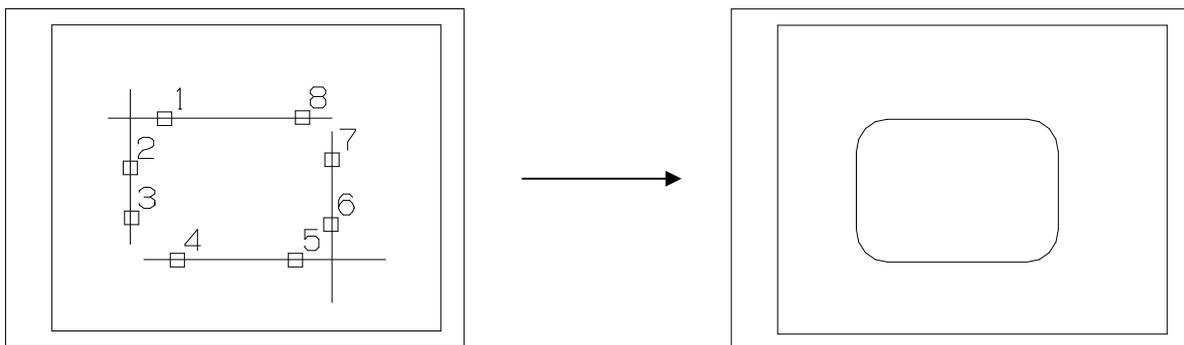
フィレットを連続して行う。

コマンドプロンプト	CFILLET
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	フィレット→#連続フィレット

◆連続フィレットコマンドは、同じ半径で幾つものフィレットする図形がある場合に使用します。

★矩形の4つの角を全てフィレットする場合を例に説明します。

1. [#連続フィレット]アイコン をクリックします。
2. フィレットの半径<リターン=0> : 20  
\*フィレットの半径を入力して下さい。  
\*<>内に前回入力した半径が表示されますので、そのまま使用する場合はリターンキーを押して下さい。
3. 1本目を指示<リターン=終了> : 1 を指示
4. 2本目を指示 : 2 を指示  
\* 1本目、2本目の指示が繰り返されますので、フィレットする線分を続けて指示して下さい。  
例の場合、1～8まで順に指示します。



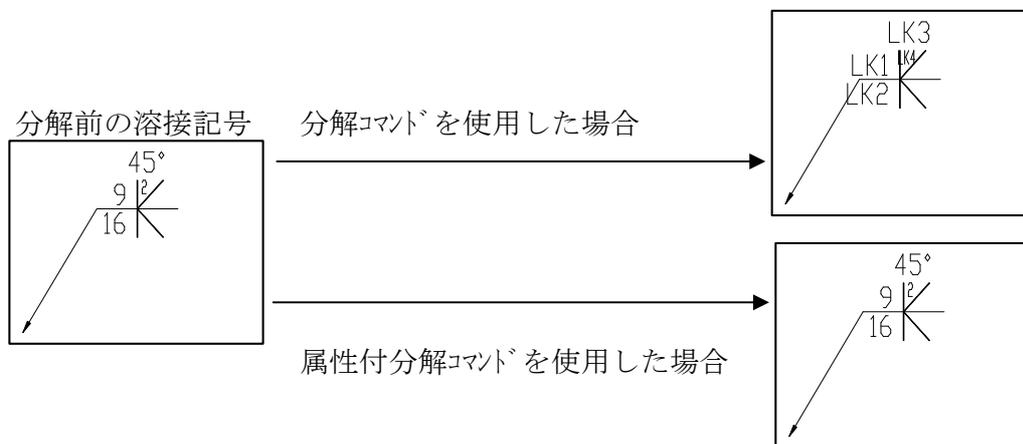
# EXPLODE1 [属性付分解]



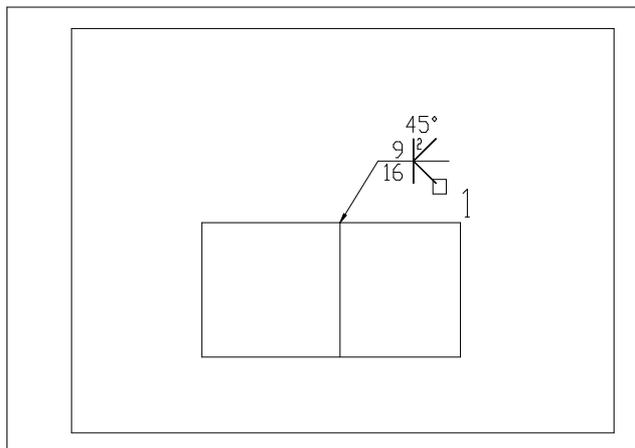
複合図形の属性をそのままにして分解する。

コマンドプロンプト	EXPLODE1
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	分解→#属性付分解

- ◆属性付分解コマンドは、属性定義により作図された文字列を含む複合図形を分解する際に使用するコマンドです。  
通常、属性定義により作図された文字列は、分解コマンドにより分解した場合図形挿入時に入力された値ではなく、属性定義で付けた属性の名称に戻ってしまいます。  
この時、属性付分解を使用し、分解後も入力値を保持します。



1. [#属性付分解]アイコン をクリックします。
2. オブジェクトを選択：1を指示し、ターンキーを押します。  
\* 分解したい複合図形が複数ある場合、続けて指示を行って下さい。



\* 分解後、属性定義は文字に変更されますので、編集する場合、”文字編集”コマンドを使用して下さい。

複合図形、ポリライン、3Dメッシュの画層をそのままにして分解する。

コマンドプロンプト	LEXPLODE
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イメージCAD II →修正]	分解→#画層付分解

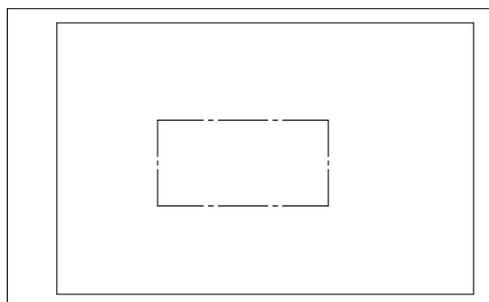
◆画層付分解コマンドは、複合図形を分解する際に分解後の各々の図形を挿入された時点の現在層に変更したい場合に使用します。

\*画層0にて作成された複合図形は、挿入された際には現在層で表示されますが、分解されると元の画層0に戻ってしまいますので、このような場合に画層付分解コマンドを使用されると便利です。

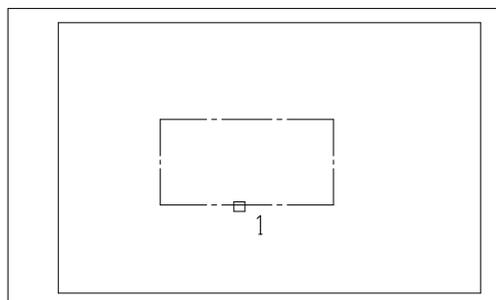
また、画層0以外で作成された複合図形は、挿入された時点では作成された時の画層になっておりますが、画層付分解を実行されますと、挿入された時点の現在層に変更されますのでご注意ください。

1. [#画層付分解]アイコン をクリックします。

\*画層0で作成された複合図形を、現在層（画層名--CLINE 線種--CENTER）上に分解する場合を例に説明します。



2. オブジェクトを選択：1を指示



3. 分解する複合図形を全て指示したら、リターンキーを押して下さい。

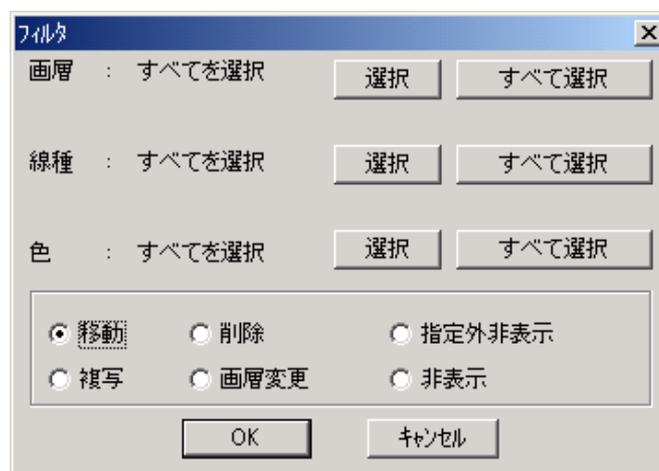
\*例の場合、通常分解（EXPLODE）コマンドを使用しますと、分解後は画層0に戻りますが、画層付分解コマンドを実行しましたので、分解後は、現在層（画層名--CLINE, 線種--CENTER）に変更されます。

## 画層・線種・色をそれぞれ指定し、指定された図形を編集する

コマンドプロンプト	EZFILTER
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	選択操作 → #簡易フィルター

◆簡易フィルターコマンドは、画層・線種・色を指定し、指定された図形の移動・削除・複写・画層変更・指定外非表示・非表示を行います。

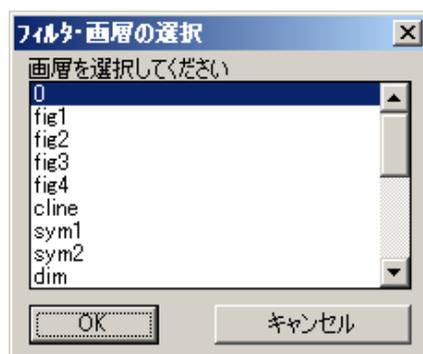
1. [#簡易フィルター]アイコン  をクリックします。
2. フィルタアイコンが表示されますので、それぞれフィルタリングしたい項目を選択します。



\*画層・線種・色、それぞれ別に指示することもできます。  
(画層・線種・色それぞれ選択ボタンがありますので、たとえば画層をフィルタリングしたい場合は、画層の選択ボタンを押します。)

## 2-1 画層を選択する場合

フィルタアイコンで、「画層」の右にある「選択」ボタンをクリックします。



フィルタ・画層の選択アイコンが表示されますので、画層名をクリックし、[OK]ボタンを押します。  
(複数の項目を選択することはできません)

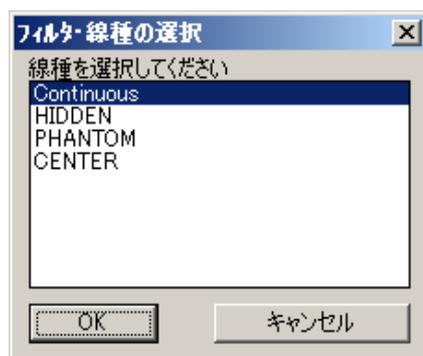
## EZFILTER[簡易フィルター(2/4)]

画層・線種・色をそれぞれ指定し、指定された図形を編集する

コマンドプロンプト	EZFILTER
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	選択操作 → #簡易フィルター

### 2-2. 線種を選択する場合

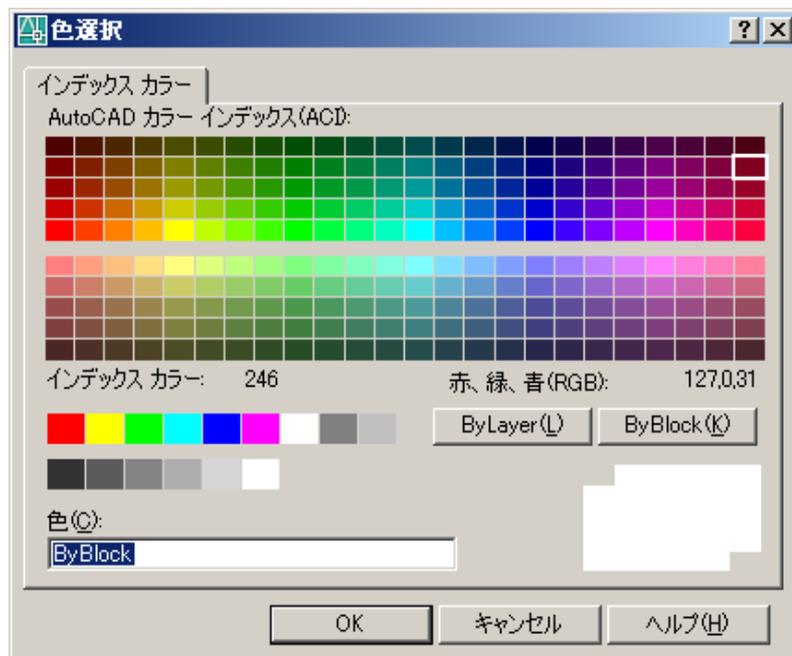
フィルタダイアログで、「線種」の右にある「選択」ボタンをクリックします。



フィルタ・線種の選択ダイアログが表示されますので、線種名をクリックし、[OK]ボタンを押します。  
(複数の項目を選択することはできません)

### 2-3. 色を選択する場合

フィルタダイアログで、「色」の右にある「選択」ボタンをクリックします。



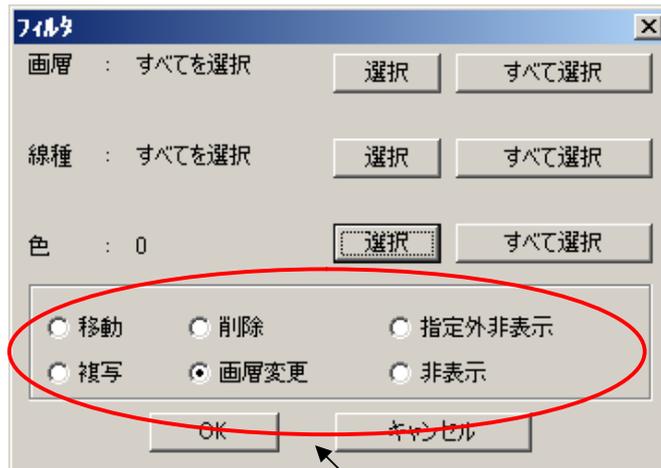
色選択ダイアログが表示されます。色をクリックして[OK]ボタンを押します。

## EZFILTER[簡易フィルター(3/4)]

画層・線種・色をそれぞれ指定し、指定された図形を編集する

コマンドプロンプト	EZFILTER
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	選択操作 → #簡易フィルター

3. フィルターとして選択した図形の処理をどうするか選択します。



この部分を選択することによって、  
編集項目が変わります。

4. [OK]ボタンを押します。

\*これより先の手順は、3の選択によって異なります。  
それぞれ選択した項目を参照ください。

### 4-1. 移動（複写）を選択した場合

- ① [OK]ボタンをクリックすると、画面下のコマンドラインに、「オブジェクトを指示：」が表示されます。  
ここで、フィルタリングしたい図形群を選択します。
- ② 選択したら、右クリック（もしくはエンターキー）します。
- ③ 「基点を指示：」が表示されます。  
ここでいう基点とは、移動（複写）原点です。
- ④ 「移動（複写）先を指示：」が表示されます。  
指示すると、移動（複写）が実行されます。

## EZFILTER[簡易フィルター(4/4)]

画層・線種・色をそれぞれ指定し、指定された図形を編集する

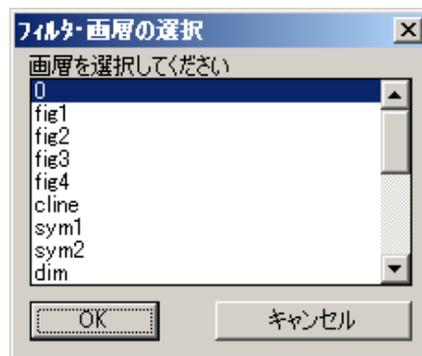
コマンドプロンプト	EZFILTER
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	選択操作 → #簡易フィルター

### 4-2. 削除を選択した場合

- ①[OK]ボタンをクリックすると、画面下のコマンドラインに、「オブジェクトを指示：」が表示されます。  
ここで、フィルタリングしたい図形群を選択します。
- ②選択したら、右クリック（もしくはエンターキー）します。
- ③削除が実行されます。

### 4-3. 画層変更を選択した場合

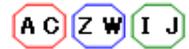
- ①[OK]ボタンをクリックすると、画面下のコマンドラインに、「オブジェクトを指示：」が表示されます。  
ここで、フィルタリングしたい図形群を選択します。
- ②選択したら、右クリック（もしくはエンターキー）します。
- ③フィルタ・画層の変更ダイアログが表示されます。  
変更する画層を選択します。



### 4-4. 指定外非表示（指定非表示）を選択した場合

- ①[OK]ボタンをクリックすると、画面下のコマンドラインに「オブジェクトを指示：」が表示されます。  
ここで、フィルタリングしたい図形群を選択します。
  - ②選択したら、右クリック（もしくはエンターキー）します。
  - ③フィルタリングされた図形が、指定外非表示（非表示）になります。
- \* 指定外非表示とは、指定された図形のみが表示されそのほか非表示になります。  
\* また、非表示された図形を表示する場合は、再作図 (REGEN) コマンドを実行することによって表示されるようになります。  
\* 1つの複合図形内に要素が複数ある場合は対象となりません。

# UNVISI [指定要素OFF]



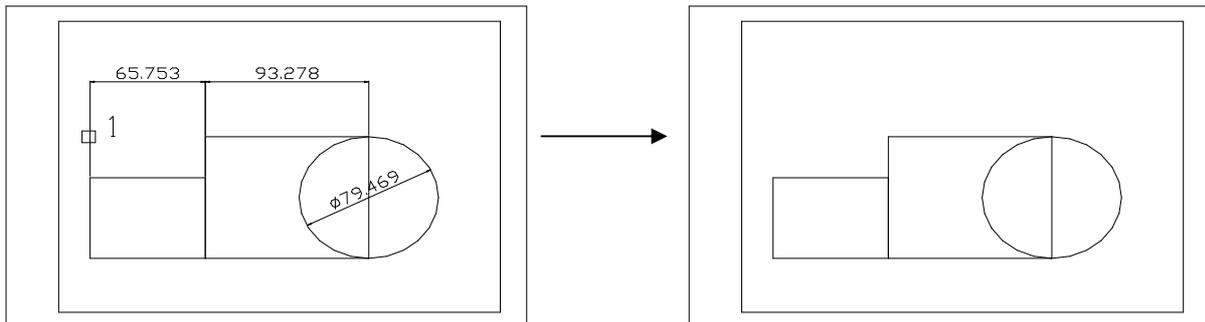
指示した図形と同じ要素の図形を非表示にする。

コマンドプロンプト	UNVISI
ツールバー [ECAD修正]	Object Visi →
プルダウン [イメージCAD II →修正]	選択操作 → #指定要素OFF

- ◆指定要素OFFコマンドは、ある要素を非表示にする場合に使用します。  
要素とは、円や線などを意味します。  
円を指示した場合、図面中の円のみが画層に関係なく非表示になります。

★寸法線のみ非表示にする場合を例に説明します。

1. [#指定要素OFF]アイコン をクリックします。
2. 非表示にする要素を選択：1を指示  
\*複数の要素を一度に非表示にする場合、続けて要素指示を行って下さい。  
一要素のみの場合、リターンキーで確定して下さい。



- \*下記のメッセージが表示されます。  
==== 寸法線 を全て非表示にしました。====  
非表示になった要素を表示させる場合 VISI コマンドを使用して下さい！

\*非表示になった要素を表示させる場合、非表示解除(VISI)コマンドを実行して下さい。

指示した図形要素以外の全ての図形要素を非表示にする。

コマンドプロンプト	EXUNVISI
ツールバー [ECAD修正]	Object Visi →
プルダウン [イージCAD II →修正]	選択操作 → #指定要素ON

◆指定要素ONコマンドは、ある要素以外の要素を非表示にする場合に使用します。

要素とは、円や線などを意味します。

円を指示した場合、図面中の円以外の全ての要素が画層に関係なく非表示になります。

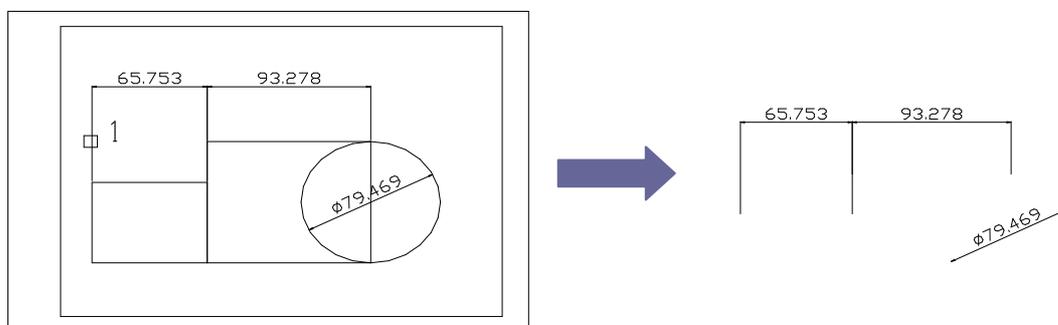
★寸法線のみ表示させる場合を例に説明します。

1. [#指定要素ON]アイコン をクリックします。

2. 表示する要素を選択：1 を指示

\*複数の要素選択する場合、続けて要素指示を行って下さい。

一要素のみの場合、リターンキーで確定して下さい。



\*下記のメッセージが表示されます。

==== 寸法線 以外の要素を全て非表示にしました。====

\*非表示になった要素を表示させる場合、非表示解除(VISI)コマンドを実行して下さい。

# UNVISIC [指定色OFF(1/2)]



指示した色で描かれている図形を非表示にする。

コマンドプロンプト	UNVISIC
ツールバー [ECAD修正]	Object Visi → 
プルダウン [イメージCAD II →修正]	選択操作 → #指定色OFF

◆指定色OFFコマンドは、ある色で描かれた図形を非表示にする場合に使用します。

(赤を指示した場合、色が固定で赤になっているもの及び、図形の持つ色はbylayerで画層に設定されている色が赤のものを非表示にします。)

★赤と黄色で描かれている図形を非表示にする場合を例に説明します。

1. [#指定色OFF]アイコン  をクリックします。  
\* 色選択ダイアログボックスが表示されます。
2. 非表示にする色を選択して下さい。
  - a. 非表示にする色をサンプルより選択する場合
    - a-1. ”色参照...”ボタンをクリックして下さい。  
\* 下図の様な色選択画面が表示されますので非表示にする色を選択し、”OK”ボタンをクリックして下さい。



赤の場合このボタンをクリックします。



- b. 非表示にする色を図形指示により選択する場合
  - b-1. ”図形参照<”ボタンをクリックして下さい。
  - b-2. ”色を参照する図形を指示:”と表示されますので参照する図形を指示して下さい。

## UNVISIC [指定色OFF(2/2)]

指示した色で描かれている図形を非表示にする。

コマンドプロンプト	UNVISIC
ツールバー [ECAD修正]	Object Visi → 
プルダウン [イメージCAD II →修正]	選択操作 → #指定色OFF

3. 選択された色番号の一覧が画面内に表示されます。

\* 一覧内には色番号のみ表示されます。

(原色の場合、右側に番号表がありますので正しく選択されているか確認して下さい。)



4. 色選択が終了したら”OK”ボタンをクリックして下さい。

\* 下記のメッセージが表示されている間は処理中ですのでそのままお待ち下さい。

===== 処理中です！ しばらくお待ち下さい =====

\* 1つ1つの図形を判定していきますので、要素の多い図面は処理に時間がかかる場合がありますのでご了承下さい。

\* 非表示になった要素を表示させる場合、非表示解除(VISI)コマンドを実行して下さい。

指示した色以外で描かれている図形を非表示にする。

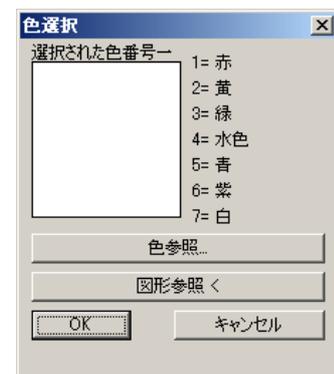
コマンドプロンプト	EUVISIC
ツールバー [ECAD修正]	Object Visi →
プルダウン [イメージCAD II →修正]	選択操作 → #指定色ON

- ◆指定色ONコマンドは、ある色で描かれた図形以外の図形を非表示にする場合に使用します。  
(赤を指示した場合、色が固定で赤になっているもの及び、図形の持つ色はbylayerで画層に設定されている色が赤のものを以外を非表示にします。)

★赤と黄色で描かれている図形以外の図形を非表示にする場合を例に説明します。

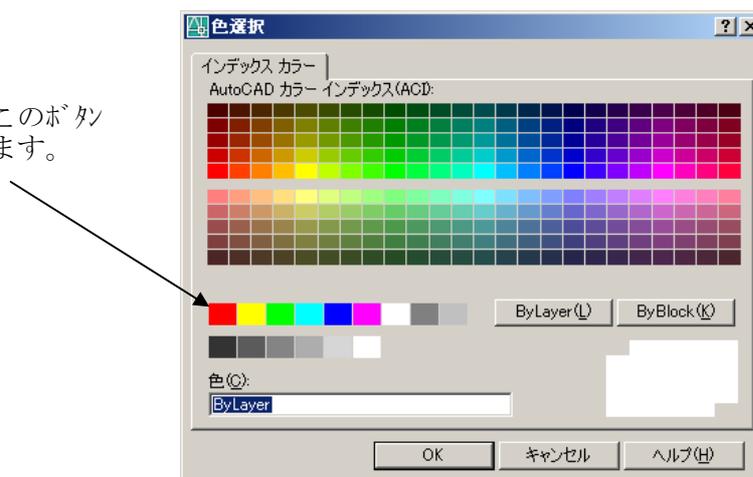
1. [#指定色ON]アイコン をクリックします。

\*右図の画面が表示されます。



2. 表示させる色を選択して下さい。
  - a. 表示させる色をパレットより選択する場合
    - a-1. ”色参照...” ボタンをクリックして下さい。  
\*下図の様な色選択画面が表示されますので表示する色を選択し、”OK” ボタンをクリックして下さい。

赤の場合このボタンをクリックします。



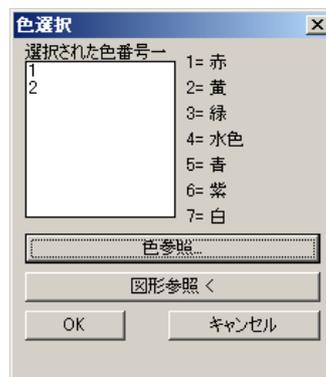
- b. 表示させる色を図形指示により選択する場合
  - b-1. ”図形参照<” ボタンをクリックして下さい。
  - b-2. ”色を参照する図形を指示：” と表示されますので参照する図形を指示して下さい。

## **EUVISIC [指定色ON(2/2)]**

指示した色以外で描かれている図形を非表示にする。

コマンドプロンプト	EUVISIC
ツールバー [ECAD修正]	Object Visi → 
プルダウン [イメージCAD II →修正]	選択操作 → #指定色ON

3. 選択された色番号の一覧が画面内に表示されます。
  - \*一覧内には色番号のみ表示されます。  
(原色の場合、右側に番号表がありますので正しく選択されているか確認して下さい。)



4. 色選択が終了しましたら”OK”ボタンをクリックして下さい。
  - \*下記のメッセージが表示されている間は処理中ですのでそのままお待ち下さい。

===== 処理中です！ しばらくお待ち下さい =====

- \* 1つ1つの図形を判定していきますので、要素の多い図面は処理に時間がかかる場合がありますのでご了承下さい。

\* 非表示になった要素を表示させる場合、非表示解除(VISI)コマンドを実行して下さい。

指示した線種で描かれている図形を非表示にする。

コマンドプロンプト	UNVISIL
ツールバー [ECAD修正]	Object Visi →
プルダウン [イメージCAD II →修正]	選択操作 → #指定線種OFF

◆指定線種OFFコマンドは、ある線種で描かれた図形を非表示にする場合に使用します。

(CONTINUOUS<実線>を指示した場合、線種が固定でCONTINUOUSになっているもの及び、図形の持つ線種はbylayerで画層に設定されている線種がCONTINUOUSのものを非表示にします。)

★CONTINUOUSとHIDDENで描かれている図形を非表示にする場合を例に説明します。

1. [#指定線種OFF]アイコン をクリックします。

\*右図の画面が表示されます。

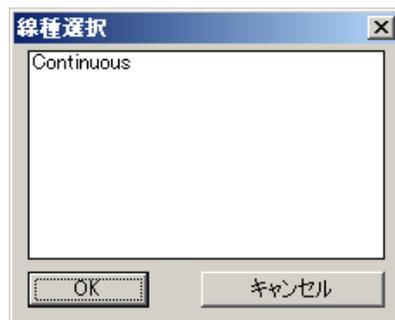


2. 非表示にする線種を選択して下さい。

a. 非表示にする線種を一覧より選択する場合

a-1. ”線種参照...” ボタンをクリックして下さい。

\*下図のような線種選択画面が表示されますので非表示にする線種を選択し、”OK” ボタンをクリックして下さい。



\*表示される線種名は、現在登録されている線種の一覧です。

b. 非表示にする線種を図形指示により選択する場合

b-1. ”図形参照<” ボタンをクリックして下さい。

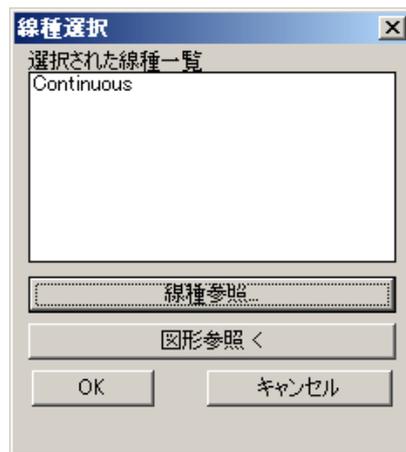
b-2. ”線種を参照する図形を指示：” と表示されますので参照する図形を指示して下さい。

## UNVISIL [指定線種OFF(2/2)]

指示した線種で描かれている図形を非表示にする。

コマンドプロンプト	UNVISIL
ツールバー [ECAD修正]	Object Visi → 
プルダウン [イメージCAD II →修正]	選択操作 → #指定線種OFF

3. 選択された線種名の一覧が画面内に表示されます。



4. 線種選択が終了しましたら”OK”ボタンをクリックして下さい。

\* 下記のメッセージが表示されている間は処理中ですのでそのままお待ち下さい。

===== 処理中です！ しばらくお待ち下さい =====

\* 1つ1つの図形を判定していきますので、要素の多い図面は処理に時間がかかる場合がありますのでご了承下さい。

\* 非表示になった要素を表示させる場合、非表示解除(VISI)コマンド<sup>®</sup>を実行して下さい。

指示した線種以外で描かれている図形を非表示にする。

コマンドプロンプト	EUVISIL
ツールバー [ECAD修正]	Object Visi →
プルダウン [イメージCAD II →修正]	選択操作 → #指定線種外OFF

◆指定線種外OFFコマンドは、ある線種で描かれた図形以外の図形を非表示にする場合に使用します。

(CONTINUOUS<実線>を指示した場合、線種が固定でCONTINUOUSになっているもの及び、図形の持つ線種はbylayerで画層に設定されている線種がCONTINUOUSのもの以外を非表示にします。)

★CONTINUOUSとHIDDENで描かれている図形以外を非表示にする場合を例に説明します。

1. [#指定線種外OFF]アイコン をクリックします。

\*右図の画面が表示されます。

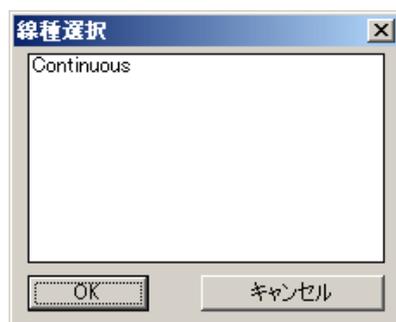


2. 表示させる線種を選択して下さい。

a. 表示させる線種を一覧より選択する場合

a-1. ”線種参照...”ボタンをクリックして下さい。

\*下図の様な線種選択画面が表示されますので表示する線種を選択し、”OK”ボタンをクリックして下さい。



\*表示される線種名は、現在登録されている線種の一覧です。

b. 表示させる線種を図形指示により選択する場合

b-1. ”図形参照<”ボタンをクリックして下さい。

b-2. ”線種を参照する図形を指示：”と表示されますので参照する図形を指示して下さい。

## **EUVISIL [指定線種外OFF(2/2)]**

指示した線種以外で描かれている図形を非表示にする。

コマンドプロンプト	EUVISIL
ツールバー [ECAD修正]	Object Visi → 
プルダウン [イージCAD II →修正]	選択操作 → #指定線種外OFF

3. 選択された線種名の一覧が画面内に表示されます。



4. 線種選択が終了しましたら”OK”ボタンをクリックして下さい。

\* 下記のメッセージが表示されている間は処理中ですのでそのままお待ち下さい。

===== 処理中です！ しばらくお待ち下さい =====

\* 1つ1つの図形を判定していきますので、要素の多い図面は処理に時間がかかる場合がありますのでご了承下さい。

\* 非表示になった要素を表示させる場合、非表示解除(VISI)コマンド<sup>®</sup>を実行して下さい。

## VISI [非表示解除]



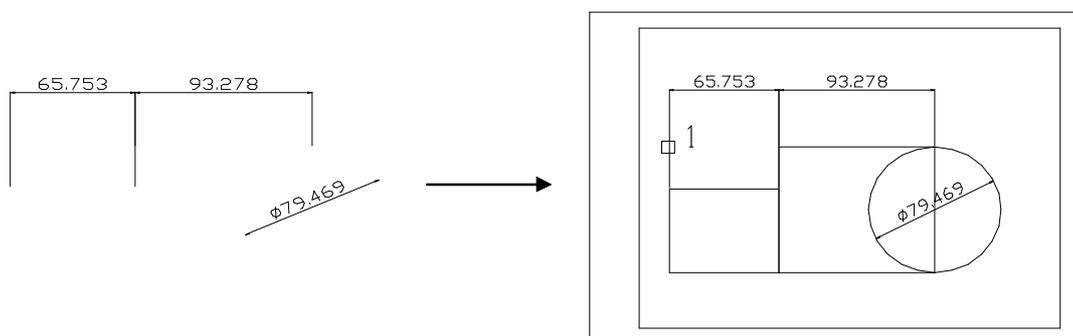
非表示になっている要素を全て表示する。

コマンドプロンプト	VISI
ツールバー [ECAD修正]	Object Visi → 
プルダウン [イメージCAD II →修正]	選択操作 → #非表示解除

◆非表示解除コマンドは、指定要素非表示 (UNVISI)、指定要素外非表示 (EXUNVISI)、指定色非表示 (UNVISIC)、指定色外非表示 (EUVISIC)、指定線種非表示 (UNVISIL)、指定線種外非表示 (EUVISIL)コマンドにより非表示にされている要素を全て表示させる場合に使用します。

1. [#非表示解除]アイコン  をクリックします。

\*全ての図形が表示されます。



# ANGCHG [角度変更(1/2)]



図形の配置角度を指示した角度に変更する。

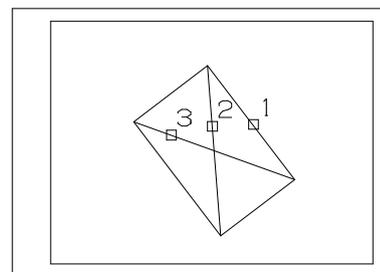
コマンドプロンプト	ANGCHG
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	#角度変更

◆角度変更コマンドは、ある配置角度の不明な図形を指示した角度に変更する場合に使用します。

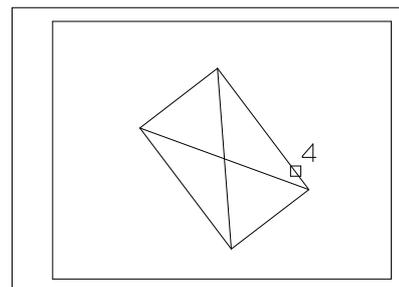
★角度の不明な矩形を含む3つの図形を、矩形の一边を基準に30度に変更する場合を例に説明します。

1. [#角度変更]アイコン  をクリックします。

2. オブジェクトを選択：1、2、3を指示  
\*角度を変更する図形を指示して下さい。



3. 基準図形の基準点側を指示：4を指示  
\*線分、ポリライン、文字のいずれかを指示して下さい。  
\*線分またはポリラインの場合、回転時に基準となる図形の基準点側を指示して下さい。  
基準点側の端点から反対側の端点への角度を基準線の角度とします。



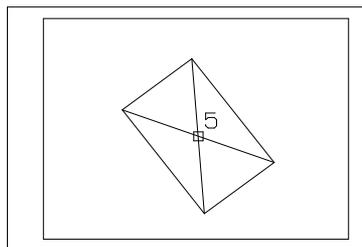
## ANGCHG [角度変更(2/2)]

図形の配置角度を指示した角度に変更する。

コマンドプロンプト	ANGCHG
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	#角度変更

### 4. 基点: 5 を指示

\* 回転する場合の基点を指示して下さい。



### 5. 新しい角度<リターン=参照>: 30

\* 新しい角度を入力して下さい。

\* 他の図形の角度を参照する場合、リターンキーを押し図形を指示して下さい。

《他の図形の角度を参照した場合》

#### 5-1. 角度を参照する図形を指示:

参照する図形を指示して下さい。

#### 5-2. 右図のダイアログボックスが表示されます。

\* 線分、ポリラインの角度を参照した場合、始終点の位置によって角度が180度変わってきますので予想していた結果と異なる場合が生じてきます。よってここで、回転後の角度の確認を行います。



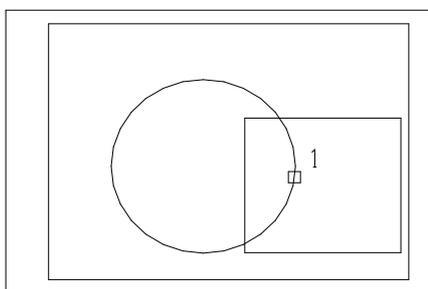
新しい角度の欄を確認し、予想していた角度と異なる場合” ±180度” のボタンをクリックし角度を調整します。角度確認後、” OK” ボタンをクリックして下さい。

図形を分割し、かくれ線に変更する。

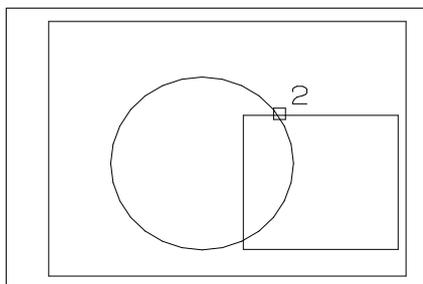
コマンドプロンプト	BREAK2
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イメージCAD II →修正]	#分割変更

◆分割変更コマンドは、図形の一部を隠れ線に変更する場合に使用します。

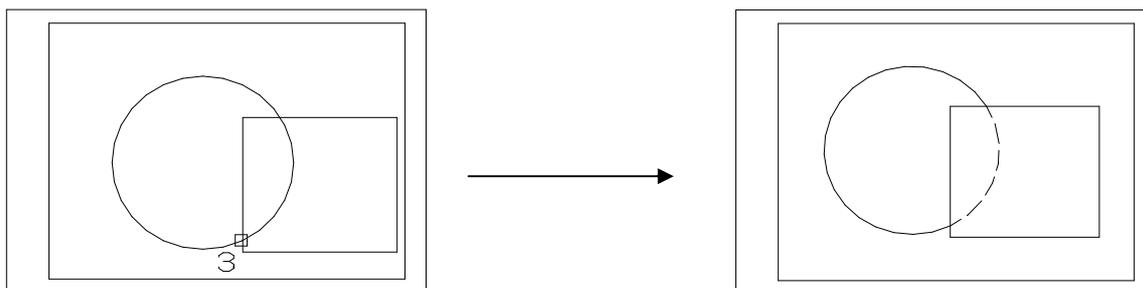
1. [#分割変更]アイコン をクリックします。
2. 図形指示：1を指示  
\*分割する図形上の分割する部分を指示して下さい。



3. 一点目指示：2を指示  
\*分割点1点目となる交点を指示して下さい。  
(交点付近を指示しますと、自動で交点を認識します。)



4. 二点目指示：3を指示  
\*分割点2点目となる交点を指示して下さい。  
(交点付近を指示しますと、自動で交点を認識します。)



- \*指示された交点から交点までが、“HIDDEN”で作成されます。
- \*交差する図形がない場合は、交点取得できない為、分割変更できません。

## DPOINT [2点間等分割]

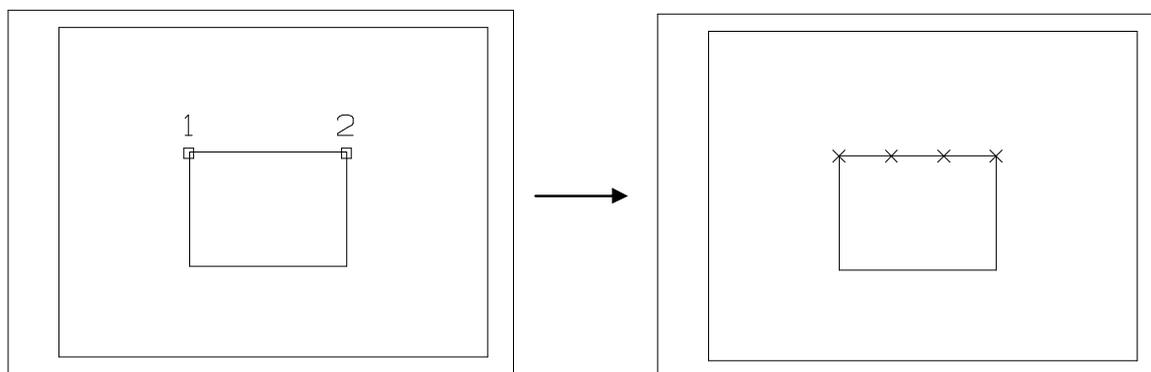


指示された2点間を等分割し、点を配置する。

コマンドプロンプト	DPOINT
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	#2点間等分割

◆2点間等分割コマンドは、2点間を等分割する場合に使用します。

1. [#2点間等分割]アイコン  をクリックします。  
\*矩形の1辺を3分割する場合を例に説明します。
2. 分割数：3  
\*分割する数を整数値で入力して下さい。
3. 1点目を指示：1を指示
4. 2点目を指示：2を指示



\*作成された点は、現在の設定値（点サイズ<PDSIZE>、点モード<PDMODE>）を使用しています。

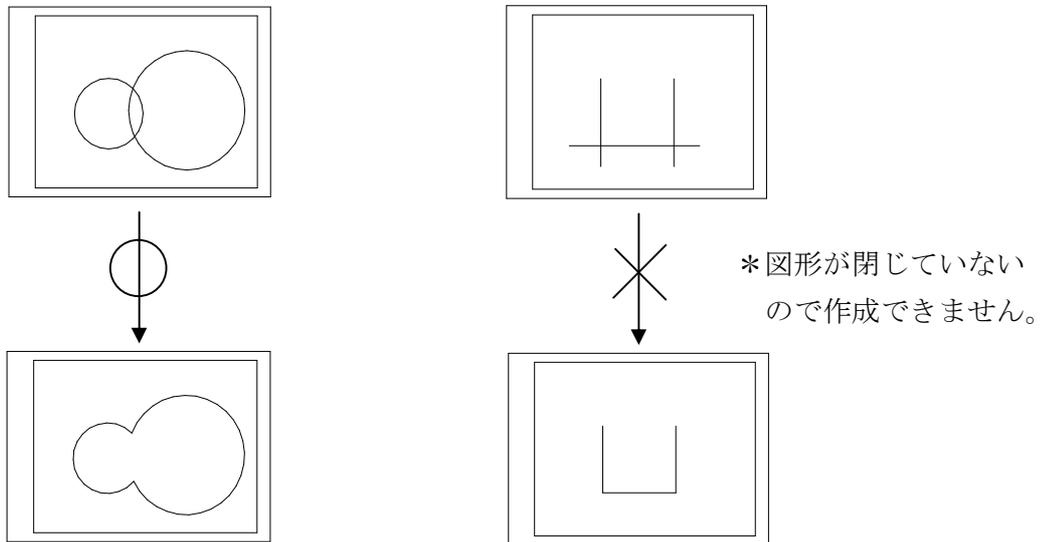
図形要素を現在画層上に編集・上書きし正式図形とする。

コマンドプロンプト	ONLINE
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イメージCAD II →修正]	#上書き

◆上書きコマンドは、複数の交わっている図形の中から幾つかの部分を結合し、別図形として作成したい場合に使用します。

<注意>

- ・必ず閉じた図形を作成する場合に使用して下さい。
- ・下図の例を参照し、コマンドの使用方法を確認して下さい。

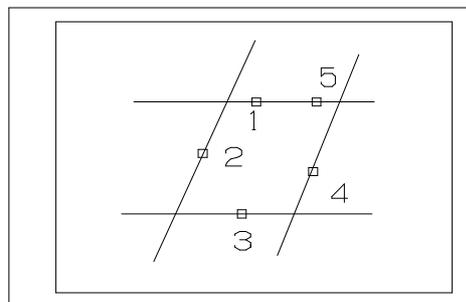


1. [#上書き]アイコン をクリックします。

2. 図形指示：

\*残したい部分を時計回りまたは反時計回りに指示していきます。

例の場合、1～5を順に指示します。



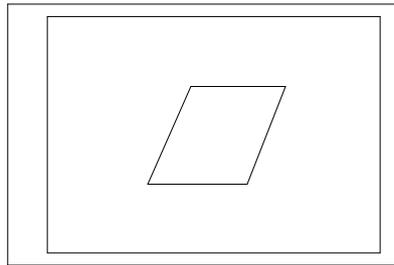
\*閉じた図形を作成しますので、最初と最後は必ず同じ図形を指示して下さい。

## ONLINE [上書き(2/2)]

図形要素を現在画層上に編集・上書きし正式図形とする。

コマンドプロンプト	ONLINE
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イメージCAD II →修正]	#上書き

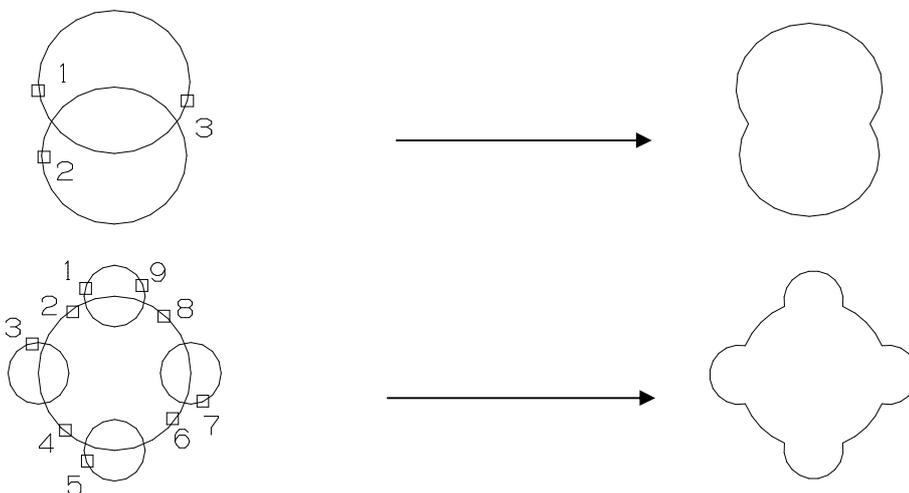
3. 図形を指示しましたら、リターンキーを押して下さい。
4. 図形指示を終了しますか？(Y/N)〈Y〉:  
\* 図形指示終了の確認メッセージが表示されます。  
最後の指示が、最初に指示した図形になっているかもう1度確認して下さい。
5. 元の図形を削除しますか(Y/N)〈N〉:  
\* 元の図形を残したままで、上書き図形を作成する場合Nを  
元の図形を削除し、上書き図形を作成する場合Yを入力して下さい。  
\* Nを入力した場合、元図の上の下図の図形が上書きされます。



\* 円を含む図形で上書きを実行する場合の注意事項

- ・ 1点目は、2点目に指示する点に近い側を指示して下さい。
- ・ 2点目以降は、前に指示した点に近い側を指示して下さい。

下図に指示例を示しますので、参考にして正しい図形指示を行って下さい。



# DSCALE [部分拡大(1/2)]



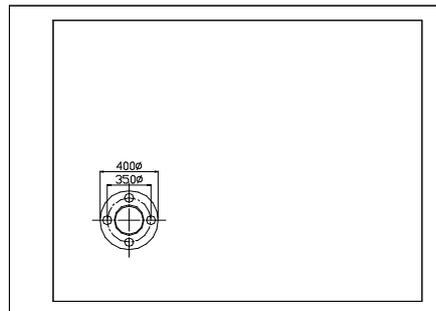
詳細図用に部分的に図形を拡大する。

コマンドプロンプト	DSCALE
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イメージCAD II →修正]	#部分拡大

◆部分拡大コマンドは、詳細図を作成する際に使用します。

通常の尺度変更 (SCALE)コマンドを使用した場合、寸法値も尺度倍されてしまいますが、部分拡大を使用した場合、寸法値はそのままで図形のみ拡大します。

\*スケール1/10で描かれた図面の中に、スケール1/5の詳細図を作成する場合を例に説明します。



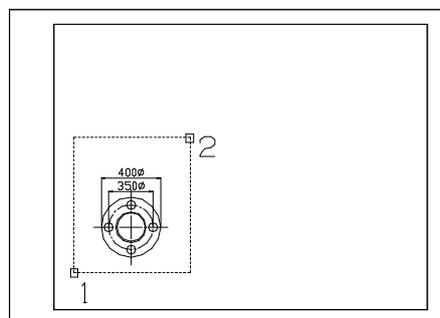
1. [#部分拡大]アイコン をクリックします。

2. スケールを変える図形指示

1 点目指示 : 1 を指示

2 点目指示 : 2 を指示

\*必ず窓で図形を囲んで指示して下さい。



3. 詳細図のスケール入力 (図面スケール=10) : 5

\* ( ) 内に現在の図面スケールが表示されますので、参考にして詳細図のスケールを入力して下さい。

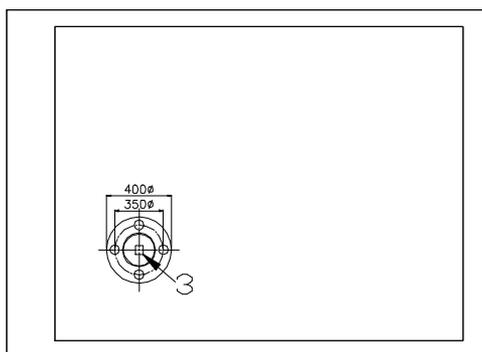
## DSCALE [部分拡大(2/2)]

詳細図用に部分的に図形を拡大する。

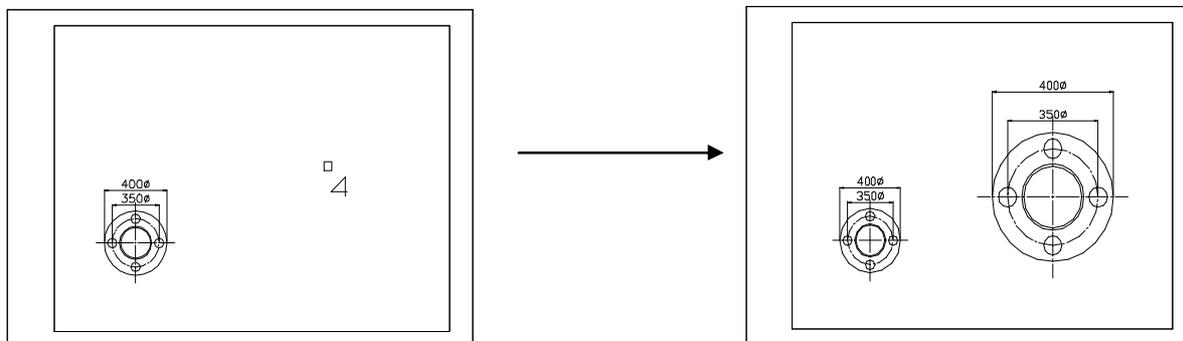
コマンドプロンプト	DSCALE
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イメージCAD II →修正]	#部分拡大

4. 基点：3を指示

\* 拡大複写する際の基点を指示して下さい。



5. 配置位置：4を指示

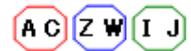


<注意>

- 部分拡大コマンド<sup>®</sup>に対応できる寸法線はAutoCAD標準コマンド<sup>®</sup>で作成したの  
だけです。イメージCADコマンド<sup>®</sup>で作成したものには対応できません。

(使用不可例) 任意直径、任意半径、コーナーR表示等

## USCALE [部分縮小(1/2)]

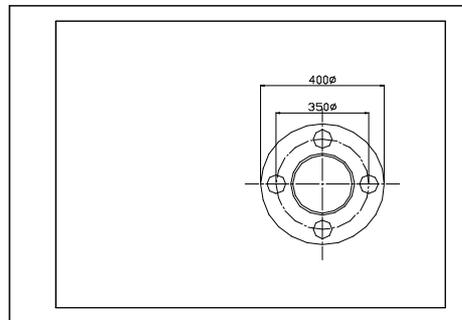


詳細図用に拡大した図形を元の図形に戻します。

コマンドプロンプト	USCALE
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イメージCAD II →修正]	#部分縮小

◆部分縮小コマンドは、部分拡大コマンドにて拡大された図形を元の尺度に戻す場合に使用します。

\*スケール1/10の図面に描かれている、スケール1/5の詳細図をスケール1/10に戻す場合を例に説明します。



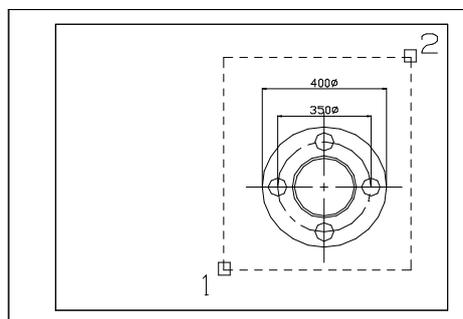
1. [#部分縮小]アイコン をクリックします。

2. スケールを戻す図形指示

1 点目指示：1 を指示

2 点目指示：2 を指示

\*必ず窓で図形を囲んで指示して下さい。



3. 詳細図のスケール入力 (図面スケール=10) : 5

\* ( ) 内に現在の図面スケールが表示されます。

詳細図のスケールを入力して下さい。

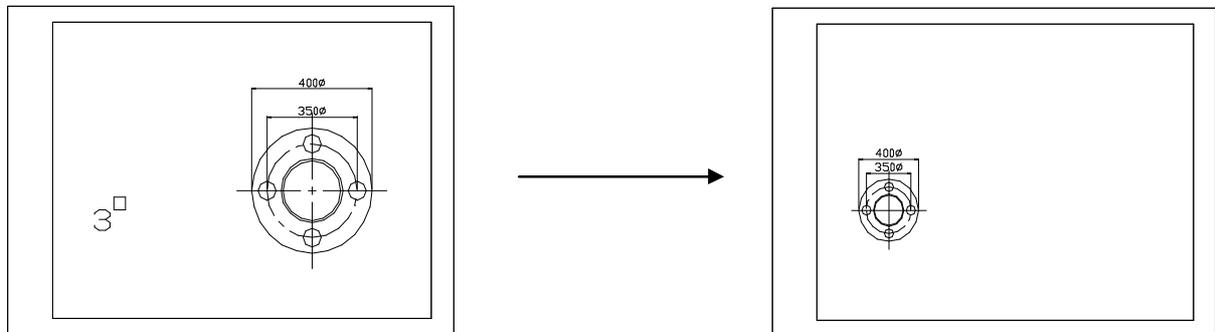
## USCALE [部分縮小(2/2)]

詳細図用に拡大した図形を元の図形に戻します。

コマンドプロンプト	USCALE
ツールバー [ECAD修正]	
プルダウン [イージCAD II →修正]	#部分縮小

### 4. 配置位置：3を指示

- \* 2. で囲まれた窓の中心を基点に、配置位置に移動し縮小されますので、その点に注意し位置を指示して下さい。



### <注意>

- ・部分縮小コマンドに対応できる寸法線はAutoCAD標準コマンドで作成したものだけです。イージCADコマンドで作成したものには対応できません。  
(使用不可例) 任意直径、任意半径、コーナーR表示等